

わかる、できる、役に立つ!!

⑤

拡張！活用！バリエーションター

オプション機能の追加と  
削除の方法を説明！

オプション周辺機器の接続  
について解説！



パソコンの設置方法を  
詳しく知りたいあなたに、  
この一冊！

PC98-NX SERIES

VALUESTAR NX

VC550J/7 VC500J/7 VC450J/7 VC40H/7  
VE500J/7 VE450J/7 VE40H/7 VT450J/7  
VC550J/8 VC500J/8 VC450J/8 VC40H/8  
VE500J/8 VE450J/8 VE40H/8 VT450J/8

# マニュアルを

## 使いこなす

各マニュアルの主な内容は表紙に書いてあります。

添付の「安全にお使いいただくために」は常に手元に置き、各マニュアルと合わせて必ずお読みください。

TVモデルではこの他に、『TVモデルガイド』が添付されています。

1  
まずこれ!



2

準備ができたら



3



パソコンの画面で見るマニュアル「パソコン探検箱」にもアプリケーションの説明、マニュアルの紹介などの便利な情報があります。



## やりたいこと別マニュアルガイド

パソコンの接続とセットアップをしたい	まずこれ! 接続と準備
マウスの使い方を知りたい	練習! パソコンの基本
キーボードで文字を打ってみたい、ワープロを使いたい	練習! パソコンの基本
どんなアプリケーションが入っているか知りたい	練習! パソコンの基本、パソコン探検箱
インターネットを利用したい	たのしもう! インターネット、パソコン探検箱
インターネットに便利なソフトを使いたい	たのしもう! インターネット、パソコン探検箱
FAX を送受信したい	パソコン探検箱
年賀状やあいさつ状を作りたい	パソコン探検箱
パソコン用語の意味を知りたい	パソコン探検箱
プリンタをつなぎたい	拡張! 活用! パリユースター
オプション機器を取り付けたい	拡張! 活用! パリユースター
このパソコンの機能について詳しく知りたい	拡張! 活用! パリユースター
パソコンが思うように動かない	困ったときのQ&A
マニュアル総索引を使いたい	困ったときのQ&A
再セットアップしたい	困ったときのQ&A
テレビや地上波データ放送を見たい (TVモデルのみ)	TVモデルガイド

## はじめに

この本は、構成が大きく二つに分けられています。

前編の「拡張ガイド」では、プリンタなどの機器をパソコンに接続したり、パソコン内部にメモリなどを取り付けたりするときの説明です。

後編の「活用ガイド」では、パソコンの設定を変更したり、アプリケーションの追加・削除のしかた、データのバックアップに役立つ情報です。

はじめてパソコンを使う方にとっては、他の本に比べると少し難しいかもしれませんが、この本はあなたがもっとパソコンに詳しくなるための道案内をしてくれます。説明をよく読んで、まちがいのないように操作してください。そして、思う存分にパソコンを使いこなしてください。

1999年5月 初版

1999年7月 2版

# 『拡張!活用! バリュースター』の読み方

このマニュアルは、構成が大きく2つに分けられています。この「『拡張!活用! バリュースター』の読み方」を参考にして、前編または後編から、知りたい情報を探してください。

## あなたがやりたいことはどっち?

パソコンをパワーアップしたい  
周辺機器の増設などをしたい方は

**前編** ^

パソコンをもっと知りたい、使いたい  
パソコンの設定や、より詳しい使い方については

**後編** ^

## 前編 拡張ガイド

このパソコンで使える周辺機器

このパソコンに取り付けることができる周辺機器の説明です。

周辺機器を取り付けるときのポイント

このパソコンに周辺機器を取り付けるときの、ポイントや注意です。

本体のコネクタに接続する周辺機器について

プリンタ、USB対応機器、ターミナルアダプタ、デジタルカメラなどの説明です。

**PART 1**

**PART 2**

**PART 3**

**PART 4**

**PART 10**

本体のカバーを開けて増設する周辺機器について

本体の開け方と閉め方、メモリ、PCIボード、SCSI対応機器、ハードディスクなどの説明です。

**PART 5**

**PART 6**

**PART 7**

**PART 8**

**PART 9**

**PART 10**

困ったときの対処方法など

ドライバ、トラブルの対処法、リソースなどの説明です。

**PART 11**

## 後編 活用ガイド

ハードウェアの設定方法、機能の詳細などについて

**PART 12**

マウス、キーボード、ディスプレイ、省電力機能など、ハードウェアの設定方法や機能について書かれています。また、フロッピーディスクやCD-ROMの取り扱いについても説明しています。



さらに詳しい使用環境の設定

**PART 15**

BIOS セットアップメニューと電源管理モードについての説明です。

パソコンをトラブルから守るアプリケーションの使い方について

**PART 13**

誤った使い方、コンピュータウイルス、パソコンのトラブルなどからパソコンを守るアプリケーションについて説明しています。

添付されているアプリケーションの追加と削除のしかた

**PART 14**

購入時にセットアップされていない添付のアプリケーションを追加したいとき、添付のアプリケーションを削除したいときには、ここをご覧ください。一度消してしまったアプリケーションを再追加する手順についても、ここで説明しています。

他のOSの利用、本体の各部の名称、機能仕様など

**付 録**

このパソコンで、MS-DOSモードやWindows NT 4.0を利用したい場合はここをご覧ください。また、本体の各部の名称や機能仕様、FAXモデムボード機能仕様、ATコマンド一覧もここに記載しています。

## このマニュアルの表記について

### 手順は左、補足説明は右に（前編の「拡張ガイド」のみ）

このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でむやみにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱うかたは、右側の説明もよく読んでください。

### このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています



**警告**

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



**注意**

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



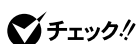
感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。



電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

### このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



**チェック!!**

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



**用語**

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



**参照**

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

### このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

**【 】**

【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。

**プリンタ、コネクタなど**

「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。

**CD-ROMドライブ**

DVD-ROMモデルでは、DVD-ROMドライブのことを、CD-ROMモデルでは、CD-ROMドライブのことを指します。

**このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています**

下記の表をご覧になり、購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

<b>このパソコン</b>	表の各モデル(機種)を指します。
<b>CRTディスプレイ セットモデル</b>	CRTディスプレイがセットになっているモデルのことです。
<b>液晶ディスプレイ セットモデル</b>	液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。
<b>CD-ROMモデル</b>	CD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
<b>DVD-ROMモデル</b>	DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
<b>TVモデル</b>	テレビ/地上波データ放送を見るための機能やDVD-ROMドライブを搭載したモデルのことです。
<b>一太郎モデル</b>	Voice一太郎9・花子9バックがあらかじめインストールされているモデルのことです。
<b>Office 2000モデル</b>	Office 2000 Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。

型名	型番	表記の区分				
		本体の形状	CD-ROM /DVD-ROM	ディスプレイ	添付アプリケーション	
VC550J/7GC1	PC-VC550J7GC1	コンパクトタイプ	CD-ROMモデル	液晶ディスプレイセットモデル (15インチ液晶)	一太郎モデル	
VC500J/7FC1	PC-VC500J7FC1					
VC450J/7FC1	PC-VC450J7FC1					
VC40H/7FC2	PC-VC40H7FC2					
VC40H/7XC1	PC-VC40H7XC1					
VC40H/7XC2	PC-VC40H7XC2			液晶ディスプレイセットモデル (14インチ液晶)		
VE500J/77C	PC-VE500J77C			DVD-ROMモデル		CRTディスプレイセットモデル (17インチCRT)
VE450J/77C	PC-VE450J77C			CD-ROMモデル		
VE40H/77C	PC-VE40H77C					CRTディスプレイセットモデル (15インチCRT)
VE40H/75C	PC-VE40H75C					液晶ディスプレイセットモデル (15インチ液晶)
VT450J/7FC	PC-VT450J7FC	TVモデル	DVD-ROMモデル	液晶ディスプレイセットモデル (15インチ液晶)		
VT450J/77C	PC-VT450J77C			CRTディスプレイセットモデル (17インチCRT)		

型名	型番	表記の区分				
		本体の形状	CD-ROM /DVD-ROM	ディスプレイ	添付アプリケーション	
VC550J/8GD1	PC-VC550J8GD1	コンパクトタイプ	CD-ROM モデル	液晶ディスプレイセットモデル (15 インチ液晶)	Office 2000 モデル	
VC500J/8FD1	PC-VC500J8FD1					
VC450J/8FD1	PC-VC450J8FD1					
VC40H/8FD1	PC-VC40H8FD1					
VC40H/8FD2	PC-VC40H8FD2					
VC40H/8XD1	PC-VC40H8XD1			液晶ディスプレイセットモデル (14 インチ液晶)		
VC40H/8XD2	PC-VC40H8XD2					
VE500J/87D	PC-VE500J87D			DVD-ROM モデル		CRT ディスプレイセットモデル (17 インチ CRT)
VE450J/87D	PC-VE450J87D			CD-ROM モデル		
VE40H/87D	PC-VE40H87D					CRT ディスプレイセットモデル (15 インチ CRT)
VE40H/85D	PC-VE40H85D					
VT450J/8FD	PC-VT450J8FD	TV モデル	DVD-ROM モデル	液晶ディスプレイセットモデル (15 インチ液晶)		
VT450J/87D	PC-VT450J87D			CRT ディスプレイセットモデル (17 インチ CRT)		

## 本文中の画面、イラスト

本文中の画面やイラストはモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

## このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、 Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0
一太郎	Voice一太郎9
一太郎9・花子9パック、 Voice一太郎9・花子9パック	Voice一太郎9・花子9パック( Voice一太郎9、花子9、三四郎9、ATOK12、 VoiceATOK、Shuriken2.0、Sasuke )
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal( Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/ Shogakukan Bookshelf® Basic )
MS-IME 98	Microsoft® IME 98
MS-IME 2000	Microsoft® IME 2000
IME 2000 音声入力アプレット	Microsoft® IME 2000 IME パッド 音声入力 アプレット
インターネットエクスプローラ、 Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 5
招福麻雀 七福神	招福麻雀 七福神 音声認識対応版
筆王	筆王 平成11年編

## 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名：SF-BUQD-ST

認証番号

電話回線：A99-0027JP

導入にあたっては、「MDMNBUQD.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。

使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

## 高調波電流規制について

この装置の本体および17インチCRTディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

## 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

## レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブまたはDVD-ROMドライブが搭載されています。



## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3項)にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Outlook、Bookshelf、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」「Voice一太郎9・花子9パック」「VoiceATOK」「Sasuke」「Shuriken」は、株式会社ジャストシステムの登録商標または商標です。

「Voice一太郎9・花子9パック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「Voice一太郎9・花子9パック」にかかる著作権、その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

パソコン大学は、テラ・コーポレーションの商標です。

ニフティサーブ、NIFTY MANAGERは、ニフティ(株)の登録商標です。

「ANGEL LINE」および「エンジェルライン」は、NTTの登録商標です。

Adobe、AcrobatおよびAcrobatロゴは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

アメリカ・オンラインおよびAOLは、AOLの登録商標です。

Hatch、ハッチインサイドは、ディアンドアイシステムズ株式会社の登録商標です。

VirusScanは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

「てきばき家計簿マム」は、テクニカルソフト株式会社の商標です。

インターネットカラオケキングは、(株)ミュージックネットワークの登録商標です。

「ハローキティ」は、株式会社サンリオの登録商標です。

Solitaire Deluxeは、Interplay Productionsの商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

Bitcastおよびビットキャストの名称、ロゴは、株式会社インフォシティの登録商標です。

ADAMS(TV-Asahi Data And Multimedia Service)は、テレビ朝日データ株式会社によるWebデータを配信するデータ多重放送サービスです。

ビットキャストブラウザで表示する地図の作成にあたっては、建設省国土地理院の承認を得て、同院発行の300万分の1日本とその周辺、及び50万分の1地方図を使用したものです。(承認番号 平8総使、第57号)

筆王は株式会社アイフォーの登録商標です。

AI囲碁、AI将棋は株式会社アイフォーの商標です。

ODN(Open Data Network)は日本テレコム(株)の登録商標です。

コペルニクライト、Copernic Liteは、日本テクノラボ社の登録商標です。

DIONは第二電電株式会社の登録商標です。

SmartVoice、パソコン探検箱、BIGLOBE インターネット無料体験、BIGLOBE インターネット接続ツール、BIGLOBE 電話で入会ナビ、PC ポータルは、日本電気株式会社の商標です。

Intel、Pentiumは、Intel Corporation の登録商標です。

Celeron は、Intel Corporation の商標です。

Hayes は、米国 Hayes Microcomputer Products の登録商標です。

MNP は、Microcom, Inc. の登録商標です。

PS/2 は IBM 社が所有している商標です。

YAMAHA は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

RAGE は、ATI Technologies Inc. の商標です。

Savage4 は、S3 社の商標です。

K56flex は、Lucent Technologies と CONEXANT SYSTEMS の商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

---

---

© NEC Corporation 1999

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

---

#### 輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

---

# 目次

## CONTENTS

はじめに .....	i
『拡張!活用! バリュースター』の読み方 .....	ii
このマニュアルの表記について .....	iv



## 前編 - 拡張ガイド -

<b>このパソコンで使える周辺機器</b> .....	2
本体前面に取り付けることができる周辺機器 .....	2
本体背面に取り付けることができる周辺機器 .....	3
本体内部に取り付けることができる周辺機器 .....	4
<b>周辺機器を取り付けるときのポイント</b> .....	5
購入する前に、このパソコンで使えることを確認しよう .....	5
パソコンの電源を切ってから取り付けよう .....	5
USB 対応機器なら、電源を入れたまま取り付けられる .....	5
メモリやPCI ボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける .....	6
取り付けただけですぐに使えない周辺機器 .....	6

## PART

# 1

<b>プリンタを使う</b> .....	7
<b>プリンタを使うには</b> .....	8
<b>プリンタの種類</b> .....	9
家庭で使う .....	9
会社で使う .....	10
<b>用意するもの</b> .....	11
<b>プリンタを接続する</b> .....	12
USB コネクタに接続する場合 .....	12
パラレルコネクタに接続する場合 .....	14
<b>パソコン側の設定</b> .....	16
パソコンが自動的に設定してくれる場合 .....	16
パソコンが自動的に設定してくれなかった場合 .....	17

PART

2

USB 対応機器を使う ..... 25

USB とは .....	26
USB なら簡単接続 .....	26
USB コネクタについて .....	27
USB 対応機器を接続する .....	28
接続する前に .....	28
USB コネクタにプラグを差し込む .....	29
正しく接続できたかどうか確認する .....	34
USB 対応機器のご紹介 .....	35
ハイパワーデバイスについて .....	36
USB ハブを使う .....	36

PART

3

オーディオ機器を使う ..... 37

ヘッドホンを使う .....	38
ヘッドホンの接続 .....	38
外部オーディオ機器を使う .....	39
パソコンの音を外部オーディオ機器で聞くとき .....	39
外部オーディオ機器の音をパソコンで聞くとき .....	40
マイクロホンを使う .....	41
マイクロホンを接続する .....	41

PART

4

ターミナルアダプタを使う ..... 43

ターミナルアダプタを使うには .....	44
ターミナルアダプタについて .....	45
いろいろなターミナルアダプタ .....	46
接続する前に .....	47
接続する前に確認すること .....	47
用意するもの .....	48
ターミナルアダプタを接続する .....	49
シリアルコネクタに接続する場合 .....	49
USB コネクタに接続する場合 .....	50

PART

5

**パワーアップのための基礎知識** ..... 53

ドライバについて	54
プラグ & プレイ対応機器の場合	54
プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合	54
<b>機器を取り付けるときのご注意</b>	55
<b>本体の開け方と閉め方</b>	56
用意するもの	56
ルーフカバーの外し方	56
ルーフカバーの取り付け方	59

PART

6

**メモリを増やす** ..... 61

<b>メモリを増やすには</b>	62
このパソコンで使える増設RAMサブボード	63
メモリの増やし方の例	63
<b>増設RAMサブボードの取り付けと取り外し</b>	65
ボードを取り扱うときに気をつけること	65
増設RAMサブボードの取り付け方	65
RAMサブボードの取り外し方	67
<b>増やしたメモリを確認する</b>	68
確認のしかた	68
メモリが増えていなかったら	69

PART

7

**PCIボードを使う** ..... 71

<b>PCIボードについて</b>	72
いろいろなPCIボード	72
PCIスロット	72
<b>PCIボードを取り付ける</b>	73

PART

8

SCSI インターフェイス対応機器を使う ..... 77

SCSI 機器を使うには .....	78
SCSI インターフェイスについて .....	79
接続できる SCSI 機器 .....	79
SCSI に関する基礎知識 .....	79
SCSI インターフェイスの種類 .....	80
用意するもの .....	81
SCSI インターフェイスボードを取り付ける .....	82
SCSI 機器を接続する .....	83
SCSI 機器がうまく動かないときは .....	84

PART

9

ハードディスクを増設する ..... 85

ハードディスクを増設するには .....	86
用意するもの .....	87
本体にハードディスクを接続する .....	88
ハードディスクをフォーマットする .....	90
増設したドライブのドライブ名について .....	91
領域作成の準備をする .....	92
領域を作成する .....	94
増設したハードディスクを確認する .....	96
ドライブをフォーマットする .....	97

PART

10

その他の機器を使う ..... 99

その他の周辺機器のご紹介 .....	100
イメージスキャナを使う .....	100
MO ディスクドライブを使う .....	102
デジタルカメラを使う .....	102

PART

11

うまく動かないときは .....	103
困ったときのチェックポイント .....	104
こんなときは .....	105
「新しいハードウェアが見つかりました」と表示されない .....	105
「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示される .....	107
リソースに関する問題 .....	110
リソースって何? .....	110
リソースの競合とは .....	110
リソースが競合していたら .....	111
デバイスのリソース設定の変更 .....	111
このパソコンが使用しているリソース .....	114



後編 - 活用ガイド -

PART

12

ハードウェア .....	119
マウス .....	120
スクロールボタンを使う .....	120
「マウス プロパティ」ウィンドウでの設定 .....	121
キーボード .....	123
キーの役割 .....	123
キーの名称 .....	123
「キーボード プロパティ」ウィンドウでの設定 .....	125
PC-9800 シリーズのキーボードとのキーの違い .....	127
ワンタッチスタートボタン .....	128
各ボタンの名前と役割 .....	128
「ワンタッチスタートボタンの設定」を使う .....	129
ハードディスク .....	131
概要 .....	131
取り扱いの注意 .....	131
ドライブコンバータ(FAT32) .....	131

<b>フロッピーディスク</b> .....	133
使用できるフロッピーディスクの種類 .....	133
フロッピーディスクのバックアップ .....	133
Windows 起動ディスク .....	134
<b>ディスプレイ</b> .....	137
概要 .....	137
別売のディスプレイを使う場合 .....	138
解像度と表示色の変更 .....	139
ディスプレイの省電力機能について .....	140
ディスプレイに合わせて設定する .....	141
液晶ディスプレイの画面調整(14インチ液晶ディスプレイセットモデルのみ)..	143
<b>省電力機能(スタンバイ)</b> .....	144
概要 .....	144
スタンバイ状態にする .....	144
スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰する .....	146
電源の管理のプロパティで設定する .....	147
スタンバイ状態にするときの注意 .....	148
<b>サウンド機能</b> .....	150
概要 .....	150
スピーカ .....	150
ボリュームコントロール .....	151
ヤマハ DS-XG 設定 .....	153
サウンド全般についての注意 .....	153
<b>FAX モデムボード</b> .....	155
概要 .....	155
FAX モデムボードを使用するときの注意 .....	156
<b>CD-ROM などの取り扱い</b> .....	158
概要 .....	158
非常時のメディアの取り出し方 .....	159



**パソコンを守るアプリケーション ..... 161**

**Windows 98 の利用環境の変更 < CyberTrio-NX > ..... 162**

概要 .....	162
モードの種類 .....	162
モードの変更 .....	162
ベーシックモード .....	163
キッズモード .....	164

**Windows 98 の動作の監視 < CyberWarner-NX > ..... 167**

概要 .....	167
起動と終了 .....	167
警告メッセージ .....	167
バックアップファイル .....	168

**ウイルスの検査と駆除 < VirusScan > ..... 171**

概要 .....	171
常に検査する (VShield).....	171
定期的に検査する (VirusScan スケジューラ).....	172
すぐに検査する (VirusScan).....	173
ウイルスを駆除する .....	173

**データのバックアップを取る < バックアップ-NX > ..... 174**

概要 .....	174
データのバックアップを取る .....	174
データを復元する .....	175
一覧にないアプリケーションのデータをバックアップする .....	175

**ハードディスクの検査・修復 < スキャンディスク > ..... 176**

概要 .....	176
スキャンディスクの使い方 .....	176

**ハードディスクのデータを整列 < デフラグ > ..... 178**

概要 .....	178
デフラグの使い方 .....	178

**ハードディスクのデータのスリム化 < ディスククリーンアップ > ..... 179**

概要 .....	179
ディスククリーンアップの使い方 .....	179

システムファイルの検査・修復<システムファイルチェッカー> .....	180
概要 .....	180
システムファイルチェッカーの使い方 .....	180
定期的にメンテナンスをする<メンテナンスウィザード> .....	181
概要 .....	181
メンテナンスウィザードの使い方 .....	181

## アプリケーションの追加と削除 .....

<b>セットアップされていないアプリケーションの追加</b> .....	184
セットアップが必要なアプリケーションや機能 .....	184
セットアップする前に .....	184
自動的にインストールできるアプリケーション .....	185
内容を確認しながらインストールするアプリケーション .....	186
Voice 一太郎 9・花子 9 パックの機能をフルに使う(一太郎モデルのみ) ....	188
<b>アプリケーションの削除</b> .....	189
概要 .....	189
「インストーラ -NX」を使って削除する .....	191
コントロールパネルを使って削除するアプリケーション .....	205
アンインストール機能を使って削除するアプリケーション .....	208
<b>削除したアプリケーションの再追加</b> .....	209
概要 .....	209
アプリケーション CD-ROM を使って自動でインストールできる アプリケーション .....	209
アプリケーション CD-ROM を使って内容を確認しながら インストールするアプリケーション .....	210
パソコン大学一年生 CD-ROM を使って追加する .....	214
Office 2000 Personal CD-ROM を使って追加する (OFFICE 2000 モデルのみ).....	214
Voice 一太郎 9・花子 9 パック CD-ROM を使って追加する (一太郎モデルのみ).....	215

**本機の設定を変更する** ..... 217

**BIOS セットアップメニュー** ..... 218

    BIOS セットアップメニューを使ってできること ..... 218

    BIOS セットアップメニューを使う ..... 218

    パスワードの設定と入力 ..... 224

    パスワードの解除 ..... 226

**電源管理モードについて** ..... 227

    ACPI モードと APM モード ..... 227

    モードの切り替え ..... 228

    APM モードでタイマー機能を利用する場合の注意 ..... 230

    その他の注意 ..... 230

**付 録** ..... 233

**Windows 98 で MS-DOS モードを利用する** ..... 234

    MS-DOS モードを利用する ..... 234

    CD-ROM ドライバ(本機内蔵 CD-ROM ドライブ)..... 234

**Windows NT 4.0 の利用** ..... 236

    Windows NT 4.0 をセットアップする前に ..... 236

    Windows NT 4.0 のセットアップとアップグレード ..... 237

    本機で Windows NT 4.0 を利用するときの注意 ..... 241

**本体の各部の名称** ..... 243

**機能仕様** ..... 247

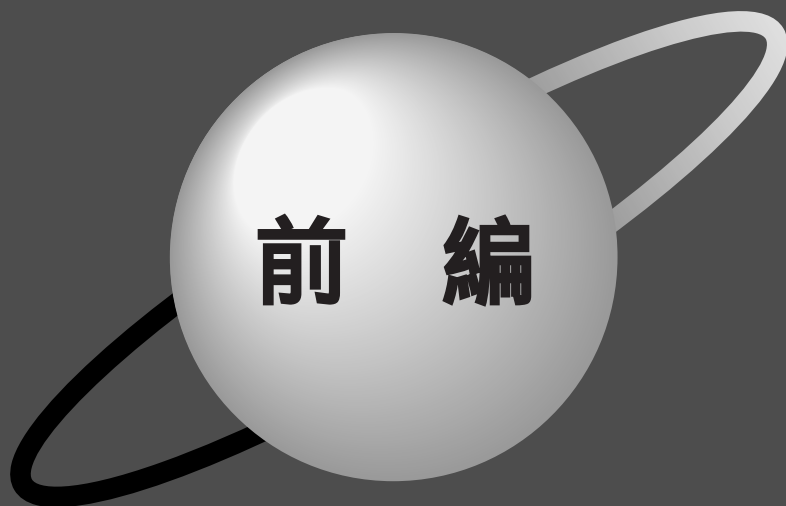
**FAX モデムボード機能仕様** ..... 251

**AT コマンド** ..... 253

    コマンドの構成 ..... 253

    コマンド一覧 ..... 253

**索 引** ..... 263



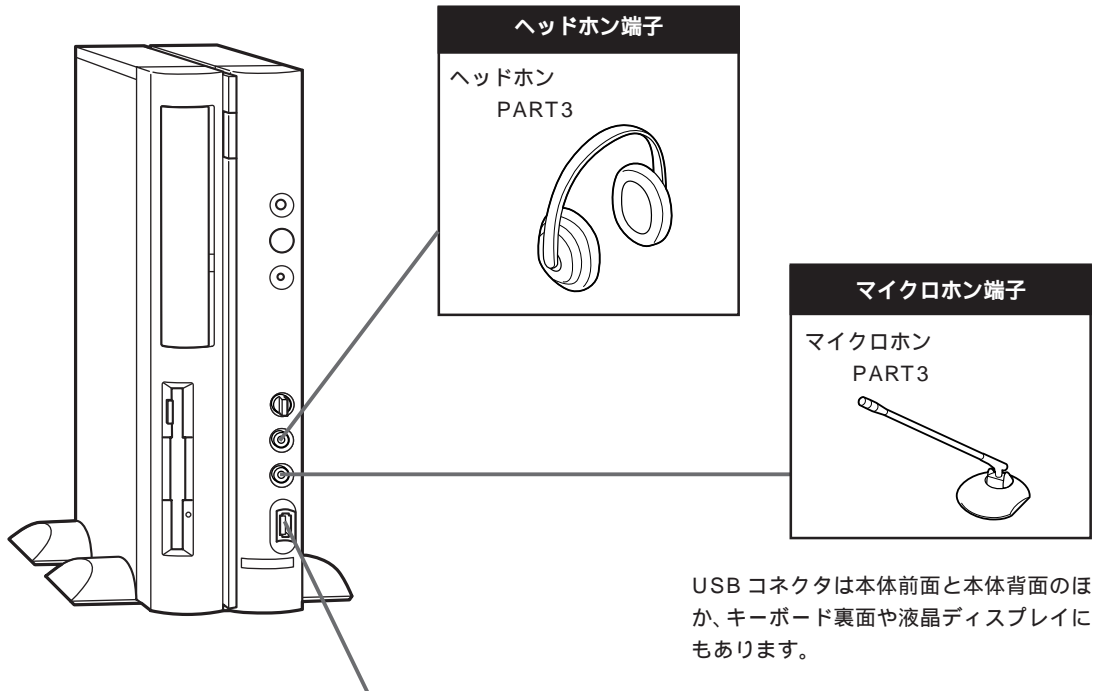
# 拡張ガイド

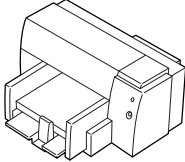
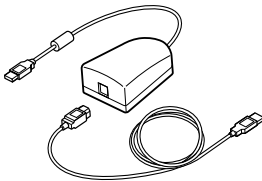
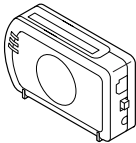
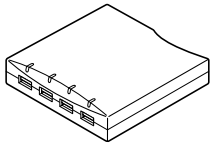
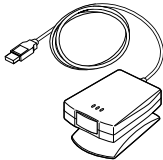
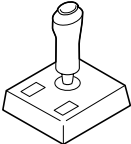
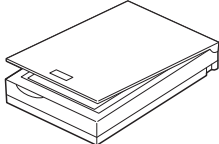
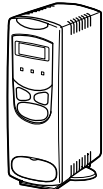
前編「拡張ガイド」は、パソコンに別売の機器を接続したり、内部に増設したりして機能を拡張する方法の説明です。機器を接続したり、増設したりするときは、該当するPARTを探し出して、間違いのないように作業してください。

# このパソコンで使える周辺機器

## 本体前面に取り付けることができる周辺機器

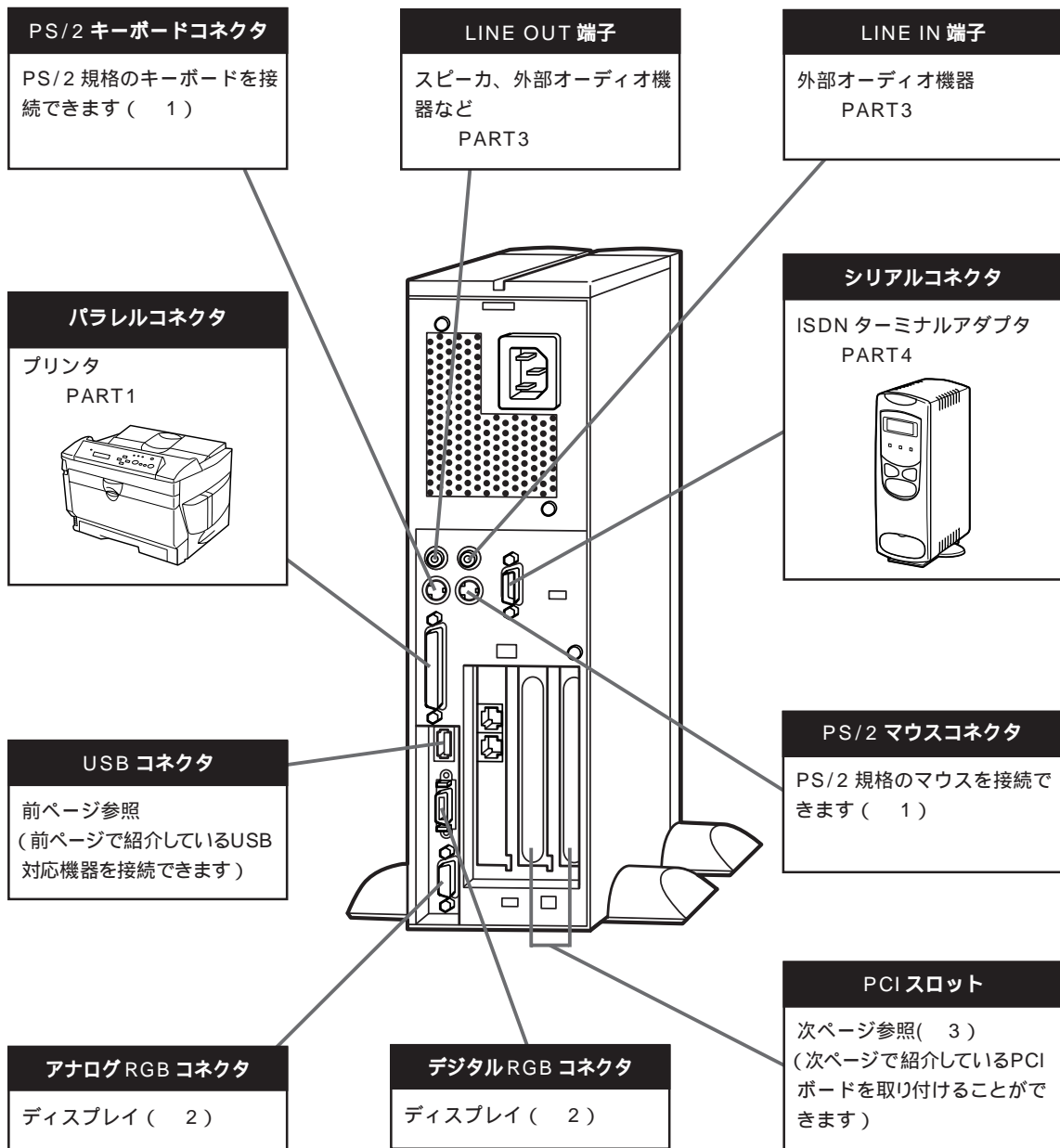
周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうか十分確認してください。また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルを参考にしてください。



USB コネクタ			
USB 対応プリンタ PART1 	USB リンクケーブル PART2 	USB 対応メモリカード リーダー/ライター PART2 	USB ハブ PART2 
USB 対応赤外線通信 インターフェースユニット PART2 	USB 対応プレイスティック PART2 	USB 対応スキャナ PART2、10 	USB 対応 ISDN ターミナルアダプタ PART2、4 
USB 対応デジタルビデオカメラ PART2 USB 対応プレイパッド PART2 USB 対応ドライビングホイール PART2	その他の USB 対応機器 (標準添付のキーボード、マウスを含む)		

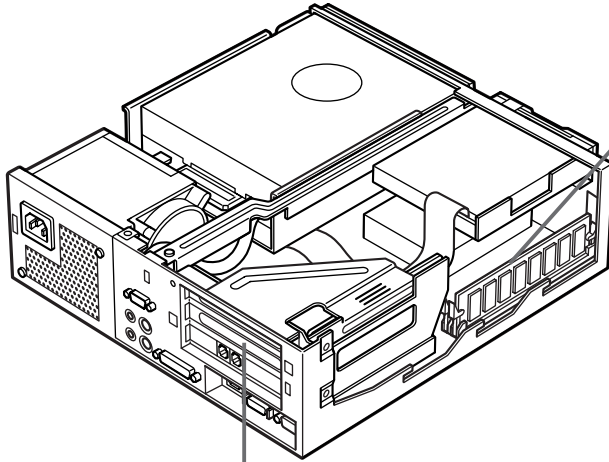
USB コネクタが不足するときは、別売の USB ハブを使ってコネクタを増やすことができます。

## 本体背面に取り付けることができる周辺機器



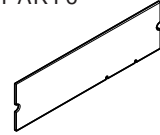
- 1 ・ PS/2 キーボードと USB キーボードを同時に使用することはできません。  
 ・ PS/2 マウスと USB マウスを同時に使用することはできません。  
 ・ PS/2 キーボード使用時は、BIOS セットアップメニューの「USB レガシー機能」を「使用しない」に設定してください。  
 ・ ACPIモードでPS/2キーボード使用時は、電話などのリングでスタンバイ状態から復帰させようとする、画面が真っ黒のまま復帰しないことがあります。この場合は、キーボードから何かキーを入力したり、マウスを動かせば、正常に画面が復帰します。  
 ・ PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスを抜き差しするときは、本体の電源を切った状態で行ってください。
- 2 ・ 本機にはRGBコネクタが2つありますが、標準でマルチモニターサポート機能は使えません。
- 3 ・ TVモデルは地上波TV&データ放送ボードで1スロット占有済みです。

## 本体内部に取り付けることができる周辺機器



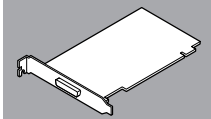
増設 RAM サブボード用コネクタ

増設 RAM サブボード  
PART6

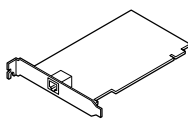


### PCI スロット

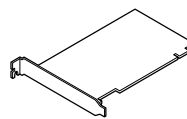
SCSI インターフェイスボード  
PART8



LAN (ネットワーク) ボード  
PART7

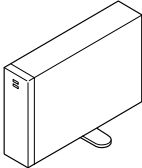


その他の PCI 対応ボード  
PART7

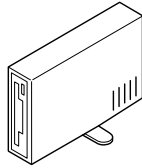


### SCSI 対応機器 (SCSI インターフェイスボードに接続します)

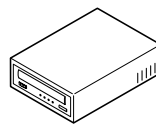
ハードディスクドライブ



MO ディスクドライブ



その他の SCSI 対応機器  
(CD-R ドライブなど)



# 周辺機器を取り付けるときのポイント

## 購入する前に、このパソコンで使えることを確認しよう

たとえば同じプリンタでも、接続方法や対応パソコンの種類などが、機種によって異なります。機器によっては、このパソコンでは使えない場合があるのです。

せっかく買って来たのに使えなかった、ということにならないように、周辺機器を購入の前に、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうかを確認しましょう。

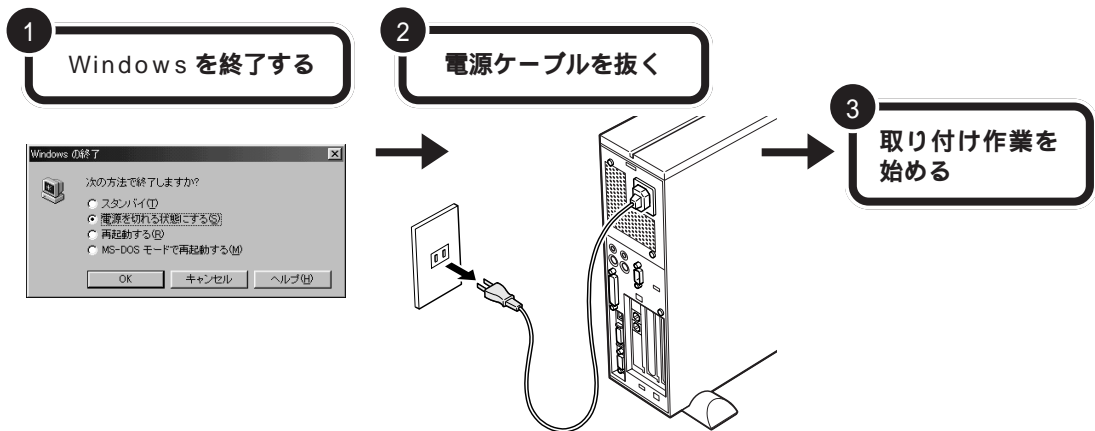
なお、NECのインターネットホームページ「98Information」や「PICROBO」などで周辺機器や増設方法を紹介しているので、インターネットに接続できる方は、参考にしてください。

「98Information」のアドレス(URL) <http://www.nec.co.jp/98/>

「PICROBO」のアドレス(URL) <http://www.nec.co.jp/picrobo/>

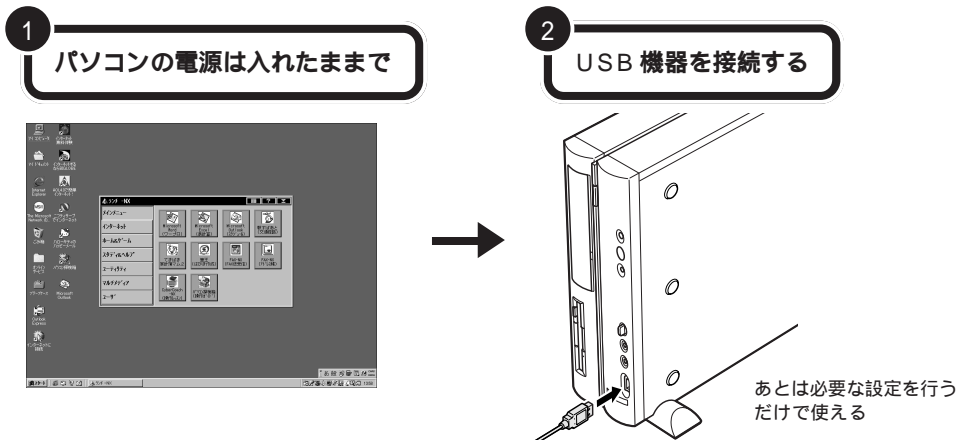
## パソコンの電源を切ってから取り付けよう

周辺機器を取り付けるときは、原則として、パソコン本体の電源を切り、コンセントから電源ケーブルを抜きます。そうしないと、感電したり、パソコンや周辺機器が故障してしまうかもしれないからです。



## USB対応機器なら、電源を入れたまま取り付けられる

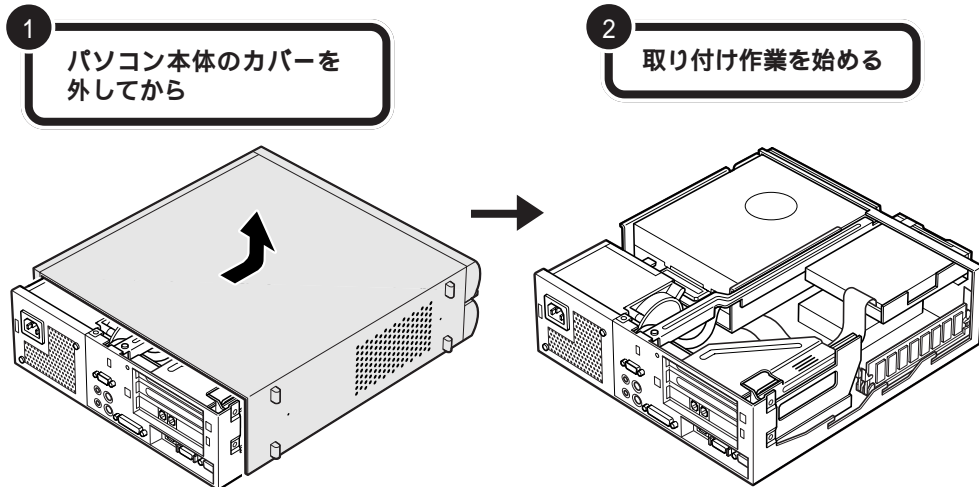
USB対応機器は、一般の周辺機器とは異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときに接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができるのです。





## メモリや PCI ボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける

メモリを増やすために必要な「増設RAMサブボード」や、SCSI対応機器などを使うために必要な「PCIボード」などは、パソコン本体の中に取り付ける場所があります。これらの機器を取り付けるときは、パソコン本体のカバーを開けることになります。PART5の「本体の開け方と閉め方」をよく読んで、慎重に行ってください。



📖 参照 カバーの開け方 PART5の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

## 取り付けただけですぐに使える周辺機器

ヘッドホンやオーディオ機器のように、パソコンにケーブルを接続しただけでそのまま使い始められるものもあります。ほとんどの周辺機器は、取り付けただけでは使えず、取り付け後にパソコン上で設定を行う必要があります。たとえば、

- ・ハードディスクを増設したら、そのハードディスクをフォーマットする必要がある(詳しくはPART9を参照)
- ・プリンタやSCSIインターフェイスボードなどを取り付けたら、「ドライバ」という専用のソフトウェアを設定する必要がある(詳しくはPART11を参照)
- ・ターミナルアダプタやスキャナ、プレイパッドなどを取り付けたら、それらを便利に使うためのアプリケーションやユーティリティが必要になる

詳しくは、このマニュアルの各PARTの説明や、お使いの周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

P A R T

# 1

## プリンタを使う

ここでは、プリンタを使えるようにするための準備作業を説明します。

パソコンとプリンタをつなぐだけでパソコンが自動的にプリンタを使えるようにしてくれることもあります。プリンタをつないだあとで、設定が必要なこともあります。

# プリンタを使うには

プリンタを使うには、プリンタをパソコンにつないだあと、パソコン側の設定が必要です。まずは、作業の流れを見ておきましょう。

プリンタを使うには、次のような手順で接続、設定をします。

用途に合わせてプリンタを選ぶ( p.9、10 )



必要なものを準備する( p.11 )



プリンタを接続する( p.12 )

プリンタをこのパソコンに接続する手順は、USBコネクタに接続する場合とパラレルコネクタに接続する場合とで異なります。



パソコン側の設定を行う( p.16 )

パソコン側の設定は、パソコンが自動的に行ってくれる場合と、そうでない場合があります。



正しく接続できたか確認する( p.16、23 )

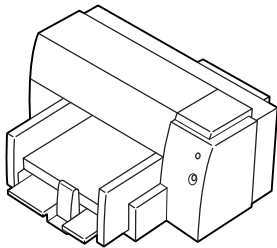
## プリンタの種類

プリンタは印刷する方法によって、いくつかの種類に分けられます。用途に合わせて自分にピッタリのプリンタを選びましょう。

### 家庭で使う

#### 年賀状や誕生日カードなどをカラーで印刷したい

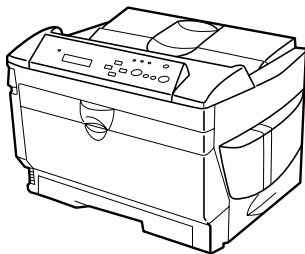
カラーで印刷するなら、値段も手頃な「インクジェットプリンタ」がおすすめです。



カラー印刷	:	○
印字品質	:	○
印刷スピード	:	○
動作の静かさ	:	○
複写印刷	:	×

#### モノクロの会報誌やレポートなどたくさんの量を印刷したい

一度にたくさんの量を印刷する場合は、高速で大量印刷もできる「レーザープリンタ(ページプリンタ)」がおすすめです。



カラー印刷	:	○
印字品質	:	○
印刷スピード	:	○
動作の静かさ	:	○
複写印刷	:	×

#### 用語

##### インクジェットプリンタ

液体のインクを霧のように紙に吹き付けて印刷します。複数のカラーインクを使って吹き付けることで、色鮮やかなカラー印刷が可能です。ノートに文章を書くように上から順番に印刷するので、印刷には少し時間がかかります。比較的手頃な価格のものからあります。

#### 用語

##### レーザープリンタ (ページプリンタ)

印刷のしくみは、トナーを使うコピー機と同じ方式です。美しく高速な印刷が可能です。一部のレーザープリンタでカラー印刷できるものもあります。

## 会社で使う

### 社内文書などを印刷したい

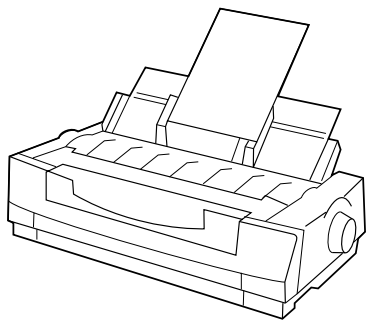
急いでいるとき、印刷ができるまでの待ち時間はイライラさせられるものです。社内文書などは高速できれいに印刷できる「レーザープリンタ」(前ページ参照)がおすすめです。

### OHP シートにカラーで印刷したい

「インクジェットプリンタ」(前ページ参照)を使えば、OHP シートにカラー印刷できます。カラー OHP を使えばプレゼン効果も抜群です。

### 複写式伝票に印刷したい

「ドットインパクトプリンタ」を選んでください。  
多少印字品質が粗く、印刷するときの印刷音が気になりますが、叩く方式で印刷するため、カーボン紙を用いると複数の紙に同時に印刷できます。



カラー印刷	:
印字品質	:
印刷スピード	:
動作の静かさ	:×
複写印刷	:

### 用語

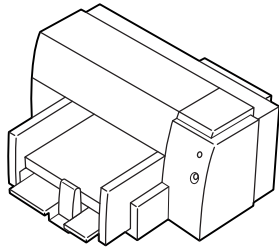
#### ドットインパクトプリンタ

ピンを紙に打ち付けて印刷します。印字品質が粗く、印刷時に大きな音をたてますが、カーボン紙などを使って複数の紙に印刷することができます。複写式の伝票を印刷するときには便利です。

## 用意するもの

プリンタを使えるようにする作業は、多少長い手順になります。手順の途中であわてないように、あらかじめ次のものが用意されているかご確認ください。

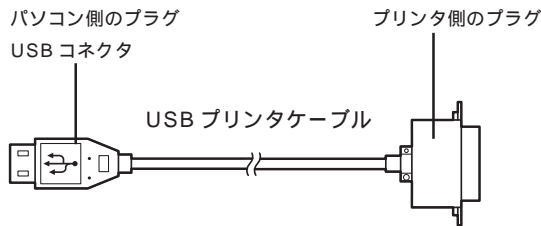
### プリンタ



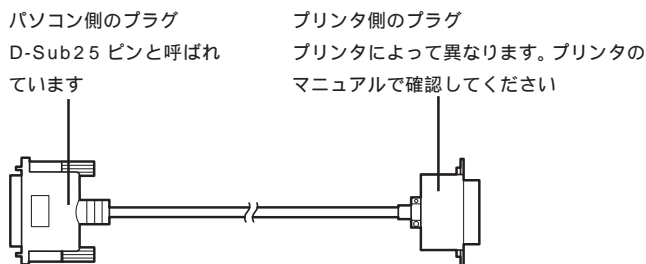
### プリンタのマニュアル

### プリンタケーブル

#### USB コネクタに接続する場合



#### パラレルコネクタに接続する場合



### プリンタに添付の CD-ROM または フロッピーディスク

プリンタによっては、プリンタに添付の CD-ROM または フロッピーディスクが必要です(必要でない場合もあります)。

あらかじめプリンタのマニュアルをご覧ください。接続以前の準備作業(例えば配送用の保護材を外したり、インクや用紙をセットしたりという作業)を済ませておいてください。

#### ✓チェック!!

プリンタの機種によって、USB コネクタには接続できない場合もあります。ご購入元、またはプリンタのマニュアルで確認してください。

プリンタケーブルはプリンタと一緒に購入してください。プラグの形によっては、このパソコンで使えない場合もあります。プリンタケーブルを購入するときには、このパソコンで使えるかどうかお店で確認してください。

#### ✓チェック!!

ハーフピッチ 36 ピンの PC-9800 シリーズ用プリンタケーブルを使う場合には、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。

# プリンタを接続する

まずは、用意したプリンタとパソコン本体の間を、プリンタケーブルで接続します。接続の手順は、USBコネクタを使うかパラレルコネクタを使うかで異なります。

## 警告



雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

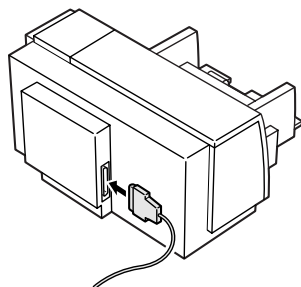
## USB コネクタに接続する場合

1

プリンタに添付されているマニュアルをよく読んで、必要な準備を行う

2

USB プリンタケーブルのプリンタ側のプラグを、プリンタのコネクタに差し込む



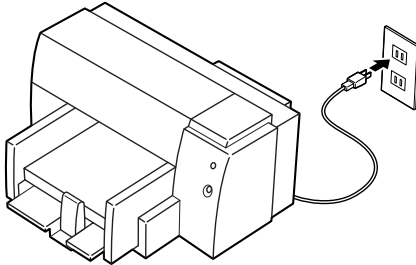
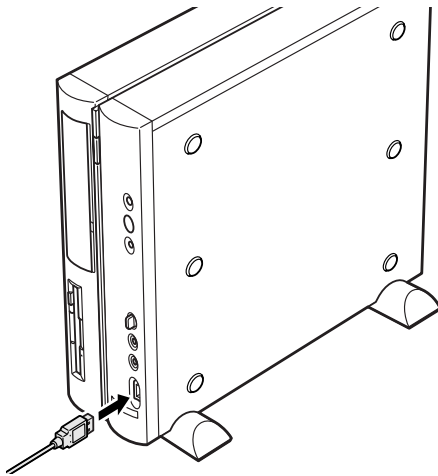
お使いのプリンタが USB に対応していれば、USB コネクタに接続することをおすすめします。パソコンの電源が入っている状態でケーブルの抜き差しが可能になるなど、いくつかの利点があります。

参照

USBについて PART2の「USBとは」(p.26)

USB対応プリンタは、パソコンの電源が入っている状態で接続や取り外しができます。

ケーブルの接続方法については、ケーブルまたはプリンタのマニュアルをご覧ください。

**3** プリンタの電源ケーブルをコンセントに接続する**4** プリンタの電源を入れる**5** パソコンの電源を入れる**6** USB プリンタケーブルのパソコン側のプラグを、プラグの向きに気をつけて本体のUSBコネクタに差し込む

初めてプリンタを接続したときは、パソコンが自動的に設定を始めます。  
p.16の「パソコン側の設定」へ進み、引き続きパソコン側の設定作業を行ってください。

**チェック!!**

USBキーボードを外した状態で他のUSB対応機器を接続しないでください。

USBコネクタは、本体の前面と背面に1つずつと、添付のキーボードに2つ用意されています。液晶ディスプレイセットモデルの場合は、セットの液晶ディスプレイのUSBコネクタを使うこともできます。空いているコネクタに接続してください。

**参照**

USBプラグの差し込み方 PART2の「USBコネクタにプラグを差し込む」(p.29)

液晶ディスプレイのUSBコネクタについては 液晶ディスプレイのマニュアル



## パラレルコネクタに接続する場合

### ⚠ 注意



感電注意

作業の前にこのパソコンの電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。



発火注意

電源ケーブルを接続したままで作業すると、感電、発煙の原因になります。

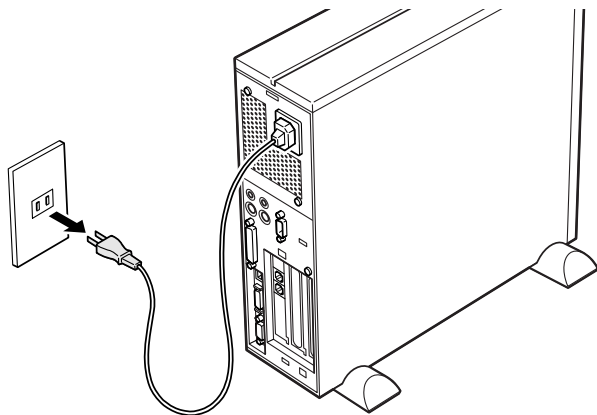
USBに対応していないプリンタの場合は、通常、パラレルコネクタに接続します。

1

本体と周辺機器の電源を切る

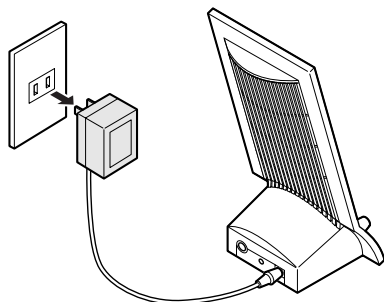
2

本体と周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜く




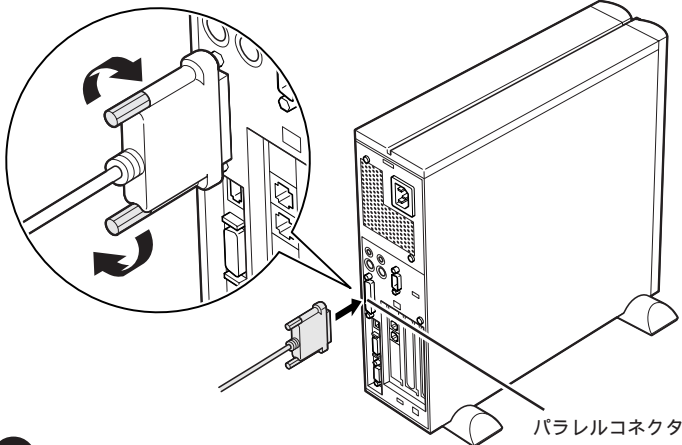
3

スピーカの AC アダプタをコンセントから抜く



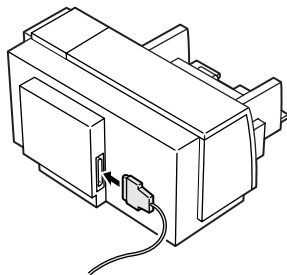
4

プリンタケーブルのパソコン側のプラグを、本体背面の  
パラレルコネクタ( : えんじ色 ) に差し込む



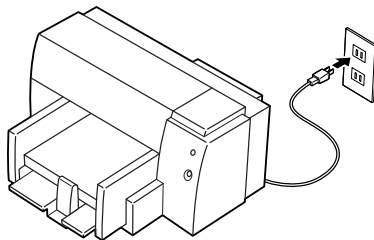
5

プリンタケーブルのプリンタ側のプラグをプリンタの  
コネクタに差し込む



6

プリンタの電源ケーブルをコンセントに接続する



7

スピーカの AC アダプタをコンセントに差し込む

8

本体と周辺機器の電源ケーブルをコンセントに差し込む


まだパソコンやプリンタの電源は入れないでください。電源を切ったまま、次ページの「パソコン側の設定」に進みましょう。

このとき、ケーブル側のプラグの形状を確認し、台形の幅の広い方が右になるように差し込んでください。

 参照

プリンタケーブルのプラグの形  
「用意するもの」(p.11)

コネクタの左右には、プラグの抜けを防止するためのネジが付いています。プラグを差し込んだら、このネジでプラグを固定してください。


 **チェック!!**

- ・ ハーフピッチ 36 ピンの PC-9800 シリーズ用プリンタケーブルを使う場合には、プリンタインタフェース変換コネクタ(PK-CA101)が必要です。
- ・ パラレルコネクタには、D-Sub25ピンのシリアル機器を接続しないでください。

プリンタによって、コネクタの位置は異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

プリンタ側のコネクタにも、プラグの抜けを防止するためのツメ、あるいは金具、ネジなどが付いています。プリンタのマニュアルにしたがって、ツメ、金具、ネジでプラグを固定してください。

プリンタによって、電源ケーブルの接続方法は異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

 **チェック!!**

レーザープリンタは、比較的大きな電力を消費します。プレーカが落ちたりしないように、電力に余裕のあるコンセントに接続してください。

# パソコン側の設定

プリンタによっては、パソコン側でプリンタのための設定をする必要があります。

## パソコンが自動的に設定してくれる場合

プリンタによっては、プリンタを接続したあと、プリンタとパソコンの電源を入れれば、自動的に設定を行ってくれるものがあります。この場合には、パソコン側の設定を行う必要はありません。

1 プリンタの電源を入れる

2 パソコンの電源を入れる

3 「スタート」をクリックする

4 「設定」にポインタを合わせる

5 「プリンタ」をクリックする

「プリンタ」のウィンドウが表示される

6 いま接続したプリンタが表示されていることを確認する

これでプリンタが使えるようになりました。

なお、このあと「テスト印刷」を行うことをおすすめします。「テスト印刷」は、プリンタのプロパティの画面から実行できます。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

このようなプリンタを接続した場合には、プリンタ、パソコンの順に電源を入れると、自動的に「設定中」であることを示す画面が表示され、処理が行われます。

ただし、プリンタによっては、引き続き操作が必要な場合があります。必ずプリンタのマニュアルで確認してください。

このプリンタを通常使うプリンタに設定するには、プリンタのアイコンを右クリックして表示されるメニューの「通常使うプリンタに設定」をクリックし、チェックマークが付いた状態にしてください。

詳しくは、Windowsのヘルプでキーワードに「通常使うプリンタ」と入力し、表示される説明をご覧ください。

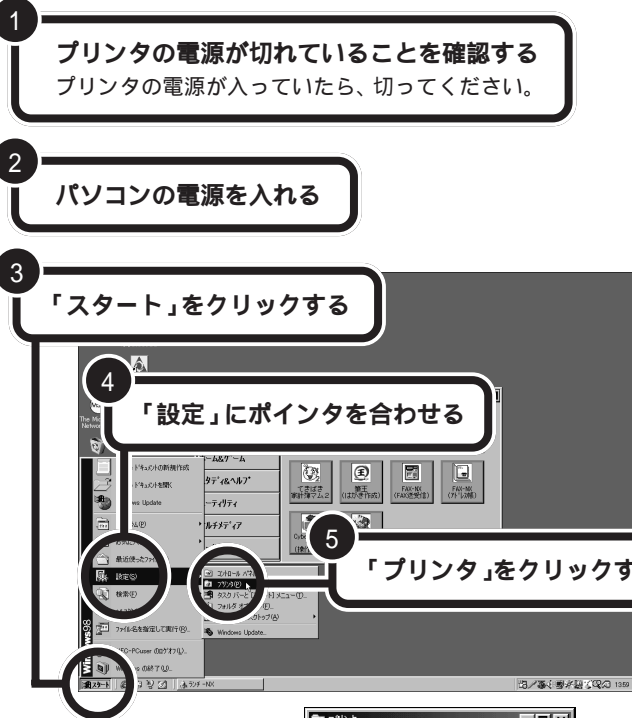
## パソコンが自動的に設定してくれなかった場合

このような場合には、どこのメーカーの何というプリンタを使うのかをパソコンに伝え、適切な情報がプリンタに送られるようにしなくてはなりません。プリンタを正しく動作させるためのソフトのことを「プリンタドライバ」と言います。ここでは、一般的な方法でこのパソコンに「プリンタドライバ」を組み込みます。

設定の前に、お使いのプリンタの製造元(メーカー)と製品(機種名)を確認しておいてください。

プリンタドライバの組み込み方法は、プリンタによって独自のプログラムで行う場合もあります。必ずプリンタのマニュアルで確認してください。

### パソコン側の設定を始める



「プリンタ」のウィンドウが表示される



「プリンタの追加」をダブルクリックする



#### プリンタドライバ

印刷したい情報をパソコンからプリンタへ適切に伝えるためのソフトウェアです。プリンタを接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)ます。

#### ✓チェック!!

Windows 95用のプリンタドライバしか添付されていなかった場合には、Windows 98でも使えるかどうか、プリンタのメーカーやご購入元などにお問い合わせください。

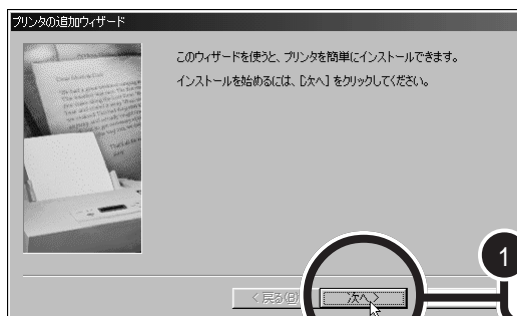
#### ✓チェック!!

この手順は、p.23の最後まで続けて操作してください。設定が終わるまで20～30分くらいかかります。途中で電源を切ったりすると、組み込みができなくなってしまうこともありますので、十分ご注意ください。

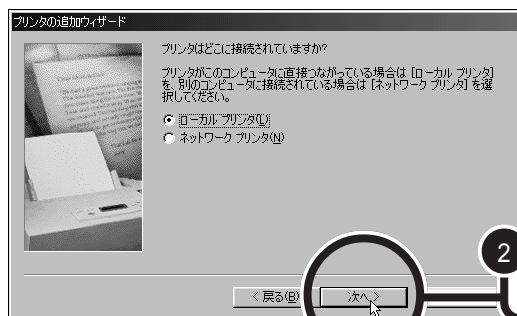
プリンタの電源が切れていない状態でパソコンの電源を入れると、「デバイスドライバウィザード」または「新しいハードウェア」のウィンドウが表示されることがあります。この場合には、「キャンセル」をクリックして、ウィンドウを閉じて、手順3からの説明にしたがってください。

「ダブルクリック」とは、マウスの左ボタンを「カチッカチツ」とすばやく2回押す操作のことです。

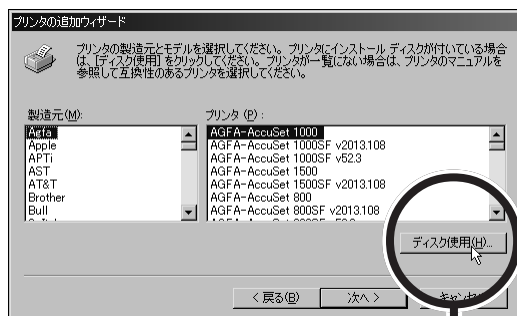
## プリンタドライバを組み込む



1 「次へ」をクリックする



2 「次へ」をクリックする



3 「ディスク使用」をクリックする

以降の作業では、お使いのプリンタに対応した「プリンタドライバ」が必要です。あらかじめ、プリンタに添付の CD-ROM やフロッピーディスクを用意してください。

参照

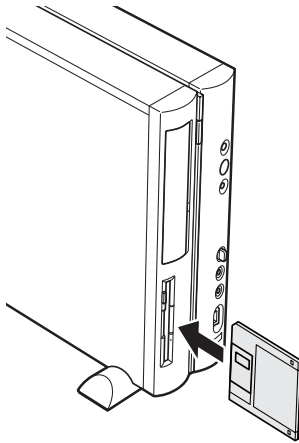
プリンタにプリンタドライバが添付されていない場合には、この PART の「こんなときには」(p.24)

プリンタによっては、左の画面で一覧からプリンタ名を選ぶことで簡単にドライバを組み込むことができます。この場合、手順 3 は行わず、「製造元」と「プリンタ」を指定したら「次へ」をクリックし、p.21 の手順 13 へ進んでください。

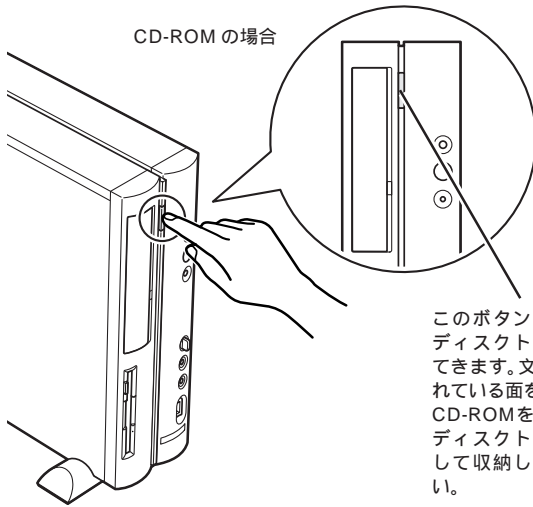
4

プリンタに付いてきたフロッピーディスクまたはCD-ROM をセットする

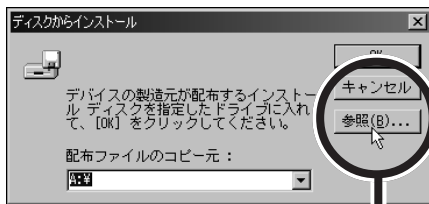
フロッピーディスクの場合



CD-ROM の場合



このボタンを押すとディスクトレイが出てきます。文字の書かれている面を左にしてCD-ROMをセットし、ディスクトレイを押して収納してください。



5

「参照」をクリックする

参照

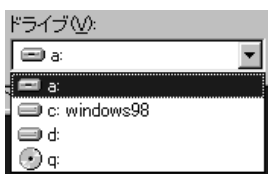
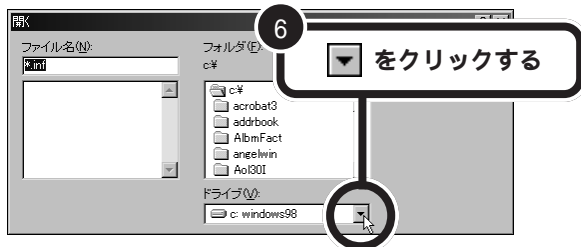
フロッピーディスクをセットする方法 『練習! パソコンの基本』PART8 の「フロッピーディスクの扱い方」

参照

CD-ROM をセットする方法 『練習! パソコンの基本』PART8 の「CD-ROM の扱い方」

プリンタに複数枚のフロッピーディスクまたはCD-ROM が添付されていることもあるので、プリンタのマニュアルでよく確認して、ドライブの入っているフロッピーディスクまたはCD-ROM を探してください。

添付されていたドライブに、PC-9800 シリーズ用とPC/AT 互換機用の2種類のドライブがあった場合は、PC/AT 互換機用のドライブを使用してください。

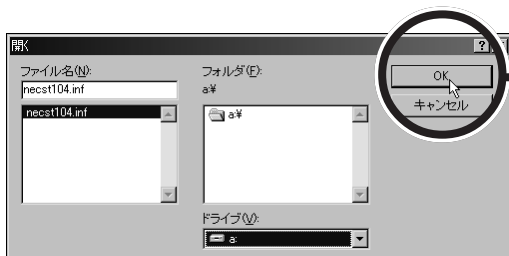


7  
 フロッピーディスクをセットした場合は「a:」をクリックする  
 CD-ROM をセットした場合は「q:」をクリックする

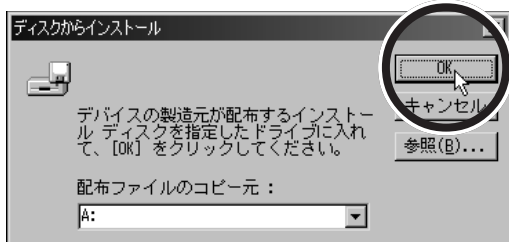
→ フロッピーディスクまたはCD-ROM の内容が表示される

8  
 目的のプリンタドライバの場所を選ぶ

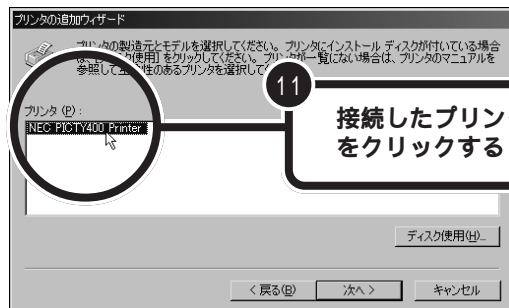
プリンタドライバの入っている場所は、使っているプリンタによって異なります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



9  
 「OK」をクリックする

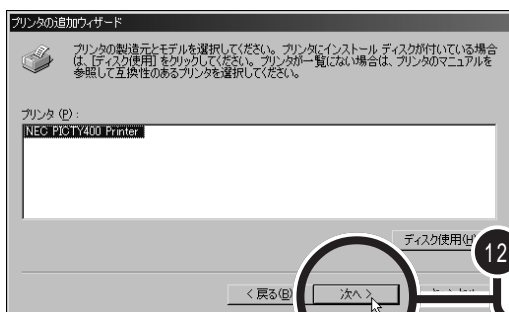


10  
 「OK」をクリックする

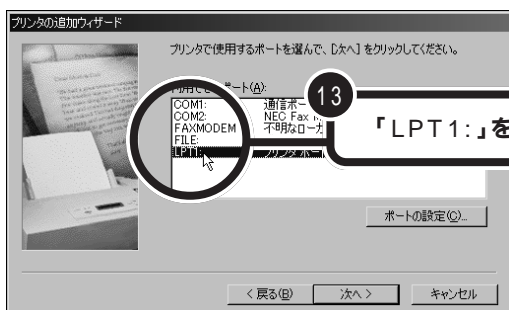


11  
 接続したプリンタの機種名をクリックする

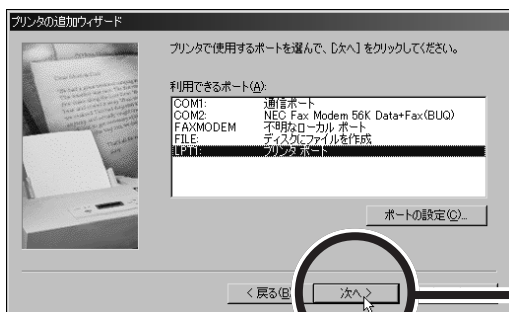
ここで左の画面が表示されずに「指定された場所にはハードウェア情報がありません。」と表示された場合は、「OK」をクリックし、プリンタのマニュアルをもう一度確認した後、手順 5 からの操作を行ってください。



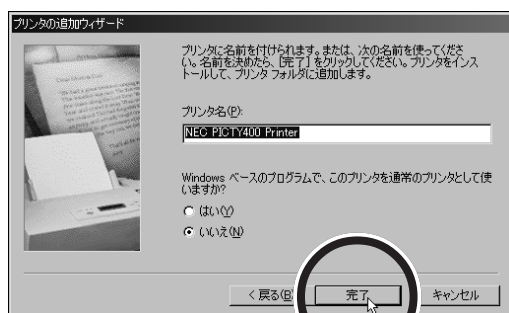
「次へ」をクリックする



「LPT1:」をクリックする



「次へ」をクリックする



「完了」をクリックする

パソコンとプリンタ間でやりとりする情報の出入り口を指定します。周辺機器とパソコンとの情報の出入り口のことを「ポート」といい、プリンタの出入り口のことを「プリンタポート」と呼びます。

ここで「Windows アプリケーションで、このプリンタを通常のプリンタとして使いますか?」と表示された場合は、「はい(Y)」をクリックしてください。

この画面では、プリンタの名前を変更することもできます。プリンタの名前を変更するときは、「プリンタ名」の下側の欄に表示されている文字をクリックし、【BackSpace】を使っていったんすべて削除した後、新しい名前を入力します。

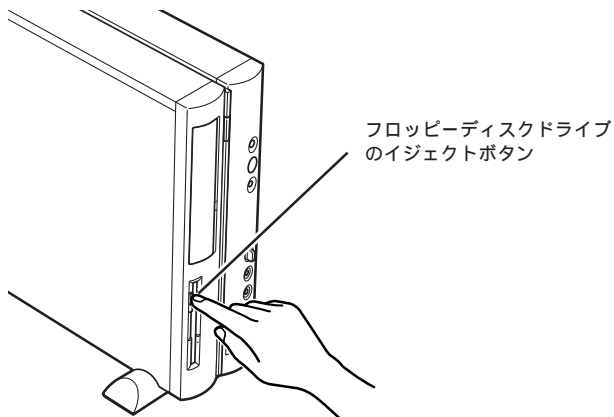
プリンタによっては、「完了」のかわりに「次へ」が表示されます。この場合には、次のテスト印刷の操作に進みます。



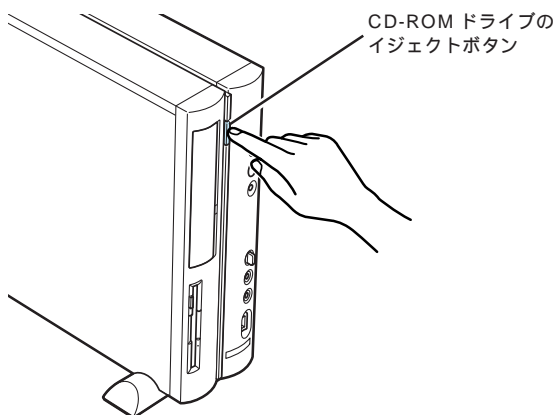
16

## 先ほどセットしたフロッピーディスクまたはCD-ROMを取り出す

フロッピーディスクの場合には、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンを押し、フロッピーディスクを取り出します。



CD-ROMの場合には、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。CD-ROMを取り出して、ディスクトレイを押して収納してください。



17

## プリンタの電源を入れる

📖 参照

フロッピーディスクを取り出す方法  
『練習! パソコンの基本』PART8  
の「フロッピーディスクの扱い方」

📖 参照

CD-ROMを取り出す方法 『練習!  
パソコンの基本』PART8の「CD-  
ROMの扱い方」

🔍 チェック!!

プリンタの電源を入れる操作については、プリンタのマニュアルをご覧ください。

プリンタによっては、引き続き操作が必要な場合があります。必ずプリンタのマニュアルで確認してください。

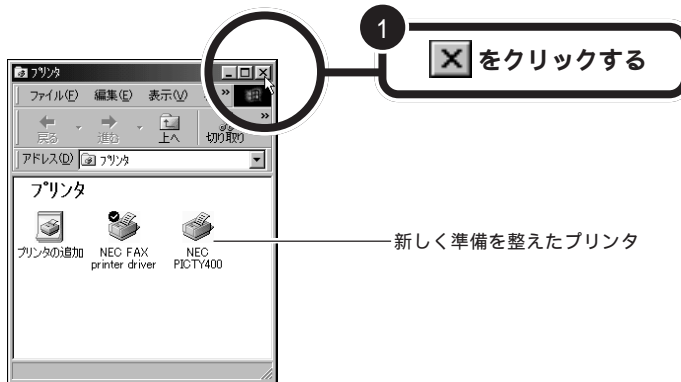
## テスト印刷する

プリンタによっては、この後、テスト印刷のウィンドウが表示されます。「はい」をクリックした後、「完了」をクリックすれば、テスト印刷が実行されます。

## テスト印刷を終わる

テストページの印刷が完了すると、「プリンタの印字テストが完了しました」というメッセージが表示されます。テストページが正しく印刷された場合は、「はい」をクリックします。

## プリンタの準備を終わる



テストページがプリンタから印刷されない場合や、文字などが正しく印刷されない場合は、「いいえ」をクリックし、画面に表示されるヘルプの内容に従って対処してください。

画面には、新しく準備を整えたプリンタが表示されているはずですが。このプリンタを通常使うプリンタに設定するには、プリンタのアイコンを右クリックして表示されるメニューの「通常使うプリンタに設定」をクリックし、チェックマークが付いた状態にしてください。詳しくは、Windowsのヘルプでキーワードに「通常使うプリンタ」と入力し、表示される説明をご覧ください。

## こんなときには



### プリンタにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されていない場合

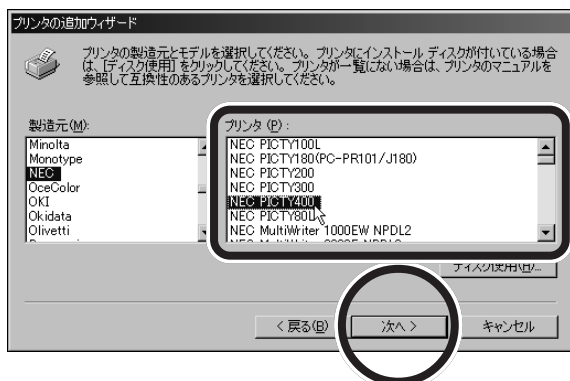
Windows 98には、あらかじめいろいろなプリンタ用のプリンタドライバが入っています。プリンタにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されていなくても、Windows 98に入っているプリンタドライバを使うことができます。

また、フロッピーディスクやCD-ROMは添付されていても、その中にWindows 98用のプリンタドライバが入っていない場合にも、Windows 98に入っているプリンタドライバを使います。このような場合には、次のような方法でプリンタドライバを組み込みます。

- 1 p.18 の手順 2 までの操作を行う
- 2 プリンタのメーカー名をクリックする



- 3 プリンタの機種名をクリックする



- 4 「次へ」をクリックする
- 5 引き続き、p.21 の手順 13 からの操作を行う

プリンタのメーカー名とプリンタの機種名については、プリンタのマニュアルをご覧ください。

使っているプリンタが、一覧になかった場合には、Windows 98にあなたが使うプリンタのプリンタドライバが入っていないということです。プリンタのメーカー、ご購入元などにお問い合わせください。

P A R T

# 2

## USB 対応機器を使う

USB コネクタには、すでに接続されているキーボードや PART 1 で説明した USB 対応プリンタ以外にも、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB 対応機器の使い方について説明します。

ユーエスピー

## USB とは

USB(ユーエスピー)は、パソコン用インターフェイスの新しい規格です。まずは、このパソコンでUSB対応機器を使うための基礎知識を知っておきましょう。

USBは、Universal Serial Bus(ユニバーサル シリアル バス)の頭文字をとったものです。



### インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

## USB なら簡単接続

USB対応機器は、電源を入れた状態のままで接続します。

本体とディスプレイの電源を入れて  
Windowsを起動する( p.28 )



必要に応じてUSB対応機器側の  
設定を行う

USB対応機器のマニュアルで確認してください。



USBコネクタにプラグを差し込む( p.29 )

パソコンのUSBコネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。



正しく接続できたか確認する( p.34 )

確認のしかたは、機器によって異なります。



設定が終わったら準備完了。  
すぐに使い始めることができます。

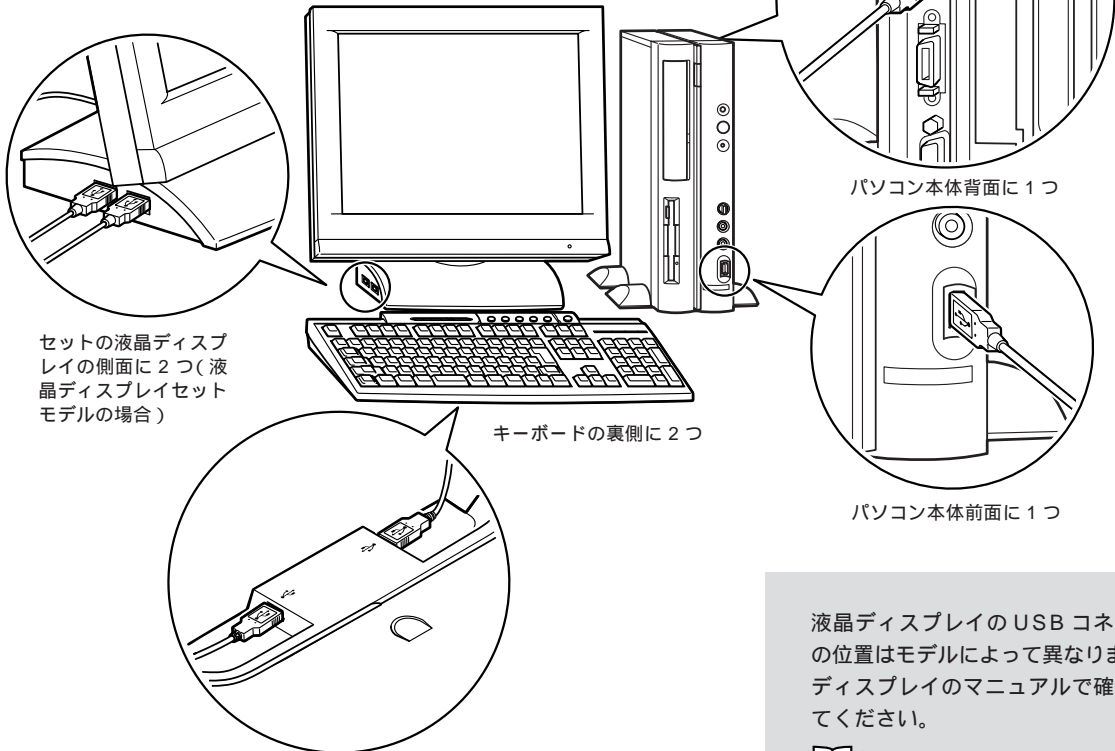
USB対応機器は、一般の周辺機器とは異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができるのです。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要がある機器もあります。

機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## USB コネクタについて

このパソコンには、本体の前面と背面に1つずつ、また、液晶ディスプレイセットモデルの場合は、セットの液晶ディスプレイの側面に2つのUSBコネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々のUSB対応機器を接続して、たくさんの機器を同時に使用することもできます。



セットの液晶ディスプレイの側面に2つ(液晶ディスプレイセットモデルの場合)

キーボードの裏側に2つ

パソコン本体背面に1つ

パソコン本体前面に1つ

キーボードの裏側にも、2つのUSBコネクタが用意されています。ここにもUSB対応機器を接続することができますが、機器によっては接続できない場合があるので、注意が必要です。

標準で用意されているUSBコネクタの数

	USBコネクタの数	実際に使える数( )
液晶ディスプレイセットモデル	6個	3個
CRTディスプレイセットモデル	4個	2個

通常、USBコネクタには添付のキーボードやマウス、USBケーブルが接続されているので、空いているコネクタの数は少なくなります。

なお、標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、別売の「USBハブ」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。

液晶ディスプレイのUSBコネクタの位置はモデルによって異なります。ディスプレイのマニュアルで確認してください。

参照

各USBコネクタへの差し込み方 このPARTの「USBコネクタにプラグを差し込む」(p.29)

**チェック!!**

キーボードの裏側のUSBコネクタには、「ハイパワーデバイス」は接続できません。

参照

ハイパワーデバイス このPARTの「ハイパワーデバイスについて」(p.36)

参照

USBハブについて このPARTの「USBハブを使う」(p.36)

# USB 対応機器を接続する

パソコンの電源を入れたままの状態ですべてのUSB対応機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終わったら、すぐに使い始めることができます。

## 警告



雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

## 接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備が必要です。

### 接続する USB 対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。機器によっては、接続する前にドライバのインストールや、各種設定スイッチ等の設定が必要な場合があるので、マニュアルにしたがって設定します。

接続後に設定が必要になることがあるので、CD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば、用意しておきます。

### パソコンとディスプレイの電源を入れておく

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態ですべて接続できます。あらかじめパソコンの電源を入れて、Windowsが使えるようにしておきましょう。液晶ディスプレイのUSBコネクタに接続するときは、ディスプレイの電源も忘れずに入れておいてください。

### ✓チェック!!

USB対応機器に、Windows 95対応のドライバしか添付されていないこともあります。その場合、USB対応機器をWindows 98で使うために専用のドライバが別に必要となることがあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルや、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。

### ✓チェック!!

キーボード裏側のUSBコネクタに接続するときには、USB機器のマニュアルを読んで、その機器が「ハイパワーデバイス」なのかどうか調べておいてください。「ハイパワーデバイス」は、キーボードのUSBコネクタには接続できません。

### 📖参照

ハイパワーデバイス このPARTの「ハイパワーデバイスについて」(p.36)

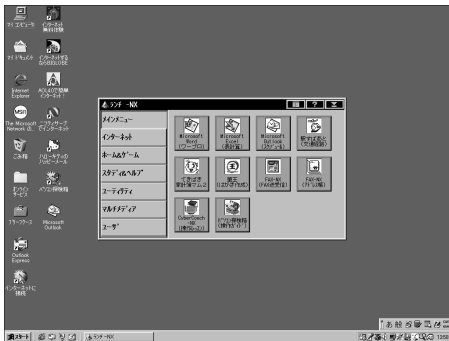
## USB コネクタにプラグを差し込む

1

### パソコン本体前面、背面等の USB コネクタに、プラグを差し込む

プラグを差し込むときの向きは、どこのUSBコネクタを使うかによって異なります。このページの下の説明を参照して、正しく差し込んでください。

プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、



Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、この後の「こんなときには」(p.32)をご覧ください。


### ✓チェック!!

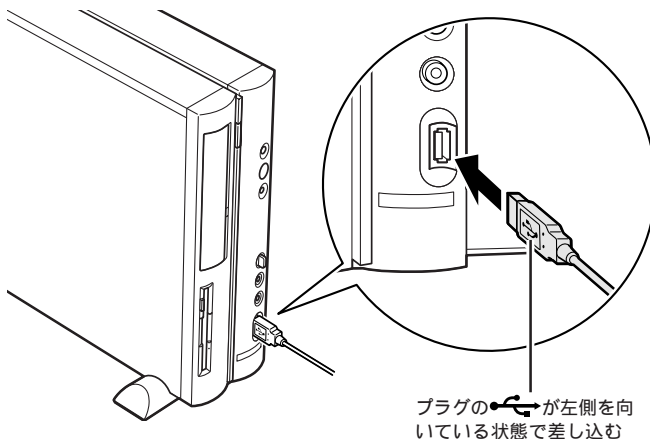
USBキーボードをパソコン本体から外した状態で USB 対応機器を接続しないでください。

Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、この後の「こんなときには」(p.32)をご覧ください。




### 本体前面の USB コネクタを使う

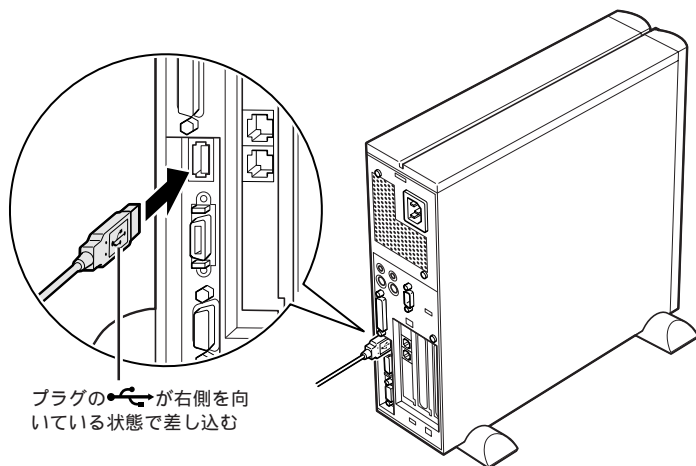
本体前面の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを左に向けてコネクタに差し込みます。






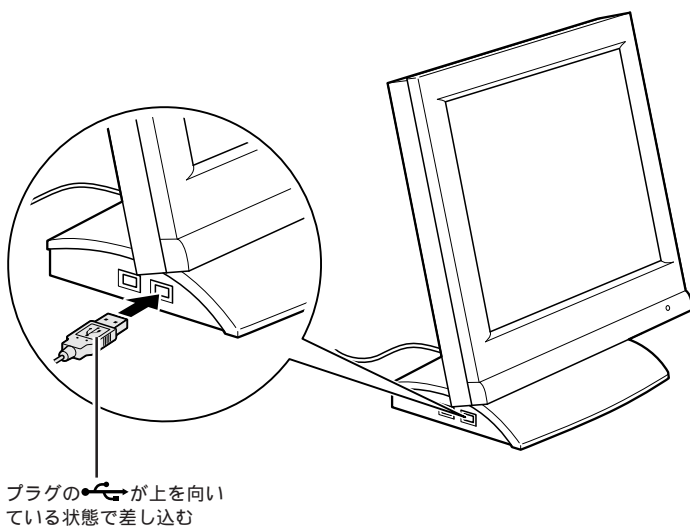
## 本体背面のUSBコネクタを使う

本体背面のUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを右に向けてコネクタに差し込みます。



## セットの液晶ディスプレイ側面のUSBコネクタを使う (液晶ディスプレイセットモデル)

液晶ディスプレイセットモデルにセットの液晶ディスプレイのUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを上に向けてコネクタに差し込みます。



液晶ディスプレイのUSBコネクタの位置は、モデルによって異なります。お使いのディスプレイに添付されているマニュアルをご覧ください。

液晶ディスプレイの側面には、図のように2つのUSBコネクタが並んでいます。通常、一方のコネクタには添付のキーボードが接続されています。周辺機器を接続する場合は、空いている方のコネクタに接続してください。

### **チェック!!**

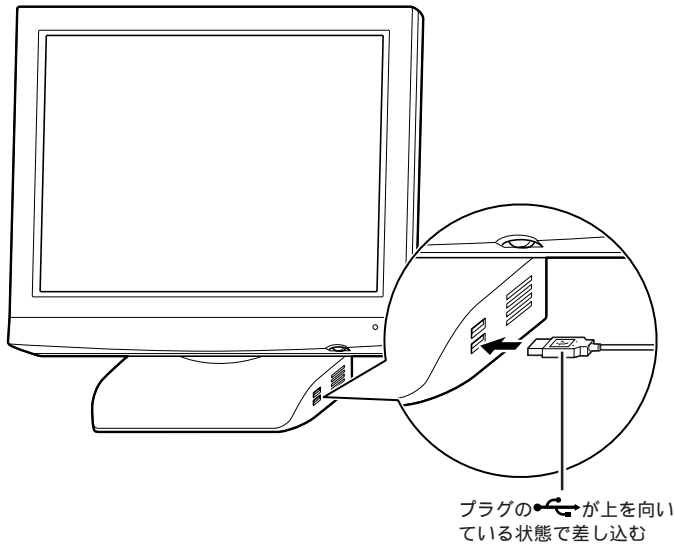
液晶ディスプレイのUSBコネクタを使う場合は、本体と液晶ディスプレイの間を液晶ディスプレイに添付のUSBケーブルで接続しておく必要があります。

また、液晶ディスプレイに添付のマニュアルもご覧ください。

### 参照

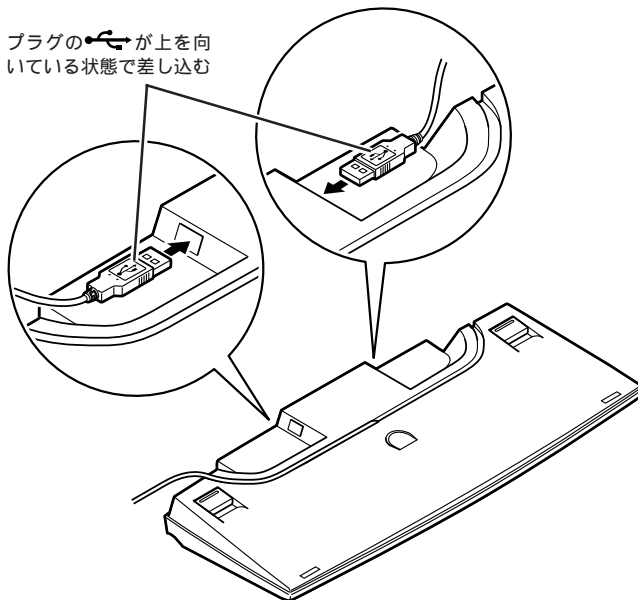
USBケーブルの接続 『まずこれ! 接続と準備』PART2の「キーボードを接続する」

・15 インチ液晶ディスプレイ(F15R41B,W)の場合



### キーボード裏側の USB コネクタを使う

キーボード裏側の USB コネクタを使う場合は、下図のように、プラグのマークが見えるように上向きにして差し込みます。



### チェック!!

液晶ディスプレイの USB コネクタを使う場合は、本体と液晶ディスプレイの間に液晶ディスプレイに添付の USB ケーブルで接続しておく必要があります。

また、液晶ディスプレイに添付のマニュアルもご覧ください。

### 参照

USB ケーブルの接続 「まずこれ! 接続と準備」PART2の「キーボードを接続する」

キーボードの裏側には、図のように2つのUSBコネクタが用意されていますが、通常、一方のコネクタには、添付のUSBマウスが接続されています。周辺機器を接続する場合は、空いている方のコネクタに接続してください。

### チェック!!

キーボード裏側のUSBコネクタには、「ハイパワーデバイス」を接続できません。ハイパワーデバイスのUSB対応機器は、別のUSBコネクタに接続してください。

### 参照

ハイパワーデバイス このPARTの「ハイパワーデバイスについて」(p.36)

## こんなときには

USBコネクタにプラグを差し込んだ際、p.29 ~ p.31の説明の通りにならなかったときは、次のように対処してください。



### USB コネクタにプラグを差し込んだが、何も反応がない

初めて USB 対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。

なお、USB 対応機器は、一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけですぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。



### 一度設定した USB 対応機器が正常に認識されない

一度 USB ケーブルを抜き、3 秒以上間隔をおいて差し込んでください。

ただし、次のような場合は、USB 対応機器を抜き差ししないでください。

- ・スタンバイ状態のとき
- ・スタンバイ状態に移行中のとき
- ・スタンバイ状態から復帰中のとき

## 👉 プラグを差し込んだら次のような画面が表示された



接続したUSB対応機器の設定が自動的には行われませんでした。この場合、次の手順でドライバの設定作業を行います。

- 1 上の画面で「次へ」をクリックする
- 2 「検索方法を選択してください」と表示されたら「次へ」をクリックする
- 3 下のような画面が表示されたら、機器に添付の CD-ROM またはフロッピーディスクを本体にセットし、「次へ」をクリックする



これ以降は画面の指示にしたがって操作してください。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。画面に「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました」と表示されたら「完了」をクリックして、設定完了です。

CD-ROMをセットした場合は、左の画面で「CD-ROM ドライブ」の左の  をクリックして  に変えてから「次へ」をクリックします。

どうしてもうまく設定できないときは、USB 対応機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。

## 正しく接続できたかどうか確認する

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できない場合もあります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

### USB 対応プレイパッド、プレイスティック、ドライビングホイールなど

「コントロールパネル」の「ゲームコントローラ」をダブルクリックして表示される画面から、操作テストを行えます。

### USB 対応プリンタ

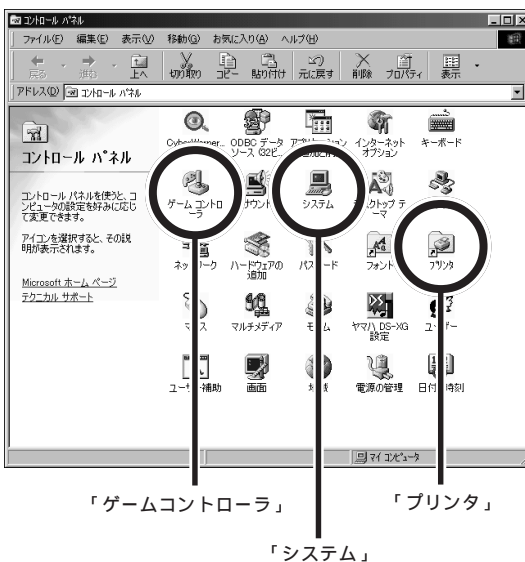
「コントロールパネル」の「プリンタ」をダブルクリックし、接続したプリンタ名が表示されることを確認します。

### その他の USB 対応機器

接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。

一般に、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続したUSB対応機器が登録されていれば、正しく接続されています。なお、この操作を行うためには、CyberTrio-NXのモードを「アドバンスモード」にする必要があります。

コントロールパネル



機器によっては、この後さらに別の設定作業が必要になります。USB対応機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

#### 参照

デバイスマネージャについて  
PART11の「デバイスのリソース設定の変更」(p.111)

#### 参照

CyberTrio-NXのモード変更  
PART13の「Windows 98の利用環境の変更 < CyberTrio-NX >」

# USB 対応機器のご紹介

ここでは、現在利用できる主な USB 対応機器を紹介します。

## プリンタ

USB対応のプリンタならば、パソコン本体の電源を入れた状態のまま、接続、取り外しができるので、便利です。

## イメージスキャナ

イメージスキャナは、撮りためた写真やお気に入りのイラストなどを、パソコンに取り込むための装置です。このパソコンには、フルカラーイメージスキャナ(PC-IN700/3U)などを接続できます。

## プレイスティック、プレイパッド、ドライビングホイール

ゲームを楽しむときに接続して使います。このパソコンには、プレイスティック(PK-GP201)、プレイパッド(PK-GP101E)、ドライビングホイール(PK-GP301)などを接続できます。

## ISDN ターミナルアダプタ

ISDN 回線に USB 対応 ISDN ターミナルアダプタを接続すれば、内蔵の FAX モデムボードを使うよりも、さらに快適にインターネットやパソコン通信を楽しむことができます。

## デジタルビデオカメラ

このパソコンに、デジタルビデオカメラ(PK-MC202)などを接続すれば、動きのある映像(動画)を取り込むことができます。

## メモリーカードリーダー/ライター

メモリーカードリーダー/ライター(PK-UP006E)を接続すれば、ATA 規格対応の PC カード(TYPE )を読み書きできるようになります。デジタルカメラで撮影した写真(画像データ)も、手軽にパソコンにデータ転送できて便利です。

## USB リンクケーブル

USB インターフェイスを搭載した複数のパソコン同士(4 ~ 5 台までを推奨)を、USB リンクケーブル(PK-UP010)で接続すれば、LAN(ネットワーク)ボードなどがなくても、データのやりとりをしたり、ファイルやプリンタの共有ができます。

## 赤外線通信インタフェースユニット

赤外線通信インタフェースユニット(PK-UP007)を使えば、赤外線通信に対応したノートパソコンやデジタルカメラとケーブルレスでデータの受け渡しができます。

### 参照

プリンタの接続 「PART1 プリンタを使う」(p.7)

### 参照

イメージスキャナについて PART 10 の「イメージスキャナを使う」(p.100)

これらの機器を使用する際は、接続した後で、機器に付属のコントロール調整用のソフトウェアなどを組み込む必要があります。詳しくは、機器のマニュアルをご覧ください。

ターミナルアダプタの接続方法や使用方法については「PART4 ターミナルアダプタを使う」(p.43)や、ターミナルアダプタに付属のマニュアルをご覧ください。

デジタルビデオカメラの接続方法や使用方法については、デジタルビデオカメラに付属のマニュアルをご覧ください。

デジタルカメラが使用するカードの種類によっては、市販のPCカードアダプタが必要になります。詳しくは、デジタルカメラのマニュアルをご覧ください。

## ハイパワーデバイスについて

USB 対応機器は、その機器が動作するために必要な電流の取り方によって、次の3つのタイプに分かれます。

### ・セルフパワーデバイス

独自に電源を持っている機器です。USB コネクタからは100mA以下の電流を消費します。

### ・ローパワーデバイス

添付のUSBマウスのように、自分では電源を持たない機器です。必要な電流をUSBコネクタから消費して動作しますが、消費するのは100mA以下と比較的少量です。

### ・ハイパワーデバイス

ローパワーデバイスと同様、自分では電源を持たない機器です。必要な電流をUSBコネクタから消費して動作しますが、比較的大きな電流(最大500mA)を消費します。

このパソコンに添付のキーボード(USBバスパスワードハブ付きキーボード)の裏側にあるUSBコネクタに接続できるのは、このうち「セルフパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」のみです。「ハイパワーデバイス」はパソコン本体か、USBセルフパワーバスに接続してください。

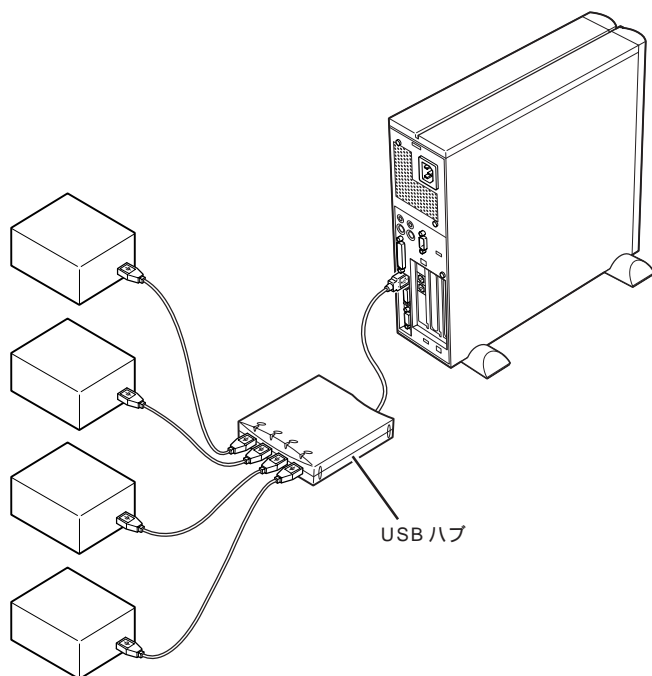
ハイパワーデバイスの例

(NEC製:1999年2月現在)

- ・PK-IN800U  
(フルカラーモバイルスキャナ)
- ・PK-UP001  
(フルカラーイメージスキャナ)
- ・PK-MC201、PK-MC201E  
(デジタルビデオカメラ)
- ・PK-MC201S、PK-MC201SE  
(デジタルビデオカメラ)
- ・PK-MC202、PK-MC202E  
(デジタルビデオカメラ)
- ・PK-UP007  
(赤外線通信インタフェースユニット)

## USBハブを使う

別売のUSBハブ(PK-UP002など)を使えば、1つのUSBコネクタを4つのUSBコネクタに分岐して増やすことができます。このUSBハブを何台も使えば、規格上127台(パソコン1台あたり:USBハブの数も入れて)までの周辺機器を接続することができます。



### ✓チェック!!

USBハブにキーボードやUSB対応機器を接続する場合、本体に先にUSBハブを接続してから接続してください。USBキーボードを別売のUSBハブに接続するときは、次の手順で接続してください。

1. 本体のUSBコネクタにキーボードを接続する
2. 本体の空いているUSBコネクタにUSBハブを接続して認識させる
3. USBハブにキーボードを接続する

PK-UP002の場合、4つのUSB対応機器を接続することができます。

USBハブの詳しい使い方については、USBハブのマニュアルをご覧ください。

USBハブには、CRTディスプレイの下に置くことのできるタイプ(PK-UP003)もあります。

P A R T

# 3

## オーディオ機器を使う

夜中にパソコンの音を聞いたりするときなど、周囲に音を出したくないときには、ヘッドホンを使いましょう。また、ステレオなどのオーディオ機器を接続することもできます。



# ヘッドホンを使う

別売のヘッドホンでパソコンの音を聞くための接続方法を説明します。

## ⚠ 注意

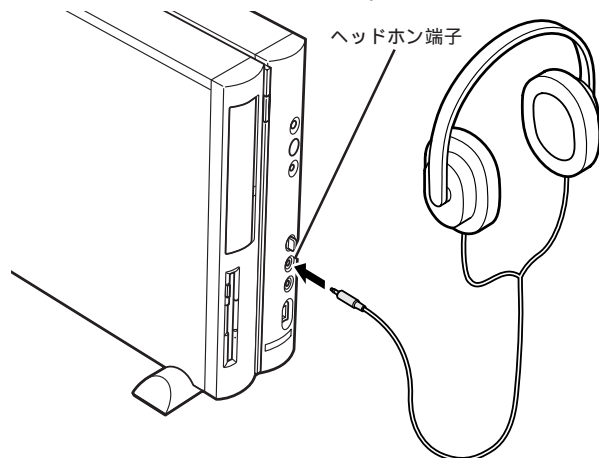


けが注意

ヘッドホンを耳にあてたまま接続しないでください。  
耳を痛めないため、ヘッドホンを接続するときは、  
ヘッドホンを耳にあてたまま接続しないでください。

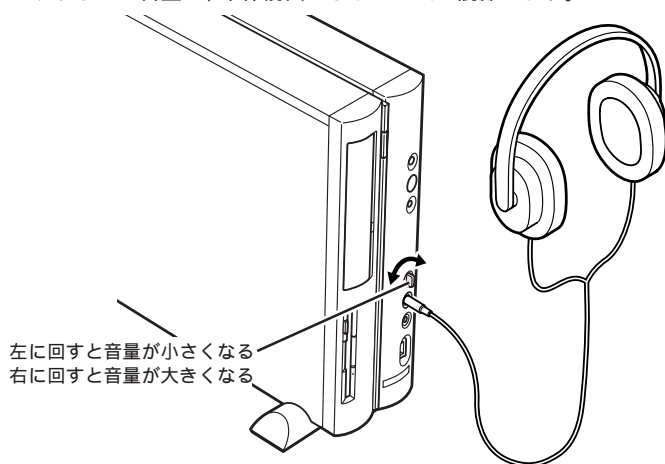
## ヘッドホンの接続

ヘッドホンは本体のヘッドホン端子に接続します。



## ヘッドホンの音量の調節

ヘッドホンの音量は、本体前面のボリュームで調節します。



## ✓ チェック!!

ヘッドホンを故障から守るため、本体のボリュームを最小にしてからヘッドホンを接続してください。

このパソコンに接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのヘッドホンです。お持ちのヘッドホンのプラグが大きくて入らないときは、オーディオショップなどで「ステレオ標準プラグ ステレオミニプラグ」変換プラグを購入してください。

ヘッドホンを接続しても、スピーカからの音は消えません。スピーカから音を出したくない場合は、スピーカの音量を最小にしてください。

本体前面のボリュームで調節しても音が大きすぎたり、小さすぎるような場合には、Windows 98 の「ボリュームコントロール」の機能で調節してください。

## 📖 参照

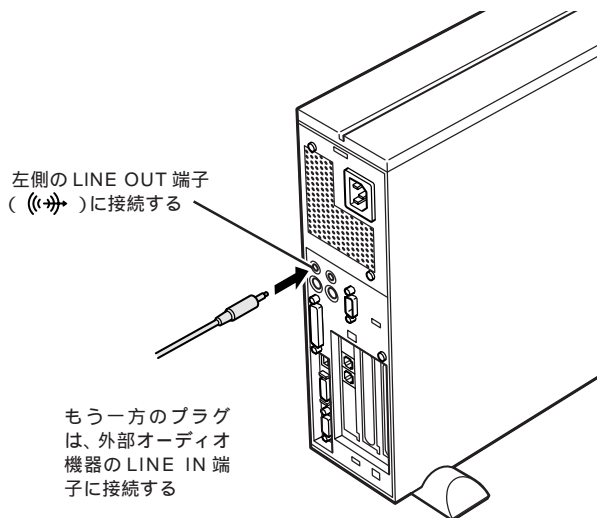
ボリュームコントロールの操作方法については PART12 の「サウンド機能」

## 外部オーディオ機器を使う

このパソコンにステレオなどの外部オーディオ機器を接続することができます。

### パソコンの音を外部オーディオ機器で聞くととき

パソコンの音を外部オーディオ機器で聞いたり、テープレコーダ等に録音するときには、ステレオのミニプラグ付きのオーディオケーブルを使って、本体背面の LINE OUT 端子に、次のように接続します。



### 音量の調節

外部オーディオ機器側の音量つまみやボリュームつまみで調節します。

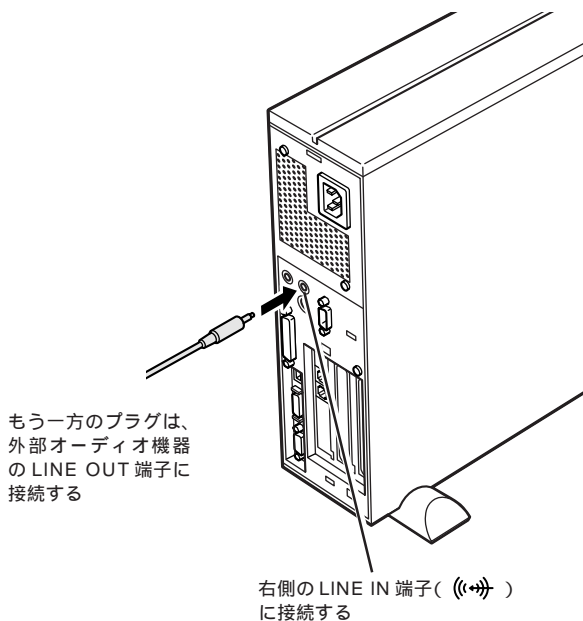
ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、パソコン本体とは別売になっています。電器店などで購入してください。

### ☑️チェック!!

ケーブルを外部オーディオ機器側に接続するときには、必ず「LINE IN」「AUX IN」などの入力端子に接続してください。外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルを購入して接続してください。

## 外部オーディオ機器の音をパソコンで聞くととき

外部オーディオ機器の音をパソコンで聞きたいときや、パソコンの録音機能で音声を録音したいときなどには、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルを使って、本体背面のLINE IN端子に、次のように接続します。

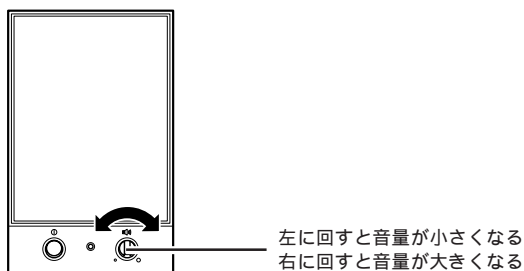


### 外部オーディオ機器からの音を録音する

外部オーディオ機器からの音声をパソコンに取り込む(録音する)には、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使います。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。

### 音量の調節

スピーカのボリュームつまみで調節できます。



パソコンに入力される音量が小さすぎたり、大きすぎたりするときは、Windows 98の「ボリュームコントロール」の機能で調節してください。

### ✓チェック!!

TVモデルの場合は、地上波TV & データボードのLINE IN端子に接続します。詳しくは、『TVモデルガイド』をご覧ください。

「サウンドレコーダー」は、ランチ-NXの「マルチメディア」に入っています。

### 📖参照

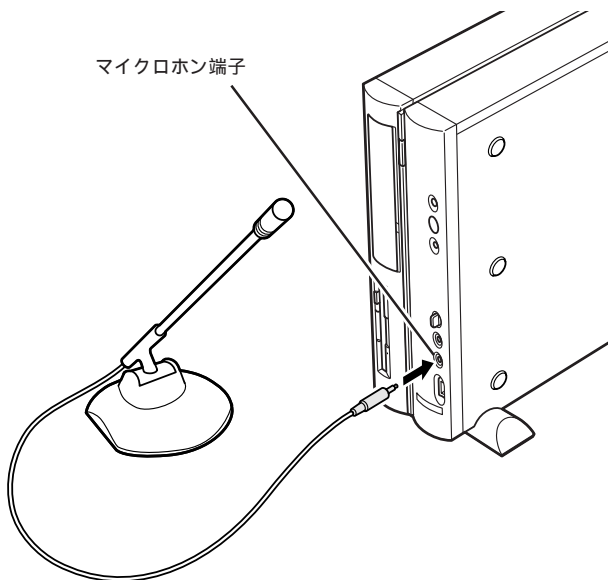
ボリュームコントロールの操作方法については PART12の「サウンド機能」

## マイクロホンを使う

このパソコンに別売のマイクロホンを接続して、マイクロホンからの音声を取り込むことができます。

### マイクロホンを接続する

マイクロホンは、本体背面のマイクロホン端子に、次のように接続します。



#### 音量の調節

マイクロホンからの入力音量(ボリューム)は、Windows 98の「ボリュームコントロール」の機能で調節します。

#### ハウリングについて

マイクロホンを本体のスピーカに近づけると、スピーカからキーンという大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいます。故障ではありません。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・マイクロホンをスピーカから遠ざける
- ・「ボリュームコントロール」で入力音量(ボリューム)を小さくする

#### 取り込んだ音声の利用

マイクロホンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使って録音し、ファイルに保存することができます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。

#### ✓チェック!!

このパソコンには、マイクロホンは添付されていません。モノラルミニプラグ付きのマイクロホンを、別途購入してください。

#### 📖参照

ボリュームコントロールの操作方法  
PART12の「サウンド機能」

「サウンドレコーダー」は、ランチ-NXの「マルチメディア」に入っています。



P A R T

# 4

## ターミナルアダプタを使う

ここでは、ターミナルアダプタを使えるようにするための準備作業を説明します。

パソコンとターミナルアダプタをつないだ後で、設定が必要な場合があります。

## ターミナルアダプタを使うには

ターミナルアダプタ( ISDNターミナルアダプタ )は、次のような手順でパソコン本体に接続します。インターネットを利用する場合は、接続したあとでインターネットの設定を ISDN 回線用に変更する必要があります。

### ISDN 回線が使えることを確認する( p.47 )

ISDN回線を導入していない場合は、電話回線を ISDN回線に切り替えてからターミナルアダプタを接続してください。また、必要ならば DSU を用意しておきます。



### 必要なものを用意する( p.48 )

ターミナルアダプタに添付のマニュアルを読み、機器側の設定が必要ならば設定しておきます。



### ターミナルアダプタを接続する( p.49 )

パソコン本体とターミナルアダプタを接続してから、ISDN回線に接続します。



インターネットを利用する場合は、インターネットの設定を ISDN 回線用に変更する

電話回線を ISDN 回線に切り替える方法などについて詳しくは、NTT にお問い合わせください。

# ターミナルアダプタについて

ここでは、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタ (ISDN ターミナルアダプタ) について簡単に説明します。

ターミナルアダプタは、ISDN を利用するときに必要な機器です。ISDN を利用すると、次のようなメリットとデメリットがあります。

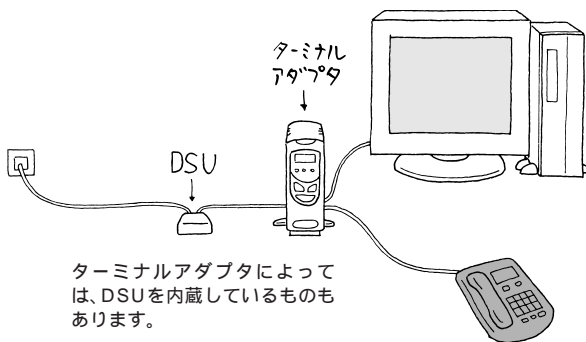
## メリット

- ・普通の電話回線よりも高速でインターネットに接続できる
- ・ノイズの混入や信号の減衰がない
- ・一本の回線で二本分利用できるため、インターネットに接続しながら電話をかけられる

## デメリット

- ・基本料金が高くなる
- ・ターミナルアダプタの破損時には、ターミナルアダプタにつないだ電話なども使えなくなってしまう  
(停電時対策のないものでは、停電時にターミナルアダプタにつないだ電話なども使えなくなってしまう)
- ・電話番号が変わってしまう場合がある
- ・ISDN 回線をひくときに、屋内配線の工事が必要なことがある

ISDN を利用するには、ターミナルアダプタのほかに「DSU」という装置が必要です。DSU を内蔵するタイプのターミナルアダプタもあります。



## 用語

### ISDN

ISDN (アイエスディーエヌ) は、電話や FAX、データ通信などの各種情報通信をデジタル形式で統合し、1つの通信網で接続できるようにしたものです。

ISDN 回線を使ってインターネットに接続するには、プロバイダが ISDN 回線に対応していないと接続できません。

## 用語

### DSU

DSU (ディーエスユー) は、通信機器と ISDN 回線を接続するための終端装置のことです。1本の ISDN 回線に必ず1台の DSU を接続します。

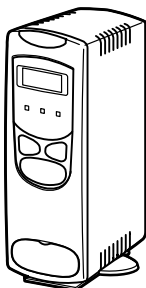


## いろいろなターミナルアダプタ

このパソコンには、次のようなターミナルアダプタを取り付けることができます。

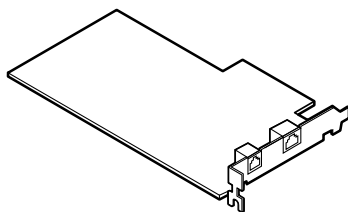
### 外付けタイプ

電話やFAXを接続して使うなら、外付けタイプがおすすめです。



### ボードタイプ(高速回線アダプタ / ISDN ボード)

PCI スロットに差し込んで使います。



### ✓チェック!!

ターミナルアダプタはこの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。これらのターミナルアダプタを購入した時には、このパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で必ず確認するようにしてください。

### 📖参照

PCIスロットについては「PART7 PCIボードを使う」(p.71)

## 接続する前に

ターミナルアダプタを接続する前に準備することや気を付けなくてはならないことを説明します。

### 接続する前に確認すること

#### ISDN 回線が使えるようになっているか？

電話回線を ISDN 回線に切り替えた場合、回線が切り替わる日時を NTT に確認し、切り替わった後で接続してください。切り替わる前に接続しても使えません。

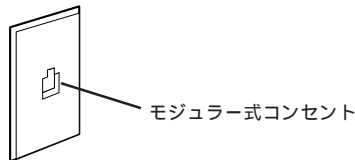
#### DSU の必要なターミナルアダプタではないか？

DSU が内蔵されていないターミナルアダプタの場合、DSU を用意しておいてください。

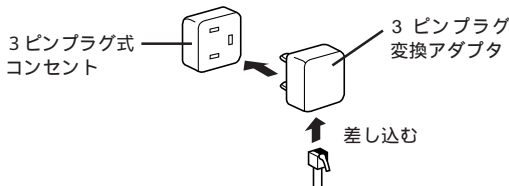
#### ISDN 回線用のコンセントの形状を確認する

コンセントの形状によっては、そのまま接続できないことがあります。

モジュラー式の場合、そのまま接続できます。



3 ピンプラグ式の場合、市販の 3 ピンプラグ変換アダプタを使うか、NTT にご相談ください。



直接配線式の場合、NTT または販売店に工事を依頼する必要があります。



#### 内蔵の FAX モデムでオンラインサインアップしておく

はじめてインターネットを利用する方は、あらかじめ、内蔵の FAX モデムでオンラインサインアップを行っておくことをおすすめします。

#### ✓チェック!!

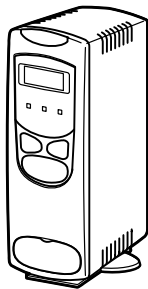
- ・ターミナルアダプタを接続すると、内蔵の FAX-NX が使えなくなります。アナログポートを搭載したターミナルアダプタであれば、本体背面の FAX モデムボードの□のコンネクタと、ターミナルアダプタのアナログポートをモジュラーケーブル(電話線)で接続し、ターミナルアダプタのアナログポートを FAX に設定することで、FAX-NX を使って FAX の送受信ができるようになります。設定について詳しくは、ターミナルアダプタに添付のマニュアルをご覧ください。
- ・ターミナルアダプタを接続したあとで、内蔵の FAX モデムボードを使用したい場合は、ターミナルアダプタのアナログポートと本体背面の FAX モデムボードの□のコンネクタを、モジュラーケーブルで接続します。

#### 📖参照

オンラインサインアップについて『たのしもう! インターネット』の「PART3 BIGLOBE に入会する」

## 用意するもの

### ターミナルアダプタ



#### ターミナルアダプタのマニュアル

#### ターミナルアダプタのケーブル

##### ・シリアルコネクタにつなぐ場合

シリアルコネクタにつなぐ場合は、ケーブルのコネクタの形をよく確認してください。このパソコンのシリアルコネクタは「D-Sub9 ピン」です。ケーブルのパソコン側のコネクタが「D-Sub9 ピン」でない場合は、変換コネクタが必要になります。

##### ・USB コネクタにつなぐ場合

ターミナルアダプタの機種によって、USBコネクタには接続できない場合もあります。ご購入元、またはターミナルアダプタのマニュアルでご確認ください。

#### ターミナルアダプタに添付の CD-ROM またはフロッピーディスク

ターミナルアダプタによってはターミナルアダプタに添付のCD-ROMまたはフロッピーディスクが必要です(必要でない場合もあります)。

#### DSU(ターミナルアダプタに内蔵されていない場合)

あらかじめターミナルアダプタのマニュアルをご覧になり、接続以前の準備作業(例えば配送用の保護材を外したりという作業)をすませておいてください。

ターミナルアダプタのケーブルはターミナルアダプタと一緒に購入してください。

ケーブルや変換アダプタがターミナルアダプタに添付されていることもありますが、コネクタの形によっては、このパソコンで使えない場合もありますので、お店で確認するようにしてください。

# ターミナルアダプタを接続する

ここでは、外付けタイプのターミナルアダプタをパソコンにつなぐ方法を説明します。

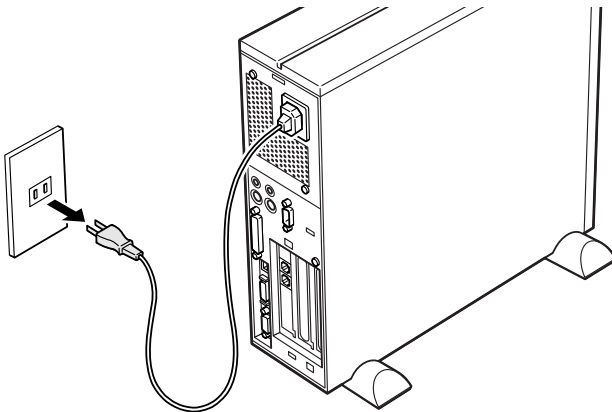
## シリアルコネクタに接続する場合

1


本体と周辺機器の電源を切る

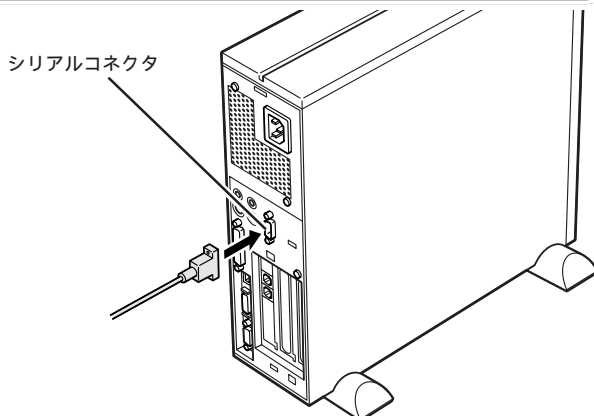
2

本体と周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜く



3

ターミナルアダプタのケーブル(パソコン側のプラグ)を、本体背面のシリアルコネクタ(  : 青緑色 ) に差し込む



コネクタの形状を確認して、差し込んでください。ケーブルのプラグの形状によっては、変換コネクタが必要になります。

ケーブルの接続方法については、ケーブルまたはターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

4

ターミナルアダプタのケーブル(もう一方のプラグ)をターミナルアダプタのコネクタに差し込む

5

ターミナルアダプタをISDN回線に接続する

DSUがターミナルアダプタに内蔵されていない場合、ターミナルアダプタをDSUにつないでから、DSUをISDN回線につないでください。

6

電話機やFAXを使う場合は、ターミナルアダプタとそれらを接続する

7

本体とターミナルアダプタ、周辺機器の電源ケーブルをコンセントに差し込み、電源を入れる

8

117(時報)などに電話をかけて、ISDN回線に正しく接続できたことを確認する

9

必要に応じて、ターミナルアダプタのドライバの組み込みやスイッチの設定を行う

ターミナルアダプタ側のコネクタには、抜けを防止するためのネジがついているものもあります。ターミナルアダプタのケーブルを接続するときにはこのネジでプラグを固定してください。

手順6でターミナルアダプタに電話やFAXを接続した場合は、117などに電話をかけて、正しく接続できたかどうか確認してください。電話がかからないときは、もう一度接続をやり直してください。

詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご確認ください。

## USB コネクタに接続する場合

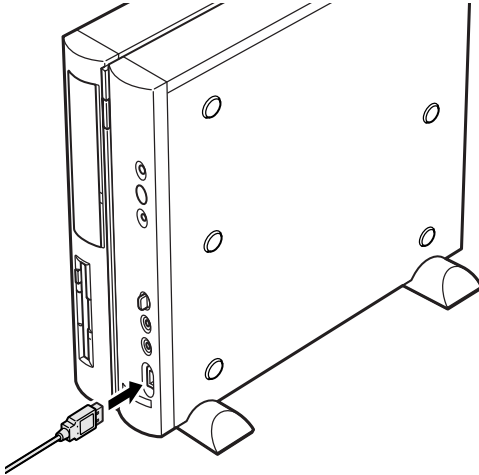
1

ターミナルアダプタに添付されているマニュアルをよく読んで、必要な準備を行う

USB対応ターミナルアダプタは、パソコンの電源が入っている状態で接続や取り外しができます。

2

ターミナルアダプタのUSBケーブル(パソコン側のプラグ)を、本体のUSBコネクタに差し込む



3

USBケーブルのもう一方のプラグをターミナルアダプタのコネクタに差し込む

4

ターミナルアダプタをISDN回線に接続する

DSUがターミナルアダプタに内蔵されていない場合、ターミナルアダプタをDSUにつないでから、DSUをISDN回線につないでください。

5

電話機やFAXを使う場合は、ターミナルアダプタとそれらを接続する

6

ターミナルアダプタの電源ケーブルをコンセントに差し込み、電源を入れる

7

117(時報)などに電話をかけて、ISDN回線に正しく接続できたことを確認する

8

必要に応じてドライバなどソフトの設定や、スイッチの設定を行う

USBコネクタは、本体の前面と背面に1つずつと、添付のキーボードに2つ用意されています。液晶ディスプレイセットモデルではセットの液晶ディスプレイにも2つコネクタがあります。空いているコネクタに接続してください。

📖 参照

USBケーブルの差し込み方 PART 2の「USBコネクタにプラグを差し込む」(p.29)

✔ チェック!!

USBキーボードを外した状態で他のUSB対応機器を接続しないでください。

ケーブルの接続方法については、ケーブルまたはターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

手順5でターミナルアダプタに電話やFAXを接続した場合は、117などに電話をかけて、正しく接続できたかどうか確認してください。電話がかからないときは、もう一度接続をやり直してください。

詳しくはターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。



## インターネットを利用する場合は

接続したターミナルアダプタを使ってインターネットを利用する場合は、アクセスポイントやモデムの設定をISDN回線用に変更する必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタに添付のマニュアルをご覧ください。

P A R T

# 5

## パワーアップのための基礎知識

メモリを増設したり、いろいろなボードを取り付けることで、より快適な使用環境を整えることができます。

ここでは、これらの機器を取り付けるときに必要な準備の作業について説明します。



# ドライバについて

周辺機器を使うときは、「ドライバ(デバイスドライバ)」という専用ソフトウェアが必要となる場合があります。ドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトです。

ドライバの組み込み方は機器によって異なります。ここでは、一般的な例を紹介します。

## プラグ & プレイ対応機器の場合

プラグ&プレイ対応機器の場合、機器を接続してパソコンの電源を入れると、自動的に新しいハードウェアが検出され、設定を行うかどうかのメッセージが表示されます。メッセージに従って操作するだけで設定が完了します。



プリンタなどのプラグ&プレイ対応デバイスドライバをインストールした場合は、インストール後、他の操作をせずに、ただちにWindowsを再起動してください。

## プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ&プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバの組み込みやリソースの設定は手動で行います。このパソコンや周辺機器に付属のマニュアル、Readmeファイルを読みながら、確実に設定を行ってください。

周辺機器を追加する場合には、必ずその機器のマニュアルを読み、操作方法やドライバの有無、設定方法などを確認するようにしてください。



### 用語

**プラグ & プレイ**  
周辺機器やPCIボードのドライバなどの設定を自動で行うためのシステムです。

プラグ & プレイ対応機器でも、機器によっては、ドライバがうまく組み込まれない場合があります。この場合には「PART11 うまく動かないときは」(p.103)

# 機器を取り付けるときのご注意

本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

## ⚠ 警告



感電注意

雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

## ⚠ 注意



感電注意

濡れた手で触らないでください。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。



感電注意

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。感電の原因となります。



感電注意

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグを、



コンセントから抜いてください。

パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。



けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。



高温注意

このパソコンの使用直後は、CPUやCPUの周辺に触れないでください。

CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。



発火注意

電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。



感電注意



発火注意

本体を解体した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。

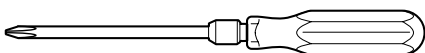
# 本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、いろいろなボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体上面をおおっているカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。

## 用意するもの

プラス（+）ドライバー

ネジ山に合った先端のものを使ってください



ネジの取り外し、取り付けの際に、本体内部にネジを落とす可能性があるため、なるべくドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

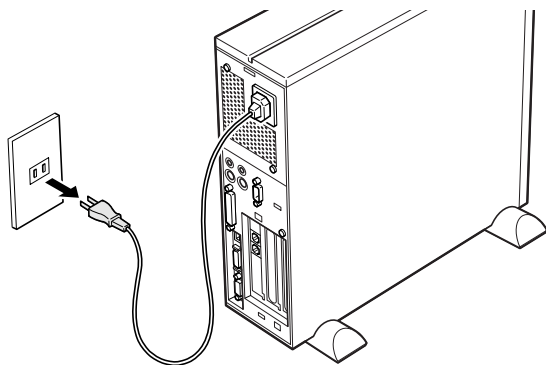
## ルーフカバーの外し方

1

本体と、スピーカなど周辺機器の電源を切る

2

本体の電源ケーブルをコンセントから抜く



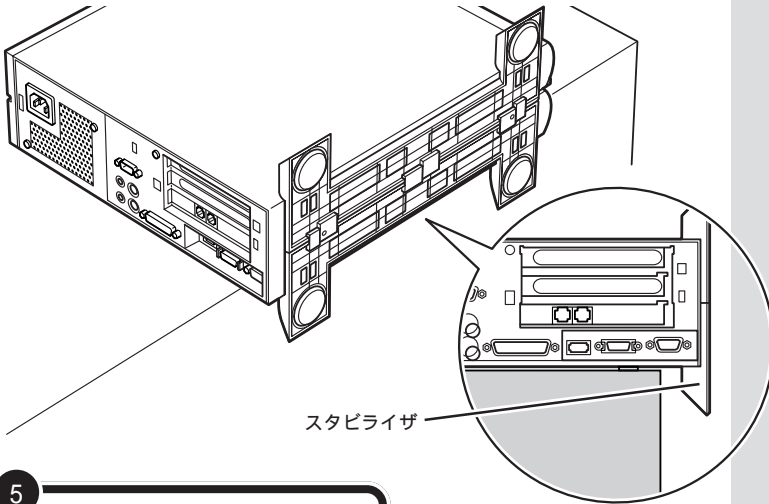
3

本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

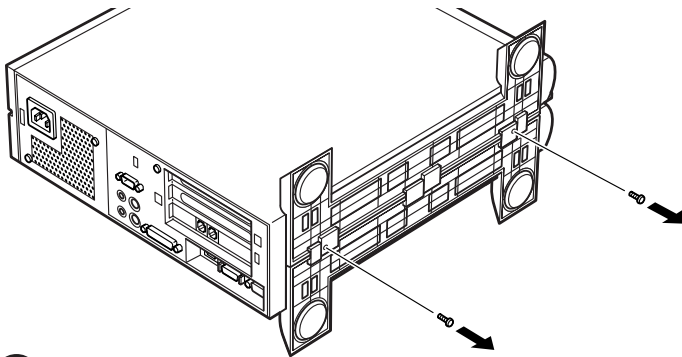
### ✓チェック!!

ここで取り外したケーブルは、メモリやボードなどの増設が終わり、ルーフカバーを取り付けたあとで、もとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

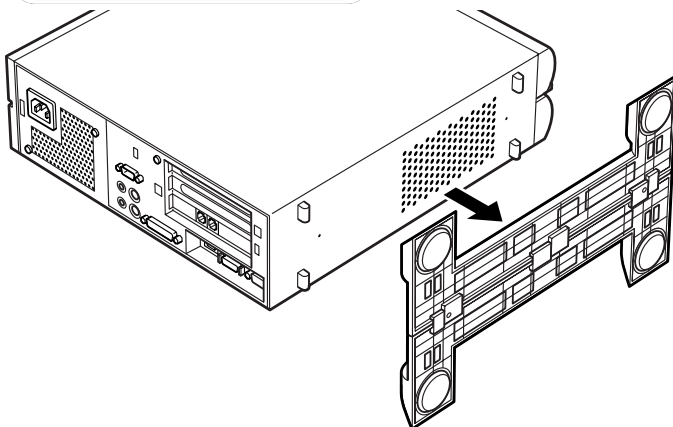
4 本体の左面(正面から見て左側)を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く



5 本体底面のネジを2本外す



6 スタビライザを取り外す



本体を横に倒すときは、机やテーブルなどを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

✓**チェック!!**

スタビライザを外したときに本体が衝撃を受けないように、ちょうどスタビライザの高さの分だけ、本体が机の端などからはみ出るように置いて安定させます。

✓**チェック!!**

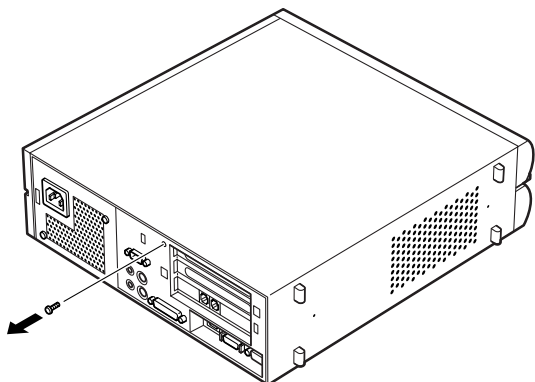
外したネジをなくさないように、気をつけてください。

✓**チェック!!**

スタビライザを落下させないように、スタビライザを手を持って取り外してください。

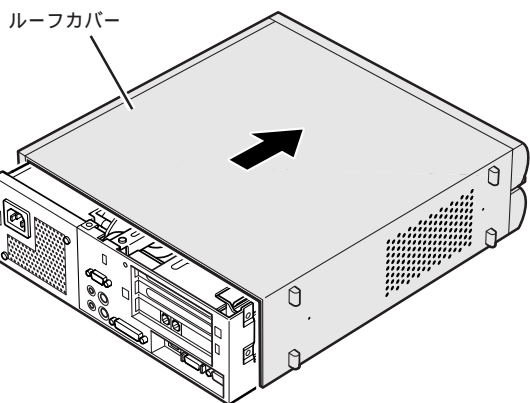
7

本体背面の1本のネジを外す



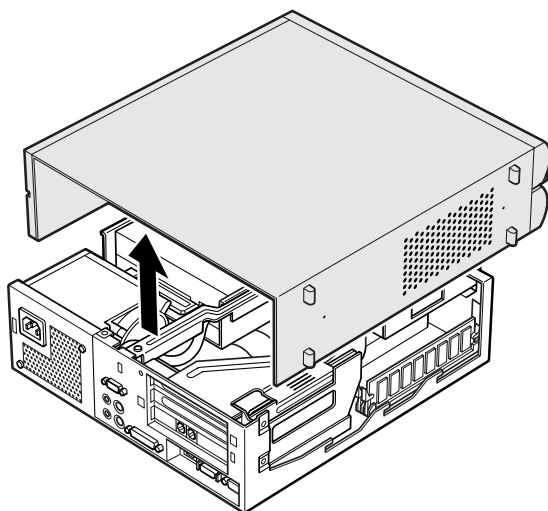
8

ルーフカバーを少し前にずらして



9

そのままゆっくり上方向に持ち上げて取り外す



**チェック!!**

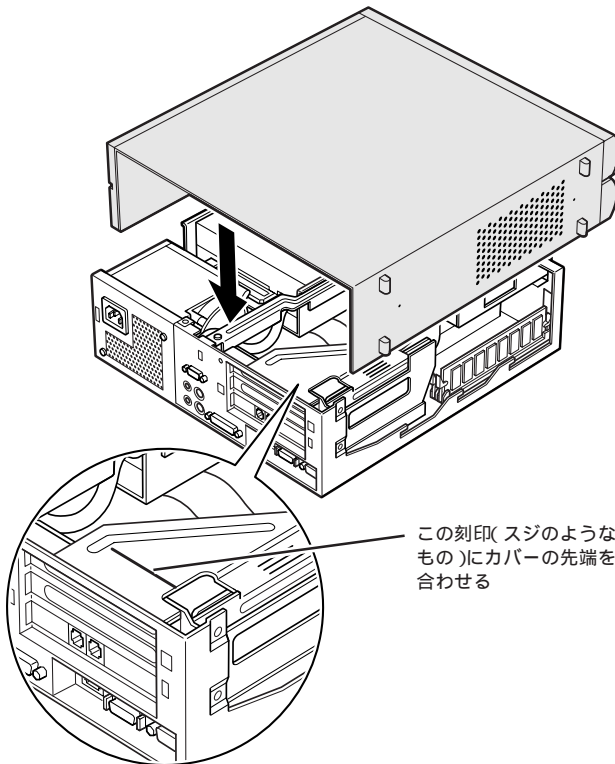
外したネジをなくさないように、気をつけてください。

## ルーフカバーの取り付け方

機器の取り付けが終わって、カバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

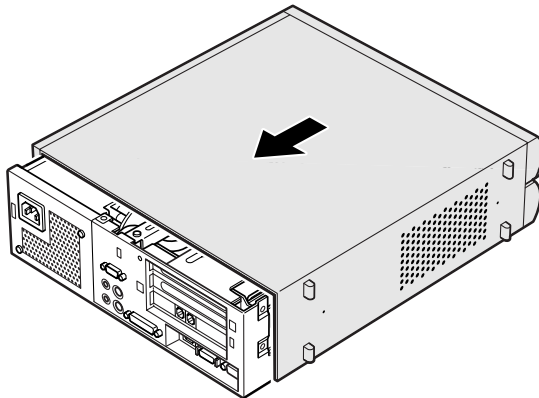
1

ルーフカバーの先端を本体背面の刻印に合わせるようにして下におろす



2

ルーフカバーを本体背面側にスライドする

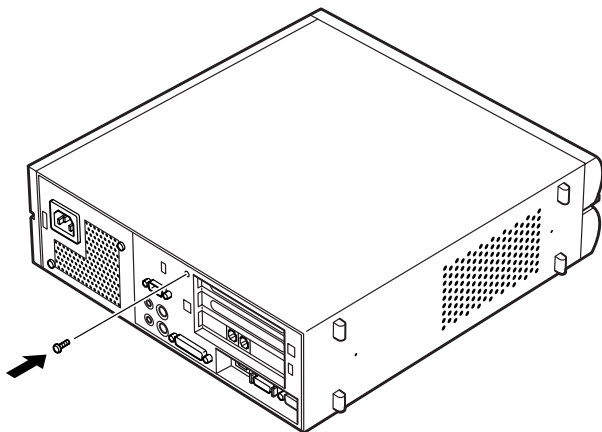


### ✓チェック!!

このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。

3

本体背面にネジ 1 本で固定する



4

スタビライザをもとどおりに取り付ける

5

「ルーフカバーの外し方」の手順 3 (p.56) で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

☞ 参照

スタビライザの取り付けについて  
『まずこれ! 接続と準備』PART2 の  
「パソコン本体にスタビライザを取り  
付ける」

☞ 参照

ケーブルの接続 『まずこれ! 接続と  
準備』の「PART2 パソコンを接続す  
る」

P A R T

# 6

## メモリを増やす

メモリは、パソコンで作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいのと同じように、メモリの量が多いとパソコンの「作業机」も広くなり処理がしやすくなります。一度に複数のアプリケーションを使っているときなどに、パソコンの処理速度が遅いと感じるようであれば、メモリを増やしてみましょう。



# メモリを増やすには

このパソコンでメモリを増やすときは、別売の「増設RAMサブボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。最大で256Mバイトまで増やすことができます。

## どのくらいメモリを増やすかを定める( p.63 )

最大256Mバイトまで増やせます。



## 必要なものを準備する

必要な増設RAMサブボード等を準備します。



## 増設RAMサブボードを 取り付ける( p.65 )

本体のルーフカバーを取り外し、用意した増設RAMサブボードを専用のコネクタに取り付けます。取り付けたらルーフカバーを元に戻します。



## メモリが増えたかどうか確認する( p.68 )

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

### **チェック!!**

モデルによって、使用できる増設RAMサブボードの種類が違うので、間違って購入しないように注意してください。

## このパソコンで使える増設RAMサブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMサブボード」というボードを使います。

このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設RAMサブボードを使うことができます。

モデルによって取り付けられる増設RAMサブボードが違うので、間違っ  
て購入しないように注意してください。

### VC40H/7、VE40H/7、VC40H/8、VE40H/8 の場合

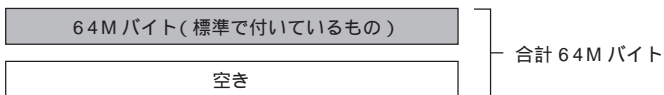
型名	メモリ容量
PK-UG-M001	32Mバイト
PK-UG-M002	64Mバイト
PK-UG-M003	128Mバイト

### VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、VE500J/7、 VE450J/7、VT450J/7、VC550J/8、VC500J/8、 VC450J/8、VE500J/8、VE450J/8、VT450J/8 の場合

型名	メモリ容量
PK-UG-M015	32Mバイト
PK-UG-M016	64Mバイト
PK-UG-M017	128Mバイト

## メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設RAMサブボード(DIMM)を差し込むコネクタ(スロット)が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのコネクタに64MバイトのRAMサブボードが差し込まれています。

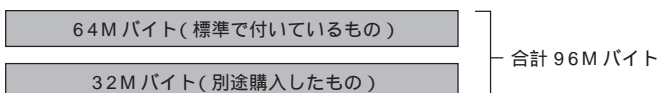


空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。

メモリは、最大で256Mバイト(128Mバイトの増設RAMサブボード×2枚)まで増やすことができます。

### ・例1：96Mバイトにする場合

空いているコネクタの1つに32Mバイトの増設RAMサブボードを追加すれば、標準で入っている64Mバイトのメモリと合わせて96Mバイト



DIMM(ディム)は、Dual Inline Memory Moduleの頭文字をとったものです。

### ✓チェック!!

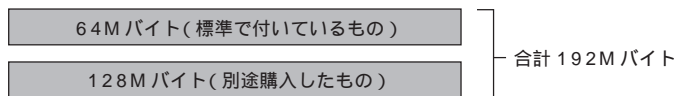
このパソコンでは、「SIMM(シム)」と呼ばれるタイプの増設RAMサブボードは使用できません。間違っ  
て購入しないように注意してください。

増設RAMサブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAMサブボード」といいます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

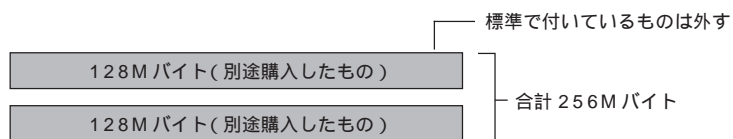
### ・例 2 : 192M バイトにする場合

128M バイトの増設 RAM サブボードを 1 枚追加します。



### ・例 3 : 256M バイト(最大)にする場合

標準で付いている RAM サブボードを外し、128M バイトの増設 RAM サブボードを 2 枚追加します。



### ✓チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した標準の RAM サブボードは大切に保管してください。

## 増設 RAM サブボード の取り付けと取り外し

ここでは、増設RAMサブボード(RAMサブボード)の  
取り付け方と、取り外し方を説明します。

### ⚠ 注意



増設RAMサブボードは以下の手順に従って正しく取  
り付けてください。

正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因と  
なります。

### ボードを取り扱うときに気をつけること

増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、静電  
気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触  
れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金  
属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除  
くようにしてください。

### 増設 RAM サブボードの取り付け方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

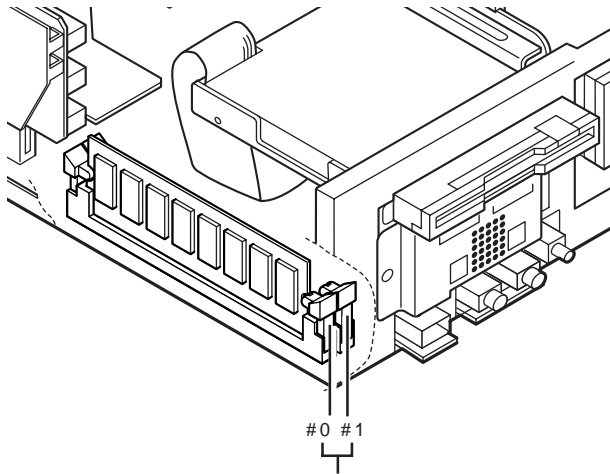
### ✔ チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開  
けて作業します。作業を始める前に、  
必ずPART5の「機器を取り付ける  
ときのご注意」(p.55)をご覧にな  
り、作業上の注意事項を確認してく  
ださい。

### 📖 参照

ルーフカバーの外し方 PART5の  
「本体の開け方と閉め方」(p.56)

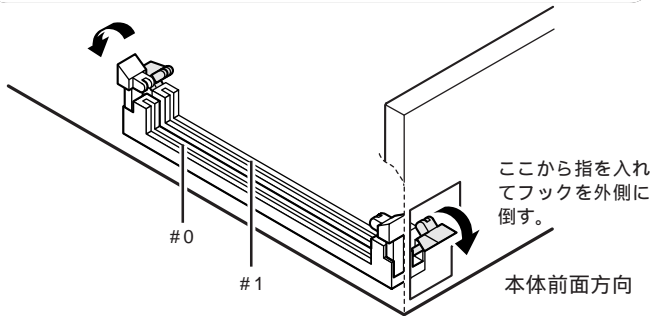
ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。



ここに増設RAMサブボード用コネクタがあります。  
本体外側に近い方から、#0、#1と呼びます。

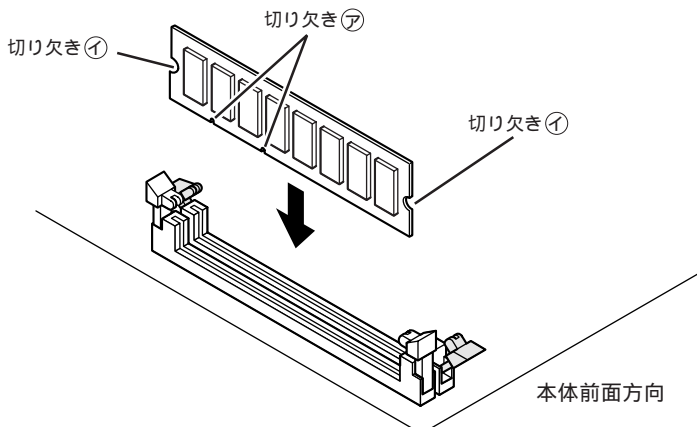
2

ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く



3

切り欠き㊦の方向に注意して、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む

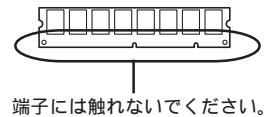


**✓チェック!!**

お使いの機種によって、本体内部の形状が異なります。

左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。

増設RAMサブボードは、両手で持ってください。



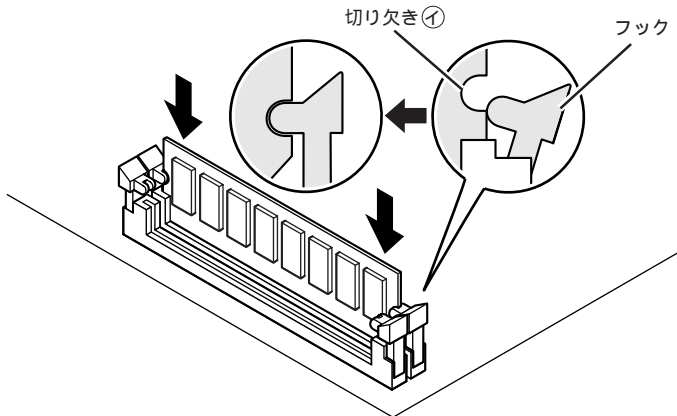
**✓チェック!!**

- ・増設RAMサブボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

コネクタの溝とボードの切り欠き㊦の位置を確認してから差し込んでください。

4

そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き①に引っかかるまで、強く押し込む



5

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

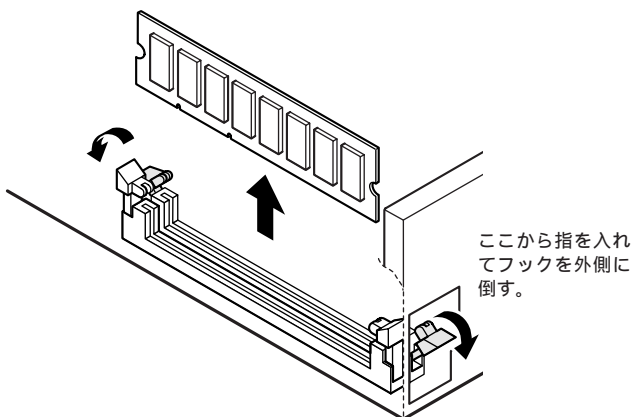
## RAM サブボードの取り外し方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりと、ボードを垂直に引き抜く



3

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

増設 RAM サブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順 3 で差し込んだときに切り欠き①をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。

### ✓チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

### 📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART5の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。#0のRAMサブボードも同じ方法で取り外せます。

### 📖参照

ルーフカバーの外し方 PART5の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

### ✓チェック!!

フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。

### ✓チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、大切に保管してください。

### 📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART5の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

# 増やしたメモリを確認する

パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

## 確認のしかた

1

パソコンの電源を入れる

2

「スタート」をクリックする

3

「プログラム」をクリックする

4

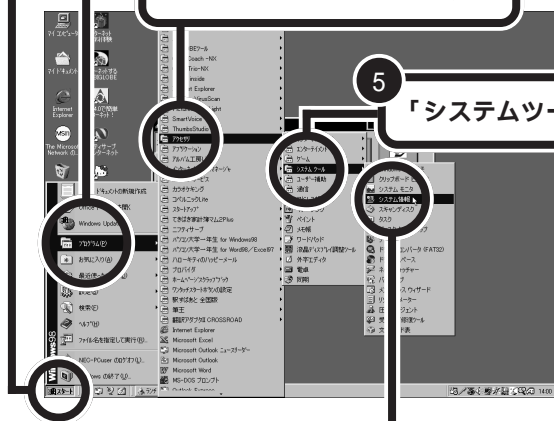
「アクセサリ」をクリックする

5

「システムツール」をクリックする

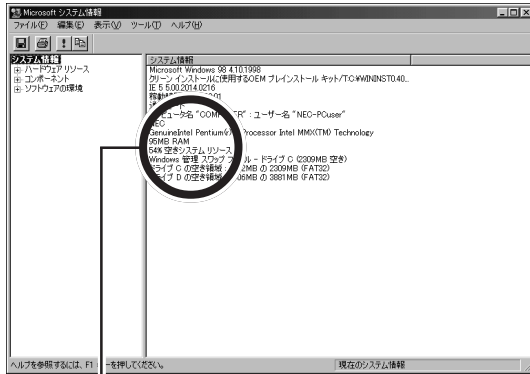
6

「システム情報」をクリックする



7

## メモリ容量を確認する



ここに表示されたメモリ容量を確認する  
(ここでは、増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量 + 増設した容量)が表示されます)

## メモリが増えていなかったら

表示されたメモリが大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

メモリが正しく取り付けられているか？

このパソコンで使える増設 RAM サブボードを取り付けているか？

左の画面は、32 M バイトの増設 RAM サブボードを取り付けて合計 96 M バイトにしたときの例です。

**チェック!!**

ここでは、実際に増設したメモリ容量より約 1 M バイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。





P A R T

# 7

## PCI ボードを使う

このパソコンには、ハードディスクの増設に必要な SCSI インターフェイスボードをはじめ、いろいろな種類の PCI ボードを取り付けることができます。

# PCIボードについて

ここでは、このパソコンに取り付けることのできるPCIボードについて簡単に説明します。

## いろいろなPCIボード

PCIボードには、主に次のようなものがあります。

### SCSI インターフェイスボード

このパソコンにハードディスクなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

### LAN(ネットワーク)ボード

このパソコンをLANに接続するためのボードです。

### 3D アクセラレータボード

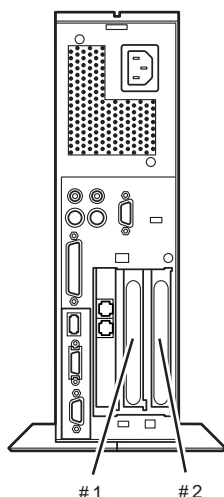
3DCG(立体的なコンピュータグラフィックス)の表示を高速にするボードです。

PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。

これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

## PCIスロット

このパソコンでは、下の図のように、2つのPCIスロットを使用できます。それぞれのスロットにハーフサイズのPCIボードを1枚ずつ取り付けることができます。



### 参照

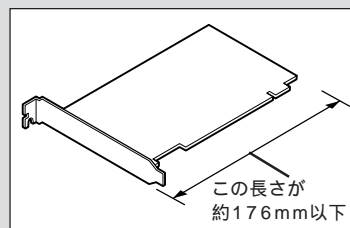
SCSI インターフェイス対応機器  
「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.77)

### チェック!!

セットの15インチ液晶ディスプレイは、デジタルRGBコネクタ(DFP20ピン)を装備していない3Dアクセラレータボードには接続できません。別途アナログRGBコネクタを持つディスプレイが必要です。

### チェック!!

- ・このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。
  - ・ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられない場合があります。
- ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。



### チェック!!

TVモデルでは、スロット#1に地上波TV&データ放送ボードが、標準で取り付けられています。

# PCIボードを取り付ける

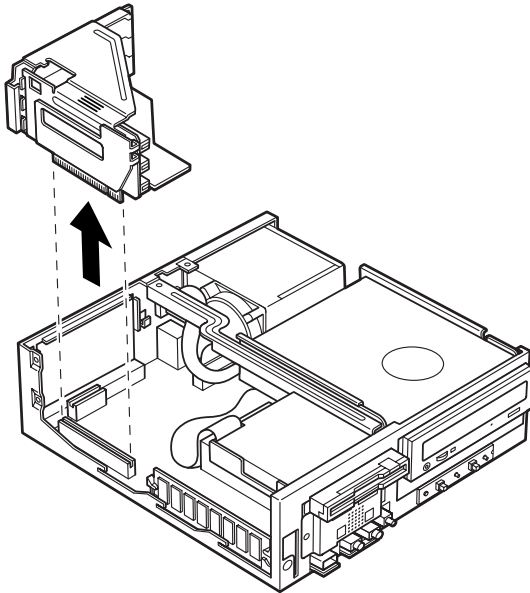
ここでは、このパソコンにPCIボードを取り付ける方法を説明します。

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

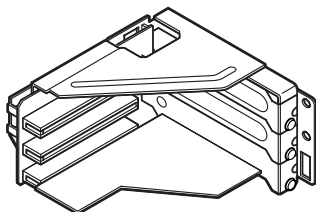
2

PCIユニットを上へ引き抜くようにして取り外す



3

PCIユニットを下の図のような向きにする



## ✓チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ずPART5の「機器を取り付けるときのご注意」(p.55)をご覧ください。作業上の注意事項を確認してください。

PCIボードを取り付けるときには、必ずPCIボードに付属のマニュアルもご覧ください。

## 📖参照

ルーフカバーの外し方 PART5の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

## ✓チェック!!

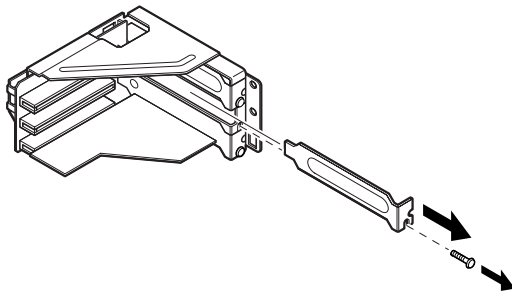
- ・ディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
- ・PCIユニットの取り付け、取り外しをするときは、PCIユニットやパソコン本体内部の部品、ケーブルなどを破損しないよう、慎重に行ってください。

## ✓チェック!!

TVモデルでは、下側のスロット(#1)に地上波TV&データ放送ボードが、標準で取り付けられています。

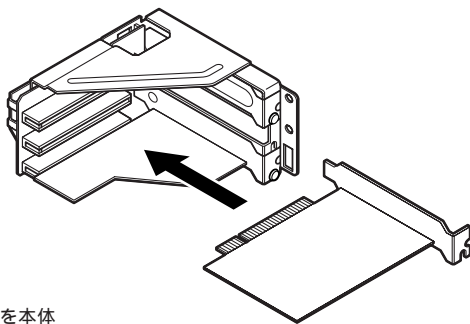
4

スロットカバーをとめているネジ1本を外し、  
スロットカバーを取り外す

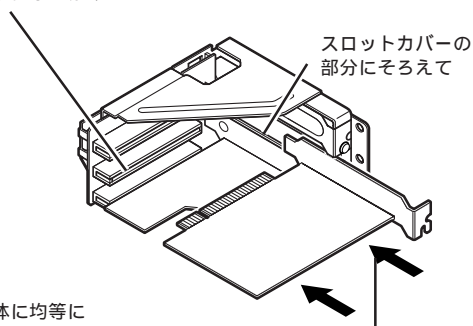


5

PCIボードを、両手で支えながらスロットに  
慎重に差し込む



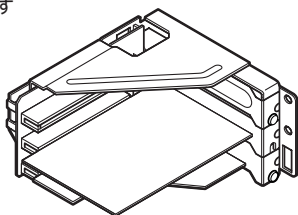
PCIボードのツメを本体  
のスロットにひっかけて



スロットカバーの  
部分にそろえて

ボード全体に均等に  
力を加えて強く押し  
込むようにすると

うまく差し込めます



### ✓チェック!!

- ・スロットカバーは、ここで取り付け  
たボードを取り外さないかぎり、不  
要となりますが、なくさないように  
大切に保管してください。
- ・PCIボードを持つときは、ボード上  
の部品やツメ(端子)部分に触れない  
ように注意してください。
- ・外したネジは、PCIボードを固定す  
るときに使います。なくさないよう  
に気をつけてください。

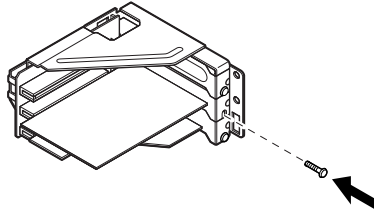
PCIボードをしっかり差し込むには、  
強い力が必要です。ボードのツメの  
先端がPCIユニットのスロットにき  
ちんと合っていれば壊れることはあ  
りませんので、強く押し込むように  
してください。

### ✓チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故  
障の原因になります。

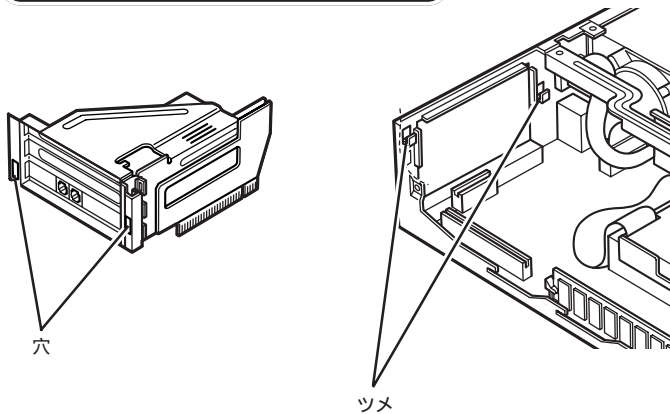
6

手順 4 で外したネジ 1 本を使って、PCI ボードを固定する

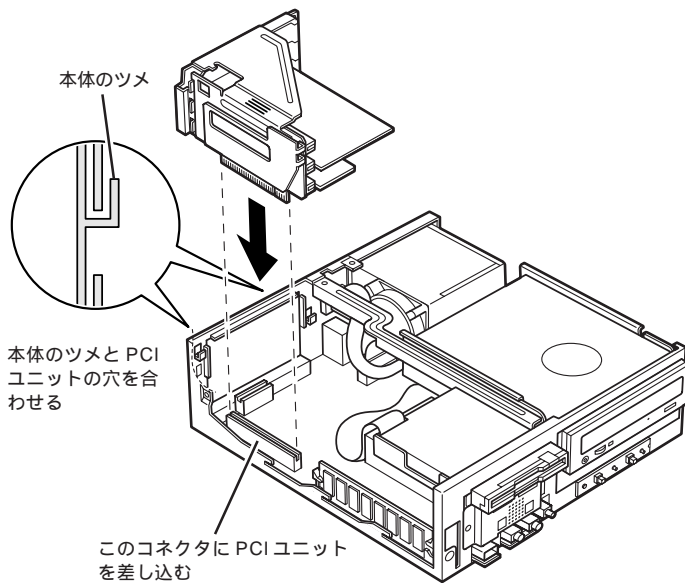


7

PCI ユニットを本体に取り付ける



PCIユニットの穴を本体背面内側にあるツメに合わせてから本体のコネクタに差し込みます。



PCIユニットをしっかり差し込むには、強い力が必要です。PCIユニットのツメの先端が本体のコネクタにきちんと、合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。

8

### 正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。詳しくは、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

また、PCIボードの使い方についても、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

 参照

ルーフカバーの取り付け方 PART5  
の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

P A R T

# 8

## SCSI インターフェイス対応機器を使う

このパソコンで SCSI (スカジー) インターフェイスに対応した周辺機器を使うには、SCSI インターフェイスボードが必要です。ここでは、SCSI の基礎知識、SCSI インターフェイスボードの取り付け方、SCSI インターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。



# SCSI 機器を使うには

このパソコンで SCSI 機器を使うには、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードを使います。

SCSI 機器の接続は、次のような手順で行います。

## 必要なものを用意する( p.81 )

SCSI 機器のほかに、PCI スロット用の SCSI インターフェイスボードや SCSI ケーブル、ターミネータが必要です。



## 本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける( p.82 )

本体のカバーを開けて、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けます。



## SCSI 機器をボードの SCSI コネクタに接続する( p.83 )

各機器の SCSI ID を設定したら、ボードの SCSI コネクタに、SCSI ケーブルを使って接続します。



## SCSI 機器の電源を入れる



## パソコン本体の電源を入れる



参照

SCSI ID このPARTの「SCSI ID について」( p.80 )

# SCSI インターフェイスについて

ここでは、SCSI インターフェイスを使って周辺機器を接続するとき、覚えておいて欲しいことを説明します。

## 接続できる SCSI 機器

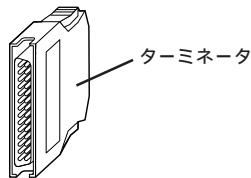
SCSI インターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

- ・ハードディスク
- ・CD-ROM ユニット
- ・CD-R ドライブ
- ・MO ディスク(光磁気ディスク)ドライブ
- ・PD ユニット
- ・ZIP ドライブ
- ・ミニカートリッジテープユニット
- ・カセット磁気テープユニット
- ・イメージスキャナ など

## SCSI に関する基礎知識

### SCSI 機器の接続方法について

SCSI 機器は、「デジーチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数(最大7台)の機器をつなぐことができます。また、その終端となる SCSI 機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。



SCSI 機器が 1 台の場合



SCSI 機器が 3 台の場合



ターミネータは、「終端BOX」とも呼ばれます。

SCSI 機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用する SCSI 機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。

## SCSI ID について

SCSI機器は、SCSI IDという0～7の認識番号で区別します。このSCSI IDが重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。

通常、SCSIインターフェイスボード自身が7番を使用します。一般的に、外付けのSCSI機器のSCSI IDは0～6番を使います。また、通常、0番はSCSIハードディスクで使います(その他の機器でも0番を使えないわけではありません)。

## SCSI 機器接続ケーブルの長さについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m以内になるようにしてください。

## SCSI インターフェイスの種類

現在一般に使われているSCSIインターフェイスの規格には、次の4種類があります。

- ・SCSI インターフェイス
- ・SCSI-2 インターフェイス
- ・Ultra SCSI インターフェイス
- ・Ultra Wide SCSI インターフェイス

SCSI-2 インターフェイスは、SCSI インターフェイスのデータ転送速度を2倍にしたものです。また、Ultra SCSI インターフェイスは、SCSI インターフェイスのデータ転送速度を4倍に、Ultra Wide SCSI インターフェイスは、SCSI インターフェイスのデータ転送速度を8倍にしたものです。

それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスで、SCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2インターフェイスで、SCSIインターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

### チェック!!

Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m以内になるようにしてください。ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。

## 用意するもの

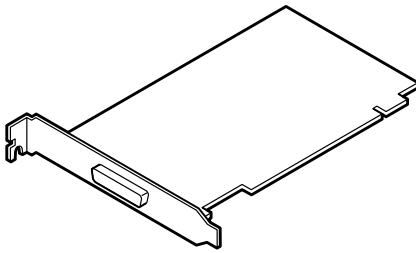
市販の SCSI インターフェイスボードや SCSI 機器接続ケーブルなどが必要になります。あらかじめ用意しておきましょう。

### 接続する SCSI 機器とそのマニュアル

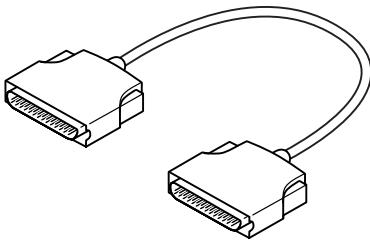
#### SCSI インターフェイスボード

PCI スロットに対応した SCSI インターフェイスボードが 1 つ必要です。このパソコンで使用できる SCSI インターフェイスボードには、次のようなものがあります。

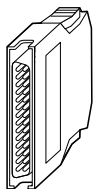
- ・Ultra SCSI インターフェイスボード (Wide 対応) (PK-UG-X007)
- ・Ultra SCSI インターフェイスボード (PK-UG-X014)



#### SCSI 機器接続ケーブル



#### ターミネータ(終端 BOX)



このパソコンで使用できるのは、「ハーフサイズ」の SCSI インターフェイスボード(長さが約 176mm 以下のもの)です。

 参照

ハーフサイズ PART7 の「PCI スロット」(p.72)

### チェック!!

SCSI 機器接続ケーブルは、プラグ部分の形状やケーブルの長さ、対応している SCSI インターフェイス規格の違いによって、いくつかの種類があります。ボードや機器に添付のマニュアルを参照して、適切なケーブルを用意してください。

 参照

SCSI インターフェイスの種類 前ページの「SCSI インターフェイスの種類」

ターミネータ(終端)機能を内蔵しているタイプの SCSI 機器を接続するときは、不要です。詳しくは、SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

# SCSI インターフェイスボードを取り付ける

SCSI インターフェイスボードは、パソコン本体の PCI スロットに取り付けます。取り付け方は、一般の PCI ボードと同様です。

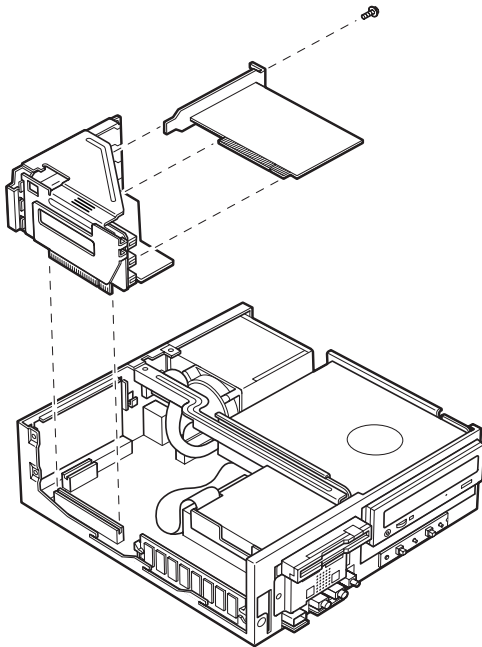
1

正しい手順で本体のルーフカバーと PCI ユニットを外す

2

正しい手順で、SCSI インターフェイスボードを PCI スロットに取り付ける

PCI スロットの スロットカバー を取り外してから、SCSI インターフェイスボードをスロットに慎重に差し込み、ネジで固定します。



3

正しい手順で PCI ユニットを取り付け、本体のルーフカバーを取り付ける

## ✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ず PART5 の「機器を取り付けるときのご注意」(p.55) をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

## ✓チェック!!

ディスプレイケーブルなど本体背面に接続されているケーブルは、本体からすべて取り外してください。

## 📖参照

ルーフカバーの外し方 PART5 の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

机やテーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

## 📖参照

ボードの取り付け方について詳しくは「PART7 PCI ボードを使う」(p.71)

## ✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードは、しっかり差し込んでください。故障の原因になります。

SCSI インターフェイスボードを取り付けるときには、必ず SCSI インターフェイスボードに添付のマニュアルもご覧ください。

## 📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART5 の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

# SCSI 機器を接続する

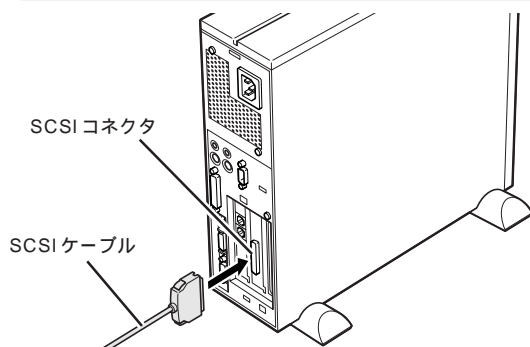
SCSI 機器は次のように接続します。

1

SCSI 機器の SCSI ID を設定する

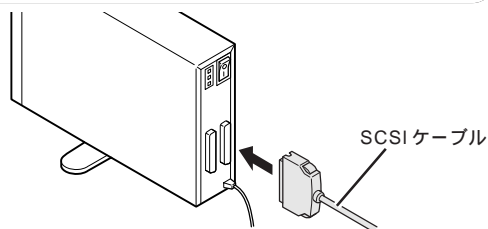
2

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI ケーブルのプラグを差し込む



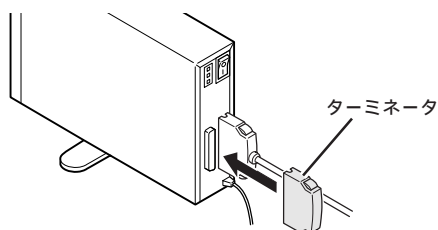
3

SCSI 機器の SCSI コネクタに、SCSI ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



4

SCSI 機器の残りの SCSI コネクタに、ターミネータを差し込む



SCSI ID の設定方法については、各 SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## ✓チェック!!

- ・ 接続はパソコン本体と SCSI 機器の電源を切ってから行ってください。
- ・ SCSI ケーブルのコネクタは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでコネクタが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

SCSI 機器の SCSI コネクタは通常 2 つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。

複数の SCSI 機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう 1 本の SCSI ケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法で SCSI 機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。

# SCSI 機器がうまく動かないときは

取り付けた SCSI 機器が認識されないときには、次の点をチェックしてみてください。

## ケーブルがきちんと接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンを移動したときなど、ケーブルが外れかかっていたりすることがよくあります。SCSI インターフェイスボードと各機器、または各機器どうしを接続しているケーブルやターミネータが、きちんと接続されているかどうか、確認してください。

## ケーブルが長すぎませんか？

また、SCSI インターフェイスや機器に対応したケーブルを使っていますか？

SCSI-2 のデジチェーンには、ケーブルの総延長が 3m 以内という制限があります。短いケーブルなどを使って、制限を超えない総延長にしてください。また、SCSI ケーブルは取り付けの SCSI 機器のインターフェイスによって使用できるケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認して適したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

## SCSI インターフェイスボードは認識されていますか？

SCSI インターフェイスボードのリソースの設定、ドライバの組み込みが正しくできていない場合、SCSI インターフェイスボードが認識されません。「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で確認してください。正しく認識されていない場合には、SCSI インターフェイスボードのところに、赤い「×」や黄色い「！」のマークが表示されます。

## SCSI ID の設定は正しくできていますか？

複数の機器で同じ番号を設定していたりすると、各機器を認識できません。各機器の SCSI ID の設定を確認してください。

## 電源を入れる順序は正しいですか？

SCSI インターフェイス対応機器を取り付けたときは、本体の電源を入れる前に SCSI 機器の電源を入れておかないと、本体の起動時に認識されません。電源を入れる順序をまちがっていた場合は、一度、本体の電源を切ってから SCSI 機器の電源を入れ、その後でもう一度本体の電源を入れ直してください。

### 参照

使用できるケーブルについて  
SCSI インターフェイスボードのマニュアル、SCSI インターフェイス対応機器のマニュアル

### 参照

正しく認識されない場合の対処  
PART 11 の「リソースに関する問題」  
(p.110)

CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」の場合は、デバイスマネージャでの設定はできません。「アドバンスモード」に変更してください。

### 参照

CyberTrio-NX のモード変更  
PART 13 の「Windows 98 の利用環境の変更 < CyberTrio-NX >」

## 9

## ハードディスクを増設する

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、だんだんハードディスクがいっぱいになってきます。もっとたくさんの容量が必要な場合はハードディスクを増設します。このパソコンでは、ハードディスクは外部機器として接続します。



# ハードディスクを増設するには

このパソコンでハードディスクを増設するには、SCSI インターフェイスボードを使って、本体の外側に設置するタイプのハードディスクを接続します。

ハードディスクの増設は、次のような手順で行います。

## 必要なものを用意する( p.87 )

ハードディスクに添付のマニュアルを読み、スイッチなどの設定が必要ならば設定しておきます。パソコン本体の電源は切っておきます。また、SCSI インターフェイスボードやSCSI 機器接続ケーブルなどが必要です。

## 本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける( p.88 )

本体の PCI スロットに、SCSI インターフェイスボードを取り付け、使用可能な状態にします。

## 増設ハードディスクをボードの SCSI コネクタに接続する( p.88 )

取り付けた SCSI インターフェイスボードのコネクタに、SCSI 機器接続ケーブルを使ってハードディスクを接続します。

## 増設ハードディスクの電源を入れる

## パソコン本体の電源を入れる

## ハードディスクをフォーマットする( p.90 )

パソコンの電源を入れて、増設したハードディスクをフォーマットします。

### ☑️ チェック!!

このパソコンでは、本体に内蔵するタイプのハードディスクは増設できません。

### 📖 参照

SCSI インターフェイスボードの取り付け 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.77)

### 📖 参照

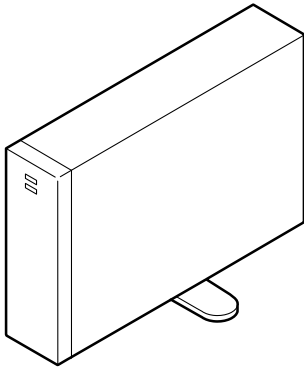
フォーマット このPARTの「ハードディスクをフォーマットする」(p.90)

## 用意するもの

作業を始める前に、あらかじめ、市販の外付け用ハードディスクやSCSIインターフェイスボードなどを購入して、用意しておきます。

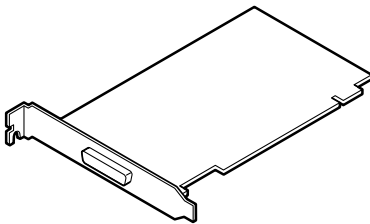
### ハードディスク

市販の「SCSIインターフェイス対応」の外付け用ハードディスクを用意します。容量や性能、大きさ、形などの違いにより、さまざまな種類のハードディスクがありますので、用途に合わせて、適切なものを選びましょう。



### SCSIインターフェイスボードなど

ハードディスクをパソコン本体に接続するために、市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブル、ターミネータ(終端BOX)などが必要です。PART8の説明や機器に添付のマニュアルをご覧になり、あらかじめ必要なものを用意してください。



### ハードディスクやボードのマニュアル

ハードディスクとSCSIインターフェイスボードの組み合わせによっては、うまく接続できなかったり、専用の変換コネクタが必要になったりするので、購入する前にお店で確認してください。

#### 参照

SCSIインターフェイスボード  
「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.77)

# 本体にハードディスクを接続する

先にパソコン本体に SCSI インターフェイスボードを取り付け、ボードの SCSI コネクタにハードディスクを接続します。

1

本体とハードディスクの電源が切れていることを確認する

2

正しい手順で、本体に SCSI インターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う

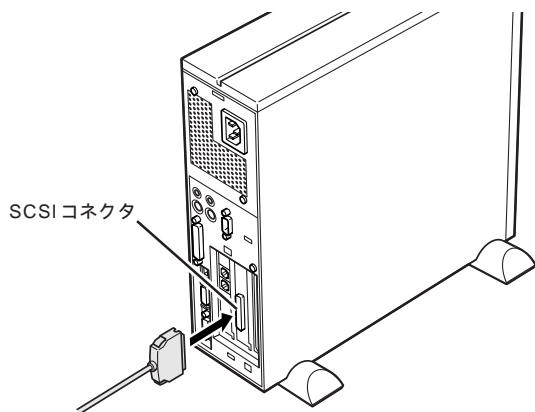
3

接続しようとするハードディスクの SCSI ID を確認し、必要ならば設定を変更する

0 ~ 6 のいずれかの番号に設定します。他の SCSI 機器も接続している場合には、それらの機器の番号と重複しないように気をつけてください。

4

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI 機器接続ケーブルのプラグを差し込む



外付け用のハードディスクを増設するときには、必ずハードディスクに付属のマニュアル、SCSI インターフェイスボードに付属のマニュアルもご覧ください。

## ✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ず PART5 の「機器を取り付けるときのご注意」(p.55) をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

## 📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付けと設定 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.77)

SCSI 機器は、SCSI ID という 0 ~ 7 の番号で装置を識別します。ハードディスクにはこの番号を設定するボタンが付いているので、それを使って設定してください。

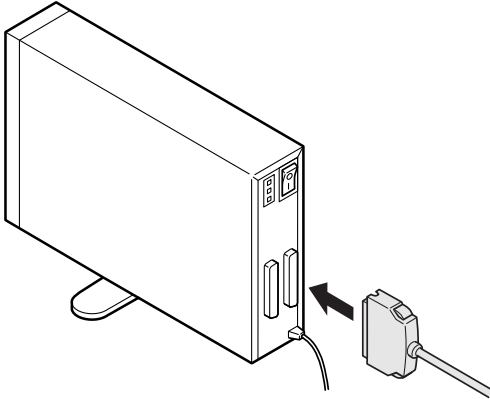
## ✓チェック!!

SCSI 機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。コネクタの向きをよく確認し、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

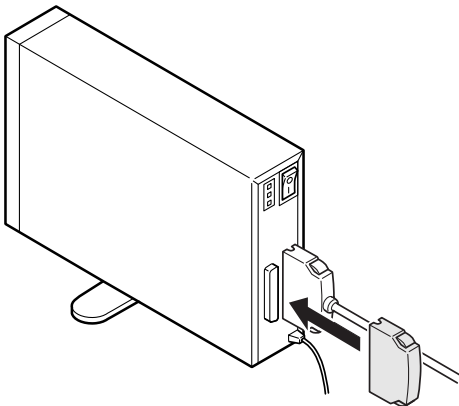
5

増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



6

増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む



7

必要に応じて、フォーマットの作業に進む

ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

**✓チェック!!**

ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

**📖参照**

ターミネータについては PART8 の「SCSIに関する基礎知識」(p.79)

**✓チェック!!**

ターミネータを取り付けないと、ハードディスクが正しく認識されない場合があります。

SCSIハードディスクのフォーマットについては、ハードディスクに付属のマニュアルもご覧ください。

# ハードディスクをフォーマットする

一般的に、ハードディスクは取り付けただけでは使えません。情報を保存するためにハードディスクの区画整理をして、番地をつける「フォーマット作業」が必要です。

ハードディスクのフォーマットは次の手順で行います。

## 領域作成の準備をする( p.92 )

以前使っていたことのあるハードディスクを接続した場合は、あらかじめ、そのハードディスク内のすべての領域をいったん削除します。



## 領域を作成する( p.94 )

パソコンで使用するハードディスクの領域を設定します。ひとつのハードディスクをいくつかの領域(パーティション)に分けて別のドライブのように扱うことができます。



## 増設したハードディスクを確認する( p.96 )



## ドライブをフォーマットする( p.97 )

データをハードディスクに保存できるように区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。



## スキャンディスク( p.98 )

ハードディスクに壊れている部分がないかどうか、問題なく使えるかどうかをチェックします。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

フォーマットには時間がかかります。そのため、フォーマット済みの状態で販売しているハードディスクもあります。この場合にはフォーマットの作業は必要ありません。ハードディスクのマニュアルで確認してください。

### ✔チェック!!

- ・すでに使用されているハードディスクをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。必要なデータは、フロッピーディスク、MOディスクなどにバックアップしておいてください。
- ・すでにPC-9800シリーズ用にフォーマットされているときでも、もう一度領域を作成しフォーマットする必要があります。
- ・ハードディスクのボリュームラベルが全角文字または半角カタカナで入力されているときは、領域の削除ができません。「マイコンピュータ」でハードディスクドライブのアイコンを右クリックして、「プロパティ」で半角英数字を入力し直しかボリュームラベルを削除してください。
- ・本体内蔵ハードディスク内に論理MS-DOSドライブを持たない拡張MS-DOS領域があるときは、ハードディスクを増設する前に削除してください。

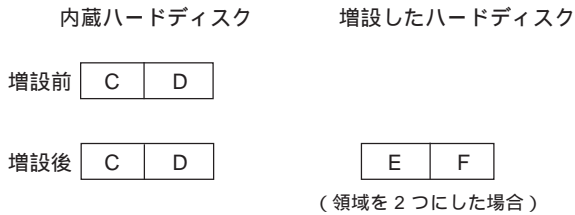
### 📖参照

スキャンディスクについて  
PART13の「ハードディスクの検査・修復 スキャンディスク」

## 増設したドライブのドライブ名について

ハードディスクを増設したときに、通常(基本 MS-DOS 領域を作成しない場合)は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクの最後のドライブ名に続けてドライブ名が割りあてられます。

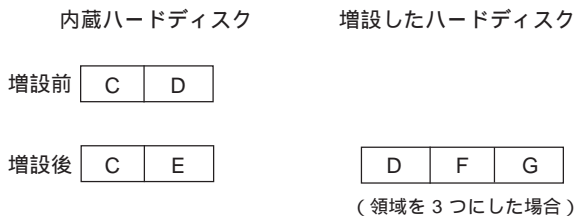
基本 MS-DOS 領域を作成しない場合



ハードディスクの領域を確保するときに基本MS-DOS領域を作成した場合は、複数の領域を作成したドライブのドライブ名が変更されます。以下の順序でドライブ名が割り当てられますので、ハードディスクを増設した後は、ハードディスクのドライブ名を一度確認してください。

内蔵ハードディスクの先頭ドライブ  
増設したハードディスクの先頭ドライブ  
内蔵ハードディスクの残りのドライブ  
増設したハードディスクの残りのドライブ

基本 MS-DOS 領域を作成する場合



## 領域作成の準備をする

1 ハードディスクの電源を入れる

2 パソコンの電源を入れる

3 「スタート」をクリックし、「プログラム」にポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックする

MS-DOSプロンプトの画面が表示される

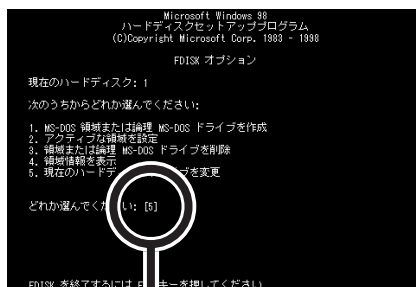


4 (8.4Gバイト以下のハードディスクの場合)  
キーボードからFDISK /xと入力し、【Enter】を押す  
(8.4Gバイトを超えるハードディスクの場合)  
キーボードからFDISKと入力し、【Enter】を押す

「大容量ディスクのサポートを可能にしますか(Y/N)」と表示される。

5 キーボードからYを入力し、【Enter】を押す

「FDISK オプション」の画面が表示される



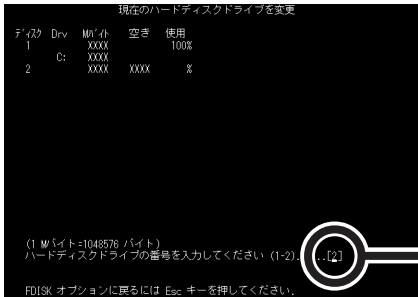
6 キーボードから5を入力し、【Enter】を押す

### ✓チェック!!

手順4でのハードディスクの容量は1Gバイト=1,000,000,000バイト換算です。

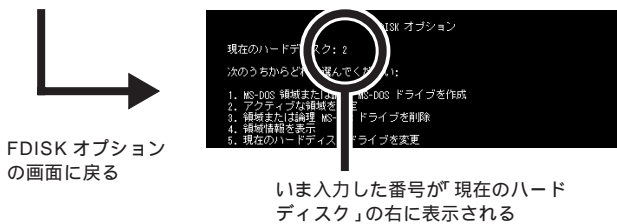
Yを選択すると、FAT32でフォーマットされます(ただし、512Mバイトより小さい領域を作成すると、ここでYを選択していてもFAT16でフォーマットされます)。Nを選択すると、FAT16でフォーマットされます(ただし、2,047Mバイト以下の領域しか作成できません)。なお、2,048Mバイト以上の領域は、FAT32でないと作成できません。

「現在のハードディスクドライブを変更」の画面が表示される。



7  
増設したハードディスクの番号(通常は「2」)を入力し、【Enter】を押す

画面には接続されているハードディスクが一覧表示されます。この中から増設したハードディスクを探して、その番号を入力します。通常は「2」と入力します。



FDISK オプションの画面に戻る

いま入力した番号が「現在のハードディスク」の右に表示される

買って来たばかりのハードディスクを接続して使うときは、以下の手順は不要です。このまま、次ページの「領域を作成する」に進んでください。以前使っていたハードディスクを接続した場合で、ハードディスクに領域が設定されているときは、手順8からの記述にしたがって領域を削除してください。

8  
キーボードから 3 を入力し、【Enter】を押す

領域削除の画面が表示される。

9  
キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「削除した拡張 MS-DOS 領域のデータはなくなります。続けますか(Y/N)」と表示される。

10  
キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を削除しました。」と表示される。

11  
キーボードの【Esc】を押す

FDISK オプション画面が表示される。

### ✓チェック!!

「1」は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクです。ドライブをまちがえないように、十分注意してください。

### ✓チェック!!

すでに使用しているハードディスクの領域を削除すると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

論理ドライブが設定されているときは、手順9の前に3を入力し、拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブをすべて削除してください。また、基本MS-DOS領域が設定されていれば、手順11のあとにそれも削除してください。

### ✓チェック!!

FDISKを終了しないで次の手順に進んでください。

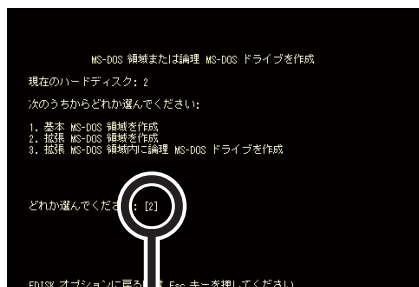


## 領域を作成する

1

キーボードから 1 を入力し、【Enter】を押す

右のような画面が表示される



2

キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトが全体に対する割合(%)で入力してください。拡張 MS-DOS 領域を作ります」と表示される。

3

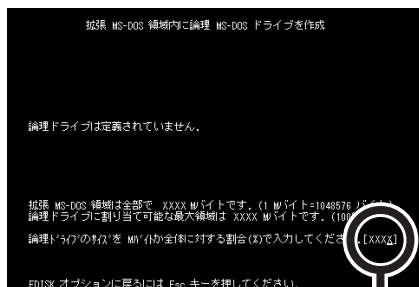
キーボードの【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」と表示される。

4

キーボードの【Esc】を押す

作成するドライブのサイズを入力する画面が表示される



5

サイズを入力して、【Enter】を押す

「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました」と表示される。

### ✓チェック!!

領域作成の途中で電源を切ったりすると、ハードディスクが使用できなくなってしまうこともありますので、気をつけてください。

「領域作成の準備をする」の手順5で N を入力したとき、ひとつの領域の大きさは 2,047M バイトまでです。それより大きなハードディスクを使う場合には、領域を分けて作成します。

6

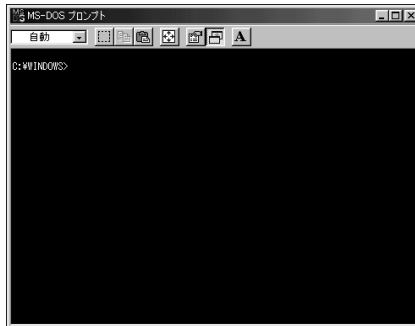
拡張 MS-DOS 領域がなくなるまで手順 5 を繰り返し、すべての拡張 MS-DOS 領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示される。

7

キーボードの【Esc】を 3 回押す

MS-DOS プロンプト  
の画面に戻る



8

キーボードから EXIT と入力し、【Enter】を押す

Windows 98 の画面に戻る。

9

「スタート」をクリックし、「Windows の終了」をクリックする

「Windows の終了」画面が表示される。

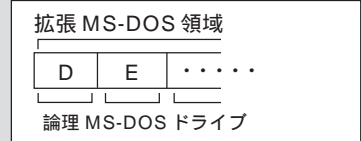
10

「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックする

Windows 98 が再起動する。

ここで、新しく作成した論理ドライブ名をメモにひかえておいてください。フォーマットするときに必要です。

ハードディスクの領域



参照

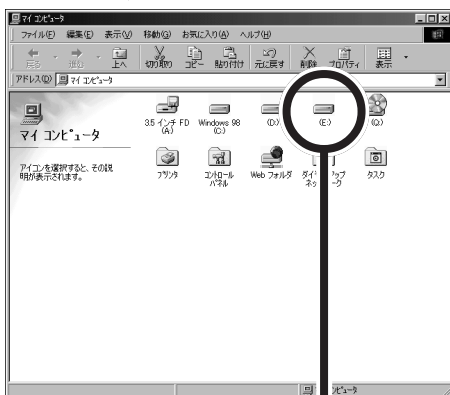
ハードディスクの増設によるドライブ名の変更について このPARTの「増設したドライブのドライブ名について」(p.91)

## 増設したハードディスクを確認する

ハードディスクを増設したあとでWindows 98のマイコンピュータを見ると、増設した分だけ、ハードディスクアイコンが増えて表示されます。

1

「マイ コンピュータ」をダブルクリックする



2

増設した分だけハードディスクアイコンが増えていることを確認する

「領域を作成する」( p.94 )の手順で、増設したハードディスクを複数の領域に分割した場合は、その分だけハードディスクアイコンも多く表示されているはずですが。

もしも表示されていない場合は、増設に失敗しています。

もう一度、「領域作成の準備をする」( p.92 )の手順からやり直してみてください。

または、ケーブルが正しく接続できているか、確認してください。

## ドライブをフォーマットする

続いてWindows 98で、増設したハードディスクをフォーマットします。

データをハードディスクに保存できるように、Windows 98で区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。



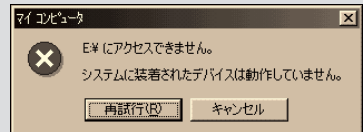
フォーマットの画面が表示される。



### チェック!!

すでに使用されているドライブをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

増設したドライブが、どれかわからない場合には、マイコンピュータのハードディスクのアイコンを次々とダブルクリックしてみてください。増設したハードディスクの場合には、未フォーマットであることを示すウィンドウが表示されます。



このウィンドウが表示されたら、「キャンセル」をクリックし、ウィンドウを閉じてください。

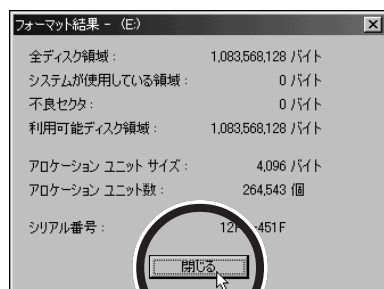
確認の画面が表示される。



5

「OK」をクリックする

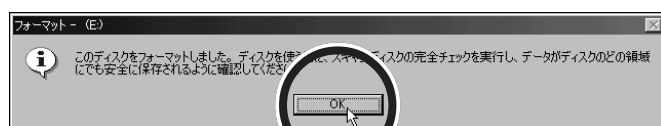
しばらくするとフォーマットが終了し、フォーマットの結果が表示される。



6

「閉じる」をクリックする

スキャンディスクの実行をうながす画面とヘルプが表示される。



7

「OK」をクリックする

8

「フォーマット」の画面をクリックする

9

「閉じる」をクリックする

10

表示されたヘルプの内容にしたがってスキャンディスクを実行する

スキャンディスクが正常に終了したら、フォーマット作業は終わりです。

スキャンディスクは、ハードディスクに壊れている部分がないか、問題なく使えるかをチェックするものです。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

参照

スキャンディスクの操作方法  
PART13の「ハードディスクの検査・修復 スキャンディスク」

PART

# 10

## その他の機器を使う

このパソコンで利用できる周辺機器は、これまでのPARTで紹介してきたもの以外にもあります。ここでは、その中の代表的なものを紹介します。

## その他の周辺機器のご紹介

ここでは、このパソコンにイメージスキャナ、MOディスクドライブ、デジタルカメラなどの周辺機器を接続して使う方法を説明します。

### イメージスキャナを使う

イメージスキャナは、撮りためた写真やお気に入りのイラストなどを、パソコンに取り込むための装置です。このパソコンには、フルカラーイメージスキャナ(PC-IN700/3Uなど)が接続できます。

イメージスキャナを使って画像を取り込む作業の概要は、次のとおりです。

イメージスキャナのマニュアルを参照して、  
イメージスキャナを接続する



必要に応じて、イメージスキャナの  
ドライバや画像取り込み用ソフトなどを  
パソコンに組み込む



原稿をイメージスキャナにセットして、  
画像を取り込む

イメージスキャナは、USB、SCSIインターフェイス、あるいはシリアルインターフェイス、パラレルインターフェイスで接続します。接続方法については、イメージスキャナに付属のマニュアルをご覧ください。

 参照

USBについて「PART2 USB対応機器を使う」(p.25)

SCSIインターフェイス「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.77)

作業の詳細については、イメージスキャナに付属のマニュアルをご覧ください。

画像取り込み用のソフトの詳しい使い方については、そのソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

TWAINに対応したイメージスキャナなら、添付されているソフト以外にも、いろいろなTWAIN対応アプリケーションを使って画像の読み込みが可能です。

#### 用語

TWAIN(トゥエイン)

従来、スキャナから画像を取り込むためのソフトは、イメージスキャナの製造元がそれぞれの規格で用意していました。TWAINはその規格を統一したものです。TWAINに対応したソフトは数多く市販されています。

## 画像データについての基礎知識

画像の品質はdpi(ディーピーアイ:dots per inch)という単位で表されます。この単位で表される数字のことを「解像度」といいます。解像度が高い(dpiの数字が大きい)ほど高品質な画像になります。反面、取り込んだ画像データのファイルサイズ(ファイル容量)が大きくなります。ハードディスクに十分空き容量があるかどうか確認することも必要でしょう。

また、画像のデータには、いろいろな規格(ファイル形式)があります。多くの場合、画像を取り込んだ後、保存するときにファイル形式を選びます。Windows 98で最も一般的な形式は、「BMP(ビットマップ)形式」です。また、いろいろなコンピュータ上で比較的汎用性の高い形式は、「TIFF(ティフ)形式」です。他にも「JPEG(ジェイベグ形式)」や「GIF(ジフ)形式」があります。画像データを保存するときには、このいずれかのファイル形式をお使いになることをおすすめします。

## 画像データの活用法

### ・OCRアプリケーションで絵を文字に

例えば、新聞をイメージスキャナで読み込んで、パソコンでは文字としてではなく、絵として扱われます。「OCR(オーシーアール)アプリケーション」を使えば「絵」として読み込んだ情報を「文字情報」に変換することができます。「文字情報」に変換すれば、ワープロソフトなどを使って文字の修正をすることもできるようになります。

### ・画像データを加工する

イメージスキャナで取り込んだ画像は、「グラフィックアプリケーション」や「フォトタッチアプリケーション」と呼ばれるアプリケーションを使って加工することができます。気に入らなかった写真の構図を変えたり、背景を外国の写真に置き換えたり、写真にメッセージを入れたり、楽しい写真をつくることができます。

### ・電子ファイリング

新聞記事や雑誌の切り抜きは、量が多くなると管理がなかなか大変です。でも、イメージスキャナでいったんデータにしてしまえば、場所をとらず管理も簡単です。

### ・カラーコピーに使う

イメージスキャナで取り込んだ画像を、そのままカラープリンタで印刷すれば、カラーコピーのできあがりです。

## 用語

### 解像度

画像の細かさを示す数値のこと。1インチの中をどれだけ区切っているかをdpiという単位で表します。例えば、300dpiの画像であれば、1インチ四方が縦300×横300=90000個のドット(画素)に細分されていることになります。



## MO ディスクドライブを使う

MOディスク(光磁気ディスク)は、いちどに大量のデータを保存できるメディア(媒体)です。パソコンで作成したデータや画像を保存して友人に渡したり、バックアップを取ったりするときに便利です。このパソコンでMOディスクを使うには、以下の手順で本体にMOディスクドライブを接続します。詳しくは、MOディスクドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける

別売の外付け用 MO ディスクドライブを、ボードの SCSI コネクタに接続する

必要に応じて、ドライバなどの設定を行う

このパソコンで利用できるのは、外付け用 MO ディスクドライブ(PC-OD302Rなど)です。

### 参照

SCSI ボードの取り付け、SCSI コネクタの接続 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.77)

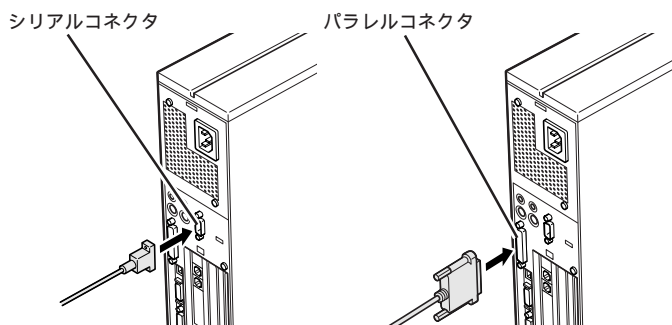
設定方法などは、MO ディスクドライブのマニュアルをご覧ください。

## デジタルカメラを使う

デジタルカメラで撮影した写真(画像)をこのパソコンに取り込んで、画像データとして保存すると、いろいろなアプリケーションで活用できます。取り込む方法は、デジタルカメラによって異なります。

### 専用のケーブルでパソコンに接続する

デジタルカメラによっては、専用のケーブルでパソコンに接続して直接データを取り込むことができます。接続する場合は、いったんパソコンの電源を切ってから、本体背面のシリアルコネクタやパラレルコネクタに接続します。



### フロッピーディスクやPCカードを使って取り込む

デジタルカメラによっては、撮った画像をフロッピーディスクやPCカードに保存するものがあります。PCカードに保存した画像をこのパソコンで取り込むには、USB コネクタにメモリカードリーダー/ライター(PK-UP006E)を接続します。

どのコネクタに接続するかなど、接続方法についてはデジタルカメラに添付のマニュアルをご覧ください。

### 参照

USB コネクタへの接続 「PART2 USB 対応機器を使う」(p.25)

P A R T

# 11

## うまく動かないときは

手順通りに作業したのに増設した周辺機器が使えない、周辺機器を増設したらパソコンが起動しなくなったといったときには、このPARTを読んでみてください。トラブルを解決するヒントを説明しています。

# 困ったときのチェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

## 電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

## 取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだりメーカーへ問い合わせ、確認してください。

## ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

## 本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っかけて、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。

## ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ(やソフト)を組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。正しくドライバを組み込んでください。

ドライバの情報は、このパソコンや周辺機器のReadmeファイルに書いてあることがあります。

また、周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせ、最新のドライバを入手してください。

## 周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

## 設定はしましたか？

ブレイスティック、プレイパッドやドライビングホイールのように、接続したあとで設定の必要な機器があります。

## 他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。



参照

リソースの問題について このPARTの「リソースに関する問題」(p.110)

## こんなときは

ここでは、比較的よく起こる問題の解決方法をいくつか紹介します。

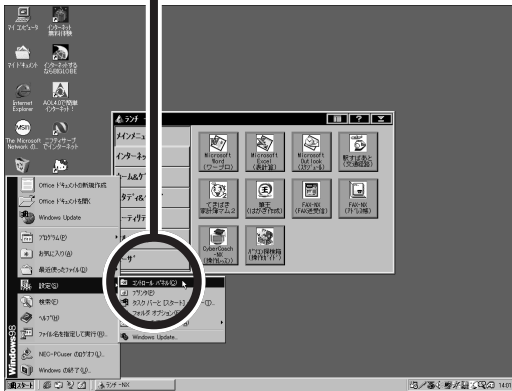
### 「新しいハードウェアが見つかりました」と表示されない

周辺機器のマニュアルには、「取り付け後、パソコンの電源を入ると - 新しいハードウェアが見つかりました - とメッセージが表示される」と書いてあるのに、やってみると出てこない。

こんな場合は、次の手順で周辺機器を探して、必要な作業を行います。

1

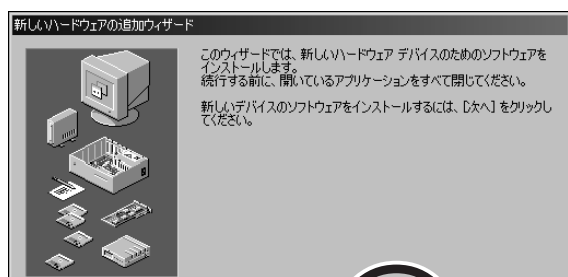
「スタート」をクリックし、「設定」にポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックする



2

「ハードウェアの追加」をダブルクリックする



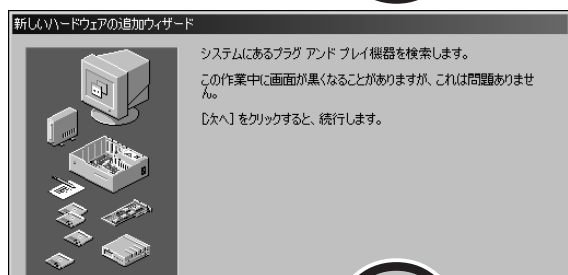


3

「次へ」をクリックする

次へ >

キャンセル

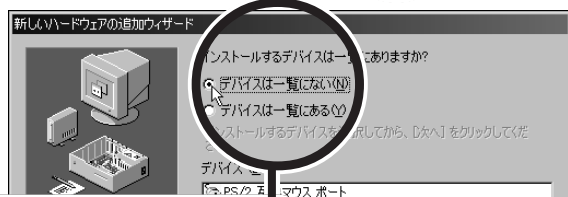


4

「次へ」をクリックする

次へ >

キャンセル



5

「デバイスは一覧にはない」  
をクリックする

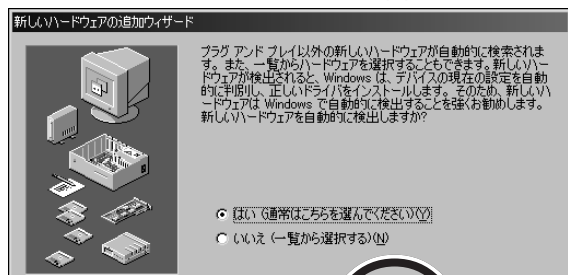
6

「次へ」をクリックする

< 戻る(B)

次へ >

キャンセル



7

「次へ」をクリックする

次へ >

キャンセル

この操作を行っても新しいハードウェアが認識されない場合には、取り付けを再確認してください。それでも認識されない場合は、ここで紹介している操作の手順 7 で「キャンセル」を選択し、手動で機器の詳細な設定を行ってください。

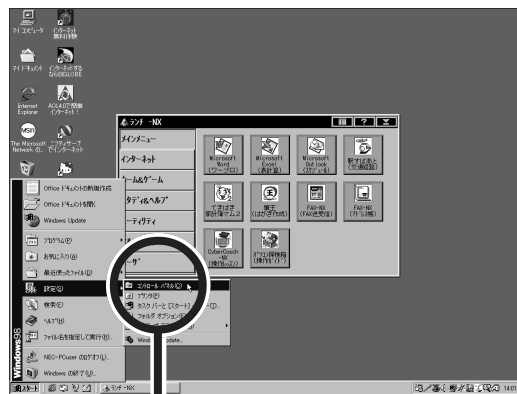
これで、Windows が新しい周辺機器を探しはじめます。以降の操作については、画面の指示および周辺機器に付属のマニュアルをご覧ください。

## 「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示される

「ハードウェアウィザード」で、ドライバの場所の指定をしても、「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示され、再び「場所の指定」をする画面に戻ってしまう場合には、次の手順でドライバを組み込んでください。

1

「スタート」をクリックし、「プログラム」→「CyberTrio-NX」の順にポインタを合わせ、「Go To アドバンストモード」をクリックする



2

「スタート」をクリックし、「設定」にポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックする

### 用語

#### ハードウェアウィザード

Windows 98 に追加されたハードウェアを検索してドライバのインストールなどを行う機能です。

### チェック!

CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」の場合(購入時の状態)や「キッズモード」の場合は、デバイスマネージャでの設定はできません。「アドバンストモード」に変更してください。

### 参照

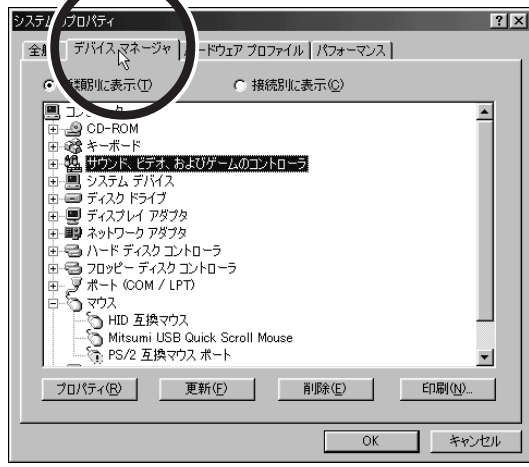
CyberTrio-NX のモード変更  
PART13の「Windows 98 の利用環境の変更 < CyberTrio-NX >」



4 「デバイスマネージャ」タブをクリックする



5 該当するデバイスをクリックする



6

「プロパティ」をクリックする

7

「ドライバ」タブをクリックする

8

「ドライバの更新」をクリックする

これで「デバイスドライバウィザード」の画面が表示されます。以降の操作については、画面の指示および周辺機器に付属のマニュアルをご覧ください。



# リソースに関する問題

パソコンには、周辺機器が使用するための「リソース」という概念があります。ここでは、少しだけこのリソースについて説明します。

## リソースって何？

リソースは、パソコンの中心となる「CPU」と周辺機器が、円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。大きく「割り込みレベル (IRQ)」、「DMA チャンネル」に分けられます。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定を割り当てなければいけません。リソースの数は限られており、このパソコンをご購入時には、すでにいくつかのリソースが使用されています。周辺機器を増設したら、それらの機器に空いているリソースを割り当てることになるのです。

## リソースの競合とは

周辺機器を増設した際、通常は、パソコン (Windows 98) が自動的にこれらのリソースの設定を管理するので、自分で設定を変更したり、確認する必要はほとんどありません。

ところが、機器によっては、パソコンまかせだとうまく設定できないことがあります。設定がうまくできずに、同じリソースが複数の機器に重複して割り当てられている状態を「リソースの競合」といいます。リソースが競合していると、機器が正常に使用できなかったり、システム全体の動作が不安定になってしまいます。

Windows 98 などでは、ひとつの割り込みレベルを複数の機器で使用できることがあります。このようにリソースを共有することを「リソースをシェアする」と表現します。この場合は、そのまま機器を利用できます。

リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindows 98の解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

 参照

ご購入時のリソースの割り当て「このパソコンが使用しているリソース」(p.114)

増設したPCIボードや周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」で調べることができます。

アイコンに「！」が  
付いて表示されて  
いる



デバイスマネージャを表示したときに、その機器のアイコンに「！」マークや「x」マークが付いていたら、その機器の「プロパティ」を表示してみます。「デバイスの状態」の欄に「競合」を示すメッセージが表示されていたら、リソースが競合しています。

## リソースが競合していたら

増設した周辺機器のリソースが競合していて使えないときは、リソースの割り当てを変更する必要があります。

たとえば、当面使わない機器を一時的に「使用しない」設定に変えることで、その機器が使用していたリソースを解放して、増設した周辺機器に割り当て直すことができます。また、競合している相手の機器のリソースの割り当てを変更することで使用できるようになる場合もあります。

リソースの割り当ての変更やリソースの解放は、デバイスマネージャで行います。

## デバイスのリソース設定の変更

通常、プラグ&プレイ対応のデバイスは、デバイスマネージャによって、自動的に設定されています。リソース設定が変更できないデバイスはそのままにして、変更できるデバイスを設定変更します。

ここではプリンタポートのリソースを変更してみます。

1

「スタート」「設定」「コントロールパネル」の順に  
クリックして「コントロールパネル」を開く

### チェック!!

CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」のとき(購入時の状態)は、デバイスマネージャの設定が行えません。「アドバンスモード」に変更してください。

### 参照

CyberTrio-NX のモード変更  
PART13の「Windows 98 の利用  
環境の変更 < CyberTrio-NX >」

### チェック!!

- ・リソースの競合などを避けるため、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使えなくなります。再びその機器を使う場合には、リソースを設定し直してください。
- ・機器によっては、リソースの割り当て方に制限がある場合があります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

### チェック!!

CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」のとき(購入時の状態)は、デバイスマネージャの設定が行えません。「アドバンスモード」に変更してください。

### 参照

CyberTrio-NX のモード変更  
PART13の「Windows 98 の利用  
環境の変更 < CyberTrio-NX >」



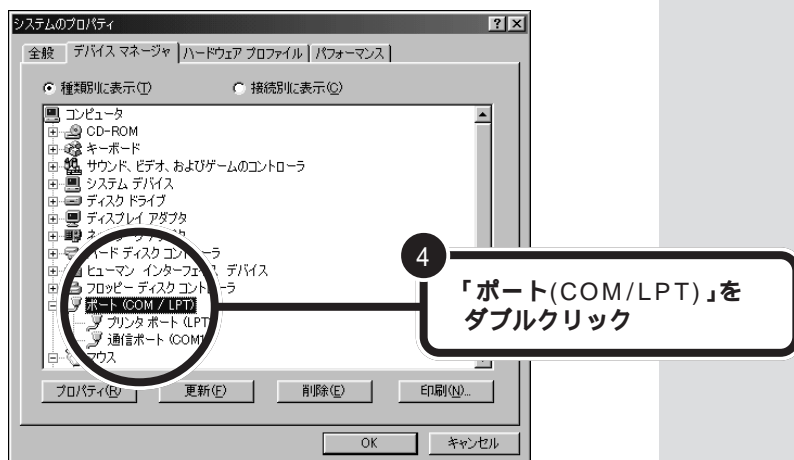
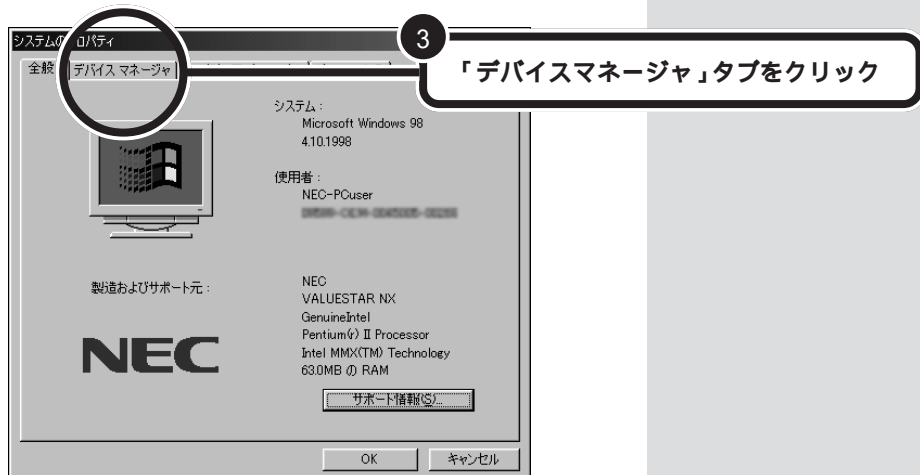
**チェック!!**

「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」の場合は、リソース設定の変更はできません。「アドバンスドモード」に変更してください。

**参照**

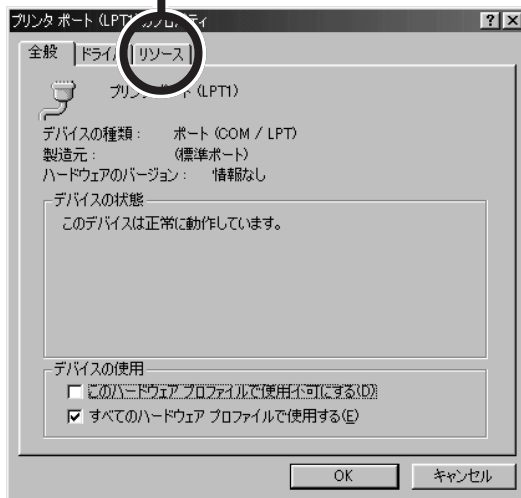
モードの変更

PART13の「Windows 98の利用環境の変更 CyberTrio-NX」



6

## 「リソース」タブをクリック



「リソース」タブのウィンドウが表示されます。

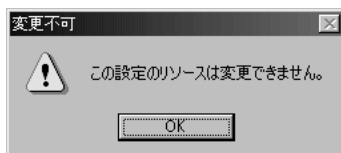
7

## 「自動設定を使う」のチェックを外す



「設定の変更」ボタンが有効になります。

ここで、「リソースの種類」から変更したい「I/Oの範囲」または「割り込み要求」をクリックして、「設定の変更」をクリックすると、リソースの変更ができます。ただし、次のようなメッセージが表示されたデバイスは、リソースの変更はできません。



## ✔チェック!!

デバイスによっては、readme ファイル(「はじめにお読みください」)に変更方法が記載されていることがあります。

## このパソコンが使用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています(購入時の設定)。

### 割り込みレベル(IRQ)

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空)
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	USBインターフェイス/サウンド/ACPI
10	FAXモデムボード
11	アクセラレータ
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	IDEコントローラ (セカンダリ)

FAXモデムボードのIRQ設定を変更する場合は、IRQ 3/5を使用することを推奨します。そのほか、IRQ 4/7/9/10/11/12/14/15でも変更可能です。

### ✓チェック!

TVモデルの購入時のリソース設定 (割り込みレベルおよびDMAチャンネル)については、別冊の『TVモデルガイド』をご覧ください。

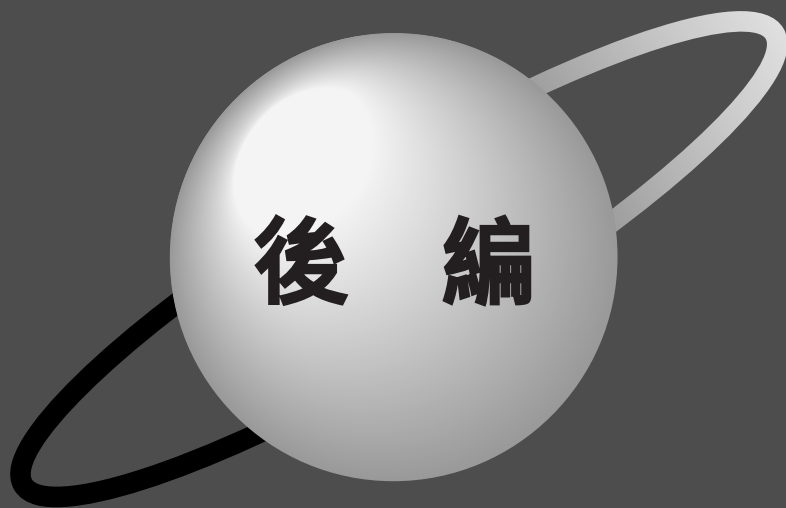
### 📖参照

TVモデルのリソース設定 『TVモデルガイド』付録の「このパソコンが使用しているリソース」

## DMA チャンネル

DMA	機能
#0	(空)
#1	(空)
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	(空)
#4	DMAコントローラ
#5	(空)
#6	(空)
#7	(空)





## 活用ガイド

後編「活用ガイド」は、パソコンの設定の変更方法やアプリケーションの追加と削除、またバックアップを取る方法などの説明です。少し難しいところもあるかもしれませんが、よく読んでパソコンを使いこなしてください。





P A R T

# 12

## ハードウェア

ハードウェアの機能は、自分の好みに合わせて設定することができます。本機の設定を変更したいとき、ハードウェアについて詳しく知りたいときなどには、ここをご覧ください。

- マウス
- キーボード
- ワンタッチスタートボタン
- ハードディスク
- フロッピーディスク
- ディスプレイ
- 省電力機能(スタンバイ)
- サウンド機能
- FAX モデムボード
- CD-ROM などの取り扱い

# マウス

スクロールボタンを使って画面を上下左右にスクロールすることができます。「マウス プロパティ」ウィンドウでは、ダブルクリックの速さの調整、マウスポインタの形の変更や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などができます。



マウスの使い方について 『練習! パソコンの基本』の「PART1 マウスに慣れよう」

## スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

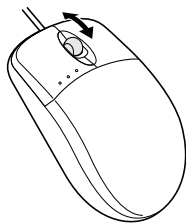


スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションではスクロールボタンは使えません。

## 画面を上下方向にスクロールする

アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックしてアクティブにします。

スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

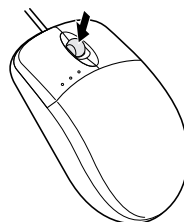


前方に押すと画面が上にスクロールし、手前に引くと画面が下にスクロールします。スクロールボタンを押しつづけると、画面が連続的にスクロールします。

## 画面を上下、左右方向にスクロールする

スクロールさせたい画面にマウスポインタを移動する。



スクロールボタンを真下に押す。

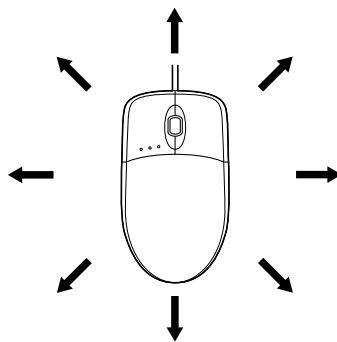


マウスポインタの形が  や  のように変わります。



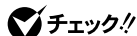
スクロールボタンは、真下に押し込むようにしてください。スクロールボタンを前後に動かすと、通常の上下のスクロールになります。

 や  が表示されたらスクロールしたい方向にマウスを動かす。




マウスを動かした方向に画面がスクロールしていきます。

もう一度スクロールボタンを押すと、マウスポインタの形が元に戻ります。



アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。

 が表示されているときは上下にだけスクロールすることができます。

## ズーム機能を使う

### ✓チェック!

アプリケーションによっては、この機能は使えません。

拡大、縮小したい画面にマウスポインタを動かす。

キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

前方に押すと画面の表示が拡大し、手前に引くと画面の表示が縮小します。

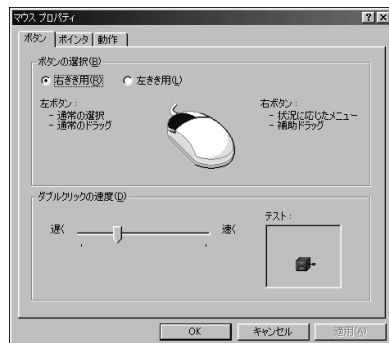
## 「マウス プロパティ」 ウィンドウでの設定

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)



この画面は機種によって異なる場合があります。

「マウス」をダブルクリック。



「マウス プロパティ」ウィンドウには、ここで表示されている「ボタン」タブのウィンドウの他に「ポインタ」「動作」タブのウィンドウがあります。タブをクリックすると、そのタブに対応するウィンドウを表示できます。各ウィンドウで行える設定は次の通りです。

### 「ボタン」タブのウィンドウ

#### ■ ボタンの選択

マウスのボタンの左右の機能を交換して、右きき用 / 左きき用に設定できます。

#### 用語

状況に応じたメニュー

現在の本機の状態や、ポインタの位置で可能な操作の一覧が表示されているメニュー。

補助ドラッグ

ファイルやフォルダのコピー、ショートカットアイコンの作成などができるドラッグ。


#### ■ ダブルクリックの速度

マウスのボタンを2回続けてクリックするときの、間隔(タイミング)を調整します。「遅く」にすると間隔が長く、「速く」にすると間隔が短くなります。調整したタイミングを「テスト」にあるアイコン(びっくり箱)で確認できます。調整したタイミングでアイコンをダブルクリックすると、箱が開いて中から人形が飛び出てきます。

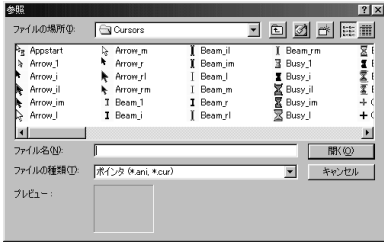
購入時状態では、遅めに設定されています。

### 「ポインタ」タブのウィンドウ



このウィンドウでは、マウスポインタの形を選択できます。例として、マウスポインタの形を  から十字の形に変更してみます。

「通常の選択」が反転表示している状態で「参照」をクリック。  
「参照」ウィンドウ(「Cursors」フォルダ)が表示されます。



「Cross\_1」をダブルクリック。  
「Cross\_1」のアイコンが「ポインタ」タブのウィンドウに表示されます。



「OK」をクリック。  
マウスポインタの形が十字の形になります。

### ✔チェック!!

マウスポインタを元に戻すには、「既定の設定」をクリックします。

## 「動作」タブのウィンドウ



マウスポインタが移動する速度とマウスポインタの軌跡表示を設定できます。

# キーボード

各キーの名称と一般的な機能を説明します。「キーボード プロパティ」ウィンドウでは、カーソルの点滅速度の調整、日本語入力システムの選択など、いろいろな設定ができます。

## 参照

キーボードの使い方、日本語入力のしかた 『練習! パソコンの基本』の「PART3 キーボードに慣れよう」

## キーの役割

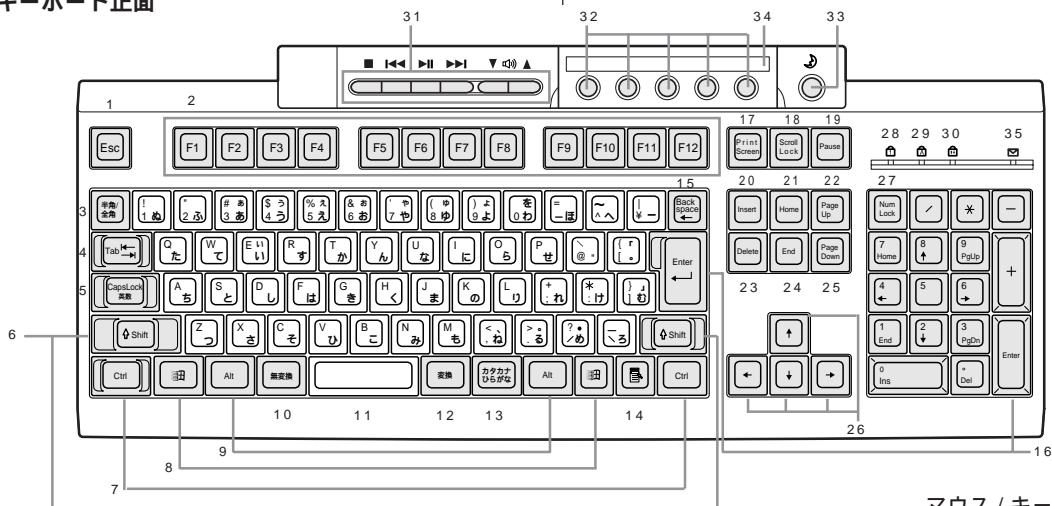
一般的なキーの役割です。







キーボードのキーは、一般的に次のように2種類に分けられます。

- ・文字を入力するキー  
英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。下の図で白くなっている部分のキーです。
- ・コンピュータに指示を与えるためのキー  
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。下の図でグレーの色が付いている部分のキーです。このキーの動きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

## キーの名称

### キーボード正面



- 1 【Esc】: エスケープキー
- 2 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- 3 【半角/全角/漢字】: 半角/全角/漢字キー
- 4 【Tab】: タブキー
- 5 【CapsLock】: キャップスロックキー
- 6 【Shift】: シフトキー
- 7 【Ctrl】: コントロールキー
- 8 【】: Windows キー
- 9 【Alt】: オルトキー
- 10 【無変換】: 無変換キー
- 11 スペースキー
- 12 【変換】: 変換キー
- 13 【カタカナ/ひらがな/ローマ字】:  
カタカナ/ひらがな/ローマ字キー
- 14 【】: アプリケーションキー
- 15 【BackSpace】: バックスペースキー
- 16 【Enter】: エンターキー
- 17 【PrintScreen/SysRq】:  
プリントスクリーンキー/システムリクエストキー
- 18 【ScrollLock】: スクロールロックキー
- 19 【Pause/Break】: ポーズ/ブレイクキー
- 20 【Insert】: インサートキー
- 21 【Home】: ホームキー
- 22 【PageUp】: ページアップキー
- 23 【Delete】: デリートキー
- 24 【End】: エンドキー
- 25 【PageDown】: ページダウンキー
- 26 【】  
【】  
【】  
【】】: カーソルキー
- 27 【NumLock】: ニューメリックロックキー
- 28 ニューメリックロックキーランプ
- 29 キャップスロックキーランプ
- 30 スクロールロックキーランプ

- 31 CD/DVD 制御ボタン
- 32 ワンタッチスタートボタン
- 33 【スリープ】: スリープボタン
- 34 ガイドラベル
- 35 メール着信ランプ

**✓チェック!!**

CD/DVD 制御ボタン、ワンタッチスタートボタン、メール着信ランプについての詳しい説明は、p.128の「ワンタッチスタートボタン」をご覧ください。

**キーボード裏面**

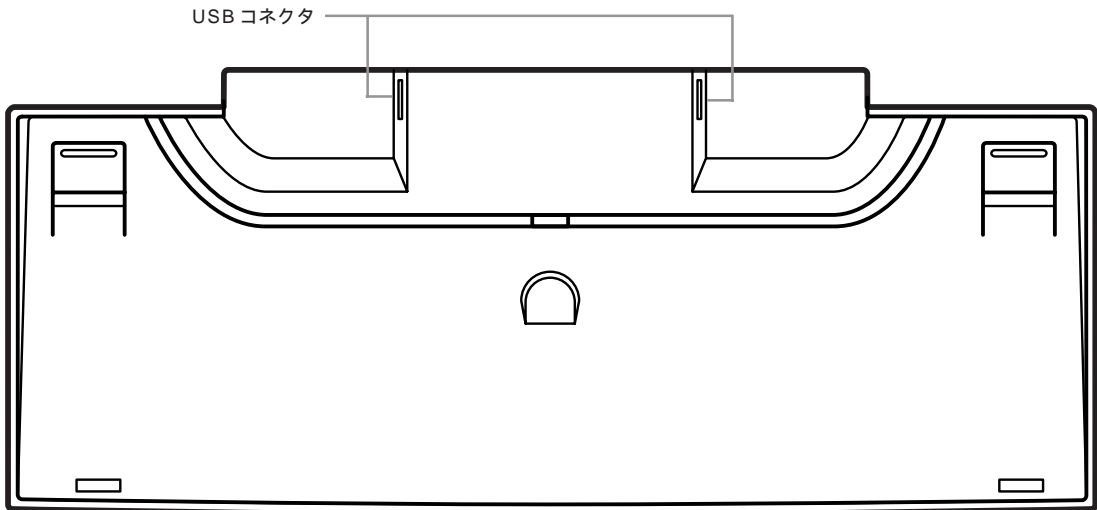
**USB コネクタ**

USB 対応機器を接続するコネクタ。

このコネクタには、添付のマウスをはじめとする USB 対応機器が接続できます。

**✓チェック!!**

この USB コネクタには、限られた機器しか接続できません。接続できる機器については、「PART2 USB 対応機器を使う」(p.25)をご覧ください、確認してください。



**キーのロック**

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。











ロック状態はそれぞれのキーを押すたびに切り替わります。

それぞれのキーがロックされているときにはキーボード右上のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキーを押すと大文字が入力されます。	アルファベットが表示されているキーを押すと小文字が入力されます。

## アプリケーションとWindows キーについて

アプリケーションキーとWindowsキーはWindows 98で利用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

- アプリケーションキー (  )  
アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。
- Windows キー (  )  
Windowsキーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。  
  
Windowsキーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。
- 【  】 + 【 R 】 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する
- 【  】 + 【 M 】 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
- 【 Shift 】 + 【  】 + 【 M 】 【  】 + 【 M 】 でアイコン化しているウィンドウを元に戻す
- 【  】 + 【 F1 】 Windowsのヘルプを起動する
- 【  】 + 【 F 】 ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
- 【 Ctrl 】 + 【  】 + 【 F 】 コンピュータを検索するウィンドウを表示する
- 【  】 + 【 Tab 】 タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

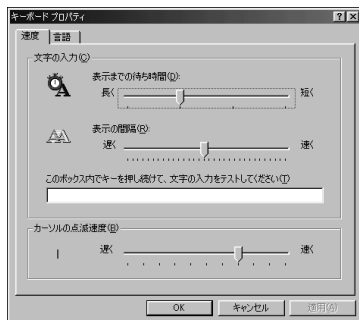
## 「キーボード プロパティ」ウィンドウでの設定

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)



この画面は機種によって異なる場合があります。

「キーボード」をダブルクリック。



「キーボード プロパティ」ウィンドウには、ここで表示されている「速度」タブのウィンドウの他に「言語」タブのウィンドウがあります。タブをクリックすると、そのタブに対応するウィンドウを表示できます。各ウィンドウで行える設定は次の通りです。

### 「速度」タブのウィンドウ

#### ■ 文字の入力

「表示までの待ち時間」では、キーを押し続けたときに、入力の繰り返しが始まるまでの時間を調整します。「表示の間隔」では、キーを押し続けたときに、文字の入力が繰り返される間隔を調整します。調整後に、ボックスでテストすることができます。例えば「A」のキーを押し続けて感じをつかむことができます。

購入時の状態では、「表示の間隔」は遅めに設定されています。



- カーソルの点滅速度  
カーソルの点滅する間隔を調整します。

## 「言語」タブのウィンドウ



### ✓チェック!

画面は一太郎モデルの場合です。Office 2000 モデルの場合は、「Microsoft IME 2000」が表示されます。

- インストールされている言語とレイアウト

言語(日本語入力システム)の選択

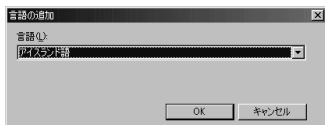
よく使う日本語入力システムを一覧から選んで(反転表示にする)「既定値として設定」をクリックすると、その日本語入力システムが「既定の言語」の欄に表示されます。

通常使う日本語入力システムを変更する場合に設定してください。

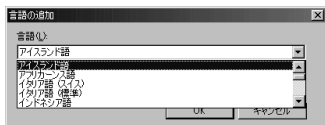
言語の追加

新たに言語を追加することができます。

「追加」をクリックすると、「言語の追加」ウィンドウが表示されます。



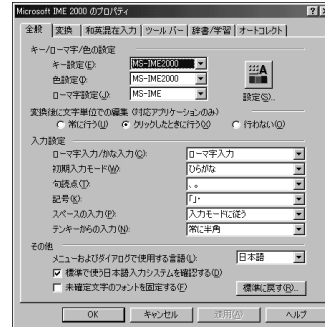
▼をクリックして、追加したい言語を選びます。



キーボードレイアウトの設定

日本語入力システムを一覧から選んで(反転表示にする)「プロパティ」をクリックすると、日本語入力システムの環境を設定するウィンドウが表示されます。

## 「Microsoft IME 2000」の場合



## 「Microsoft IME 98」の場合



## 「ATOK12」の場合



ローマ字/かな入力、入力モード/方式、句読点の種類などを設定できます。

- 言語の切り替え  
言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選びます。

- タスクバー上に状態を表示  
複数のキーボード言語や日本語入力システムがインストールされているときに、多国語インジケータをタスクバーに表示します。このインジケータをクリックすると、言語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューが表示されます。



(画面は一太郎モデルの場合です。)

## PC-9800シリーズの キーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードとこのパソコンのキーボードとのキーの違いは以下のとおりです。

PC-9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備 考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【ROLL UP】	【PageDown】	
【ROLL DOWN】	【PageUp】	
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【HELP】	【End】	
【ESC】	【Esc】	
【f・1】-【f・10】	【F1】-【F10】	
【vf・1】-【vf・2】	【F11】-【F12】	
【HOME CLR】	【Home】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrintScreen】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

# ワンタッチスタートボタン

このパソコンには、ボタンを押すだけでアプリケーションを起動できる機能があります。

## 各ボタンの名前と役割

ボタンを押すだけでアプリケーションを起動することができるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「ワンタッチスタートボタン」はキーボードの上部に並んでいます。また、「ワンタッチスタートボタン」の左側には「CD/DVD制御ボタン」、右側には【スリープ】ボタンがあります。

### 1. CD/DVD 制御ボタン

音楽CDやフォトCD、カラオケCD、ビデオCD、DVD VIDEO ディスクなどの再生をコントロールしたり音量の調節ができます。

各ボタンの役割は次の通りです。

【■】: 停止	再生をコントロールできます。
【◀】: 前のトラック / 巻き戻し	
【▶】: 再生 / 一時停止	
【▶▶】: 次のトラック / 早送り	
【▼】: ボリュームダウン	音量を調節できます。
【▲】: ボリュームアップ	

### 2. ワンタッチスタートボタン

【メール】ボタン

このボタンを押すと、「Outlook Express」が起動します(ご購入時の状態では、BIGLOBEの入会案内が表示されます)。

【インターネット】ボタン

このボタンを押すとインターネットエクスプローラが起動します(ご購入時の状態では、「インターネット無料体験」がスタートします)。

【パソコン探検箱】ボタン

このボタンを押すと、「パソコン探検箱」が起動します。

【ランチ-NX】ボタン

このボタンを押すと、「ランチ-NX」が起動します。起動している状態で押すと最小化されます。

【ソフト終了】ボタン

このボタンを押すと、アクティブになっているソフトが終了します。

(TVモデルでは【ビットキャストブラウザ】ボタン、ビットキャストブラウザが起動します)

### 3. 【スリープ】ボタン

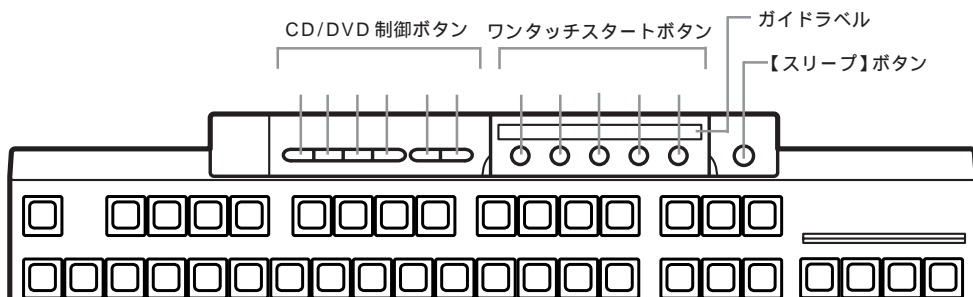
パソコン本体をスタンバイ状態にする、またはスタンバイ状態から復帰させることができます。

### 4. ガイドラベル

ワンタッチスタートボタンにどんなアプリケーションが割り当てられているかを示すラベルです。アプリケーションの割り当てを変えたときなどは新しいラベルを作ることもできます。使い方は、「ワンタッチスタートボタンの設定」ユーティリティのヘルプをご覧ください。

### ●チェック!!

- ・CD-ROM モデルでは、DVD VIDEO ディスクは再生できません。
- ・MS-DOSモードで起動した場合やWindows 98のSafeモードなど、Windows 98のキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVD制御ボタン、ワンタッチスタートボタン、【スリープ】ボタンの機能は使えません。
- ・【インターネット】ボタンと【メール】ボタンは、「BIGLOBE サインアップナビ」または「BIGLOBE 電話で入会ナビ」を使ってBIGLOBEに入会したり



ワンタッチスタートボタンの設定をすると、それぞれインターネットエクスプローラと Outlook Express が起動するようになります。

それ以外の方法でプロバイダに入会した場合に【インターネット】ボタンと【メール】ボタンでインターネットエクスプローラと Outlook Express を起動させるには、設定が必要です。詳しくは、この次の「ワンタッチスタートボタンの設定」を使う」をご覧ください。

## 「ワンタッチスタートボタンの設定」を使う

「ワンタッチスタートボタン」には、ご購入時に起動するアプリケーションが割り当てられてありますが、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使うと、以下の設定が変更できます。

- ・ワンタッチスタートボタンの設定変更 (割り当てたアプリケーションの変更)
- ・メールの自動受信の設定
- ・オンスクリーン機能の設定
- ・設定内容の印刷 (ガイドラベルの作成)


### ■「ワンタッチスタートボタンの設定」の起動方法

「スタート」ボタン 「プログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリック。

(またはタスクトレイ右側のをダブルクリック)

### ■ ヘルプの見かた

・ヘルプを起動する  
「スタート」ボタン 「プログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をクリック

(またはタスクトレイ右側のを右クリックし、「ヘルプ」をクリック)

・目次から見る場合  
「目次」タブをクリックし、内容を表示したいトピックをクリックします。

・検索から見る場合  
「検索」タブをクリックし、探したい語句を入力し、「検索開始」をクリックします。

### ■ ボタンの設定

ここでは例として【インターネット】ボタンに、ランチ-NX から「Internet Explorer」を割り当ててみます。

「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する。

「ボタン設定」タブをクリック。

「ランチ-NX の中から選択」を選択する。

「機能リスト」欄のインターネットフォルダをダブルクリック。

「Internet Explorer.Ink」をクリック。

【インターネット】ボタン(ボタン 2)上のボタン名称欄にドラッグ&ドロップ。

ボタン名称が「Internet Explorer」と表示されます。

「保存」をクリック。

「OK」をクリック。

新しくこの設定を登録するときは、設定の名称を入力してください。

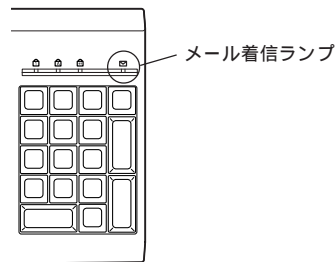
「終了」をクリック。

これで【インターネット】ボタンに「Internet Explorer」が割り当てられました。

ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動「同時」したり、はじめに登録したアプリケーションを終了すると次のアプリケーションが起動「順次」するように設定することもできます。詳しくは「ワンタッチスタートボタンの設定」のヘルプをご覧ください。

### ■ メールの自動受信の設定

指定した時間にプロバイダやネットワークのメールサーバに接続して、メールが届いていればキーボードのメール着信ランプで知らせることができます。メールソフトの自動受信機能を使えば、届いたメールを自動受信することもできます。設定のしかたは、『たのしもう! インターネット』PART4の「メール着信ランプを使って自動受信する」と「ワンタッチスタートボタンの設定」のヘルプをご覧ください。



## チェック!

- ・メールを自動受信するには、本機でインターネットに接続できるようにしておく必要があります。
- ・メールを自動受信するときは、本機をスタンバイ状態または、電源の入った状態にしておいてください。電源の切れた状態では、メールの自動受信はできません。
- ・Outlook Express 以外のメールソフトを利用する場合、メールソフトによってはメールを自動受信できないものがあります。詳しくは「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をご覧ください。

### ■ オンスクリーン設定

プレーヤ-NX( NEC製DVDプレーヤ )の操作状態や、押したボタンの名称を表示します。詳しくは「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をご覧ください。

### ■ ガイドラベルの印刷

ワンタッチスタートボタンのどのボタンに、どのようなアプリケーションが割り当てられているか一目で分かるようなガイドラベルを作成できます。ガイドラベルはワンタッチスタートボタンの上に取り付けられます。詳しくは「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をご覧ください。

# ハードディスク

ハードディスクの取り扱いかたとドライブコンバータの使いかたについて説明します。



ハードディスクを増設する「PART9 ハードディスクを増設する」(p.85)

## 概要

ハードディスクは、外部記憶装置のひとつです。正確に表現すれば、実際に磁気を利用してデータを記録する円盤(ディスク)と、ディスクを高速に回転させて、データの読み書きをするヘッドやアーム、モーターなどからなる装置全体を指し、ハードディスク装置といえます。ディスクと磁気ヘッドなどの装置は、密封された容器に収められているために、他の外部記憶装置のメディアのように、記憶媒体(ディスク)自体を単独で取り出すことはできません。しかし、ディスクを高速で回転できるために、フロッピーディスクや光磁気ディスクなどに比べて、読み書きするスピードは格段に速くなります。

ハードディスクは外部記憶装置のひとつには違いありませんが、CPUやメモリとともに、パソコンの中心的な存在です。オペレーティングシステム(OS)やアプリケーションソフトなどは、すべてハードディスクに格納されます。ハードディスクのドライブ名は通常は「C」です。

## 取り扱いの注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。取り扱いには、次のことに十分注意してください。

- ・電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- ・電源を切るときは、『まずこれ! 接続と準備』で説明されている手順に従ってください。Windows 98以外のOSを使用している場合、キーボードの【Esc】を押してから電源スイッチを押してください。

- ・温度・湿度条件を守ってください。  
温度 10 ~ 35、湿度 20% ~ 80%(ただし、結露しないこと)
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用・保管は避けてください。

## バックアップをこまめにとる

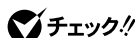
本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして消滅してしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。



バックアップ PART13の「データのバックアップを取る バックアップ-NX」

## ドライブコンバータ(FAT32)

「ドライブコンバータ(FAT32)」を使うと、ハードディスクのファイルシステムをFAT32に変換することができます。



- ・本機の購入時の内蔵ハードディスクは、FAT32でフォーマットされています。
- ・現在のファイルシステムの状態は、次の手順で確認できます。

デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック。

情報を表示したいドライブのアイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリック。

FAT16の場合は「ファイルシステム:」に「FAT」と表示され、FAT32の場合は「ファイルシステム:」に「FAT32」と表示されます。

## ■ FAT32 について

FAT( File Allocation Table )16 ファイルシステム (以降、FAT16)は、MS-DOSや従来のWindowsで使用されている基本的なファイルシステムです。

FAT32 ファイルシステム(以降、FAT32)はFAT16を拡張したファイルシステムで、次のような特長があります。

- ・従来のFAT16では、2Gバイトの容量を超える領域を扱えませんでした。FAT32では理論上2T(テラ)バイト(2,047Gバイト)の容量まで扱えます。
- ・クラスタサイズがFAT16よりも小さいため、ハードディスクをより効率よく使用できます。

## ✔チェック!!

- ・FAT32に対応していないアプリケーションなどは、FAT32のハードディスクでは、正しく動作しない場合があります。
- ・スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「システムツール」グループにあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」ではFAT32のドライブを圧縮できません。
- ・FAT32は、本機にインストールされているWindows 98でのみ使用できます。Windows NT 4.0では、FAT32のドライブに保存されたデータやファイルにアクセスできません。
- ・Windows NT 4.0を利用する場合は、カスタム再セットアップを利用してフォーマットしてください。

## ■ ドライブコンバータ(FAT32)の起動

「ドライブコンバータ(FAT32)」を起動する。  
(「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「ドライブコンバータ(FAT32)」)

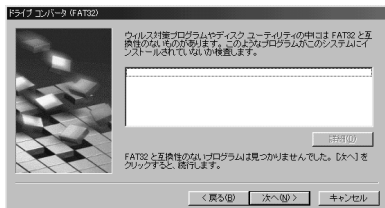
「次へ」をクリック。

変換するドライブを選んで、「次へ」をクリック。

「OK」をクリック。

FAT32に対応していないプログラムの検出が始まります。

検出が終わると次のウィンドウが表示されます。



## ✔チェック!!

このウィンドウで、FAT32に対応していないプログラムが検出された場合は、「キャンセル」をクリックして、「ドライブコンバータ(FAT32)」を終了させてください。検出されたプログラムを使用する場合は、FAT32には変換できません。

「次へ」をクリック。

FAT16に戻す可能性がある場合には、「バックアップの作成」をクリックして、バックアップを作成してください。

「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。

変換が始まります。変換には、時間がかかります。

変換が終わると「変換が完了しました」のメッセージが表示されます。

「完了」をクリック。

## フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類、バックアップのとりかた、Windows 起動ディスクの作成方法などについて説明します。

### 使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、以下のようなフロッピーディスクを使用できます。

タイプ	フォーマット(容量) <sup>1</sup>			
	1.44 MB	1.2 MB	720 KB	640 KB
2HD		<sup>2</sup>	×	×
2DD	×	×		×

1: MS-DOSまたはWindowsでフォーマットされたものが使えます。

2: 読み書きはできますが、1.2Mバイトでのフォーマットはできません。また、ディスクのコピーもできません。

### フロッピーディスクのバックアップ

フロッピーディスクは非常にデリケートです。ホコリが入ってしまったり、折れてしまったりなど、何らかの事故によって、保存しているデータが壊れてしまうことがあります。万が一に備えて、大切なデータは、定期的にバックアップをとることをおすすめします。

バックアップをとりたいフロッピーディスク(コピー元)をフロッピーディスクドライブにセットする。

#### ✓チェック!

- ・誤って、データを消さないように、コピー元のフロッピーディスクには、あらかじめライトプロテクトしておくことをおすすめします。

- ・コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください(これは、「MS-DOS プロンプト」の DISKCOPY コマンドでも同じです)。

#### 📖参照

ライトプロテクトについて 『困ったときのQ&A』 PART2の「フロッピーディスクを使っていたら...」

「マイコンピュータ」をダブルクリック。

「3.5 インチ FD」をクリック。



「ファイル」をクリック。



「ディスクのコピー」をクリック。





「開始」をクリック。



しばらくして次の画面が表示されます。



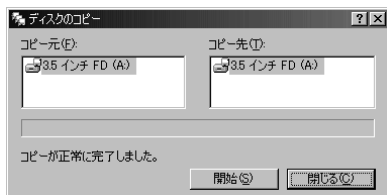
コピー元のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出して、コピー先のフロッピーディスクをセットする。

「OK」をクリック。

ディスクのコピーが再開します。



コピーが終了すると次の画面が表示されます。



「閉じる」をクリック。

ディスクのコピーが終了し、バックアップが作成されました。

## Windows 起動ディスク

ハードディスクやWindows 98のシステムに大きな障害を受けると、本機の電源を入れてもWindows 98が起動しなくなってしまうことがあります。このような場合には、「Windows 起動ディスク」を使うと、フロッピーディスクからWindows 98のシステムを起動させることができます。万一、システムが起動しなくなったときのために、Windows 起動ディスクを作成することをおすすめします。

### Windows 起動ディスクの作成

フロッピーディスクを2枚用意して、「Windows 98 起動ディスク 1」「Windows 98 起動ディスク 2」と書いたラベルを貼っておいてください。未フォーマットのものでもかまいません。

コントロールパネルを開く。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)



この画面は機種によって異なる場合があります。

「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。



「起動ディスク」をクリック。



「ディスクの作成」をクリック。  
起動ディスク作成の準備が始まり、すぐに次のメッセージが表示されます。



「Windows 98 起動ディスク 1」をフロッピーディスクドライブにセットして、「OK」をクリック。  
起動ディスクの作成が始まります。  
しばらくすると、次のメッセージが表示されます。



「Windows 98 起動ディスク 2」をセットして、「OK」をクリック。  
再び、起動ディスクの作成が始まります。  
終了すると、「アプリケーションの追加と削除 プロパティ」ウィンドウに戻ります。

「OK」をクリック。  
Windows 起動ディスクの作成が完了しました。

## Windows 起動ディスクから本機を起動する

作成した「Windows 起動ディスク」を使って、起動します。

本機の電源を入れる。

すぐにフロッピーディスクドライブに「Windows 98 起動ディスク 1」をセットする。  
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。

CD-ROM ドライブを使う場合は「1」を、使わない場合は「2」を選んで、【Enter】を押す。  
しばらくすると、「キーボードのタイプを判定します」と表示されます。

【半角 / 全角】を押す。  
「106キーボードが選択されました」と表示されます。  
しばらくすると、「Windows 98 起動ディスク 2」を挿入してください。続けるにはどれかキーを押してください」と表示されます。

フロッピーディスクドライブから、「Windows 98 起動ディスク 1」を取り出し、「Windows 98 起動ディスク 2」をセットして、何かキー(【Enter】など)を押す。  
しばらくするとコマンドプロンプト(「A:¥>\_」)が表示されます。

これで、Windows 起動ディスクからの起動が完了しました。  
再びハードディスクから起動したい場合は、フロッピーディスクドライブからWindows起動ディスクを取り出して、電源を入れなおしてください。

## Windows 起動ディスクのコマンドツール

Windows 起動ディスクで起動した場合にこれらのコマンドを使用できます。

edit	テキストファイルを編集します。
fdisk	ハードディスクの領域を確保します。
format	ディスクを初期化します。
scandisk	ディスクのエラーを検査し、修復します。
sys	起動用のシステムをドライブへ転送します。

Windows 98 のシステムに障害がある場合は、キーボードから「scandisk」と入力してハードディスクのエラーを修復してください。

# ディスプレイ

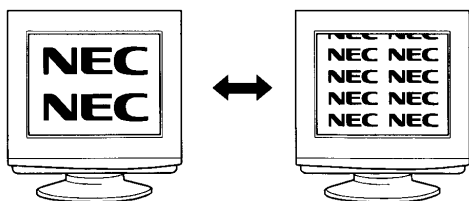
本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使いの用途に応じた解像度や、表示色に切り替えて使用できます。

## 概要

### 解像度

ディスプレイでは文字やグラフィックを、小さな点(ドット)の集まりで画面に表示しています。ディスプレイの解像度とは、ディスプレイの画面上での文字やグラフィックを表現するときの、緻密さの度合いのことです。例えば、1,024 × 768 ドットというのは、ディスプレイの横(水平)方向に1,024個のドット(点)縦(垂直)方向に768個のドットで表示できることを示しています。ドット数が増えるほど、精細な表示ができるようになります。

一度に表示できるドット数を増やすことを「高解像度にする」と表現します。高解像度になると、緻密な画像を表現できます。また、同じアプリケーションでも、高解像度時には、より広い範囲を表示することができます。ただし、解像度が高くなるにつれて、画面に表示される文字は小さくなっていきます。画面の文字が読みにくくなる時には、解像度を下げるようにしてください。



### 表示色

ディスプレイの個々のドットを、何種類の色で表現できるかを示す尺度を表示色といいます。本機では通常、次の表示色が表示できます。

- ・ 16,777,216色(1,677万色)\*
- ・ 65,536色(6万5千色)
- ・ 256色
- ・ 16色

\* 15インチ液晶ディスプレイの場合はディザリングによる約1,600万色の表示のことをいいます。

また、6万5千色で表示することを、「High Color(ハイカラー)表示」、1,677万色で表示することを「True Color(トゥルーカラー)表示」あるいは、「Full Color(フルカラー)表示」と呼ぶこともあります。

### 走査周波数

CRTディスプレイでは、電子ビームを管面の蛍光体に当てて発光させ、文字やグラフィックを表示しています。電子ビームが蛍光体に当たると、発光するのは一瞬ですが、短時間(例えば1秒間)に何度も同じ点が発光すると、残像効果により文字あるいはグラフィックとして認識できるのです。

このとき、電子ビームが画面の左端から右端へ移動することを水平走査、画面の上端から下端へ移動することを垂直走査といい、1秒間に走査する回数をそれぞれ水平走査周波数、垂直走査周波数と呼びます。

液晶ディスプレイには、液晶の画素1つ1つに電極があります。液晶ディスプレイは、この画素に電圧を加えると、光の反射率や透過率が変化する性質を利用して文字やグラフィックを表示しています。

画素1つ1つの電極に順次信号を与えることで、電極のスイッチをしていき、これによって走査をしています。

## 本機にセットのディスプレイを使う場合

本機とセットのディスプレイは、標準で次の解像度と表示色、走査周波数を表示できます。

:表示可 x:表示不可

解像度 (ドット)	表示色	垂直走査 周波数 (Hz)	15インチ CRTディスプレイ (DV15A2)	17インチ CRTディスプレイ (DV17C4 DV17D1)	14インチ 液晶 ディスプレイ	15インチ 液晶 ディスプレイ
640 × 480	16色	60			*3	*3
	256色	75			*3	x
	High Color*1 True Color*2	85			x	x
800 × 600	256色	60			*3	*3
	High Color*1	75			*3	x
	True Color*2	85			x	x
1,024 × 768	256色	60			x	
	High Color*1	75				x
	True Color*2	85			x	x
1,280 × 1,024	256色	60	x		x	x
	High Color*1 True Color*2*5	75	x	*4	x	x

\* 1 : High Colorは6万5千色です。

\* 2 : True Colorは、1,677万色です。15インチ液晶ディスプレイの場合はディザリングによる約1,600万色の表示のことをいいます。

\* 3 : 拡大表示となります。拡大表示では文字や線の太さが不均一になったり、ぼやけた感じになることがあります。

\* 4 : DV17D1でのみ表示可能。

\* 5 : VC40H/7、VE40H/7、VC40H/8、VE40H/8では表示できません。

上記以外の解像度、走査周波数ではディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もありますので、上記の解像度の中から選択することをお勧めします。

### リフレッシュレートの切り替えについての注意

リフレッシュレートの既定値は、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に設定されています。この設定は「画面 プロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを選択すると表示が乱れたり、画面が正しく表示されない場合があります。変更するときは注意してください。

## 別売のディスプレイを使う場合

本機には、別売のディスプレイを接続することもできます。本機の表示機能は次の通りです。

### 解像度

640 × 480 ドット  
800 × 600 ドット  
1,024 × 768 ドット \*  
1,280 × 1,024 ドット

\* : 購入時の設定

### 表示色数

16 色  
256 色  
65,536 色 \*  
1,677 万色

表示できる色数は、各解像度によって異なります。

\* : 購入時の設定

### 走査周波数

水平走査周波数(31.5 ~ 80.0KHz)  
垂直走査周波数(60 ~ 85Hz)

使用できる周波数は、各解像度、表示色数によって異なります。別売のディスプレイを使用する場合は、左の表を参考に対応した周波数を選んでください。

### チェック!!

別売のディスプレイを使用する場合は、上記の条件を満たしていることを確認してください。ディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。また、次の別売ディスプレイは使用できません。

- ・PC-KM212
- ・PC-KM174

### チェック!!

本機には、デジタルRGBとアナログRGBの2つのコネクタがありますが、これら2つのコネクタに2台のディスプレイを接続しても「マルチモニター サポート機能」は使えません。

## 解像度と表示色の変更

必要に応じて解像度や表示色を変更できます。

### チェック!

「画面 プロパティ」の画面は機種によって異なりますが、基本的な操作は同じです。

### 解像度と表示色を変更する

コントロールパネルを開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」または「ランチ-NX」 「ユーティリティ」 「画面の設定」の後、手順へ進む)



画面は機種によって異なる場合があります。

「画面」をダブルクリック。



画面は機種によって異なる場合があります。

「設定」タブをクリック。



解像度を変更する。

「画面の領域」のつまみを「大」の方向にドラッグしてずらすと、高解像度になります。低解像度に設定する場合は、つまみを「小」の方向へドラッグしてずらしません。設定できる解像度は、本体やディスプレイの表示機能によって変わります。

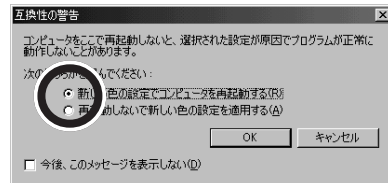
「色」の▼をクリック。



表示色を選ぶ。

(例「True Color(32ビット)」を選ぶ)

「OK」をクリック。



「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」を選んで「OK」をクリック。

本機が再起動し、設定が変更されます。


## 解像度と表示色を変更する (簡易解像度切り替え機能)

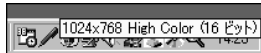
解像度と表示色は、タスクバーから簡単に切り替えることができます。

タスクバー右隅のをクリック。

640x480 256 色
720x480 256 色
800x600 256 色
1024x768 256 色
640x480 High Color (16 ビット)
720x480 High Color (16 ビット)
800x600 High Color (16 ビット)
1024x768 High Color (16 ビット)
640x480 True Color (24 ビット)
720x480 True Color (24 ビット)
800x600 True Color (24 ビット)
1024x768 True Color (24 ビット)
640x480 True Color (32 ビット)
720x480 True Color (32 ビット)
800x600 True Color (32 ビット)
1024x768 True Color (32 ビット)
ディスプレイ プロパティの調整 (A)

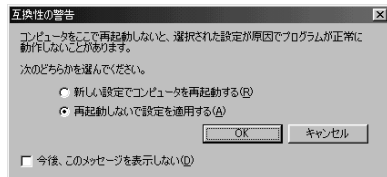
画面は機種によって異なる場合があります。

にマウスポインタを当てると、現在の設定を表示できます。



変更したい解像度と表示色の組み合わせを選んでクリック。

次のメッセージが表示された場合は、手順 2 を行ってください。



「再起動しないで設定を適用する」を選んで「OK」をクリック。

設定が変更されます。

「スタート」ボタン 「Windows の終了」 「再起動する」を選んで、「OK」をクリック。

本機が再起動し、設定が適用されます。

## 解像度と表示色を変更するときの注意

- 表示色数を変更した後に、本機を再起動しなかった場合、画面が正しく表示されないことがあります。また、アプリケーションソフトによっては、色が正常に表示されないことがあります。

その場合は、Windows を再起動してください。

- 解像度や表示色数を変更した場合には、画面位置がずれることがあります。そのときは、ディスプレイの画面位置を調整してください。画面位置の調整方法は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

## ディスプレイの 省電力機能について

本機に、省電力機能を持つディスプレイを接続している場合、ディスプレイの省電力機能を使うことができます。ディスプレイセットモデルのディスプレイは、省電力機能に対応しています。

ディスプレイの省電力機能は、Windows 上で設定します。コントロールパネルで設定した時間内に、まったく操作をしなかった場合、ディスプレイの画面を暗くして、消費電力を節約します。

## ディスプレイの省電力機能を使う

「コントロールパネル」を開く。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)



画面は機種によって異なる場合があります。

「電源の管理」をダブルクリック。



このウィンドウで、次の設定を行います。

### ・モニタの電源を切る

時間を設定すると、設定時間経過後にディスプレイの省電力機能が働き、画面を暗くします(セットのディスプレイの場合、ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯します)。再度、ディスプレイの画面を表示させる場合は、キーボードのキーを押すか、マウスを軽く動かしてください。

購入時の状態では「なし」に設定されています。

### ✓チェック!

システムスタンバイを設定した場合も、ディスプレイの画面は暗くなります。

設定が終了したら、「OK」をクリック。  
ディスプレイ省電力機能が設定されました。

### ✓チェック!

ディスプレイ省電力機能が働くと、画面が消えますが、本体の電源が切れている状態と間違わないようにしてください。

## 別売のディスプレイでディスプレイの省電力機能を使用する場合の注意

別売のディスプレイで、ディスプレイの省電力機能を使って画面が暗くなった場合、再度画面を表示させる方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

## ディスプレイに合わせて設定する

別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイに合わせて、本体の設定を変更する必要があります。本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。また、設定できるはずの解像度が設定できないこともあります。

## 別売のディスプレイを使用するときの注意

プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合は、必ず、次の手順を行ってください。  
プラグ&プレイに対応しているディスプレイの場合は、起動時にモニタを検出したことを示すメッセージが表示されます。このメッセージで、ディスプレイが検出されたことが確認できた場合は、この手順は必要ありません。

詳しくは、ディスプレイに添付されているマニュアルをご覧ください。

ただし、プラグ&プレイに対応しているディスプレイであっても、そのディスプレイで表示できるはずの高解像度が、この項の「解像度と表示色の変更」の手順で設定できない場合があります。その場合は、『困ったときのQ & A』PART2の「画面の設定を変えようとしたら...」をご覧くださいの上、ディスプレイの設定をやり直してください。

ディスプレイが本体に正しく接続されていることを確認する。

Windows 起動後に、「コントロールパネル」を開く。(「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」または「ランチ-NX」「ユーティリティ」「画面の設定」の後、手順に進む)



この画面は機種によって異なる場合があります。

「画面」をダブルクリック。

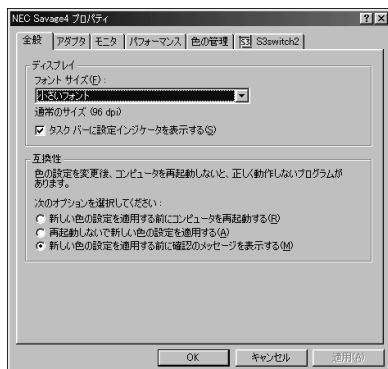




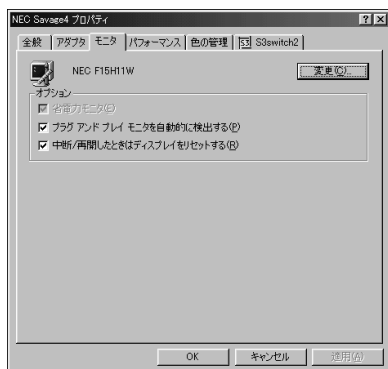
「設定」タブをクリック。



「詳細」をクリック。



「モニタ」タブをクリック。



画面は、機種により異なる場合があります。

「変更」をクリック。



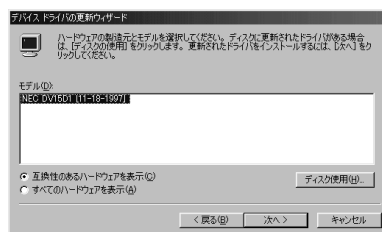
「次へ」をクリック。



「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリック。



「次へ」をクリック。



「すべてのハードウェアを表示」をクリック。



ディスプレイのドライバファイルが見つかった場合は、「このデバイス用に選択したドライバをインストールする準備ができました。」と表示され、ドライバのある場所が表示されます。

「製造元」と「モデル」を一覧から選ぶ。

ディスプレイ一覧に接続したディスプレイの種類が表示されない場合は、「製造元」の欄で「標準モニタの種類」を選び、「モデル」の欄で接続したディスプレイがサポートしている解像度を選んでください。



「次へ」をクリック。



「次へ」をクリック。

ディスクを用意するようなメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。



「完了」をクリック。

「モニタ」タブのウィンドウに戻ります。

「閉じる」をクリック。

「OK」をクリック。

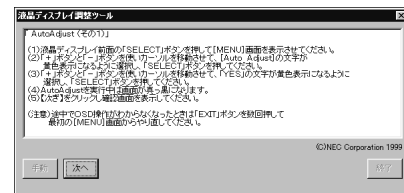
Windowsを再起動するようにというメッセージが表示された場合は、ほかのアプリケーションが終了していることを確認して、「はい」をクリックしてください。

## 液晶ディスプレイの画面調整(14インチ 液晶ディスプレイセットモデルのみ)

H.Size、clockPhase、H.Position、V.Positionの画面調整を行うことができます。

「スタート」「プログラム」「アクセサリ」「液晶ディスプレイ調整ツール」をクリック。

「液晶ディスプレイ調整ツール」ウィンドウが表示されます。



画面の指示に従って調整を行います。

参照

調整のしかた 液晶ディスプレイ添付のマニュアル

チェック!

15インチ液晶ディスプレイでは、「液晶ディスプレイ調整ツール」を使つての調整は不要です。

# 省電力機能 (スタンバイ)

本機を使っていないときに、電源を切らなくても電力の消費を節約できる省電力機能(スタンバイ)について説明します。

## 概要

本機を使っていないときには、本機の電源を切っておくと、電力の節約になります。しかし、電源を切るには、作業中の状態を終了(アプリケーションを終了したり)して、Windowsを終了する必要がありますので、少しの間だけ本機を使わない場合には、つい電源を入れっぱなしにしがちです。

しかし、本機には、電源が入ったままでも電力消費を抑える機能があります。これを省電力機能(スタンバイ)といいます。この機能を使うと、本体は電源が入ったままでも、ファンを止めたり、ディスプレイの画面を暗くしたり、ハードディスクの電源を切ったりして、電力消費を抑えることができます。

このようにして電力消費を抑えている状態を「スタンバイ状態」と呼びます。スタンバイ状態のときは、作業していた内容は保持(記憶)されているので、もとの状態に復帰させると、すぐに作業が再開できます。

## ✓チェック!

- ・プリンタやスピーカなどの周辺機器や、通信回線などは自動的に切れないので、注意してください。
- ・ファンは使用環境、温度などによっては、スタンバイ状態になっていても、回転することがあります。
- ・アプリケーションによっては、省電力機能のことを「サスペンド」という呼び方をしている場合があります。これは、スタンバイ状態にすることと同じ意味ですので、サスペンドをスタンバイに読みかえてください。また、アプリケーションによっては、スタンバイ状態から、もとの状態に復帰することを「レジューム」と呼んでいる場合があります。

## 電源の状態

本機の電源の状態について説明します。

- ・電源が入っている状態  
通常、本機を使っている状態です。
- ・電源が切れている状態  
Windowsを終了したり、電源スイッチを押したりして、本機の使用を終了している状態です。
- ・スタンバイ状態  
さまざまな省電力機能(ファンを止める、ディスプレイの表示を消す、ハードディスクの電源を切るなど)により、消費電力が抑えられている状態です。本体の電源は入ったままですが、消費電力は、節約されています。  
スタンバイ状態にする前の状態へ、すぐに復帰することができます。

## ■スタンバイ状態での本機

スタンバイ状態になると、本機は次のようになります。

	本体	ディスプレイ	
	電源ランプ	表示	電源ランプ
電源ON	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
スタンバイ	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯

別売のディスプレイの場合は、異なることがあります。

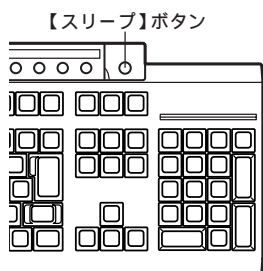
## スタンバイ状態にする

スタンバイ状態にするには、次の4つの方法があります。

- ・キーボードの【スリープ】ボタンを押してスタンバイ状態にする
- ・一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする
- ・Windows 98 終了時にスタンバイ状態にする
- ・タイマー機能で指定した時間に自動的にスタンバイ状態にする

## キーボードの【スリープ】ボタンを使ってスタンバイ状態にする

キーボードの【スリープ】ボタンを押す。  
スタンバイ状態になります。



## 一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする

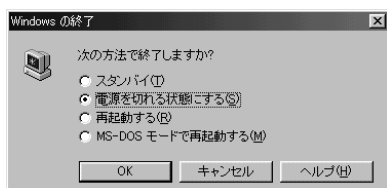
「コントロールパネル」の「電源の管理」で時間を設定しておく、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクへのアクセスがなく、一定の時間が経つと、自動的にスタンバイ状態になります。購入時には、約 20 分間で自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。

設定についてはこの項の「電源の管理のプロパティで設定する」をご覧ください。

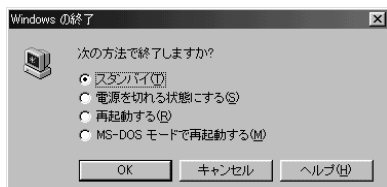
## Windows 98 終了時にスタンバイ状態にする

「Windows の終了」ウィンドウで、スタンバイ状態にする手順です。

「スタート」ボタン 「Windows の終了」をクリック。  
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。



「スタンバイ」をクリック。



「OK」をクリック。  
スタンバイ状態になります。

## タイマー機能で指定した時間に自動的にスタンバイ状態にする

「Timer-NX」のタイマー機能を使うと、指定した時間にスタンバイ状態にすることができます。

参照



- ・「Timer-NX」 『パソコン探検箱』「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」
- ・「Timer-NX」(TVモデルの場合) 『TVモデルガイド』PART3の「タイマー機能 Timer-NX」

## スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰する

スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰するには、次の5つの方法があります。

- ・キーボードの【スリープ】ボタンを使って復帰する（電源ランプがオレンジ色に点灯しているとき）
- ・マウスやキーボードを操作して復帰する
- ・「Timer-NX」のタイマー機能で指定した時間に自動的に復帰する
- ・電話やFAXを受信したときに自動的に復帰する（リング機能）
- ・タスク スケジューラで指定した時間に自動的に復帰する

### キーボードの【スリープ】ボタンを使って復帰する

本体の電源ランプがオレンジ色に点灯しているときに、キーボードの【スリープ】ボタンを押す。


### マウスやキーボードを操作して復帰する

スタンバイ状態のときに、マウスを動かすか、キーボードのキーをどれか押す。

### タイマー機能で指定した時間に自動的に復帰する

「Timer-NX」のタイマー機能を使って、指定した時刻に、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

 参照

- ・タイマー機能  「パソコン探検箱」添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」
- ・タイマー機能(TVモデルの場合) 『TVモデルガイド』PART3の「タイマー機能 Timer-NX」


### 電話やFAXを受信したときに自動的に復帰する（リング機能）

電話やFAXを受信すると、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

#### ■ Timer-NX で設定

「Timer-NX」のリング機能を使用して、電話やFAXを受信したときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

 参照

- ・「Timer-NX」  「パソコン探検箱」添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」
- ・「Timer-NX」(TVモデルの場合) 『TVモデルガイド』PART3の「タイマー機能 Timer-NX」

### タスク スケジューラで指定した時間に自動的に復帰する

タスク スケジューラ（「マイコンピュータ」-「タスク」）を使うと、指定した時刻に自動的に電源が入っている状態に復帰し、指定したアプリケーションを起動することができます。

 参照

タスク スケジューラの使い方 Windows 98 のヘルプ

## 電源の管理のプロパティで 設定する

「電源の管理 プロパティ」では、省電力の設定ができます。

### 「電源の管理 プロパティ」ウィンドウの表示方法

「コントロールパネル」を起動する。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)



この画面は機種によって異なる場合があります。

「電源の管理」をダブルクリック。  
「電源の管理 プロパティ」ウィンドウが表示されます。



### 「電源設定」タブのウィンドウでの設定

「電源設定」タブのウィンドウでは、スタンバイ状態になるまでの時間や、ディスプレイ、ハードディスクの電源を切るまでの時間を設定したり、電源設定を新しく作成して、保存することができます。

### ■ 電源の設定

次の設定ができます。設定が終了したら、「OK」をクリックしてください。

#### ✓チェック!!

自動的にスタンバイ状態にならないようにするには、「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

#### ・システムスタンバイ

▼をクリックして、時間を設定します。

時間を設定すると、設定時間経過後に本機がスタンバイ状態になり、消費電力を節約することができます。

購入時の状態では「20分後」に設定されています。

#### ・モニタの電源を切る

▼をクリックして、時間を設定します。

時間を設定すると、設定時間経過後にディスプレイの省電力機能が働き、画面が暗くなります(セットのディスプレイの場合、ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯します)。

購入時の状態では「なし」に設定されています。

#### ・ハードディスクの電源を切る

▼をクリックして、時間を設定します。

時間を設定すると、設定時間経過後にハードディスクのモータが停止します。

購入時の状態では「30分後」に設定されています。

#### ✓チェック!!

10分未満に設定した場合、設定した時間になっても、ハードディスクのモータが停止しないことがあります。

### ■ 設定するときの注意

ACPIモード時に、「システムスタンバイ」の設定時間を「モニタの電源を切る」の設定時間よりも長くした場合、「システムスタンバイ」は「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間となります。

下記のような設定がされている場合、実際にシステムスタンバイが実行されるのは「モニタの電源を切る」の20分後である35分後となります。

システムスタンバイ：20分後  
モニタの電源を切る：15分後

20分後にシステムスタンバイするように設定する場合は、下記の例のように設定してください。

例 1 :

システムスタンバイ : 15 分後

モニタの電源を切る : 5 分後

例 2 :

システムスタンバイ : 20 分後

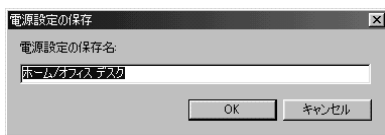
モニタの電源を切る : なし

#### ■ 新しい電源設定の作成

次の手順で、新しい電源設定を作成することができます。

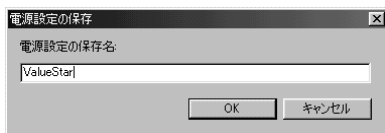
「電源設定」タブのウィンドウで「名前を付けて保存」をクリック。

次のウィンドウが表示されます。



新しい名前を付ける。

(例「ValueStar」)



「OK」をクリック。

新しい電源設定が作成されます。



必要に応じて、各電源の設定を行う。

設定が終了したら「OK」をクリック。

#### ✓チェック!

購入時の状態では、「ホーム / オフィスデスク」に設定されています。この設定では、キーボードやマウスに触れない状態が 20 分以上続くと、スタンバイ状態になり、電源ランプがオレンジ色に点灯します。

## スタンバイ状態にするときの注意

スタンバイ状態にするときには、次のような注意が必要です。これを怠ると、スタンバイ状態にする前の内容が失われたり、スタンバイ状態にする前の内容が復元できないこともあります。

#### ■ スタンバイ状態にできないとき

使用するアプリケーションソフトによっては、スタンバイ状態からの復帰ができなかったり、アプリケーションソフトが正常に動作しないことがあります。このようなアプリケーションの使用時には、スタンバイ状態にしないでください。また、使用する周辺機器によっては、スタンバイ状態から復帰できないことがあります。

#### ■ スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき

スタンバイ状態にするときに次のことが起きると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。

- ・電源ケーブルが本体や AC コンセントからはずれたとき
- ・停電が起きたとき
- ・電源スイッチを約 4 秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windows が正しく終了されませんでした...」と表示され、スキャンディスクが実行されます。画面の指示にしたがってください。

#### ■ スタンバイ状態にする前の内容の復元が保証されない場合

次のような場合は、スタンバイ状態にする前の内容は保証されません。

- ・スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中にフロッピーディスクを入れ替えたとき
- ・スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中に CD-ROM や、DVD-ROM を入れ替えたとき
- ・スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中に本機の環境を変更したとき
- ・スタンバイ状態のときに本機の機器構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にしても、スタンバイ状態から復帰後の内容は保証されません。

- ・Windows の起動中または終了処理中のとき
- ・プリンタへ出力中のとき
- ・モデムなどを使って通信中のとき
- ・サウンド機能により音声を再生しているとき
- ・フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・CD-ROM や DVD-ROM を読み取り中のとき
- ・スタンバイに対応していない周辺機器、拡張ボードを取り付けたとき

■ スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されない場合  
次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・アプリケーションソフトが動作しない
- ・キーボードの【スリープ】ボタンを押すまたは、キーボードやマウスを操作しても、スタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションソフトを使用中には、スタンバイ状態にしないでください。万一、キーボードの【スリープ】ボタンを押したり、キーボードやマウスを操作してもスタンバイ状態から復帰できなかったときには、電源スイッチを約 4 秒以上、押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOS セットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

■ その他の注意

- ・画面が暗くなっても本体の電源ランプがオレンジ色に点灯していないときは、キーボードの【スリープ】ボタンを押しても復帰しません。
- ・通信ソフトを使用中の場合は、必ず通信を終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・CD-ROM ドライブにフォト CD が入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に多少の時間がかかることがあります。
- ・CD の再生中にスタンバイ状態にした場合、CD は再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前に CD の再生を止めてください。

・「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているときや、「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」実行中は、スタンバイ状態にしないでください。これらの画面を表示しているときに、スタンバイ状態になると、復帰した後、キーボードとマウスを使用することができなくなります。

・「Windows Media Player」でビデオ CD や MPEG データを再生しているときは、スタンバイ状態にできない場合があります。

・「SmartVoice」起動中は、スタンバイ状態にすることはできません。



# サウンド機能

本機は、PCM録音/再生機能、MIDI音源機能を備えています。

## 概要

### PCM録音/再生機能

PCM録音/再生機能は、マイクロホンから入力した音声などのアナログ信号をデジタル信号に変換しているような処理を加える機能です。人の音声などを、原音に近い音で再現できます。

インストールされているWindowsのサウンド機能を使えば、ソフトに含まれる音声データを再生したり、入力した音声を編集したり、文書などに貼り付けたりできます。

### MIDI

MIDIは、Musical Instruments Digital Interfaceの頭文字をとったもので、楽器同士を接続して、演奏情報や音色情報をやり取りするための規格です。

MIDIでは、音程や音色などの演奏に関する情報のほか、設定を切り替えるための情報、テンポをコントロールするための情報などのさまざまな情報をやり取りできるので、表現力豊かな演奏ができます。

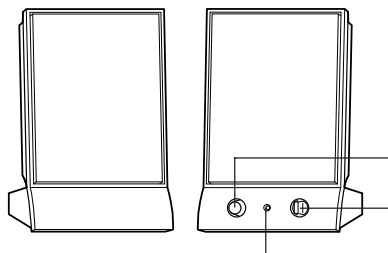
## スピーカー

本機には外付けスピーカーが添付されています。本機の音量を調節する場合は、外付けスピーカーのボリュームつまみを使います。右に回すと大きく、左にまわすと小さくなります(本体前面のボリュームつまみは、ヘッドホンの音量調節に使います)。

### 外付けスピーカーの各部の名称

前面

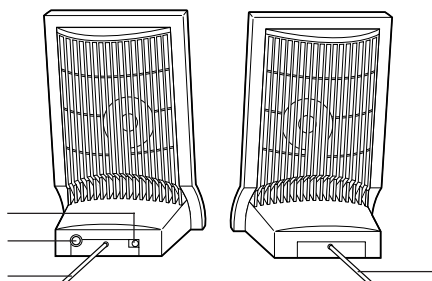
スピーカ(L)    スピーカ(R)



電源スイッチやボリュームがついている方がスピーカ(R)です。

背面

スピーカ(R)    スピーカ(L)



電源スイッチ(ⓘ)

スピーカの電源を入れたり切ったりするスイッチです。1回押すと電源が入り、もう1回押すと電源が切れます。

音量ボリューム(🔊)

スピーカの音量を調節します。右に回すと大きく、左に回すと小さくなります。

電源ランプ

スピーカの電源が入っているときは緑色に点灯します。

スピーカケーブル

本体とスピーカを接続するためのケーブルです。

出力コネクタ(🔊)

左右のスピーカを接続するためのコネクタです。

電源コネクタ(DC IN6V)

添付のACアダプタを接続するためのコネクタです。

スピーカケーブル

左右のスピーカを接続するためのケーブルです。スピーカ(R)の出力コネクタ(🔊)に接続します。

## ボリュームコントロール

「ボリュームコントロール」ウィンドウは、内蔵音源を通じて再生される音声の量や、内蔵音源を通じて録音するときの入力レベルをコントロールすることができます。

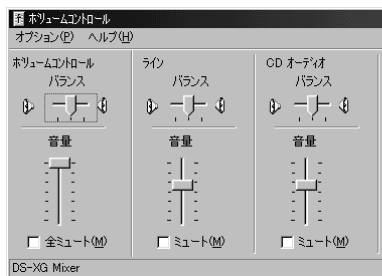
各音源の音量が小さい場合や、音量が大き過ぎて音切れ(音が途切れる現象)があるときに調整してください。

### 「ボリュームコントロール」ウィンドウの表示方法

「ボリュームコントロール」ウィンドウの表示方法は次の通りです。

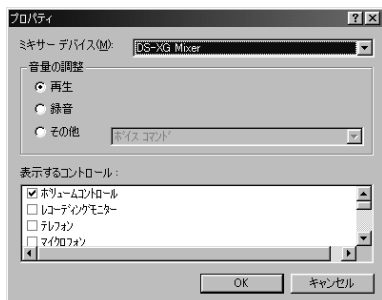
「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「エンターテインメント」 「ボリュームコントロール」をクリック。

「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。



### 「プロパティ」ウィンドウ

「ボリュームコントロール」ウィンドウのメニューバーから「オプション」「プロパティ」をクリックすると、「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

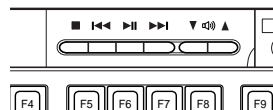


「プロパティ」ウィンドウでは、「音量の調整」欄で、「再生」「録音」「その他」のどれが選ばれているかにより、表示される項目を切り替えることができます。表示できる項目と、各項目の説明を一覧で示すと次のようになります。

項目名	音量調節の種類			説明
	再生	録音	その他	
ボリュームコントロール				スピーカから出力される全ての音量を調整します。
レコーディングモニター				録音時の音声をスピーカから出力する際の音量を調整します(録音の音声は、音量の調整の「録音」で選択しているもので調整します)。
テレフォン				本機では使用できません。
マイクアフォン				マイクアフォン端子に接続されているマイクアフォンから入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
ライン				LINE IN端子に接続されているオーディオ機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
CD オーディオ				CDから出力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
ステレオアウト				スピーカから出力される全ての音声を録音するときの音量を調整します。
Wave アウト				WAVEデータなどのPCM音源を使用して出力されるの音量を調整します。
Midi アウト				MIDIデータなどのMIDI音源を使用して出力されるの音量を調整します。
3Dワイド				3Dワイドステレオの効果の広がりを設定します。
モノ アウト				本機では使用できません。

### CD/DVD 制御ボタンでの音量調整

キーボードのCD/DVD制御ボタンの「ボリュームアップボタン」、「ボリュームダウンボタン」を使って、音量が調整できます。【▲】を押すと音量が大きくなり、【▼】を押すと小さくなります。



### チェック!!


外付けスピーカのボリュームつまみが最小になっていると、【▲】を押しても音量が大きくなりません。

### 参照

CD/DVD制御ボタン このPARTの「ワンタッチスタートボタン」

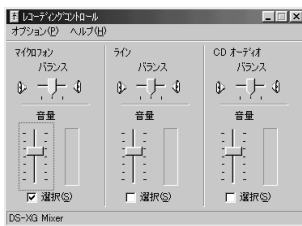
## マイクロホンの音量調整

別売のマイクロホンを接続したときは、次のように、音量を調節します。


「音量の調整」欄の「録音」をクリックしてにする。  
「表示するコントロール」欄の項目も変わります。



「OK」をクリック。



「マイクアフォン」の音量つまみの部分をドラッグしてボリュームを調節する。

調節が終わったら、をクリックして、このウィンドウを閉じる。


## ハウリング抑止

接続するマイクロホンによっては、マイクロホンのボリュームを最小にしてもハウリングを起こすことがあります。このようなときは、次の手順でマイクロホンのボリュームを調整してください。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「エンターテイメント」 「ボリュームコントロール」 をクリック。

「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。メニューバーの「オプション」 「プロパティ」 をクリック。

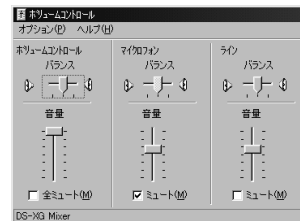


「再生」をクリックしてにする。

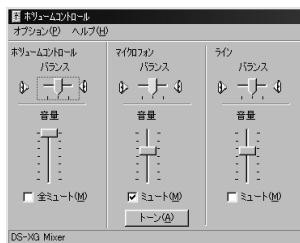
「マイクアフォン」のチェックボックスをチェックする。



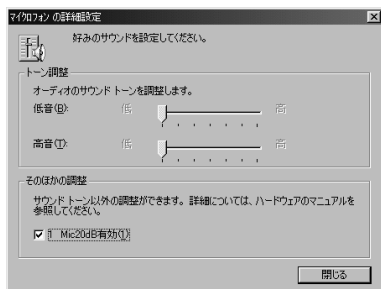
「OK」をクリック。



「オプション」「トーン調整」をクリック。  
「トーン」ボタンが追加表示されます。



「トーン」をクリック。



「そのほかの調整」の「Mic20dB 有効」のチェックボックスのチェックを外す。  
なお、本機では「トーン調整」は使えません。

設定が終わったら、「閉じる」をクリック。  
「ボリュームコントロール」ウィンドウの画面に戻ります。

をクリックして、ウィンドウを閉じる。  
トーン調整が完了です。

## ヤマハ DS-XG 設定

シンセサイザーや3Dサウンドの設定をすることができます。

コントロールパネルを開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「ヤマハ DS-XG 設定」アイコンをダブルクリック。



詳しい使い方は、ヘルプを参照してください。

## サウンド全般についての注意

### スピーカを使用するときの注意

#### ⚠ 注意



感電注意

添付のスピーカ専用 AC アダプタを使用してください。



発火注意

添付以外の AC アダプタを使用すると、感電、発煙、発火の原因となります。



発火注意

AC アダプタのケーブルのつけ根部分を無理に折り曲げないでください。

壁に押しつけて曲がった状態など、ケーブルのつけ根部分を圧迫するような状態で使用すると、発煙、火災の原因となります。

## ボリュームコントロールを使用するときの注意

- ・ディスプレイの解像度が640×480ドットなどの低解像度の場合、「ボリュームコントロール」ですべての音源コントロールが表示されない、または右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。

この場合には、ディスプレイの解像度を変更するか、「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要なコントロールが表示されるよう変更してください。

なお、「ボリュームコントロール」の表示が一部欠けた状態で解像度の切り替えを行っても、「ボリュームコントロール」の表示は変更されません。一度、「ボリュームコントロール」を終了し、もう一度「ボリュームコントロール」を起動してください。

- ・CDまたはTVの音を録音し、そのデータを再生したとき、音が小さく感じられる場合があります。これはCD/TVの録音の音量は、CD/TVの出力ボリュームの大きさに依存するためです。したがって、CDまたはTVの録音を行うときにはあらかじめ「ボリュームコントロール」を使用し、CD/TVの音量を大きくしておいてください。

## サウンド機能を使用するときの注意

本機では、本体内蔵のサウンド機能や周辺機器を増設して、Windows 98上でマルチメディア機能を利用することができます。

利用できるマルチメディアの各機能については次の通りです。

---

ウェブフォーム データの録音・再生	MIDIデータの演奏	MIDIデータの記録
----------------------	------------	------------

---

×

: 本体内蔵のサウンド機能で利用することができます。

## FAX モデムボード

本機に標準で内蔵されている FAX モデムボードには、ファクシミリ通信機能、データ通信機能などがあります。また市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。



参照  
AT コマンドについて 付録の「AT コマンド」

### 概要

ここでは、FAX モデムボードの機能を説明します。

#### データ通信機能

本機にセットアップ/添付されている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、インターネットやパソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

- ・Microsoft Windows 98 のハイパーターミナル
- ・BIGLOBE インターネット接続ツール
- ・BIGLOBE インターネット無料体験
- ・BIGLOBE 電話で入会ナビ
- ・AOL
- ・ニフティサーブでインターネット
- ・ODN(Open Data Network)
- ・DION かんたん設定ツール
- ・インターネットエクスプローラ
- ・JustView 3.0(一太郎モデルのみ)

その他のソフトウェアでは正常に動作しない可能性があります。

#### FAX 通信機能

本機で作成したワープロ文書などのデータをダイレクトに FAX に送信できます。また、本機で FAX を受信でき、効率的に FAX 送受信をサポートします。FAX モデムボードの FAX 通信機能は、本機にインストールされている次の FAX ソフトウェアでの動作を保証しています。

- ・FAX-NX

その他の FAX ソフトウェアでは正常に動作しない可能性があります。

#### ■ FAX テスト交信サービス

「FAX-NX」を使用して、FAX の送受信のテストができます。



参照  
FAX-NX の使い方 「パソコン探検箱」-「添付ソフトの使い方」-「FAX-NX」

#### ■ 最高 56,000bps までの各種通信

電話回線を利用して最高 56,000bps の全二重データ通信と最高 14,400bps の半二重 FAX 通信ができます。

送受信： 300/1,200/2,400/4,800/7,200  
9,600/12,000/14,400/16,800  
19,200/21,600/24,000/26,400  
28,800/31,200/33,600bps

受信のみ： 28,000/29,333/30,666/32,000  
33,333/34,000/34,666/36,000  
37,333/38,000/38,666/40,000  
41,333/42,000/42,666/44,000  
45,333/46,000/46,666/48,000  
49,333/50,000/50,666/52,000  
53,333/54,000/54,666  
56,000bps

FAX： 300/2,400/4,800/7,200/  
9,600/12,000/14,400bps

#### ■ リング機能

本機がスタンバイ状態のときに、電話や FAX を受信すると、自動的に本機をスタンバイ状態から復帰させる機能があります。

リング機能を使うには「Timer-NX」での設定または「FAX-NX」での自動受信の設定が必要です。



参照  
Timer-NX の使い方 「パソコン探検箱」-「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」



参照  
FAX-NX の使い方 「パソコン探検箱」-「添付ソフトの使い方」-「FAX-NX」

## FAX モデムボードを 使用する時の注意

### ✓チェック!

標準で取り付けられている FAX モデムボードは、ご購入時に取り付けられていたスロットで使用してください。

### 適合電話回線について

FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、FAX モデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

### 送信レベルについての注意

通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧ください。

### 通信するときの注意

- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。キャッチホンのサービスを利用すれば、通信が切れることはありません。キャッチホンについてはNTTにご相談ください。
- ・FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です( 付録の「AT コマンド」)。加入電話回線のダイヤル方法がトーンかパルスかわからないときは、NTTに確認してください。
- ・コードレスホンや親子電話、構内回線など、公衆回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。
- ・FAXモデムボードはFAX通信網には対応していません。

- ・FAXモデムボードに接続できる回線は2線式のみです。
- ・本体にアース線を接続していない場合や、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- ・FAXモデムボードに接続できる電話機は2線式の内線用のみです。電話機の種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。また、電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機をパソコン本体から離れたところに設置している場合は、送信 / 受信の際に外付け電話機が使用されていないことを確認してください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア (RTS/CTS) 購入時の設定) に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- ・FAXを送信する相手が音声応答機能付きのFAXの場合、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。この場合は、外付け電話機で相手からの音声が終わったのを確認してから送信を始めてください。
- ・回線の状態によっては希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・K56flex およびITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14,400bpsでFAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を9,600bps以下にしてください。
- ・海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。

### ■ポート番号を変更する

購入時の状態では、内蔵FAXモデムボードのポート番号はCOM2になっています。ポート番号を変更するときは次の手順で変更してください。

### ✓チェック!

「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」の場合は、「アドバンスモード」に変更してから次の手順を行ってください。

### 📖参照

モードの変更 PART13の「Windows 98の利用環境の変更 < CyberTrio-NX >」

起動している通信アプリケーションをすべて終了する。

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「システム」をダブルクリック。  
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「デバイスマネージャ」タブをクリック。  
「デバイスマネージャ」タブのウィンドウが表示されま  
す。

「モデム」をダブルクリックし、表示された「NEC Fax  
Modem 56K Data+Fax( BUQD )」をクリック(反  
転表示)。

「プロパティ」をクリック。  
「NEC Fax Modem 56K Data+Fax( BUQD )」のプ  
ロパティ」ウィンドウが表示されます。

「リソース」タブをクリック。

「自動設定を使う」のチェックボックスのチェックを  
はずす。

「リソースの種類」にある「I/O の範囲」をダブルク  
リック。  
「I/O の範囲」は 2 項目あります。上の方( 8 バイト使  
用)を選択してください。

値を変更する。

COM1 の場合	: 03F8-03FF
COM2 の場合	: 02F8-02FF
COM3 の場合	: 03E8-03EF
COM4 の場合	: 02E8-02EF

リソースが競合していないことを確認してください。  
競合している場合、そのポートへの変更はできません。

### **チェック!**

赤外線デバイスを使用している場合、指定したポート  
への変更ができない場合があります。

「OK」をクリック。  
「NEC Fax Modem 56K Data+Fax( BUQD )」のプ  
ロパティ」ウィンドウに戻ります。

「OK」をクリック。  
「変更不可の環境設定の作成」ウィンドウが表示されま  
す。

「はい」をクリック。  
しばらくすると、「システムのプロパティ」ウィンドウ  
に戻ります。

「閉じる」をクリック。

Windows を再起動する。  
コンピュータの再起動が始まります。  
以上で、ポート番号の変更は終了です。



# CD-ROM などの取り扱い

DVD-ROMモデルではDVD-ROMドライブが、CD-ROMモデルではCD-ROMドライブが標準で装備されています。各種ドライブで使用できるメディアの取り扱いについて説明します。

## 概要

・CD-ROMドライブ( CD-ROMモデルの場合 )  
本機には、CD-ROMドライブが標準で搭載されています。

本機のCD-ROMドライブでは、CD-ROMやCD-Rメディア、音楽CD、ビデオCDなどを読み取ることができます。CD-ROMは、1枚で大きな記憶容量を持ち、電子辞典などのような大量のデータを扱うことができます。

・DVD-ROMドライブ( DVD-ROMモデルの場合 )  
本機には、DVD-ROMドライブが標準で搭載されています。

本機のDVD-ROMドライブでは、CD-ROMやDVD-ROM( DVD VIDEOディスク )、CD-Rメディア、音楽CD、ビデオCDなどを読み取ることができます。CD-ROMは、1枚で大きな記憶容量を持ち、電子辞典などのような大量のデータを扱うことができます。DVD-ROMは、CD-ROMよりさらに多くの記憶容量があります。

## 各種メディアの取り扱いの注意

### ✓チェック!!

本体を縦置きで設置した場合、8cmCD( CDシングル )は使用できません。また、市販の8cmCDアダプタを使用した場合、アダプタが外れ、故障の原因になりますので使用しないでください。

## ■ ディスクの取り扱いの注意

ディスクを壊さないよう、次の点に注意して大切に取扱いしてください。

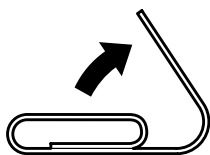
- ・信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- ・ケースの中央を押しながら取り出してください。
- ・文字の書かれている面を左にして、ディスクトレイにていねいにセットしてください。
- ・ディスクの上にものを載せたり曲げたりしないでください。
- ・ラベルなどを貼らないでください。
- ・キズをつけたり字などを書いたりしないでください。
- ・落として強い衝撃を与えたり、キズをつけたりしないでください。
- ・指紋やホコリが付いたときは、乾いたやわらかい布で、内側から外側に向けて拭いてください。
- ・清掃の際は、CD専用のクリーナーを使用してください。
- ・レコード用のスプレー、クリーナー、ベンジン、シンナーなどは、使用しないでください。
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。
- ・直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くなど温度が高くなる場所に置かないでください。
- ・使用後は収納ケースへ入れるようにしてください。

## 非常時のメディアの取り出し方

停電やアプリケーションの異常な動作などにより、CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブからCD-ROMなどのメディアが取り出せなくなったときに、強制的にメディアを取り出す方法です。

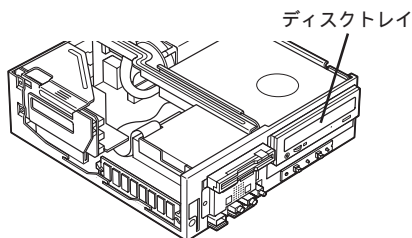
### 取り出す準備

太さが1.3mm程度、まっすぐな部分の長さが45mm以上(指でつまむ部分を除く)の針金を用意してください。  
大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。



### 取り出す方法

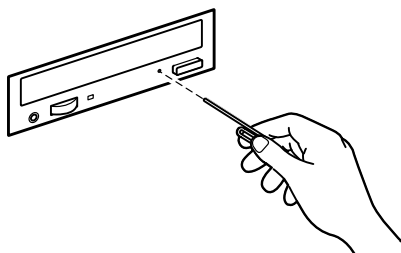
p.56の手順でルーフカバーを外す。



#### 参照

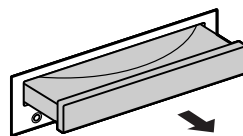
ルーフカバーの外し方 PART5の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

ディスクトレイの下の直径2mm程度の穴に、上記の「取り出す準備」で用意した針金を差し込み、強く押し込む。

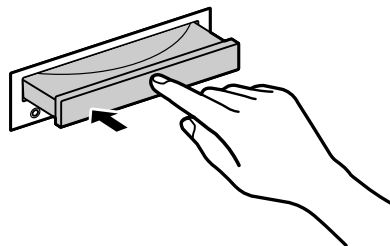


ディスクトレイが15mmほど飛び出します。

ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す。



ディスクトレイの前面を、ディスクトレイが元通りに収納されるまで押し込む。





## 13

## パソコンを守るアプリケーション

本機には、さまざまなトラブルからパソコンを守るために、以下のアプリケーションが添付されています。

Windows 98 の利用環境の変更 CyberTrio-NX

Windows 98 の動作の監視 CyberWarner-NX

ウイルスの検査と駆除 VirusScan

データのバックアップを取る バックアップ-NX

ハードディスクの検査・修復 スキャンディスク

ハードディスクのデータを整理 デフラグ

ハードディスクのデータのスリム化 ディスククリーンアップ

システムファイルの検査・修復 システムファイルチェッカー


定期的にメンテナンスをする メンテナンスウィザード

# Windows 98 の利用環境の 変更 CyberTrio-NX

このアプリケーションでは、誤操作による設定変更を防ぐため、利用者のレベルに合わせてモードを変更できます。

## 概要

「CyberTrio-NX」は、Windows 98 の環境を利用者のレベルに合わせて「ベーシックモード」「キッズモード」「アドバンストモード」の3つのモードに切り替えることができます。

購入時は「ベーシックモード」に設定されています(タスクバー右側のが黄色になっています)。「ベーシックモード」はシステムに影響を与える機能を制限して、本機のハードウェアやソフトウェアへの予期しないダメージを防ぎます。通常は、このモードで本機をお使いください。

## モードの種類

### ベーシックモード

システムへ影響を与える機能の動作を制限し、本機やアプリケーションへの予期しないダメージを未然に防ぎます。

### キッズモード

「マイプログラム」または「キッズモードのデスクトップ」に登録しているアプリケーションのみを使用できます。例えば、子どもが操作してもよいアプリケーションだけを登録して使えるようにすることができます。また、子どもが「キッズモード」を簡単にほかのモードへ変更できないようにパスワードを設定することもできます。保護者の方が、子ども用に使用するアプリケーションを「キッズモードのデスクトップ」に登録してあげてください。

## 参照


パスワードの設定 この項の「キッズモード」  
アドバンストモード

Windows 98のフルアクセスが可能です。利用環境を限定しません。システムの設定が必要な場合は、「アドバンストモード」に切り替えてから設定を行ってください。

## チェック!!

購入時は「ベーシックモード」に設定されています。デバイスマネージャで周辺機器の設定をしたり、プリンタの削除をしたり、システムの設定が必要になったときは、「アドバンストモード」に切り替えてください。

## モードの変更

「CyberTrio-NX」のモードは次のようにタスクバー右側のの色で確かめることができます。

利用する環境に応じてモードを変更してお使いください。

「キッズモード」 : 緑色  
「ベーシックモード」 : 黄色  
「アドバンストモード」 : 赤色

## チェック!!

「CyberTrio-NX」のモードを変更する前には、ほかの起動中のアプリケーションを必ず終了させてください。また、編集中の必要なデータは保存してください。

「ベーシックモード」または「アドバンストモード」からほかのモードへ変更する

「スタート」ボタン 「プログラム」 「CyberTrio-NX」を選択し、表示されるメニューから変更するモードをクリック。

- ・「Go to キッズモード」 : (キッズモードへ変更する場合)
- ・「Go to ベーシックモード」 : (ベーシックモードへ変更する場合)
- ・「Go to アドバンストモード」 : (アドバンストモードへ変更する場合)

「ベーシックモード」または「アドバンストモード」のときは「ランチ-NX」からも変更することができます。

「ランチ-NX」「ユーティリティ」「CyberTrio-NX(利用者モード)」をクリック。



変更するモードをクリック。

### 「キッズモード」から他のモードへ変更する

「スタート」ボタン「プログラム」「CyberTrio-NX」「Go to ベーシックモード」または「Go to アドバンスドモード」をクリック  
パスワードを設定しているときは「パスワード入力」ウィンドウが表示されます。パスワードを入力して、「OK」をクリックしてください。

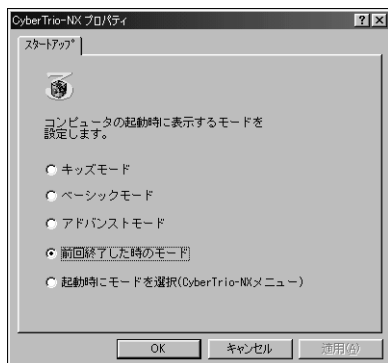
#### 参照

パスワードを忘れたときは 次ページの「キッズモード」

### 起動時のモードの設定

本機の電源を入れたときに起動するモードを設定します。購入時は「前回終了した時のモード」が設定されています。

「スタート」ボタン「プログラム」「CyberTrio-NX」「CyberTrio-NX セットアップ」をクリック。



「前回終了した時のモード」では、前回に本機の電源を切ったときに使われていたモードで起動します。「起動時にモードを選択」を選ぶと、本機の電源を入れて起動したときに、「CyberTrio-NX」メニューが表示され、モードを選ぶことができます。

### モードの変更時の注意

Windows 98で「ユーザー別の設定」を行っている場合、「CyberTrio-NX」のモードを変更することはできません。「CyberTrio-NX」のモードを変更する場合は、次の手順で「ユーザー別の設定」を解除してください。

「コントロールパネル」を起動する。  
(「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」)

「パスワード」をダブルクリック。  
「パスワードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「ユーザー別の設定」タブをクリック。

「このコンピュータでは、すべてのユーザーが同じ基本設定とデスクトップ設定を使う」をクリック。

「OK」をクリック。  
再起動を促すメッセージが表示されます。

「はい」をクリック。

## ベーシックモード

「ベーシックモード」では、「アドバンスドモード」に比べて、ユーザーがシステム環境を誤って変更しないように、システムへ影響を与える動作を制限し、本機やアプリケーションへの予期しないダメージを未然に防ぐことを目的としています。通常は、このモードを使うことをおすすめします。

### ベーシックモードでの制約

「ベーシックモード」では次の点で制約があります。これらの機能を使う場合は、「アドバンスドモード」に変更してください。

#### 参照

モードの変更 前のページの「モードの変更」

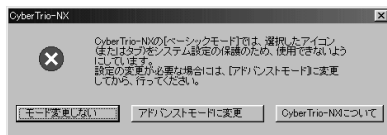
## ■ コントロールパネル

「コントロールパネル」に関して次のような制約があります。

使用できないアイコン(アイコンを起動しようとする  
とメッセージが表示されます)

- ・「ネットワーク」
- ・「マルチメディア」
- ・「システム」

これらのアイコンを起動しようすると、次の画面が表示されます。



この画面のボタンをクリックすると、次のようになります。

- ・「モード変更しない」  
「ベーシックモード」に戻ります。
- ・「アドバンスモードに変更」  
自動的に「アドバンスモード」に変更します。
- ・「CyberTrio-NX について」  
ヘルプが表示されます。

「ベーシックモード」では使用できないアイコンを起動する場合は、「アドバンスモードに変更」をクリックしてください。「アドバンスモード」に変更したら、その後、「コントロールパネル」から、必要なアイコンを起動してください。

また、「ベーシックモード」では「プリンタ」で「プリンタの削除」はできません。

## ■ タスクバーの設定

変更できません。(再起動すると元の設定に戻ります。)

## ■ レジストリエディタとシステムエディタ

使用できません。

## ■ CyberWarner-NX の警告モード

起動時に「警告あり」のモードになります。起動後に、「警告なし」のモードへの変更は可能です。

### 📖 参照

「CyberWarner-NX」 このPARTの「Windows 98 の動作の監視 CyberWarner-NX 」

## ベーシックモードでの注意

「ベーシックモード」では、次の点に注意してください。

### ■ 設定変更時の注意

「ベーシックモード」では、タスクバーの設定は、ご購入時の状態で使用してください。タスクバーの設定を変更して使用する場合は、「アドバンスモード」で使用してください。

### ■ Safe モードで起動した場合の注意

本機に問題があり、Windows 98がSafeモードで起動した場合、「CyberTrio-NX」が「ベーシックモード」になっていると、ハードウェアの設定を変更できません。このような場合は、次の手順で設定の変更を行ってください。

「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」をクリック。

「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されず。

「名前」に次のように入力する。

```
c:¥cybertrio¥sascript c:¥cybertrio¥script¥normal.sas
```

「OK」をクリック。

これでハードウェアの設定を変更することができます。「デバイスマネージャ」などで、変更が必要なハードウェアの設定を行ってください。



## キッズモード

本機を、子どもといっしょに使いたいときは、子どもが使えるアプリケーションを限定し、子ども専用のパソコンとして設定できます。

使いたいアプリケーションの設定や、「キッズモード」の動作設定などは、「ベーシックモード」または「アドバンスモード」からできます。

### ✔️ チェック!!

「キッズモード」では次の制約があります。

- ・「スタート」メニューから選べるのは「Windowsの終了」「ヘルプ」「プログラム」だけです。
- ・マウスの右クリックは動作しません。
- ・タスクバーには  (CyberTrio-NX) と  (ボリュームコントロール) のインジケータだけが表示されます。

・「CyberWarner-NX」が起動しているときは、「キッズモード」は「警告あり」のモードで起動されます。このとき、アイコンは表示されません。

## 使いたいアプリケーションの設定

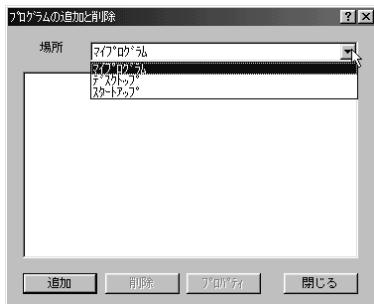
「キッズモード」で使用できるアプリケーションは、「ベーシックモード」または「アドバンスモード」のときに次の手順で設定します。保護者の方が、設定してあげてください。

### ✓チェック!!

購入時には「デスクトップ」に「CyberTrio-NXメニュー」が追加されています。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「CyberTrio-NX」 「キッズモードの設定」 「プログラムの追加と削除」をクリック。

アプリケーションの追加先に「マイプログラム」または「デスクトップ」 「スタートアップ」を指定する。



「追加」をクリック。  
メニューが表示されます。

- ・アプリケーションのショートカットを追加するときは、「プログラム」メニューを選んでショートカットを選んでください。
- ・アプリケーションのファイル名を追加するときは、「参照」メニューを選んで、「開く」ウィンドウの中でファイル名を選んでください。
- ・ファイル名を変更するには、「プロパティ」をクリックします。
- ・アプリケーションを削除するときは、「削除」をクリックします。
- ・アプリケーションの追加先を「スタートアップ」に設定するとキッズモードでパソコンを起動したとき、自動的に、追加したアプリケーションを起動することができます。

「閉じる」をクリック。

## キッズモードの動作設定

パスワード、デスクトップの背景、サウンドなどの設定ができます。

### ■ パスワードの設定

子どもが「キッズモード」からほかのモードに変更できないように、パスワードを設定します。パスワードは最大8文字までの英数字で、「ベーシックモード」または「アドバンスモード」から設定します。

### ✓チェック!!

購入時には、パスワードは設定されていません。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「CyberTrio-NX」 「キッズモードの設定」 「動作設定」をクリック。

「パスワードの設定」タブをクリック。



「パスワードを設定する」にチェックマークをつける。

「パスワード」にパスワードを入力する。

「パスワードの確認」にもう一度同じパスワードを入力する。

「OK」をクリック。

### ✓チェック!!

設定したパスワードを忘れたときは、次の「緊急用パスワード」を入力して、ほかのモードへ変更してから、パスワードをもう一度設定し直してください。

「緊急用パスワード」: 71709981



## ■ 背景の設定

「キッズモード」で使用する背景を設定します。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「CyberTrio-NX」 「キッズモードの設定」 「動作設定」をクリック。

「背景」タブをクリック。



「壁紙」リストボックスから、壁紙を選ぶ。

「OK」をクリック。

## ■ サウンドの設定

「キッズモード」で使用するサウンドを設定します。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「CyberTrio-NX」 「キッズモードの設定」 「動作設定」をクリック。

「キッズモード」ウィンドウが表示されます。

「サウンド」タブをクリック。



各イベントに対して、サウンドを指定する。

「OK」をクリック。

# Windows 98 の動作の監視 CyberWarner-NX

Windows 98の動作状況を監視し、動作に影響を与えるファイルを操作中に削除または変更しようとする警告を表示します。

## 概要

「CyberWarner-NX」は、Windows 98の動作に影響を与えるファイルを監視して、操作中にそれらのファイルを削除、または、変更しようとする、警告を発します。また、ログファイルを収集して、保守時に利用することもできます。

システムの変更を行うときや、アプリケーションの追加や削除、ファイルの削除、変更をするときに起動して使用してください。誤って操作することを防ぐことができます。

### ✓チェック!!

購入時には起動されていません。起動してから使用してください。

## 起動と終了

本機の購入時には、「CyberWarner-NX」は起動されていません。  
起動する手順は次の通りです。

「コントロールパネル」を開く。  
（「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」）

「CyberWarner-NX」をダブルクリック。


「スタートアップ」タブをクリック。

「開始」をクリック。

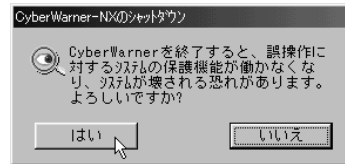
### オプションの説明

- ・「起動時に CyberWarner-NX を実行する」  
次回から、本機を起動するときは、「CyberWarner-NX」が常駐プログラムとして実行されます。  
購入時の状態では、チェックが外されています。
  - ・「タスクバーにCyberWarner-NXアイコンを表示する」  
「CyberWarner-NX」の実行中は、タスクバーに「CyberWarner-NX」アイコンを表示します。  
購入時の状態では、チェックが付けられています。
- 「OK」をクリック。

## 終了の方法

タスクバーの右隅にある (CyberWarner-NX) をクリック。

「終了」をクリック。  
次の画面が表示されます。

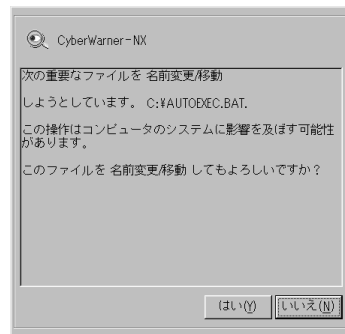


「はい」をクリック。

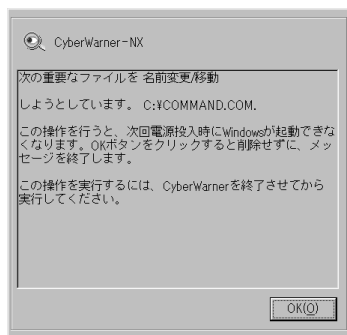
## 警告メッセージ

Windows 98の動作状況を監視し、動作に影響を与えるファイルに対して、削除または変更しようとする、警告メッセージを表示します。  
メッセージには操作の確認用メッセージと警告用メッセージがあります。

### 確認用メッセージ



## 警告用メッセージ



## 警告メッセージの表示 / 非表示

警告メッセージを表示するかどうかを設定できます。「警告なし」を選ぶと、警告メッセージを表示せずに処理されます。確認メッセージは警告メッセージの表示 / 非表示にかかわらず表示されます。

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「CyberWarner-NX」をダブルクリック。

「一般」タブをクリック。

「警告あり」または「警告なし」をクリック。

「OK」をクリック。

### ✓チェック!!

購入時は、「CyberTrio-NX」を「ベーシックモード」に設定すると、自動的に「警告あり」に、「アドバンスモード」にすると自動的に「警告なし」に設定されるようになっています。

## バックアップファイル

ログ対象ファイル进行操作(移動、削除、修正、名前の変更など)した場合、その操作前のファイルが保存されます。

## バックアップファイルの設定

バックアップファイルの収集に関する設定ができます。

コントロールパネルを開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「CyberWarner-NX」をダブルクリック。

「バックアップ」タブをクリック。  
スライダを移動するとバックアップファイルの最大サイズを変更することができます。



## バックアップ

ログと一緒に収集するバックアップデータを保存しておく場所の容量を設定できます。

## ログ対象ファイルの説明

### ■ ログファイルの説明

#### Critical File

次のファイルを変更したときは、変更の警告メッセージが表示され、変更しようとしたファイルが自動的に復旧(元の状態に戻る)されます。

```
¥command.com
¥io.sys
¥windows¥himem.sys
¥windows¥win.com
¥windows¥notepad.exe
¥windows¥regedit.exe
¥windows¥explorer.exe
¥windows¥system¥vmm32*.
¥windows¥command.com
¥windows¥system¥sysedit.exe
¥windows¥system¥iosubsys¥.mdp
¥windows¥system¥iosubsys¥.pdr
¥windows¥rundll.exe
¥windows¥rundll32.exe
¥windows¥progman.exe
¥windows¥control.exe
¥windows¥winfile.exe
¥windows¥taskman.exe
¥windows¥aztpnp.exe
¥windows¥winsock.dll
```

## Non Critical File

次のファイルを変更したときは、変更の確認メッセージが表示されます。

```
¥autoexec.bat
¥config.sys
¥msdos.sys
¥windows¥command¥exe
¥windows¥command¥com
¥windows¥command¥bin
¥windows¥command¥ini
¥windows¥command¥sys
¥windows¥system¥dll
¥windows¥system¥vxd
```

## Special

次のファイルを変更したときは、変更の確認メッセージが表示されます。また、他のアプリケーションをインストールしたときに次のファイルが変更されると、自動的に変更前の状態がログファイルに保存されます。

```
¥windows¥win.ini
¥windows¥system.ini
```

## ■ ファイルの削除についての注意

「CyberWarner-NX」で保護されているファイルを削除する場合、「ごみ箱」の中身がないにもかかわらず、中身があるように表示されることがあります。

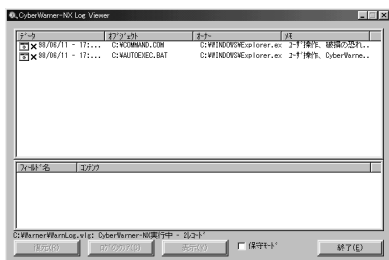
このような場合には、次の手順で「ごみ箱」の中身の状態と表示を合わせてください。

デスクトップの「ごみ箱」を右クリック。メニューが表示されます。

「ごみ箱のプロパティ」をクリック。  
「ごみ箱のプロパティ」が表示されます。

「OK」をクリック。

## ログファイルの表示



「CyberWarner-NX ログビューワ」を使って収集したログ情報を参照できます。

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「CyberWarner-NX」をダブルクリック。

「一般」タブをクリック。

「参照」をクリック。  
ログビューワが表示されます。

● **チェック!**

収集したログファイルは保守モードでのみ操作可能です。ログファイルの操作にはパスワードによる保護がかけられています。この保守モードは、お客様からの問い合わせの際に、NECの担当員から指示があったときのみ使用してください。通常は、使用しないでください。

ログビューワの上のリストには次のものが表示されます。

- ・データ  
記録した日時を表示します。
- ・オブジェクト  
ログを取得する対象ファイルを絶対パスで表示します。
- ・オーナー  
操作を行ったときに使用したアプリケーション名を表示します。
- ・メモ  
操作の状態、および、簡単な説明を表示します。操作の状態は、次のどちらかになります。
  - ・ユーザ操作
  - ・アプリケーション操作

上のリストで「データ」を選ばると、下のリストの「フィールド名」と「コンテンツ」には次の項目が表示されます。

- ・管理者  
「ファイル」と表示されます。
- ・復元する  
バックアップファイルが使用可能かどうかを表示します。
- ・復元されました  
ファイルが保守モードでの復元ボタンで、復元されたかどうかを表示します。
  - 1 : 復元されました
  - 0 : 復元されていません

- ・日付  
記録した日時を表示します。
- ・ソース  
ログを取得する対象ファイルを絶対パスで表示します。
- ・バックアップ  
バックアップファイルが存在する場合、絶対パスで表示します。
- ・オーナー  
操作を行ったときに使用したアプリケーション名を表示します。
- ・オペレーション  
変更や削除、操作の種類を表示します。
- ・メモ  
操作の状態、および、簡単な説明を表示します(前ページのリストのメモと同じです)。

# ウイルスの検査 と駆除

## VirusScan

VirusScan は、本機がウイルスに感染していないかを検査し、万一ウイルスが発見されたときは、駆除することができます。

### 概要

「VirusScan」は、ディスクのシステム、データ領域、メモリをチェックしてコンピュータウイルス(以降、ウイルス)に感染していないかを調べたり、万一、感染していた場合でも、ウイルスを駆除して、プログラムやシステム領域が元の状態になるまで修復することができます。

#### ✓チェック!!

購入時は起動されていません。起動してから使用してください。

ウイルスを検査するには、次の4通りの方法があります。

- ・VShield  
常にファイルのアクセスを監視し、ウイルスが感染しないように検査します。
- ・ScreenScan(購入時にはインストールされていません)  
スクリーンセーバの実行中に、ウイルスが感染していないかを検査します。
- ・VirusScan スケジューラ  
あらかじめ設定した時間に自動的にウイルスが感染していないかを検査します。
- ・VirusScan  
その場でウイルスが感染していないかを検査します。

#### ✓チェック!!

- ・ワクチンソフトのウイルス検索エンジンは順次更新されます。将来、検索エンジンを新しくしなければ、定期パターンアップだけでは発見できないウイルスが出現することが予測されます。

詳しくは、「スタート」「プログラム」「McAfee VirusScan」「必ずお読みください」をご覧ください。

- ・「VirusScan」でエマージェンシーディスクを作成する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクが2枚必要です。

### 常に検査する(VShield)

「VShield」はファイルのアクセス、コピー、実行などを常に監視し、リアルタイムでウイルスの感染を検査します。

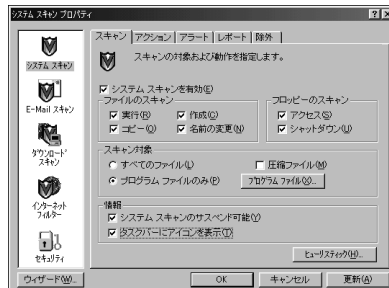
「VShield」は次の手順で設定します。

「スタート」ボタン「プログラム」「McAfee VirusScan」「McAfee VirusScan セントラル」をクリック。

「VShield」をクリック。

「システムスキャンプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「システム スキャンを有効」をにして「システム スキャンのサスペンド可能」「タスクバーにアイコンを表示」のチェックボックスをにする。



「OK」をクリック。

「今すぐに読み込みを行いますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

次回からの起動時には、自動的に「VShield」が常駐します。

#### ✓チェック!!

- ・「VShield」は常にファイルのアクセスを監視するために、アプリケーションの動作は多少、遅くなります。
- ・その他に「E-Mail スキャン」「ダウンロードスキャン」「インターネットフィルター」の設定ができます。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

## 定期的に検査する (VirusScan スケジューラ)

「VirusScan スケジューラ」では、1回、毎時、毎日、毎週、毎月など指定することにより、ウイルス感染の検査を自動的に実行します。

「VirusScan スケジューラ」は次の手順で設定します。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「McAfee VirusScan」 「McAfee VirusScan セントラル」をクリック。

「VirusScan セントラル」の画面が表示されます。

「スケジュール」をクリック。

「McAfee VirusScan スケジューラ」ウィンドウが表示されます。

「タスク」メニューの「新規のタスク」をクリック。

「プログラム」タブをクリック。

タスクの名前を入力する。

(例「定期検査」を入力)



「詳細設定」をクリック。

「McAfee VirusScan プロパティ」ウィンドウが表示されます。

「スキャン」タブをクリック。

「自動検査開始」にチェックマークをつける。



「OK」をクリック。

### ✓チェック!

「VirusScan の設定を変更するには、アドバンスドモードにする必要があります。」と表示されたときは、「OK」をクリックしてください。

「スケジュール」タブをクリック。

「スケジュール有効」にチェックマークをつける。



「実行タイミング」と「開始時間」を設定する。

「OK」をクリック。

設定した時間に「VirusScan」が実行されます。

### VirusScan スケジューラの常駐

指定した時間に、自動的に「VirusScan」を起動するためには、「VirusScan スケジューラ」が常駐していることが必要です。また、常駐している「VirusScan スケジューラ」を終了させると、「VirusScan」が自動的に起動されなくなりますので、注意してください。

## すぐに検査する (VirusScan)

外部からフロッピーディスクや文書ファイルを受け取ったときには、「VirusScan」を実行して受け取ったファイルがウイルスに感染していないことを確認してください。次の手順で実行してください。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「McAfee VirusScan」 「McAfee VirusScan セントラル」をクリック。

「スキャン」をクリック。

「ようこそ McAfee VirusScan へ!」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックします。



スキャンするドライブ、フォルダ、スキャン対象を設定する。

「スキャン開始」をクリック。

## ウイルスを駆除する

ウイルスが発見されたときは、「駆除」をクリックしてウイルスを駆除してください。

詳しい説明は、VirusScan セントラルのオンラインヘルプをご覧ください。

### 参照

コンピュータウイルスが検出されたときの対処方法  
『困ったときのQ&A』PART2の「コンピュータウイルスが発見されたら...」



# データのバックアップを取る <バックアップ-NX>

万一の事態に備えて、データは予備を取っておくこと(バックアップ)をおすすめします。バックアップ-NXを利用すると比較的簡単にバックアップをとることができます。

## 概要

ハードディスクに保存されているデータは、絶対安全なものではありません。パソコンに何か異常があった場合、Windows 98 そのものやアプリケーションなどはバックアップCD-ROMなどを使って復元できます。しかし、自分で作成したデータは自分でバックアップを取っておかないと復元できません。万一の事態に備え、バックアップ-NXを利用して定期的にバックアップを取っておくことをおすすめします。

## データのバックアップを取る

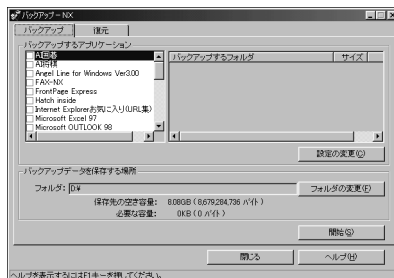
### ✓チェック!!

- ・バックアップ-NXを起動して表示されるアプリケーション一覧にないデータをバックアップする場合は、「一覧にないアプリケーションのデータをバックアップする」をご覧ください。
- ・TVモデルをお使いの場合は、「ビットキャストブラウザ/ADAMSナビ/モジモジ-NX」のデータをバックアップしても、モジモジ-NXの文字情報データはバックアップされません。

### 📖 参照

モジモジ-NXの文字情報データを保存する 「困ったときのQ&A」PART2の「アプリケーションを使っていたら...」

「バックアップ-NX」を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「バックアップ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「バックアップ-NX」)



「バックアップするアプリケーション」一覧から、データをバックアップするアプリケーションを選ぶ。アプリケーションのデータの保存先を初期設定から変更していたり、同じフォルダの中の一部のデータだけをバックアップしたい場合などは、「設定の変更」ボタンをクリックして、保存フォルダやファイルの種類を指定してください。

### ✓チェック!!

バックアップするフォルダのサブフォルダにあるファイルをバックアップする場合は、そのサブフォルダも「バックアップするフォルダ」に追加する必要があります。

「バックアップデータを保存する場所」を指定する。標準の状態では「D:¥」(Dドライブ)が選択されています。変更する場合は「フォルダの変更」をクリックして、フォルダを指定してください。

### ✓チェック!!

- ・保存先にフロッピーディスクドライブを指定した場合、フロッピーディスクは1回のバックアップで1枚まで利用することができます。
- ・別売の外付けのハードディスクやZIPドライブ、MOドライブなどを指定することもできますが、データを保存するのに十分な空き容量があるか確認してください。その場合、利用できる容量はZIPディスクおよびMOディスクの1枚分までです。

「開始」をクリック。

「次のフォルダにバックアップを開始します。」と表示されます

### ✓チェック!!

すでにバックアップしたデータがある場合は上書きしても良いかどうか確認するメッセージが表示されます。日付を確認して、上書きして良ければ「OK」をクリックしてください。

「OK」をクリック。

バックアップが終了すると「バックアップが正常終了しました」と表示されます。

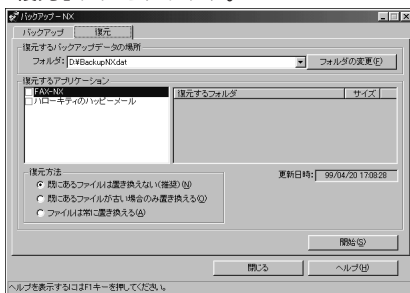
「閉じる」ボタンをクリックします。

「バックアップ-NX」ウィンドウで「閉じる」ボタンをクリック。

## データを復元する

「バックアップ-NX」を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「バックアップ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「バックアップ-NX」)

「復元」タブをクリック。



「復元するアプリケーションデータの場所」を指定する。

▼をクリックして一覧から選択します。▼をクリックしても一覧が表示されない場合は、「参照」ボタンをクリックして、復元するデータの場所を指定してください。

「復元するアプリケーション」一覧から復元するアプリケーションを選ぶ。

### ✓チェック!

復元するフォルダには、前回バックアップしたときと同じ場所が自動的に指定されます。

「復元方法」欄の復元方法を指定する。

「開始」をクリック。

「復元を開始します。」と表示されます。

「OK」をクリックする。

「復元は正常終了しました。」と表示されます。

「閉じる」をクリックする。

「バックアップ-NX」ウィンドウで、「閉じる」をクリックする。

## 一覧にないアプリケーションのデータをバックアップする

「バックアップするアプリケーション」一覧にアプリケーションを登録して、バックアップする方法を説明します。

「バックアップ-NX」を起動する。

(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「バックアップ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「バックアップ-NX」)

「設定の変更」をクリックする。



「新規登録」をクリックする。

「アプリケーションの新規登録」ウィンドウが表示されます。

登録するアプリケーション名を入力して、「次へ」をクリック。

「追加」ボタンをクリックしてアプリケーションのデータファイルがあるフォルダを指定する。バックアップの必要なファイルやその種類については、アプリケーションのマニュアルおよびアプリケーションの製造元にお問い合わせください。

「次へ」をクリック。

バックアップするファイルの種類を指定する。

「完了」をクリック。

「バックアップの設定」ウィンドウに戻ります。

「OK」をクリック。

「バックアップするアプリケーション」一覧に、登録したアプリケーションが追加されます。

バックアップおよび復元方法は、購入時に登録されているアプリケーションと同様の操作で行うことができます。

# ハードディスク の検査・修復 〈スキャンディスク〉

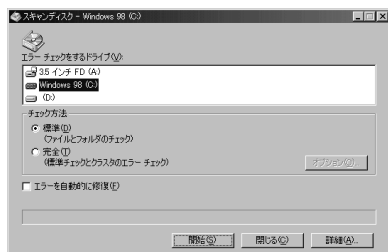
スキャンディスクは、ハードディスクそのものやハードディスクに保存されているデータに、障害がないかどうかを調べるためのツールです。

## 概要

スキャンディスクは、ハードディスクドライブ上のFAT(ファイルアロケーションテーブル)やクラスタ、ディレクトリツリー構造、ドライブの物理表面の不良セクタなどをチェックします。定期的にはスキャンディスクを行って、ハードディスクに障害がないかチェックしてください。エラーが発見されたら、修復するようにしてください。

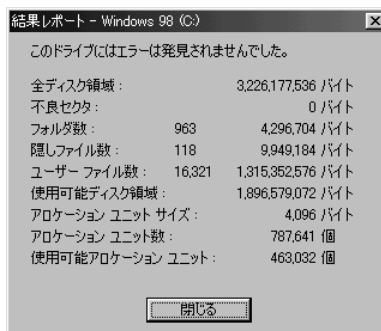
## スキャンディスクの使い方

「スキャンディスク」を起動する。  
(「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「スキャンディスク」)

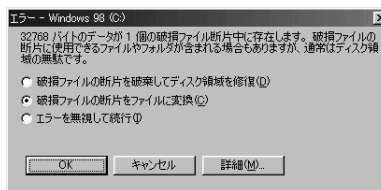


「エラーチェックをするドライブ」の中から、チェックするドライブをクリック。

「開始」をクリック。  
チェックが始まります。  
チェックが終了すると、「結果レポート」が表示されます。



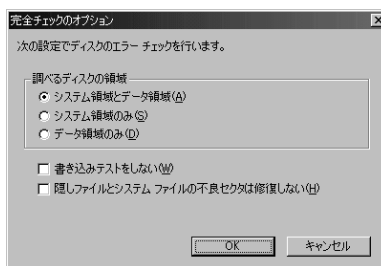
何か問題が発見されたときは、次のような画面が表示されます。この場合は、画面の指示に従ってください。



「結果レポート」ウィンドウの「閉じる」をクリックし、もう一度「閉じる」をクリック。  
スキャンディスクの作業が終了します。

## 「完全チェックのオプション」ウィンドウ

徹底的なチェックをしたいときは、チェック方法の「完全」をクリックしてから「オプション」をクリックして、次のウィンドウを表示して使いたいオプションを選びます。

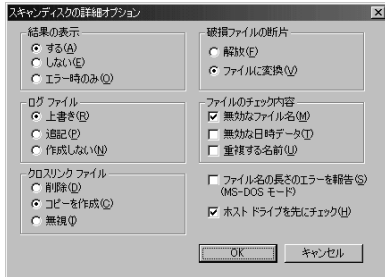


## ✓チェック!!

完全チェックにはかなりの時間がかかります。

## 「スキャンディスクの詳細オプション」ウィンドウ

「詳細」ボタンをクリックして次のウィンドウを表示すると、さらに細かい設定ができます。



## 不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」と呼びます。パソコンではこのような場所にはデータを記録しないようにしています。

Windows 98の「スキャンディスク」などを実行すると「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように処理されていることを表しており、異常ではありません。

なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数\*が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

モデル	内蔵ハードディスク	正常値
VC40H/7、VE40H/7、VC40H/8、VE40H/8	8.4Gバイト	8,400,000,000バイト以上
VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、VE500J/7、VE450J/7、VT450J/7、VC550J/8、VC500J/8、VC450J/8、VE500J/8、VE450J/8、VT450J/8	13.0Gバイト	13,000,000,000バイト以上

\* なお、領域を分けた場合には、バイト数の合計が、表の正常値より減る場合があります。

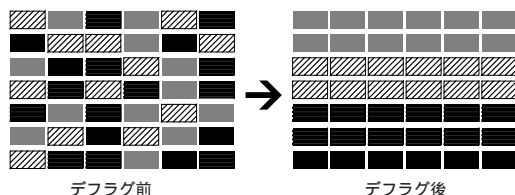
なお、このマニュアルではハードディスクの記憶容量を、1Mバイト = 1,000,000バイト及び1Gバイト = 1,000,000,000バイトで計算したときの値で示してあります。Windows 98では、1Mバイト = 1,048,576バイト、1Gバイト = 1,073,741,124バイトで値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

# ハードディスク のデータを整列 <デフラグ>

「デフラグ」とは、ハードディスク上のデータの保存状態を改善するツールです。

## 概要

ハードディスク(またはフロッピーディスク)を長い間使っていると、データがハードディスクの空いている場所に、バラバラに保存されるようになります。この状態をフラグメンテーションまたは断片化と呼びます。このような状態になると、データが連続していないので、データを読み書きする時間が長くなります。「デフラグ」を使うと、このようなバラバラになったデータを、最適な場所に整理できます。



## デフラグの使い方

### ✓チェック!!

- ・「デフラグ」を行うときは、スクリーンセーバの設定は「なし」にしてください。
- ・「デフラグ」の実行中は、絶対にスタンバイ状態にしたり、本機の電源を切ったりしないでください。スタンバイ状態にしたり、電源を切ると、ハードディスクの内容が壊れる場合があります。自動的にスタンバイ状態にする設定になっている場合は、「コントロールパネル」の「電源の管理」で解除してください。

### 📖 参照

「電源の管理」 PART12の「省電力機能(スタンバイ)」

「デフラグ」を起動する。  
(「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「デフラグ」)

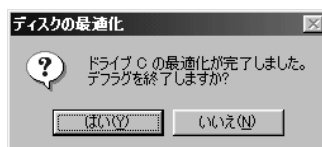


をクリックし、一覧の中から、デフラグするハードディスク(またはフロッピーディスク)のドライブを選ぶ。

「OK」をクリック。  
デフラグの作業が始まります。



デフラグの作業が終了すると、次のウィンドウが表示されます。



「はい」をクリック。  
これで、デフラグの作業が終了します。

# ハードディスクのデータのスリム化 <ディスククリーンアップ>

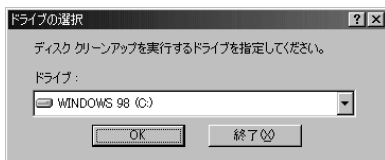
「ディスククリーンアップ」とは、知らないうちにハードディスクにたまった必要のないファイルを消すためのツールです。

## 概要

「ディスククリーンアップ」を使うと、インターネットを利用したときに作成される一時ファイルなど、不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やすことができます。

## ディスククリーンアップの使い方

「ディスククリーンアップ」を起動する。  
(「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「ディスククリーンアップ」)



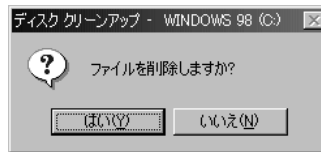
▼ をクリックして、ディスククリーンアップを実行するドライブを選ぶ。

「OK」をクリック。  
「ディスククリーンアップ」ウィンドウが表示されます。



「削除するファイル」の一覧から、削除したいファイルの種類を選ぶ。

「OK」をクリック。  
次のウィンドウが表示されます。



「はい」をクリック。  
ファイルが削除されます。

# システムファイルの検査・修復 ＜システムファイルチェッカー＞

「システムファイルチェッカー」とは、Windows 98 のシステムファイルの異常を調べ、問題があった場合、修復するツールです。

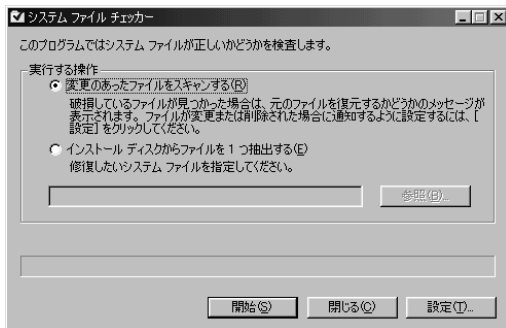
## 概要

Windows 98 の動作が不安定になった場合、システムの重要なファイルにトラブルが起きていることが考えられます。「システムファイルチェッカー」を使うと、システムファイルの問題を調べ、異常のあるファイルを修復できます。

## システムファイルチェッカーの使い方

「システム情報」を表示する。  
(「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「システム情報」)

「システムファイルチェッカー」を起動する。  
(メニューバーの「ツール」から「システムファイルチェッカー」をクリック)



以降は画面にしたがって設定します。

## チェック!!

システムファイルチェッカーなどのシステムツールを使うときは、前もって起動中のアプリケーションを終了させてください。

## システムファイルチェッカーについて

### ■ システムファイル

システムファイルとは「dll」 「com」 「vxd」 「exe」 「drv」 「ocx」 「inf」などの拡張子がついたファイルのことです。

### ■ 注意

ご購入直後の状態であっても、システムファイルチェッカーを実行すると「USER.EXE のファイルが壊れている可能性があります」というメッセージが表示されることがありますが、実際には壊れているわけではありません。

この場合は次の操作をしてください。



「ファイルを復元する」を選んで「OK」をクリック。  
「ファイルの復元」ウィンドウが表示されます。

「復元元」に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力。

「ファイルの保存先」が「C:¥WINDOWS¥SYSTEM」になっていることを確認して、「OK」をクリック。  
「バックアップファイル」ウィンドウが表示されます。

バックアップファイルを作る場合は、ファイルの保存先を指定して「OK」ボタンをクリック。バックアップファイルを作らない場合は、「スキップ」をクリック。  
「システムファイルのスキャンが終了しました。」と表示されます。

「OK」をクリックすると、再起動をするかどうかを選択するメッセージが表示されます。

「はい」をクリックすると、Windows 98 が再起動します。

# 定期的にメンテナンスをする ＜メンテナンスウィザード＞

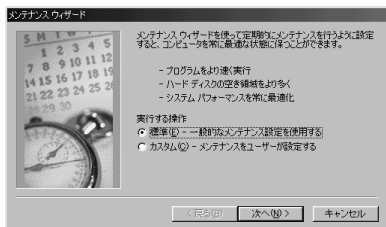
「メンテナンスウィザード」は「スキャンディスク」、「デフラグ」、「ディスククリーンアップ」を決められた時間に、自動的に実行するためのツールです。

## 概要

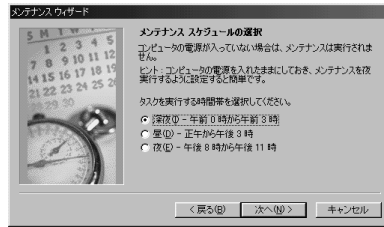
ハードディスクのトラブルを予防するためには、日ごろから定期的にシステムツールでメンテナンスすることが大切です。「メンテナンスウィザード」を使えば、「スキャンディスク」、「デフラグ」、「ディスククリーンアップ」などのシステムツールを定期的に実行させるように設定することができます。

## メンテナンスウィザードの使い方

「メンテナンスウィザード」を起動する。  
(「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「メンテナンスウィザード」)



「次へ」をクリック。  
次のウィンドウが表示されます。

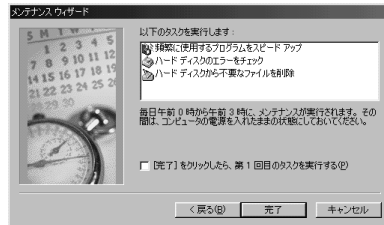


メンテナンスを実行する時間帯を設定する。

### ✓チェック!!

設定した時刻に、本機の電源が入っていない場合は、メンテナンスは実行されません。

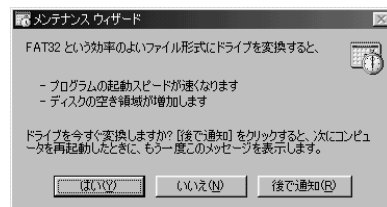
「次へ」をクリック。  
次のウィンドウが表示されます。



「完了」をクリック。  
ハードディスクのファイルシステムがFAT32の場合は、これで設定完了です。

### ✓チェック!!

- ・本機の購入時の内蔵ハードディスクは、FAT32でフォーマットされています。
- ・ハードディスクのファイルシステムがFAT32でない場合、次のウィンドウが表示されます。



「はい」をクリックすると、「ドライブコンバータ (FAT32)」が起動します。  
「ドライブコンバータ」については、「ハードディスク」の「ドライブコンバータ (FAT32)」をご覧ください。  
「いいえ」をクリックすると、「メンテナンスウィザード」が終了します。

「後で通知」をクリックすると、次に本機を再起動したときに、このウィンドウが表示されます。





## 14

## アプリケーションの追加と削除

アプリケーションのセットアップや削除には、それぞれ正しい手順があります。本機に添付されているアプリケーションを追加したり削除したりするときには、必ずここをご覧ください。

セットアップされていないアプリケーションの追加  
アプリケーションの削除  
削除したアプリケーションの再追加

# セットアップされていないアプリケーションの追加

本機には、あらかじめ、さまざまなアプリケーションがセットアップされていますが、それ以外にもセットアップされていないものがあります。それらを使用するときには、セットアップが必要です。

## セットアップが必要なアプリケーションや機能


本機購入時にはセットアップされていないアプリケーションや機能のセットアップ方法を説明します。

### ゲーム、DVD タイトル

次のゲームやDVD タイトルは、購入時には本機にセットアップされていません。使いたい場合は、別途セットアップする必要があります。セットアップ方法については、この項で説明します。

- ・AI 将棋
- ・AI 囲碁
- ・ソリティア デラックス
- ・宇宙戦艦ヤマト Master Edition DVD-ROM (DVD-ROM モデルのみ)
- ・招福麻雀 七福神



ゲームの内容説明  「パソコン探検箱」- 「こんなことができます」- 「ゲームで遊ぶ、カラオケで遊ぶ」

## その他のセットアップが必要なアプリケーションや機能

次のアプリケーションや機能は、購入時には本機にはセットアップされていません。使いたい場合は、別途セットアップする必要があります。セットアップ方法については、この項で説明します。

- ・テキストリーダー
- ・Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic (Office 2000 モデルのみ)
- ・NIFTY MANAGER
- ・文豪 DP/LAN シリーズコンバータ

また、Voice 一太郎 9・花子 9 パック(一太郎モデルのみ)は、購入時の状態ですべての機能を利用できるわけではありません。詳しくは、後述の「Voice 一太郎 9・花子 9 パックの機能をフルに使う(一太郎モデルのみ)」をご覧ください。

## セットアップする前に

セットアップする機能の概要を説明します。セットアップする前に、必要なことを確認してください。

### 機能の概要

- ・テキストリーダー  
文章(テキストデータ)を音声で読み上げてくれるソフトです。入力した文章を耳で聞いて確認したい場合などに便利です。
- ・Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic (Office 2000 モデルのみ)  
「Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic」は CD-ROM に入った辞書です。国語辞典、英和辞典、和英辞典の 3 種類の辞書を 1 枚の CD-ROM に収めており、言葉に関するさまざまな情報を得ることができます。
- ・NIFTY MANAGER  
インターネット接続およびパソコン通信サービス「NIFTY SERVE」にアクセスして、NIFTY SERVE のさまざまなサービスを利用することができます。
- ・文豪 DP/LAN シリーズコンバータ  
次のファイルを一太郎または三四郎のファイル形式に変換することができます。
  - ・NEC 文豪 DP-WORD/LANWORD の文書を一太郎の文書に変換

- ・NEC 文豪 DP-CARD+/LANFILE のファイルを三四郎のファイルに変換
- ・NEC 文豪 DP-PLAN/LANPLAN/G のファイルを三四郎のファイルに変換
- ・NECAIIME (NECAI かな漢字変換) 学習単語を ATOK 登録形式に変換

### ✓チェック!

- ・文豪 DP/LAN シリーズコンバータは、文豪ミニシリーズ、文豪 JX シリーズの文書を変換することはできません。
- ・文豪 DP/LAN シリーズコンバータの操作説明や変換における制限事項などについては、本機添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.1」の次のファイルをご覧ください。  
 < CD-ROM ドライブ名 > : ¥Dpconv ¥説明書.jtd  
 (一太郎 8 形式文書)
- ・文豪 DP/LAN シリーズコンバータを使用するには、一太郎 8 以上、または三四郎 8 以上のソフトウェアが必要です。

### ✓チェック!

インストーラ-NX を起動する前にこのパソコンを「アドバンスモード」に変更しておいてください (ご購入時の状態では「ベーシックモード」です)。

### 📖 参照

モードの変更 PART13 の「Windows 98 の利用環境の変更 < CyberTrio-NX >」

## 自動的にインストールできるアプリケーション

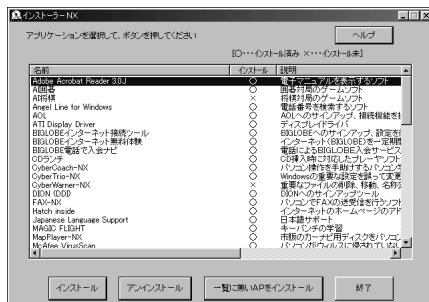
次のアプリケーションは、インストール時に設定をしなくても、自動的にインストールできます。

- ・AI 将棋
- ・AI 囲碁
- ・テキストリーダ
- ・招福麻雀 七福神

### ✓チェック!

インストール先のフォルダを変更する場合や、インストール内容を自分で決めたい場合は、以下の手順 6 のところで「インストール内容を自分で決める」を選択します。その場合のインストール方法は「C : ¥NECINST¥HTML¥INDEX.HTM」に記載されています。インストールを始める前によくお読みください。

インストーラ-NX を起動する。  
 (「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)



追加 (インストール) するアプリケーションをクリック。

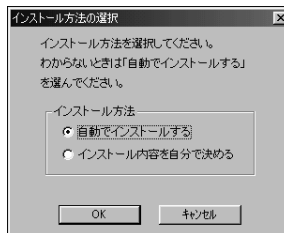
「インストール」をクリック。

「媒体のセット」ウインドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。

CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。



「自動でインストール」が選択されていることを確認して、「OK」をクリック。

インストールが完了すると次のメッセージが表示されます。

- ・インストールが完了したことを表すメッセージが表示された場合、「OK」をクリック。  
インストールは完了です。
- ・再起動を促すメッセージが表示された場合、「はい」をクリック。  
再起動後、インストールが完了します。

## 内容を確認しながらインストールするアプリケーション

次のアプリケーションは、内容を確認しながらインストールします。

- ・ソリティア デラックス
- ・Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic (Office 2000 モデルのみ)
- ・宇宙戦艦ヤマト Master Edition DVD-ROM (DVD-ROM モデルのみ)
- ・NIFTY MANAGER
- ・文豪DP/LAN シリーズコンバータ

それぞれのアプリケーションのインストール手順をご覧ください。

### ✓チェック!

アプリケーションのインストール先を変更する場合は、「C:¥Program Files」「C:¥Windows」などの、システムで使用する重要なフォルダや、他のアプリケーションがインストールされているフォルダを指定しないでください。

これらのフォルダにインストールする場合は、「C:¥Program Files¥Application」のようなサブフォルダを作成し、サブフォルダにインストールしてください。

### ソリティア デラックスのセットアップ

「インストーラ-NX」を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

「ソリティア デラックス」をクリックして、「インストール」をクリック。

「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。

CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。  
「インストール手順について」ウィンドウが表示されず。

「はい」をクリック。  
しばらくして「Setup」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。  
インストール先を変更する場合は「参照」をクリックし、インストール先を選んで、「OK」をクリックしてください。

インストール先が決まったら、「次へ」をクリック。  
インストールが始まります。

インストールが終了すると「セットアップが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

### Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basicのセットアップ(Office 2000 モデルのみ)

「Office 2000 Personal」添付の「Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットして、セットアップを行います。

セットアップ方法については、CD-ROM 添付のマニュアルをご覧ください。

### 宇宙戦艦ヤマト Master Edition DVD-ROM のセットアップ(DVD-ROM モデルのみ)

「宇宙戦艦ヤマト」の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットする。

「宇宙戦艦ヤマト Master Edition DVD-ROM」ウィンドウが表示されます。

「QTVR インストール」をクリック。  
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「質問」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「QuickTimeのインストール」ウィンドウが表示されます。

「インストール」をクリック。  
「QuickTimeは正常にインストールされました」と表示されます。

「終了」をクリック。  
「サンプルを見ずに終了してよろしいですか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

**✓チェック!!**

「QuickTime for Windows」のフォルダが表示されたときは、をクリックして閉じてください。

「セットアップは正常に終了しました」と表示されません。

「OK」をクリック。

**NIFTY MANAGER のセットアップ**

インストーラ-NXを起動する。

(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

「Nifty Manager」をクリックして、「インストール」をクリック。

「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。

CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。

「インストール手順について」ウィンドウが表示されません。

「はい」をクリック。

「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「NIFTY MANAGER 利用規約」ウィンドウが表示されます。

重要なことが記載されています。よくお読みください。

「はい」をクリック。

「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。インストール先を変更する場合は、「参照」をクリックし、インストール先を選んで、「OK」をクリックしてください。

「次へ」をクリック。

「情報を引き継ぎますか?」と表示されたときは、「いいえ」をクリックしてください。

インストールが始まります。

インストールが終了すると、「デスクトップに NIFTY MANAGER for Windows のショートカットを置きますか?」のメッセージが表示されます。

「いいえ」をクリック。

「README ファイルを読みますか?」と表示されません。

読む場合は「はい」を、読まない場合は「いいえ」をクリックします。ここで読まなくても後でゆっくり読むこともできます。

「セットアップが完了しました」と表示されたら「OK」をクリック。

「セットアップを完了するにはシステムを再起動する必要があります。再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」をクリックします。

**✓チェック!!**

NIFTY MANAGER をインストールすると、「コントロールパネル」の「アプリケーション」の「アプリケーションの追加と削除」の一覧に「Data Access Objects( DAO )3.5」が追加されますが、削除しないでください。DAO を削除すると、他のアプリケーションでヘルプを使用できなくなる場合があります。

**文豪 DP/LAN シリーズコンバータのセットアップ**

「インストーラ-NX」を起動する。

(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

「文豪 DP/LAN シリーズコンバータ」をクリックして、「インストール」をクリック。

「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。

CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。

「インストール手順について」ウィンドウが表示されません。

「はい」をクリック。

「セットアップ」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

お使いのコンピュータの機種を選択する画面が表示されます。

「PC98-NX シリーズ」を選択し、「次へ」をクリック。

インストール先を選択する画面が表示されます。

インストール先を変更する場合は、「参照」をクリックし、インストール先を選んで、「OK」をクリックしてください。

インストール先が決まったら、「次へ」をクリック。

インストールが始まります。

インストールが終了すると、「セットアップが完了しました。」と表示されます。

「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」がチェックされていることを確認し、「OK」をクリック。自動的に再起動します。

## Voice 一太郎9・花子9パックの機能をフルに使う(一太郎モデルのみ)

本機にセットアップされている「Voice 一太郎9・花子9パック」は、「標準」でセットアップされており、購入時の状態ですべての機能を利用できるわけではありません。

購入時の状態で使用できる機能については、「Voice 一太郎9・花子9パック」に添付のマニュアルに記載されている「各セットアップ方法でコピーされる機能について」をご覧ください。

### ■「標準」以外の機能を使用する

「標準」以外の機能を使用する場合は、添付の「Voice 一太郎9・花子9パック CD-ROM」から追加してください。

追加の方法については、「Voice 一太郎9・花子9パック」に添付のマニュアルに記載されている「一太郎9・花子9パックの機能を追加・削除するには」をご覧ください。

# アプリケーション の削除

本機に標準で添付されているアプリケーションの削除方法について説明します。

## 概要

ここで説明するのは、本機に標準でインストールまたは添付されているアプリケーションの削除方法です。購入後に、ご自分でインストールしたアプリケーションの削除方法については説明していませんので、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

次のような場合にアプリケーションを削除してください。

- ・ハードディスクの空き容量を増やしたい場合
- ・通常使わないアプリケーションがある場合

## アプリケーションを削除するときの注意

- ・インターネットエクスプローラ5は削除しないでください。アプリケーションによっては正常に動作しなくなるものがあります。
- ・削除の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は、他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。
- ・アプリケーションによっては、削除中に「共有ファイルを削除しますか?」「共有コンポーネント」などのウィンドウが表示される場合があります。このようなウィンドウは、インストールされているアプリケーションが共通で使用していると思われるファイルを削除しようとしたときに表示されます。このようなウィンドウが表示された場合は、「すべていいえ」や「すべて残す」などを選んで、ファイルを削除しないようにしてください。
- ・「Adobe Acrobat Reader 3.0 J」は、「PictureStudio Light」,「駅すばあと」のPDF形式のオンラインドキュメントを読むために必要ですので、「PictureStudio Light」,「駅すばあと」を使用する場合は、削除しないようにしてください。
- ・DVD-ROM モデルの場合、「QuickTime for Windows (32-bit)」および「QuickTimeVR Runtime」は「宇宙戦艦ヤマト Master Edition DVD-ROM」を見るために必要ですので、削除しないようにしてください。
- ・「ランチ-NX」をそのまま使用する場合(「ランチ-NX」を削除しない場合)に、「ランチ-NX」のグループに表示されているアプリケーションを削除しても、「ランチ-NX」のグループにはアイコンが残ります。この場合、「ランチ-NX」に残ったそれぞれのアイコンを削除してください。削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。
- ・アプリケーションによっては、削除したときに、一部のフォルダおよびデスクトップやスタートメニューのショートカットのアイコンが残ることがあります。この状態でも本機を操作する上では支障はありませんが、アイコンを削除するには、各アプリケーションの削除方法に従って操作してください。
- ・削除を途中で中断した場合に、そのままではアプリケーションを使用できない場合があります。その際には本機を再起動してください。
- ・DVDプレーヤ(DVD-ROMモデルのみ)は、削除できません。
- ・TVモデルに入っている「ビットキャストブラウザ」「ADAMSナビ」「モジモジ-NX」の削除のしかたは、『TVモデルガイド』をご覧ください。
- ・ワンタッチスタートボタンに割り当てたアプリケーションを削除するとワンタッチスタートボタンが使えなくなります。
- ・インストーラ-NXの一覧にないアプリケーションのインストールが完了した直後は、アプリケーション名が一覧に表示されないことがあります。この場合、インストーラ-NXをいったん終了して、起動し直すとして正しく表示されます。
- ・インストーラ-NXでアプリケーションのインストールが完了した直後に、「インストール」ボタン、「アンインストール」ボタン、「一覧に無いAPをインストール」ボタンが使用できなくなることがあります。この場合、インストーラ-NXをいったん終了して、起動し直すとして正しく表示されます。



## 削除の方法について

削除の方法は、アプリケーションによって異なります。

■ インストーラ-NX を使って削除するアプリケーション  
次のアプリケーションは「インストーラ-NX」を使って削除する」の順にしたがって削除してください。


- ・ Adobe Acrobat Reader 3.0J
  - ・ AI 囲碁
  - ・ AI 将棋
  - ・ Angel Line for Windows
  - ・ AOL
  - ・ BIGLOBE インターネット接続ツール
  - ・ BIGLOBE インターネット無料体験
  - ・ BIGLOBE 電話で入会ナビ
  - ・ CD ランチ
  - ・ CyberCoach-NX
  - ・ CyberTrio-NX
  - ・ CyberWarner-NX
  - ・ DION かんたん設定ツール
  - ・ FAX-NX
  - ・ Hatch inside
  - ・ MAGIC FLIGHT
  - ・ MapPlayer-NX
  - ・ NEC 音声合成エンジン 3.0
  - ・ NEC 音声認識エンジン 4.0(または 3.0)
  - ・ NIFTY MANAGER
  - ・ ODN(Open Data Network)
  - ・ PC ポータル( Office 2000 モデルのみ )
  - ・ PictureStudio Light
  - ・ SmartVoice
  - ・ ThumbsStudio
  - ・ Timer-NX
  - ・ VirusScan
  - ・ アルバム工房 Light
  - ・ インターネットアクセスマネージャ
  - ・ インターネット カラオケキング
  - ・ 駅すばあと
  - ・ コペルニックライト
  - ・ 招福麻雀 七福神
  - ・ ソリティア デラックス
  - ・ テキストリーダ
  - ・ てきばき家計簿マム 2 Plus
  - ・ ニフティサーブでインターネット
  - ・ パソコン探検箱
  - ・ ハローキティのハッピーメール
  - ・ 筆王  
( 筆王を削除する場合は、「筆王ユーザーズガイド」ではなく、このマニュアルの順に従って作業を行ってください。 )
  - ・ プレーヤ-NX
  - ・ 文豪 DP/LAN シリーズコンバータ
  - ・ ホームページスクラップブック
  - ・ 翻訳アダプタ CROSSROAD
  - ・ 用語集
  - ・ ランチ-NX
- コントロールパネルを使って削除するアプリケーション  
次のアプリケーションは「コントロールパネルを使って削除するアプリケーション」の順にしたがって削除してください。
- ・ Office 2000 Personal  
( Office 2000 モデルのみ )
  - ・ 宇宙戦艦ヤマト Master Edition DVD-ROM  
( DVD-ROM モデルのみ )
  - ・ パソコン大学一年生 for 一太郎 9/ 三四郎 9  
( 一太郎モデルのみ )
  - ・ パソコン大学一年生 for Word2000/Excel2000  
( Office 2000 モデルのみ )
  - ・ パソコン大学一年生 for Windows98
  - ・ Voice 一太郎 9・花子 9 パック( 一太郎モデルのみ )
  - ・ 音声キット( VoiceATOK )( 一太郎モデルのみ )

## ■ アンインストール機能を使って削除するアプリケーション

IME 2000 音声入力アプレット(Office 2000モデルのみ)は、アプリケーションのアンインストール機能を使って削除します。「アンインストール機能を使って削除するアプリケーション」の手順にしたがって削除してください。

### ランチ-NXのショートカットアイコンの削除

ここでは、例として「ユーティリティ」グループの「ペイント」を削除します。

「ランチ-NX」ウィンドウの  をクリック。  
「ランチ-NXの設定」ウィンドウが表示されます。

「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

「編集」タブの「編集方法」で、「マウスのドラッグ&ドロップ操作による編集」のチェックボックスにチェックをつける。

「OK」をクリック。

「ランチ-NX」ウィンドウで削除したいアプリケーション起動ボタンがあるグループボタン(例「ユーティリティ」グループ)をクリック。

「ランチ-NX」ウィンドウで削除したいアプリケーション起動ボタン(例「ペイント」)をドラッグ&ドロップでデスクトップ画面の「ごみ箱」アイコンまで移動する。

「ファイルの削除の確認」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
これで「ペイント」起動ボタンが削除されます。

「ランチ-NX」に残ったアイコンを削除した後は、次の手順により「ランチ-NX」での編集ができない設定に戻してください。

「ランチ-NX」ウィンドウの  をクリック。

「編集」タブの「編集方法」で、「マウスのドラッグ&ドロップ操作による編集」のチェックボックスのチェックを外す。

「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスのチェックを外す。

「OK」をクリック。

## 「インストーラ-NX」を使って削除する

インストーラ-NXを起動する前に本機を「アドバンストモード」に変更しておいてください(ご購入時の状態では「ベーシックモード」です)。

### Adobe Acrobat Reader 3.0Jの削除

#### ✓チェック!!

「Adobe Acrobat Reader 3.0J」は、「PictureStudio Light」や、「駅すばあと」のPDF形式のオンラインドキュメントを読むために必要です。「PictureStudio Light」や、「駅すばあと」を使用する場合は、「Adobe Acrobat Reader 3.0J」を削除しないでください。

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「Adobe Acrobat Reader 3.0J」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### AI 囲碁の削除

#### ✓チェック!!

「AI 囲碁」は購入時の状態では本機にセットアップされていません。

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「AI 囲碁」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### **チェック!**

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

## AI 将棋の削除

### **チェック!**

「AI 将棋」は購入時の状態では本機にセットアップされていません。

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「AI 将棋」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### **チェック!**

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

## Angel Line for Windows の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「Angel Line for Windows」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「アンインストールは次の内容を消去します。」と表示されます。

「続行」をクリック。  
「再起動の確認」ウィンドウが表示されます。

「する」をクリック。  
「起動中のすべてのプログラムを停止して下さい。」と表示されます。

「確認」をクリック。

### **チェック!**

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に次のアイコンが残るので、アイコンを削除してください。

- ・「Angel Line(電話案内)」
- ・「Angel Line(アドレス帳)」

ランチ-NX に残ったアイコンの削除方法は、p.191 の「ランチ-NX のショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## AOL の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「AOL」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「AOL for Windows アンインストーラー」ウィンドウが表示されます。

「AOL4.0, C:¥AOL4.0」をクリック。

「次へ」をクリック。  
「アンインストールの準備完了!」と表示されます。

「次へ」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると、「アンインストールは完了しました。」と表示されます。

「終了」をクリック。

再起動を促すメッセージが表示された場合は「OK」をクリック。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「AOLで簡単インターネット」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

#### BIGLOBE インターネット接続ツールの削除

インストーラ-NXを起動する。  
（「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」）

一覧から「BIGLOBE インターネット接続ツール」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「アンインストールオプション」ウィンドウが表示されます。

「自動アンインストール」が選択されていることを確認して、「次へ」をクリック。  
「アンインストール開始」ウィンドウが表示されます。

「アンインストール」をクリック。  
自動的に削除されます。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「BIGLOBE 接続ツール」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

#### BIGLOBE インターネット無料体験の削除

インストーラ-NXを起動する。  
（「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」）

一覧から「BIGLOBE インターネット無料体験」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「「インターネット無料体験」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### BIGLOBE 電話で入会ナビの削除

インストーラ-NXを起動する。  
（「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」）

一覧から「BIGLOBE 電話で入会ナビ」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「「BIGLOBE 電話で入会ナビ」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「BIGLOBE 電話入会」アイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## CD ランチの削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「CD ランチ」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

## CyberCoach-NX の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「CyberCoach-NX」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「CyberCoach-NX のアンインストールを完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「CyberCoach-NX(操作レッスン)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## CyberTrio-NX の削除

「CyberTrio-NX」は「ベーシックモード」「キッズモード」からは削除できません。

削除する前に、「アドバンスモード」へ変更してください。

「アドバンスモード」への変更のしかたについては、PART13の「Windows 98の利用環境の変更 CyberTrio-NX」をご覧ください。

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「CyberTrio-NX」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。


「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「CyberTrio-NX(利用者モード)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## CyberWarner-NX の削除

「CyberWarner-NX」を使用中の場合は、終了させる。タスクバーにあるをクリックして、「終了」をクリックします。

「CyberWarner-NXのシャットダウン」ウィンドウが表示されるので、「はい」をクリックしてください。

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「CyberWarner-NX」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールを有効にするために再起動する必要があります。」と表示されます。

「OK」をクリック

### DION かんたん設定ツールの削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「DION(DDI)」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

### FAX-NX の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「FAX-NX」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は、「すべていいえ」をクリックしてください。

終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「FAX-NX(FAX 送受信)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

### Hatch inside の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「Hatch inside」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「関連するウィンドウは一旦終了しますので、必要なデータをセーブしてください!」と表示されます。

「OK」をクリック。  
「ハッチインサイド(hatchinside)と関連するファイルを全部削除してもよろしいでしょうか?」と表示されます。

「OK」をクリック。  
「作業は完了しました、有り難うございます!」と表示されます。

「OK」をクリック。

### MAGIC FLIGHT の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「MAGIC FLIGHT」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックします。  
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「MAGIC FLIGHT(タイプレッスン)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

### MapPlayer-NX の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「MapPlayer-NX」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「MapPlayer-NX(カーナビCD)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

### NEC 音声合成エンジン 3.0 の削除

#### ✔ チェック!!

「NEC 音声合成エンジン 3.0」は「SmartVoice」や「VoiceATOK」(一太郎モデルのみ)などのVoice対応アプリケーションを利用するために必要です。  
「SmartVoice」や「VoiceATOK」(一太郎モデルのみ)などのVoice対応アプリケーションを使用する場合は、「NEC 音声合成エンジン 3.0」を削除しないでください。

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「NEC 音声合成エンジン 3.0」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「NEC 音声合成エンジン 3.0」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

#### ✔ チェック!!

「NEC 音声合成エンジン 3.0」を使用しているアプリケーションが存在する場合は、アンインストールを警告するメッセージが表示されます。この場合は、「キャンセル」をクリックしてアンインストールを中止し、「NEC 音声合成エンジン 3.0」を利用しているアプリケーションを先に削除してください。

「OK」をクリック。

### NEC 音声認識エンジン 4.0(または 3.0) の削除

#### ✔ チェック!!

「NEC 音声認識エンジン 4.0(または 3.0)」は「SmartVoice」や「VoiceATOK」(一太郎モデルのみ)などのVoice対応アプリケーションを利用するために必要です。  
「SmartVoice」や「VoiceATOK」(一太郎モデルのみ)などのVoice対応アプリケーションを使用する場合は、「NEC 音声認識エンジン 4.0(または 3.0)」を削除しないでください。

インストーラ-NXを起動する。  
 (「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「NEC音声認識エンジン 4.0(または3.0)」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
 「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
 「NEC音声認識エンジン 4.0(または3.0)」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
 アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

### ✓チェック!

「NEC音声認識エンジン 4.0(または3.0)」を使用しているアプリケーションが存在する場合は、アンインストールを警告するメッセージが表示されます。この場合は、「キャンセル」をクリックしてアンインストールを中止し、「NEC音声認識エンジン 4.0(または3.0)」を利用しているアプリケーションを先に削除してください。

「OK」をクリック。

## NIFTY MANAGER の削除

### ✓チェック!

「NIFTY MANAGER」は、購入時の状態では本機にセットアップされていません。

インストーラ-NXを起動する。  
 (「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「Nifty Manager」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
 「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
 「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

「NIFTY MANAGERを再インストールした場合のために登録情報を保存しておきますか?」と表示された場合は「はい」をクリックしてください。  
 削除が終了すると、「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ✓チェック!

「ランチ-NXからの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

## ODN(Open Data Network)の削除

インストーラ-NXを起動する。  
 (「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「ODN Signup Kit」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
 「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
 「ODN Signup Kit」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
 終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

## PCポータル の削除(Office 2000 モデルのみ)

インストーラ-NXを起動する。  
 (「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「PCポータル」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
 「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
 「PCポータル」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。



「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。  
再起動を促すメッセージが表示されます。

「OK」をクリック。

本機を再起動する。  
('スタート'ボタン 「Windowsの終了」 「再起動する」 「OK」)

## PictureStudio Light の削除

インストーラ-NX を起動する。  
('ランチ-NX' 「ユーティリティ」 「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」 「アプリケーション」 「インストーラ-NX」)

一覧から「PictureStudio Light」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「PictureStudio Light」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## SmartVoice の削除

### チェック!

「SmartVoice」は、「VoiceATOK」などのVoice対応アプリケーションを利用するために必要です。「VoiceATOK」などのVoice対応アプリケーションを使用する場合は、「SmartVoice」を削除しないでください。

インストーラ-NX を起動する。  
('ランチ-NX' 「ユーティリティ」 「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」 「アプリケーション」 「インストーラ-NX」)

一覧から「SmartVoice」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「SmartVoice」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

## ThumbsStudio の削除

インストーラ-NX を起動する。  
('ランチ-NX' 「ユーティリティ」 「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」 「アプリケーション」 「インストーラ-NX」)

一覧から「ThumbsStudio」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「ThumbsStudio」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「ThumbsStudio(画像一覧)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## Timer-NX の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「Timer-NX」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「Timer-NX とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有コンポーネント」ウィンドウが表示された場合は「すべて残す」をクリックしてください。  
「アプリケーションの削除」ウィンドウが表示されたら、すべて「OK」をクリックします。  
終了すると「削除されました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「Timer-NX(スケジューラ)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## VirusScan の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「McAfee VirusScan」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「McAfee VirusScanの削除が選択されました。本当にMcAfee VirusScanを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「削除後はシステムを再起動することをお勧めします。続行しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は、「すべていいえ」をクリックしてください。

削除が終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

本機を再起動する  
(「スタート」ボタン 「Windowsの終了」「再起動する」「OK」)

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「VirusScan(ウイルスチェッカー)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## アルバム工房 Light の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「アルバム工房 Light」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。



「はい」をクリック。  
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「アルバム工房 Light」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## インターネットアクセスマネージャの削除

インジケータ領域(タスクトレイ)にがある場合は、を右クリックし、「いま、いくら?」の常駐終了をクリック。

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「インターネットアクセスマネージャ Ver3.0」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「インターネットアクセスマネージャ(Ver3.0)」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「アンインストールが完了しましたが、いくつかの項目は削除できませんでした。」と表示されたときは「詳細...」をクリック。  
画面に表示されているフォルダをエクスプローラなどを使って削除してから「OK」をクリックしてください。

「OK」をクリック。

- ショートカットアイコンが残った場合  
「ランチ-NX」に残った「インターネットアクセスマネージャ」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

### **チェック!**

アンインストールはセットアップしたファイルのみ削除します。したがって、「インターネットアクセスマネージャ」を使用して作成した「オートパイロット結果」などの情報・ファイルは削除されません。これらのファイルを削除する場合は、Windows 98の「エクスプローラ」で「インターネットアクセスマネージャ」がセットアップされている「C:¥Program Files¥lam」のフォルダごと削除してください。

## インターネットカラオケキングの削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「インターネットカラオケキング」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」ウィンドウが表示された場合は、「すべていいえ」をクリックします。  
終了すると、「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

- ショートカットアイコンが残った場合  
「ランチ-NX」に残った「カラオケキング」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## 駅すばあとの削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「駅すばあと」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「駅すばあと」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

## ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「駅すばあと」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## ■ コペルニックライトの削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「コペルニック Lite」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「コペルニック Lite」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「現在開いているインターネットエクスプローラのウィンドウを全て閉じて下さい。」と表示された場合は、インターネットエクスプローラをすべて終了して「OK」をクリックします。  
「検索フォルダを削除しますか?」と表示された場合は、「いいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

## ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「コペルニックライト ホームページ検索」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## ■ 招福麻雀 七福神の削除

## ● チェック!!

「招福麻雀 七福神」は購入時の状態では本機にセットアップされていません。

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「招福麻雀 七福神」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「招福麻雀 七福神 音声認識対応版」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

## ● チェック!!

「ランチ-NXからの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックしてください。

## ■ ソリティア デラックスの削除

## ● チェック!!

「ソリティア デラックス」は購入時の状態では本機にセットアップされていません。

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「ソリティアデラックス」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

## ● チェック!!

「ランチ-NXからの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

## テキストリーダーの削除

### ✓チェック!!

「テキストリーダー」は購入時の状態では本機にセットアップされていません。

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から、「テキストリーダー」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
アプリケーションの削除が終了すると、「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ✓チェック!!

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

## てきばき家計簿マム 2 Plus の削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「てきばき家計簿マム 2Plus」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「てきばき家計簿マム 2Plus とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有コンポーネント」ウィンドウが表示された場合は「全て残す」をクリックしてください。  
終了すると「削除されました。」と表示されます。

### ✓チェック!!

・「ディレクトリ' C:¥Program Files¥Common Files¥Microsoft Shared¥DAO 」を削除できません。」と表示されたら「OK」をクリックしてください。

・「ディレクトリ' C:¥Program Files¥Mom2 」を削除できません。」と表示されたら「OK」をクリックしてください。

・「いくつかのコンポーネントを削除できませんでした。」と表示されたら「OK」をクリックしてください。

「OK」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「てきばき家計簿マム 2」アイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## ニフティサーブでインターネットの削除

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「ニフティサーブでインターネット」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「ニフティサーブでインターネット」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「ニフティサーブでインターネット」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## パソコン探検箱の削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「パソコン探検箱」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「パソコン探検箱」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

## ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「パソコン探検箱」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## ハローキティのハッピーメールの削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「ハローキティのハッピーメール」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「ハローキティのハッピーメール」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

## ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「ハローキティのハッピーメール」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## 筆王の削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「筆王 平成11年編」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「筆王 平成11年編」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

## ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「筆王(はがき作成)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## プレーヤ-NXの削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「プレーヤ-NX」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

「共有ファイルを削除しますか？」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「プレーヤ-NX(CDプレーヤ)」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

## 文豪 DP/LAN シリーズコンバータの削除

### ✓チェック!!

「文豪 DP/LAN シリーズコンバータ」は、購入時の状態では本機にセットアップされていません。

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「文豪 DP/LAN シリーズコンバータ」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか？」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ✓チェック!!

「ランチ-NX」からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

## ホームページスクラップブックの削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「ホームページスクラップブック Ver2.0」をクリック。

「アンインストール」をクリック。  
「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「ホームページスクラップブック Ver2.0とそのすべてのコンポーネントを削除しますか？」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有ファイルを削除しますか？」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。  
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「ホームページスクラップブック」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

### ✓チェック!!

アンインストールは、セットアップしたファイルのみ削除します。したがって、「ホームページスクラップブック」で作成したスクラップデータは削除されません。これらのデータを削除する場合は、Windows 98の「エクスプローラ」で、「ホームページスクラップブック」のスクラップデータがセットアップされている「C:\¥ScbookDataBase」のフォルダごと削除してください。

## 翻訳アダプタ CROSSROAD の削除

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

一覧から「翻訳アダプタ CROSSROAD」をクリック。

「アンインストール」をクリック。

「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。

「CROSSROAD Ver 3.0」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。

終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ - N X」に残った「翻訳アダプタ CROSSROAD」のアイコンを削除してください。ランチ -NX に残ったアイコンの削除方法は、p.191 の「ランチ -NX のショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

#### 用語集の削除

インストーラ -NX を起動する。

(「ランチ -NX」「ユーティリティ」「インストーラ -NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ -NX」)

一覧から「用語集」をクリック。

「アンインストール」をクリック。

「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。

「用語集」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### ランチ -NX の削除

##### ✓チェック!!

「ランチ -NX」を削除する前に、「ランチ -NX」を終了してください。

インストーラ -NX を起動する。

(「ランチ -NX」「ユーティリティ」「インストーラ -NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ -NX」)

一覧から「ランチ -NX」をクリック。

「アンインストール」をクリック。

「アンインストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。

「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

「共有ファイルを削除しますか?」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

#### コントロールパネルを使って 削除するアプリケーション

Office 2000 Personal の削除(Office 2000 モデルのみ)

##### ✓チェック!!

インストーラ -NX が起動しているときは終了してください。

コントロールパネルを開く。

(「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」)

「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。

「インストールと削除」タブのプログラム一覧から「Microsoft Office 2000 Personal」をクリック。



「追加と削除」をクリック。  
「Office メンテナンスモード」ウィンドウが表示されます。



(Office の削除) をクリック。  
「Microsoft Office 2000 を削除してもよろしいですか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
削除が終了すると、「Microsoft Office 2000 のセットアップが正常に終了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。  
「インストーラ情報」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして Windows を再起動してください。

## 宇宙戦艦ヤマト Master Edition DVD-ROM の削除 (DVD-ROM モデルのみ)

### ✓チェック!

「宇宙戦艦ヤマト Master Edition DVD-ROM」は購入時の状態では本機にセットアップされていません。

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。  
「コントロールパネル」ウィンドウが開いていると、削除できないので、「コントロールパネル」ウィンドウが開いている場合は、 をクリックして閉じてください。

「インストールと削除」タブのプログラム一覧から「QuickTime VR Runtime」をクリック。

「追加と削除」をクリック。  
「選択したアプリケーションとをすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
削除が終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。  
「アプリケーションの追加と削除 プロパティ」ウィンドウに戻ります。

「インストールと削除」タブのプログラム一覧から、「QuickTime for Windows (32-bit)」をクリック。

「追加と削除」をクリック。  
「QuickTime Uninstall Program」が表示されます。

「Delete All」をクリック。  
削除が始まり、終了すると「QTW32DEL」ウィンドウが表示されます。

「QuickTime for Windows」のフォルダが表示されたときは、 をクリックして閉じてください。

「OK」をクリック。

### ✓チェック!

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

## パソコン大学一年生 for 一太郎 9 / 三四郎 9 (一太郎モデルのみ) パソコン大学一年生 for Word2000 / Excel2000 (Office 2000 モデルのみ) の削除

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。

「インストールと削除」タブのプログラム一覧から、一太郎モデルの場合は「パソコン大学一年生 for 一太郎 9 / 三四郎 9」を、Office 2000 モデルの場合は「パソコン大学一年生 for Word2000/Excel2000」をクリック。

「追加と削除」をクリック。  
一太郎モデルの場合は、「パソコン大学一年生 for 一太郎 9 / 三四郎 9 とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」、Office 2000 モデルの場合は「パソコン大学一年生 for Word2000/Excel2000 とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「共有コンポーネント」ウィンドウが表示された場合は「全て残す」をクリックしてください。  
終了すると「削除されました」と表示されます。

「OK」をクリック。

### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残ったショートカットアイコンを削除するには、次のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

- ・お使いの機種が一太郎モデルの場合  
「一年生 一太郎 9」  
「一年生 三四郎 9」
- ・お使いの機種が Office 2000 モデルの場合  
「一年生 Excel2000」  
「一年生 Word2000」

**✓チェック!!**

「ランチ-NXからの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

**パソコン大学一年生 for Windows98 の削除**

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。

「インストールと削除」タブのプログラム一覧から「パソコン大学一年生 for Windows98」をクリック。

「追加と削除」をクリック。

「パソコン大学一年生 for Windows98とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。

「共有コンポーネント」ウィンドウが表示された場合は「全て残す」をクリックしてください。

終了すると「削除されました」と表示されます。

「OK」をクリック。

**■ ショートカットアイコンが残った場合**

「ランチ-NX」に残った「一年生 Windows98」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

**✓チェック!!**

「ランチ-NXからの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

**Voice 一太郎 9・花子 9 パックの削除  
(一太郎モデルのみ)**

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。

「インストールと削除」タブのプログラム一覧から「JUSTSYSTEMアプリケーションの追加と削除」をクリック。

「追加と削除」をクリック。

「ジャストシステムセットアップ」ウィンドウが表示されます。

**✓チェック!!**

すでに、音声キット(VoiceATOK)を削除しているときなど、この画面が表示されない場合は手順に進みます。

一覧から、「一太郎 9・花子 9 パック」をクリック。

「OK」をクリック。


「一太郎 9・花子 9 パックのセットアップ開始」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「一太郎 9・花子 9 パックの追加と削除」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「ファイルの追加・削除」ウィンドウが表示されます。

「ファイルの削除」をクリックして  にして「次へ」をクリック。

「削除するファイルの詳細選択」ウィンドウが表示されます。

「全て選択」をクリックして「次へ」をクリック。

「ジャストシステム共通ファイル 削除の確認」ウィンドウが表示されます。

**✓チェック!!**

「VoiceATOKが見つかりました。ATOK12を削除すると、VoiceATOKが使用できなくなります。」と表示された場合は「OK」をクリックしてください。

A T O K 1 2 を削除するには、「音声キット(VoiceATOK)」を削除した後に、再度「Voice 一太郎 9・花子 9 パックの削除」の手順を行ってください。

「削除しない」をクリック。

「フォルダの確認」ウィンドウが表示されます。

**✓チェック!!**

「ATOK12をWindowsや他のアプリケーションが使用しているため、コンピュータを再起動するときに削除されます。」と表示されたら「OK」をクリックしてください。

「次へ」をクリック。

「フォルダの確認」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「フォルダの確認」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「ファイルの削除開始」ウィンドウが表示されます。

「削除開始」をクリック。  
ファイルの削除が終了すると、「一太郎9・花子9パックのセットアップ終了」ウィンドウが表示されます。

「再起動」をクリック。  
自動的に Windows が再起動します。

#### ■ ショートカットアイコンが残った場合

「ランチ-NX」に残った「一太郎9」「三四郎9」「花子9」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、p.191の「ランチ-NXのショートカットアイコンの削除」をご覧ください。

### 音声キット (VoiceATOK) の削除 (一太郎モデルのみ)

「コントロールパネル」を開く。  
(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。

「インストールと削除」タブのプログラム一覧から、  
「JUSTSYSTEMアプリケーションの追加と削除」をクリック。

「追加と削除」をクリック。

一覧から「一太郎9・花子9パック (音声キット)」をクリック。

「OK」をクリック。  
「音声キットを削除すると、VoiceATOKなどの音声機能が利用できなくなります。」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「ファイル削除の確認」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「アンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。  
「音声キットの削除が終了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。  
Windows が再起動します。

## アンインストール機能を使って 削除するアプリケーション

### IME 2000 音声入力タブレットの削除 (Office 2000 モデルのみ)

「スタート」ボタン 「プログラム」 「Microsoft IME2000」 「音声入力 アンインストール」をクリック。

「Microsoft(R) IME 2000 IMEパッド 音声入力タブレットのアンインストールを行いますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「Microsoft(R) IME 2000 IMEパッド 音声入力タブレットのアンインストールが完了しました」と表示されます。

「OK」をクリック。

# 削除した アプリケーション の再追加

削除したアプリケーションを再追加する場合の手順について説明します。

## 概要

ここでは、使用するCD-ROMごとに、再追加の方法を説明します。

あらかじめ、次のCD-ROMを準備してください。

### ・アプリケーションCD-ROM

アプリケーションCD-ROMは、「Vol. 1」「Vol. 2」の2枚があります。アプリケーションをインストールするときに、メッセージが表示されますので、指定されたアプリケーションCD-ROMをご利用ください。

### ・パソコン大学一年生CD-ROM

### ・Office 2000 Personal CD-ROM (Office 2000モデルのみ)

### ・Voice 一太郎9・花子9パックCD-ROM (一太郎モデルのみ)

追加が終了したら、CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出してください。

## ✓チェック!

・追加の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。

・アプリケーションのインストール先を変更する場合は、「C:¥Program Files」「C:¥Windows」などの、システムで使用する重要なフォルダや、他のアプリケーションがインストールされているフォルダを指定しないでください。これらのフォルダにインストールする場合は、「C:¥Program Files¥Application」のようなサブフォルダを作成し、サブフォルダにインストールしてください。

・インストーラ-NXを起動する前にこのパソコンを「アドバンスモード」に変更しておいてください(ご購入時の状態では「ベーシックモード」です)。

## 📖参照

モードの変更 PART13の「Windows 98の利用環境の変更 < CyberTrio-NX >」

## アプリケーションCD-ROMを使って自動でインストールできるアプリケーション

次のアプリケーションは、本機に添付されているアプリケーションCD-ROMを使って追加します。インストール時に設定をしなくても、購入時に近い状態で自動インストールできます。

- ・BIGLOBE インターネット接続ツール
- ・BIGLOBE インターネット無料体験
- ・BIGLOBE 電話で入会ナビ
- ・CDランチ
- ・CyberCoach-NX
- ・CyberTrio-NX
- ・CyberWarner-NX
- ・DION かんたん設定ツール
- ・FAX-NX
- ・Hatch inside
- ・MAGIC FLIGHT
- ・MapPlayer-NX
- ・ODN(Open Data Network)
- ・PCポータル(Office 2000モデルのみ)
- ・PictureStudio Light
- ・SmartVoice
- ・ThubmsStudio
- ・VirusScan
- ・アルバム工房 Light
- ・インターネットカラオケキング
- ・駅すばあと
- ・コベルニックライト

- ・パソコン探検箱
- ・ハローキティのハッピーメール
- ・筆王  
(筆王を追加する場合は、「筆王ユーザーズガイド」ではなく、このマニュアルの手順に従って作業を行ってください。)
- ・プレーヤ-NX
- ・ホームページスクラップブック
- ・翻訳アダプタ CROSSROAD
- ・用語集
- ・ランチ-NX

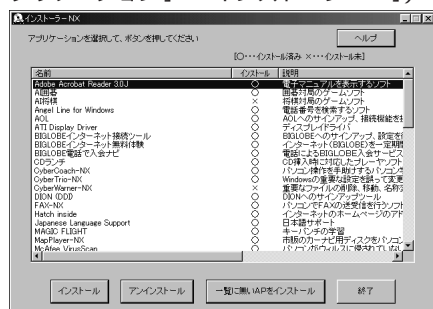
### ☑チェック!!

インストール先のフォルダを変更するなど、インストール内容を自分で決めたい場合は、下記の手順6のところで「インストール内容を自分で決める」を選択します。その場合のインストール方法は「C : ¥NECINST¥HTML¥INDEX.HTM」に記載されています。インストールを始める前によくお読みください。

## 追加方法

次の手順で追加(インストール)します。

インストーラ-NXを起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

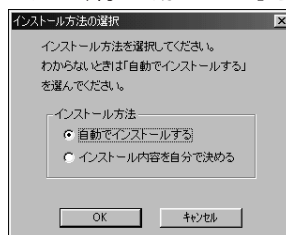


追加(インストール)するアプリケーションをクリック。

「インストール」をクリック。  
「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。  
CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。



「自動でインストールする」が選択されていることを確認して、「OK」をクリック。

インストールが完了すると次のメッセージが表示されます。

- ・インストールが完了したことを表すメッセージが表示された場合、「OK」をクリックしてください。インストールは完了です。
- ・再起動を促すメッセージが表示された場合、「はい」をクリックしてください。再起動後、インストールは完了です。

### ☑チェック!!

- ・「SmartVoice」をセットアップすると「NEC 音声認識エンジン 4.0(または3.0)」, 「NEC 音声合成エンジン 3.0」も同時にインストールされます。
- ・「アプリケーション CD-ROM」から、削除したアプリケーションを再追加する場合は、アプリケーションのアイコン登録先が、購入時と同じ状態に設定されないことがあります。
- ・TV モデルに入っている「ビットキャストブラウザ」「ADAMS ナビ」「モジモジ-NX」の再追加については、別冊の『TV モデルガイド』をご覧ください。
- ・「BIGLOBE 電話で入会ナビ」を追加している途中で「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

## アプリケーションCD-ROMを使って内容を確認しながらインストールするアプリケーション

次のアプリケーションは、本機に添付されているアプリケーション CD-ROM を使って追加します。内容を確認しながらインストールしてください。

- ・Adobe Acrobat Reader 3.0J

- ・Angel Line for Windows
- ・AOL
- ・IME 2000 音声入力タブレット  
(Office 2000 モデルのみ)
- ・NIFTY MANAGER  
(「セットアップされていないアプリケーションの追加」をご覧ください。)
- ・Timer-NX
- ・インターネットアクセスマネージャ
- ・てきばき家計簿マム 2 Plus

それぞれのアプリケーションのインストール手順のところをご覧ください。

### Adobe Acrobat Reader 3.0J の追加

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

「Adobe Acrobat Reader 3.0J」をクリックして、「インストール」をクリック。  
「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。  
CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。  
「インストール手順について」ウィンドウが表示されず。

「はい」をクリック。  
「Adobe Acrobat 3.0J をインストールします。続行しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「使用許諾契約書」ウィンドウが表示されます。

契約に同意の上、「はい」をクリック。  
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
インストールが始まります。  
しばらくすると「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

「Acrobat Reader 3.0J Readme ファイルを表示する。」のチェックをはずし、「終了」をクリック。  
「セットアップが終了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。

### Angel Line for Windows の追加

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

「Angel Line for Windows」をクリックして、「インストール」をクリック。  
「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。  
CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。  
「インストール手順について」ウィンドウが表示されず。

「はい」をクリック。  
「Angel Line for Windows インストール」ウィンドウが表示されます。

「続行」をクリック。  
「使用許諾」ウィンドウが表示されます。

「同意する」を選択し、「続行」をクリック。  
「コンポーネント」選択ウィンドウが表示されます。

「スタンドアロン」が選択されていることを確認し、「続行」をクリック。  
「インストールディレクトリの設定」ウィンドウが表示されず。

「C:¥ANGELWIN」と表示されているのを確かめて「続行」をクリック。  
「同じファイルがあった場合上書きしますがインストールを続行しますか?」と表示されたら、「続行」をクリックします。

しばらくすると「インストール終了」ウィンドウが表示されます。

「確認」をクリック。  
「システム設定」ウィンドウが表示されます。

「デフォルト」をクリック。  
「通信設定の確認」ウィンドウが表示されます。

「確認」をクリック。  
「接続テストの終了」ウィンドウが表示されます。

「確認」をクリック。

## AOL の追加

インストーラ-NX を起動する。  
 («ランチ-NX」 「ユーティリティ」 「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」 「アプリケーション」 「インストーラ-NX」)

「AOL」をクリックして、「インストール」をクリック。  
「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM  
ドライブにセットする。  
CD-ROM ドライバのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。  
「インストール手順について」ウィンドウが表示され  
ます。

「はい」をクリック。  
「AOL 4.0インストール」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「AOL セットアッププログラムへようこそ」とが表示  
されます。

「次へ」をクリック。  
「AOL のフォルダ (ディレクトリ) を選択してくださ  
い」と表示されます。

「次へ」をクリック。  
「ショートカットの追加」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「空き容量確認」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「既存のファイルをそのまま使いますか?」と表示され  
たら、「はい」をクリックしてください。

AOL を利用する際に役立つ情報が表示されますので、  
確認して「終了」をクリック。

「今すぐサインオンしますか?」と表示されたら、「い  
いえ」をクリック。

「OK」をクリック。

## IME 2000 音声入力アプレットの追加 (Office 2000 モデルのみ)

### チェック!

- ・IME 2000 音声入力アプレットを利用するには、  
SmartVoice および MS-IME 2000 が必要です。
- ・ランチ-NX 等、他のアプリケーションは終了してく  
ださい。ランチ-NX を終了するには、タイトルバー  
を右クリックして表示されるプルダウンメニューから  
「閉じる」を選択してください。

アプリケーション CD-ROM Vol.1 を CD-ROM ドラ  
イブにセットする。

「マイコンピュータ」をダブルクリック。

「CD-ROM」アイコンをダブルクリック。

「valupack」フォルダをダブルクリック。

「Voicepad」をダブルクリック。

「Microsoft(R) IME 2000 IME パッド 音声入力ア  
プレット をインストールしますか?」と表示されま  
す。

「はい」をクリック。  
使用許諾契約の画面が表示されます。


契約に同意の上、「はい」をクリック。  
インストールが始まります。



しばらくすると、「Microsoft(R) IME 2000 IME  
パッド 音声入力アプレットのインストールが完了し  
ました。」と表示されます。

「OK」をクリック。  
「ここで再起動しますか?」と表示されます。

「はい」をクリック。  
Windows が再起動します。  
再起動後、「Microsoft 音声入力アシスタントへよう  
こそ!」と表示されます。

「閉じる」をクリック。  
「Microsoft IME 2000 音声入力アプレット」ウィ  
ンドウが表示されます。

 をクリック。

 (音声入力アプレット) の左上の  をクリック。

「プロパティ」をクリック。  
「音声入力アシスタントのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「音声アシスタントの表示」欄の「Windowsの起動時に表示する」のをクリックして、にする。

「OK」をクリック。

音声入力タブレットの左上のをクリック。

「閉じる」をクリック。  
「この方法についての詳しいヘルプをご覧になりますか?」と表示されます。

「いいえ」をクリック。

Windowsを再起動する。  
（「スタート」ボタン 「Windowsの終了」 「再起動する」 「OK」）

## Timer-NXの追加

インストーラ-NXを起動する。  
（「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」）


「Timer-NX」をクリックして、「インストール」をクリック。  
「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーションCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。  
CD-ROMドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。  
「インストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「Timer-NXのセットアップを始めます。」のメッセージが表示されます。

「OK」をクリック。  
「セットアップを開始するには大きなボタンをクリックしてください。」と表示されます。

をクリック。  
インストールが始まります。

「Timer-NXのセットアップが完了しました。」と表示されたら、「OK」をクリック。

## インターネットアクセスマネージャの追加

インストーラ-NXを起動する。  
（「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」）

「インターネットアクセスマネージャ Ver3.0」をクリックして、「インストール」をクリック。  
「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーションCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。  
CD-ROMドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。  
「インストール手順について」ウィンドウが表示されず。

「はい」をクリック。  
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
「接続方法の設定」ウィンドウが表示されます。

インターネットに接続する方法を選んで「次へ」をクリック。  
インストールが始まります。

### チェック!!

「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。

「インターネットアクセスマネージャのファイルコピーが完了しました。ここで、READMEファイルを読みますか?」と表示されます。


READMEファイルを読む場合は「はい」、読まない場合は「いいえ」をクリック。  
「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」がチェックされていることを確認して、「完了」をクリック。  
Windowsが再起動します。

再起動後、表示された画面で「OK」をクリック。  
この後は、画面の指示にしたがって設定を行ってください。





参照  
設定のしかた  「パソコン探検箱」-「添付ソフトの使い方」-「インターネットアクセスマネージャ」

## てきばき家計簿マム 2 Plus の追加

インストーラ-NX を起動する。  
(「ランチ-NX」「ユーティリティ」「インストーラ-NX」または「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」)

「てきばき家計簿マム 2 Plus」をクリックして、「インストール」をクリック。  
「媒体のセット」ウィンドウが表示されます。

指定されたアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。  
CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯します。

しばらく待ってから「OK」をクリック。  
「インストール手順について」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。  
「てきばき家計簿マム 2 Plus セットアップ」ウィンドウが表示されます。

「インストール」をクリック。

「てきばき家計簿マム 2 Plus のセットアップ処理を完了しました。」と表示されたら「OK」をクリック。

## パソコン大学一年生 CD-ROM を使って追加する


パソコン大学一年生 CD-ROM を使って、次のアプリケーションを追加することができます。

- ・パソコン大学一年生 for Windows 98
- ・パソコン大学一年生 for 一太郎 9 (一太郎モデルのみ)
- ・パソコン大学一年生 for 三四郎 9 (一太郎モデルのみ)
- ・パソコン大学一年生 for Word 2000 (Office 2000 モデルのみ)
- ・パソコン大学一年生 for Excel 2000 (Office 2000 モデルのみ)

## パソコン大学一年生の追加


CD-ROM ドライブに本機添付の「パソコン大学一年生 CD-ROM」をセットする。

自動的にセットアップを開始するウィンドウが表示されます。自動表示されない場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックし、表示された画面で CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

「パソコン大学一年生 for Windows 98」と、一太郎モデルの場合は「パソコン大学一年生 for 一太郎 9 / 三四郎 9」、Office 2000 モデルの場合は「パソコン大学一年生 for Word 2000 / Excel 2000」に  が付いていることを確認し、「インストール実行」をクリック。


「パソコン大学一年生 for Windows 98 セットアップ」ウィンドウが表示されます。

「OK」をクリック。  
「セットアップを開始するには大きなボタンをクリックしてください」と表示されます。

 をクリック。  
「パソコン大学一年生 for Windows 98 のセットアップが完了しました。」と表示されます。

「OK」をクリック。  
しばらくすると、一太郎モデルの場合は「パソコン大学一年生 for 一太郎 9 / 三四郎 9 セットアップ」ウィンドウが表示され、Office 2000 モデルの場合は「パソコン大学一年生 for Word 2000 / Excel 2000 セットアップ」のウィンドウが表示されます。

「OK」をクリック。  
「セットアップを開始するには大きなボタンをクリックしてください」と表示されます。

 をクリック。  
しばらくすると、セットアップが完了した旨のメッセージが表示されます。

「OK」をクリック。

## Office 2000 Personal CD-ROM を使って追加する (Office 2000 モデルのみ)

「アプリケーションの削除」で「Office 2000 Personal」を削除した場合、本機添付の「Office 2000 Personal CD-ROM」を使って追加することができます。

**✓チェック!!**

ランチ-NXなど、他のアプリケーションは終了してください。ランチ-NXを終了するには、タイトルバーを右クリックして表示されるプルダウンメニューから「閉じる」を選択してください。

「Office 2000 Personal CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする。

「Microsoft Office 2000 へようこそ」ウィンドウが表示されます。

自動表示されない場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」を起動してCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

ユーザ情報(ユーザ名、頭文字、所属、CDキー)が入力されている場合は削除する。

「次へ」をクリック。


「Microsoft Office 2000 使用許諾とサポート情報」ウィンドウが表示されます。

自動的に表示されない場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」を起動してCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

「使用許諾契約書」の条項に同意します」のをクリックして、にする

「次へ」をクリック。


「Microsoft Office 2000 インストールの準備」ウィンドウが表示されます。

 (カスタマイズ)をクリック。

「Office 2000を以下の場所にインストールします」と表示されます。

インストール先が「c:\Program Files\Microsoft Office¥」になっていることを確認して、「次へ」をクリック。

「Microsoft Office 2000:機能の選択」ウィンドウが表示されます。

「 Microsoft Office」をクリック。プルダウンメニューが表示されます。

「マイコンピュータからすべて実行」をクリック。

灰色で表示されたフォルダがないことを確認して、「完了」をクリック。

追加が終了すると、「インストーラ情報」ウィンドウが表示されます。

「はい」をクリック。

Windows が再起動します。

「IMEのセットアップ」ウィンドウが表示されたら、「いいえ」をクリック。

**Voice 一太郎9・花子9 パック CD-ROM  
を使って追加する(一太郎モデルのみ)**

「コントロールパネルを使って削除するアプリケーション」で、「Voice 一太郎9・花子9 パック」を削除した場合は、本機添付の「Voice 一太郎9・花子9 パック CD-ROM」を使って、「Voice 一太郎9・花子9 パック」を追加することができます。

**✓チェック!!**

・「音声キット(VoiceATOK)」を「Voice 一太郎9・花子9 パック」と併せて使用する場合は、先に「Voice 一太郎9・花子9 パック」をセットアップしてから「音声キット(VoiceATOK)」をセットアップしてください。

・「音声キット(VoiceATOK)」の音声機能を利用するには、「SmartVoice」が必要です。

**Voice 一太郎9・花子9 パックの追加**

CD-ROMドライブに「Voice 一太郎9・花子9 パック CD-ROM」をセットする。

自動的にセットアップを開始するウィンドウが表示されます。

自動表示されない場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」を起動し、CD-ROMアイコンをダブルクリックしてください。

「一太郎9・花子9 パックのセットアップ」をクリック。

セットアップ開始を確認するウィンドウが表示されます。

「セットアップ開始」をクリック。

**✓チェック!!**

・「使用許諾契約の確認」ウィンドウが表示された場合は「確認」をクリックしてください。

・「更新の確認」ウィンドウが表示された場合は、「セットアップ続行」をクリックしてください。

「一太郎9・花子9 パックのセットアップを行います」と表示されます。

「次へ」をクリック。

「使用者名・法人名の登録」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「シリアルナンバー・User IDの登録」ウィンドウが表示されます。

J-Sheet をご覧の上、必要項目を入力して「次へ」をクリック。  
「使用者名・シリアルナンバーの確認」ウィンドウが表示されます。

正しく入力されていたら「登録する」をクリック。  
「セットアップ方法の選択」ウィンドウが表示されます。

「標準」が選ばれているのを確認して「次へ」をクリック。  
「標準モードでセットアップすると...」と表示されません。

「次へ」をクリック。  
「サンプルファイルの選択」ウィンドウが表示されます。

「基本サンプルのみハードディスクで利用」が選ばれているのを確認して「次へ」をクリック。  
「セットアップするフォルダの設定」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。  
空き容量をチェックした後に「ファイルのコピーを開始します」と表示されます。

「コピー開始」をクリック。  
「インターネット接続方法の選択」ウィンドウが表示されます。

「はい」を選択して「OK」をクリック。  
「JustNetに入会するには」ウィンドウが表示されます。

「確認」をクリック。  
「一太郎9・花子9パックのセットアップ終了」ウィンドウが表示されます。

「再起動」をクリック。  
Windows が再起動します。

### **チェック!**

「この後、一太郎 Office8 シリーズなどをセットアップすると正常に動作しない場合があります。」と表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

## 音声キット(VoiceATOK)の追加(一太郎モデルのみ)

CD-ROM ドライブに「Voice 一太郎9・花子9 パック CD-ROM」をセットする。

セットアップを開始するウィンドウが表示されます。

セットアップを開始するウィンドウが表示されない場合は、デスクトップにある「マイコンピュータ」を起動して、CD-ROM アイコンをダブルクリックしてください。

「音声キットのセットアップ」をクリック。

「セットアップが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリック。

セットアップを開始したときのウィンドウが表示されたら、「終了」をクリック。

P A R T

# 15

## 本機の設定を変更する

ここでは、本機の使用環境を設定するBIOSセットアップメニューと、省電力機能を使うための電源管理モードについて説明しています。通常は、これらの設定を変更する必要はありません。

BIOS セットアップメニュー  
電源管理モードについて

# BIOS セットアップメニュー

「BIOS セットアップメニュー」ではハードウェア環境の確認と変更、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

## ✓チェック!!

BIOS セットアップメニューは画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

## BIOS セットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOS セットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・省電力管理の設定
- ・起動の設定

## BIOS セットアップメニューを使う

### BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面

電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「< F2 > キーを押すと、BIOS セットアップメニューを起動します。」と表示されたら、すぐに【F2】を押す。「セットアップを起動しています...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

## ✓チェック!!

Windows が起動した場合は、Windows を終了して電源を切り、もう一度手順 からやり直してください。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ					
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理	起動	終了
システム時刻:	[XX:XX:XX]				項目ヘルプ
システム日付:	[XXXX/XX/XX]				<Tab>キー、<Shift>+Tab キー、<Enter>キーは、項目を選択します。
言語:	[日本語 (JP)]				
フロッピーディスクA:	[1.44/1.25Mb 3.5 ]				
プライマリマスタ	[XXXXMB]				
プライマリスレーブ	[なし]				
セカンダリマスタ	[CD-ROM]				
セカンダリスレーブ	[なし]				
キーボード機能					
起動時の自己診断画面	[使用しない]				
システムメモリ:	640KB				
拡張メモリ:	x x KB				
BIOS リビジョン	XXXX				
F1 ヘルプ	項目の選択	/+ 値の変更	F9 デフォルトの設定		
Esc 終了	メニューの選択	Enter サブメニューの選択	F10 保存して終了		

メニューバー

パラメータ

キーステータスバー

### BIOS セットアップメニューの終了

- 変更した設定を有効にして終了する場合

【F10】を押す。

「セットアップ確認」ウィンドウが表示されます。

「はい」を選んで【Enter】を押す。

設定値が保存され、BIOS セットアップメニューが終了します。また、メニューバーの「終了」でも BIOS セットアップメニューを終了することができます。

- 起動前の設定のまま終了する場合

【 F10 】でメニューバーの「終了」を選ぶ。

【 F10 】を押して「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ【Enter】を押す。

## ✓チェック!!

ここで「設定が保存されていません！保存してから終了しますか？」と表示された場合は、【 F10 】を押して「いいえ」にカーソルを合わせ【Enter】を押してください。

BIOS セットアップメニューを起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合はすべて無効にして）BIOS セットアップメニューが終了します。

### デフォルト値の設定

【F9】を押す。

「セットアップ確認」ウィンドウが表示されます。

【 F10 】で「はい」を選んで【Enter】を押す。

すべての設定値をデフォルト値（初期値）に戻します。また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

次にメニューバーで選択された各画面について説明します。

## BIOS セットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【**↑**】、【**↓**】でメニューバーのカーソルを選択し、【**→**】、【**←**】で設定項目を選択します。
- ・設定内容(例：システム時計の時、分、秒)のカーソル移動は【**Tab**】で選択します。設定内容の値は【**+**】、【**-**】で変更します。
- ・▶印がついた設定項目は【**Enter**】でサブメニューを表示し、【**Esc**】で元の画面に戻ります。

## メインの設定

- システム時刻  
現在の時刻を「時 / 分 / 秒」で入力します。時間については 24 時間形式で入力します。
- システム日付  
日付を「年 / 月 / 日」で入力します。ただし、言語を英語に設定しているときは、「月 / 日 / 年」で入力します。
- 言語  
BIOS で使用する言語を設定します。日本語または英語を選べます。
- フロッピーディスク A  
フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

表中の **■** は購入時の設定です。

設定項目	設定内容
フロッピーディスクA	使用しない
	360Kb 5.25"
	1.2Mb 5.25"
	720Kb 3.5"
	1.44/1.25Mb 3.5"
	2.88Mb 3.5"

- プライマリマスタ  
現在接続されている IDE デバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【**Enter**】を押すとサブメニューの設定画面になります。【**Esc**】を押すと元の画面に戻ります。

表中の **■** は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
タイプ	自動 /なし/CD-ROM/ 取外し可能IDE/ 取外し可能ATAPI/ Other ATAPI/ユーズ	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。
32ビットI/O	使用しない/使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。

- プライマリスレーブ  
プライマリマスタの設定と同様です。
- セカンダリマスタ  
プライマリマスタの設定と同様です。
- セカンダリスレーブ  
プライマリマスタの設定と同様です。

## ✓チェック!!

本機に搭載されているハードディスクの容量を確認したい場合は BIOS セットアップメニューの「メイン」「プライマリマスタ」のサブメニューを開き、詳細表示を行い「LBAフォーマット」の「最大容量」を参照してください。

- キーボード機能  
キーボード機能を設定します。この項目にカーソルを合わせ【**Enter**】を押すとサブメニュー設定画面になります。【**Esc**】を押すと元の画面に戻ります。

表中の **■** は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
Num lock	自動/オン/オフ	システム起動時にNum Lockをオンにするかどうかを設定します。
キークリック	使用しない/使用する	キークリック音を使用するかどうかを設定します。
キーボード自動リポート間隔	30/秒、26.7/秒、21.8/秒、18.5/秒、13.3/秒、10/秒、6/秒、2/秒	キーリポート間隔を設定します。
キーボード自動リポート待ち時間	1/4秒、1/2秒、3/4秒、1秒	キーリポートが開始されるまでの待ち時間を設定します。
USBレガシー機能	使用しない/使用する	「使用する」を選択するとUSBレガシー機能を有効にします。

- 起動時の自己診断画面  
起動時に自己診断画面を表示するかどうかを設定します。「使用しない(購入時)」に設定すると起動時間が短くなります。
- システムメモリ  
搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
- 拡張メモリ  
搭載されている拡張メモリを表示します。
- BIOS リビジョン  
BIOS のリビジョンを表示します。
- Processor Serial Number(VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、VE500J/7、VE450J/7、VT450J/7、VC550J/8、VC500J/8、VC450J/8、VE500J/8、VE450J/8、VT450J/8のみ)  
プロセッサシリアルナンバの読みとりを可能にするかどうかを設定します。

購入時は、「使用しない」に設定されています。この設定では、プロセッサシリアルナンバの読みとりはできません。

### ✓チェック!

プロセッサシリアルナンバは、Pentium® プロセッサの新機能で、プロセッサの識別子です。プロセッサごとに固有になっているので、ホームページやアプリケーションを利用する際に、システムを識別するためのより詳細な情報として使われることがあります。ホームページやアプリケーションを利用する際に、プロセッサシリアルナンバの読みとりが必要になった場合には、この項目の設定を「使用する」にしてください。

## 詳細の設定

### ■ プラグ&プレイ O/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合には、「はい」(購入時)を選びます。

### ■ 設定値の初期化

システムの設定値を初期化したい場合には、「する」を選びます。購入時には「しない」に設定されています。

### ■ PCI 設定

各 PCI デバイスの割り込み番号 (IRQ) を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面になります。

表中の          は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
PCI IRQ line 1	使用しない/自動選択 /3/4/5/7/9/10/ 11/12/14/15	PCI IRQ line 1 で使用する IRQ 番号を設定します。
PCI IRQ line 2	使用しない/自動選択 /3/4/5/7/9/10/ 11/12/14/15	PCI IRQ line 2 で使用する IRQ 番号を設定します。
PCI IRQ line 3	使用しない/自動選択 /3/4/5/7/9/10/ 11/12/14/15	PCI IRQ line 3 で使用する IRQ 番号を設定します。
PCI IRQ line 4	使用しない/自動選択 /3/4/5/7/9/10/ 11/12/14/15	PCI IRQ line 4 で使用する IRQ 番号を設定します。

PCI デバイスは ISA デバイス が使用している割り込み番号を使用することはできません。割り込み番号が重複しないように設定する必要があります。通常は、「自動選択」に設定してください。

### ■ キャッシュメモリ

この項目の設定は変更しないでください。

## ■ 周辺機器設定

各種周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面になります。  
コンパクトタイプには、「シリアルポート B」の項目はありません。

表中の          は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
シリアルポート A	使用しない	シリアルポート A は使用できません。
	<span style="background-color: #cccccc;">使用する</span>	ユーザが I/O ベースアドレスと割り込み番号を設定することができます。
	自動	BIOS が I/O ベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。
	PnP OS	プラグ & プレイに対応した OS が I/O ベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。
I/O ベースアドレス	<span style="background-color: #cccccc;">3F8/2F8/3E8/2E8</span>	シリアルポート A に I/O ベースアドレスを設定します。
割り込み	<span style="background-color: #cccccc;">IRQ3/IRQ4</span>	シリアルポート A に割り込み番号を設定します。
シリアルポート B		シリアルポート A と同様です。購入時には「使用しない」に設定されています。
パラレルポート	使用しない	パラレルポートは使用できません。
	<span style="background-color: #cccccc;">使用する</span>	ユーザがパラレルポートのモード、I/O ベースアドレス、割り込み番号を設定することができます。
	自動	BIOS が自動的にパラレルポートの設定を行います。
	PnP OS	プラグ & プレイに対応した OS が自動的にパラレルポートの設定を行います。
モード	出力のみ/双方向/ECP	パラレルポートにモードを設定します。
I/O ベースアドレス	<span style="background-color: #cccccc;">378/278/3BC</span>	パラレルポートに I/O ベースアドレスを設定します。
割り込み	<span style="background-color: #cccccc;">IRQ5/IRQ7</span>	パラレルポートに割り込み番号を設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない/使用する/自動	オプションのフロッピーディスクを使用する場合は「使用する」に設定します。
I/O ベースアドレス	<span style="background-color: #cccccc;">プライマリ/セカンダリ</span>	オプションのフロッピーディスクの I/O ベースアドレスを設定します。

### ■ 大容量ディスクアクセスモード

この項目の設定は変更しないでください。

### ■ ローカルバス IDE アダプタ

内蔵の IDE アダプタを使用するかどうかを設定します。購入時には「両方」に設定されています。

■ ビデオ詳細設定

ビデオに関する各種設定を行います。

表中の **■** は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
グラフィックスアパーチャ	4Mb/8Mb/16Mb/ 32Mb/64Mb/ 128Mb/256Mb	AGPビデオデバイスが使用するグラフィックスアパーチャサイズを設定します。
ビデオのプライマリ設定	PCI/AGP	使用するビデオデバイスを選択します。PCIスロットにビデオカードが増設されていない場合は、「PCI」に設定してもAGPが有効になります。

■ クイックブート

「使用する」(購入時)に設定した場合、システム起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。

■ DMI イベントログ

起動時に起きたシステムのイベントログを参照できます。

■ セキュリティの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

■ スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードの設定状態を表示します。購入時の状態ではパスワードが設定されていないため、「クリア」と表示されます。

表中の **■** は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
スーパーバイザパスワード	クリア	スーパーバイザパスワードが設定されていません。
	設定	スーパーバイザパスワードが設定されています。

■ ユーザパスワード

ユーザパスワードの設定状態を表示します。購入時の状態ではパスワードが設定されていないため、「クリア」と表示されます。

表中の **■** は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
ユーザパスワード	クリア	ユーザパスワードが設定されていません。
	設定	ユーザパスワードが設定されています。

■ **チェック!!**

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの設定や入力のしかたについては後述の「パスワードの設定と入力」をご覧ください。

■ スーパーバイザパスワード設定

スーパーバイザパスワードの設定を行います。設定方法については、後述の「パスワードの設定と入力」をご覧ください。

■ ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定を行います。設定方法については、後述の「パスワードの設定と入力」をご覧ください。

■ 起動時のパスワード

システム起動時にスーパーバイザパスワードやユーザパスワードの入力を行うかどうかの設定を行います。購入時には「使用しない」に設定されています。

■ ハードディスク起動セクタ

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかの設定を行います。書き込み禁止にすると起動セクタをウイルスから保護します。購入時には「通常動作」に設定されています。

■ フロッピィアクセス

「スーパーバイザ」に設定するとスーパーバイザ以外フロッピィディスクドライブに対してアクセスできなくなります。購入時には「スーパーバイザ」に設定されています。

■ ウィルスチェック警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」、「毎日」、「毎週(月曜日)」、「毎月(1日)」の中から選びます。購入時には「使用しない」に設定されています。

■ システムのバックアップ警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」、「毎日」、「毎週(月曜日)」、「毎月(1日)」の中から選びます。購入時には「使用しない」に設定されています。



## 省電力管理の設定


システムの省電力管理設定を行います。


### ■ 省電力

パワーマネジメントモードを選びます。モードを選ぶことによってシステムのパワーマネジメント設定を変更します。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

表中の  は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
省電力	使用しない	パワーマネジメント機能を停止します。
	 カスタマイズ	各種タイムアウト時間をユーザ自身で選べます。
	最大省電力	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下のとおりです。 自動サスペンドタイムアウト：5分 ハードディスクタイムアウト：1分
性能優先	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下のとおりです。 自動サスペンドタイムアウト：60分 ハードディスクタイムアウト：15分	

### ■ 自動サスペンドタイムアウト

システムが自動的にサスペンドするまでの時間を設定します。購入時には「20分」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、この設定は無効です。

### ■ ハードディスクタイムアウト

ハードディスクのモータが停止するまでの、ハードディスクの非アクティブ状態の時間を設定します。購入時には「使用しない」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

・「ハードディスクタイムアウト」の設定は、Windows 98 の「コントロールパネル」 「電源の管理」の「ハードディスクの電源を切る」でも設定できますが、これらの設定は、設定時間の短いほうが有効になります。通常は、BIOS セットアップメニューの「ハードディスクタイムアウト」は「使用しない」に設定し、Windows 98 側で設定するようにしてください。

・10分未満に設定した場合、設定した時間になっても、ハードディスクのモータが停止しないことがあります。

### ■ システムスイッチ

本体の電源スイッチの機能を設定します。

「パワーボタン」に設定すると、電源のオン/オフができます。「スリープボタン」に設定すると、サスペンド/レジュームすることができます。購入時には、「パワーボタン」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。ACPI モードのときに Windows 98 で電源スイッチを使ってサスペンド/レジュームを行うには、「コントロールパネル」 「電源の管理」 「詳細」タブで「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」にしてください。

### ■ 入力装置によるレジューム

「オン」に設定すると、入力デバイスでレジュームすることができます。購入時には「オン」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

### ■ モデムリングによるレジューム

「オン」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、システムをサスペンド状態から復帰します。購入時には「オフ」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、この設定は無効です。

### ■ 時刻指定によるレジューム

「オン」に設定すると、レジューム時刻の設定時間でシステムをサスペンド状態から復帰します。購入時には「オフ」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

### ■ レジューム時刻

「時刻指定によるレジューム」で「オン」に設定した場合、システムを復帰する時刻を設定します。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

### ■ IDE デバイス 0 監視

「使用する」に設定すると、IDE デバイス 0 が動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監視します。購入時には「使用する」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

### ■ IDE デバイス 1 監視

「使用する」に設定すると、IDE デバイス 1 が動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監視します。購入時には「使用する」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

### ■ IDE デバイス 2 監視

「使用する」に設定すると、IDE デバイス 2 が動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監視します。購入時には「使用しない」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

### ■ IDE デバイス 3 監視

「使用する」に設定すると、IDE デバイス 3 が動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監視します。購入時には「使用する」に設定されています。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

### ■ PCI バス監視

「使用する」に設定すると、PCI バスが動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監視します。購入時には「使用しない」に設定されています。

設定項目	設定内容	説明
バスの使用頻度	0-255	256クロックサイクル期間に検出されるデータフェーズ数を設定します。0から255までの値が設定できます。
バスの占有時間率	0-100	スタンバイタイマをリロードするためのバスの占有時間率を設定します。0から100までの値が設定できます。

#### ✔ チェック!!

Windows 98 では、ACPI モード時は、この設定は無効です。

## 起動の設定

### ■ AC 投入時の電源状態

AC電源が失われ、再投入されたとき、どの状態に復帰するかを設定します。購入時には「オフ」に設定されています。なお、この項目の設定は変更しないでください。

### ■ PCI デバイスによる電源オン

PCI デバイスによる電源オンおよびレジュームを有効にします。購入時には「しない」に設定されています。

起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。番号が小さいデバイスからオペレーティングシステムを起動します。オペレーティングシステムが存在しないなど起動に失敗した場合は、次のデバイスから起動します。

起動するデバイスを変更するには【 】【 】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【 + 】を押すとリストの上側に移動し、【 - 】を押すとリストの下側に移動します。

### ■ ハードディスク

複数のデバイスが存在するため、さらにこの中で起動する優先順位を設定することができます。

### ■ 取り外し可能なデバイス

複数のデバイスが存在するため、さらにこの中で起動する優先順位を設定することができます。

### ■ 取り外し可能なフォーマット

取り外し可能なドライブに挿入されているメディアのフォーマットを設定します。

#### ✔ チェック!!

この項目は、スーパーディスクなどの取り外し可能なデバイスが接続された場合に表示されます。

### ■ セットアップ情報画面

「使用する」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。購入時には「使用しない」に設定されています。

## 終了

BIOS セットアップメニューの終了とシステム設定の読み込み / 保存を行います。

### ■ 変更を保存して終了する

システムの設定を終了して、変更を保存します。

- 変更を保存せずに終了する  
設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。
- デフォルト値をロードする  
すべての設定値にデフォルト値を書き込みます。
- 変更を取り消す  
すべての設定項目に対して変更前の値に戻します。
- 変更を保存する  
設定値を保存します。

## パスワードの設定と入力

パスワード(スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード)を設定すると、BIOSセットアップメニュー起動時に設定したパスワードを入力しないとBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。

### パスワードの設定

パスワードには、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードがあります。これらのパスワードを設定することにより、BIOSセットアップメニューで設定できる項目が制限されます。BIOSセットアップメニュー起動時に、スーパーバイザパスワードを入力すると全項目が設定可能ですが、ユーザパスワードを入力すると設定できる項目が制限されます。

- パスワードに使用できる文字と記号  
半角英数字のみがパスワードとして使用でき、7文字以内でなければなりません。大文字/小文字の区別はありません。
- スーパーバイザパスワードの設定  
BIOSセットアップメニューで次の設定を行います。  
【 】【 】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。  
【 】【 】で「スーパーバイザパスワード設定」を選ぶ。  
【Enter】を押す。  
「新しいパスワードを入力して下さい。」と表示されます。  
パスワードを入力し、【Enter】を押す。  
もう一度同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。  
「変更が保存されました。」と表示されます。  
【Enter】を押す。  
これでスーパーバイザパスワードが設定されました。

- ユーザパスワードの設定  
BIOSセットアップメニューで次の設定を行います。

### ✓チェック!!

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードを設定しないと設定できません。

- 【 】【 】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。
- 【 】【 】で「ユーザパスワード設定」を選ぶ。

【Enter】を押す。  
「新しいパスワードを入力して下さい。」と表示されま  
す。

パスワードを入力し、【Enter】を押す。

もう一度同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。  
「変更が保存されました。」と表示されます。

【Enter】を押す。  
これでユーザパスワードが設定されました。

### パスワードの変更

### ✓チェック!!

パスワードが設定されている状態をクリアして、次回BIOSセットアップメニュー起動時からパスワード入力を行わないようにするには、手順 、 でパスワードを入力しないで【Enter】を押してください。

- スーパーバイザパスワードの変更  
すでにスーパーバイザパスワードが設定されている場合は、次の手順によりパスワードを変更することができます。  
【 】【 】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。  
【 】【 】で「スーパーバイザパスワード設定」を選ぶ。  
【Enter】を押す。  
「現在のパスワードを入力して下さい。」と表示されま  
す。  
今まで設定していたパスワードを入力し、【Enter】を  
押す。  
新しいパスワードを入力し、【Enter】を押す。  
もう一度、手順 と同じパスワードを入力し、【Enter】  
を押す。  
「変更が保存されました。」と表示されます。

【Enter】を押す。

これでスーパーバイザパスワードが変更されました。

#### ■ ユーザパスワードの変更

すでにユーザパスワードが設定されている場合は、次の手順によりパスワードを変更することができます。

【 】【 】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

【 】【 】で「ユーザパスワード設定」を選ぶ。

【Enter】を押す。

「現在のパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

今まで設定していたパスワードを入力し、【Enter】を押す。

新しいパスワードを入力し、【Enter】を押す。

もう一度、手順 と同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。

「変更が保存されました。」と表示されます。

【Enter】を押す。

これでユーザパスワードが変更されました。

#### BIOSセットアップメニュー起動時のパスワード入力

パスワードを設定すると、次回BIOSセットアップメニュー起動時に、「パスワードを入力して下さい。」と表示されます。

・スーパーバイザパスワードのみを設定している場合

スーパーバイザパスワードを入力して【Enter】を押すと、BIOSセットアップメニューが起動します。

・スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定している場合

スーパーバイザパスワード、またはユーザパスワードを入力して【Enter】を押すと、BIOSセットアップメニューが起動します。

ただし、ユーザパスワードでBIOSセットアップメニューを起動すると、以下の項目が設定できなくなります。

・「メイン」メニュー

- フロッピィディスク A
- プライマリマスタ
- プライマリスレーブ
- セカンダリマスタ
- セカンダリスレーブ
- キーボード機能

起動時の自己診断画面

Processor Serial Number

・「詳細」メニュー

各項目

・「セキュリティ」メニュー

ユーザパスワード設定以外の項目

・「起動」メニュー

セットアップ情報画面

・【F9】などによるデフォルトの設定

#### ✓チェック!!

・パスワードの入力を間違えると、「パスワードが正しくありません。」と表示されますので、【Enter】を押してもう一度パスワードを入力してください。

・パスワードを忘れてしまうと本機を起動できなくなります。この場合は、後述の「パスワードの解除」にしたがって、本体内部のストラップスイッチを取り外さなければなりません。パスワードは忘れないようにしてください。

## パスワードの解除

本機では、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れて、本機を起動できなくなります。パスワードを忘れた場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。

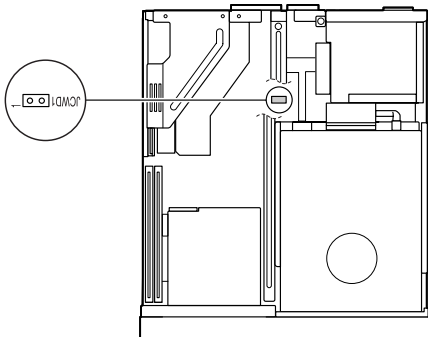
### ストラップスイッチ

本体内部には、次の図のようなストラップスイッチがあります。このスイッチを取りはずすことでパスワードの解除ができます。

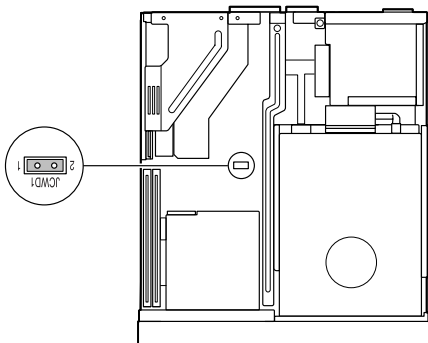
#### ✓チェック!!

お使いの機種によって、本体内部の形状が異なります。

- ・VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、VE500J/7、VE450J/7、VT450J/7、VC550J/8、VC500J/8、VC450J/8、VE500J/8、VE450J/8、VT450J/8の場合



- ・VC40H/7、VE40H/7、VC40H/8、VE40H/8の場合



## パスワードの解除のしかた

### ⚠注意



けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。



高温注意

このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。

CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

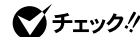
本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

正しい手順でルーフカバーを外す。



参照  
ルーフカバーの開け方 PART5の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

ストラップスイッチを上引き抜く。



✓チェック!!  
抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

正しい順序でルーフカバーを取り付ける。



参照  
ルーフカバーの閉め方 PART5の「本体の開け方と閉め方」(p.56)

本体背面から外したケーブルをもとどおり接続して、本機の電源を入れる。

Windows が起動します。

Windows を終了し、本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

手順 で引き抜いたストラップスイッチを元通りに差し込む。

正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

外したケーブルをもとどおり接続する。

# 電源管理モード について

本機の電源管理のモードである ACPI モードと APM モードについて説明します。

## ✓チェック!!

TVモデルをお使いの場合は、『TVモデルガイド』をご覧ください。

## ACPIモードとAPMモード

本機には、省電力機能を使うための電源管理のモードとして、ACPIモードとAPMモードの2つのモードが使用できます。  
ご購入時にはACPIモードに設定されています。

## ✓チェック!!

TVモデルは、APMモードに設定されています。

### ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って、電源管理を行うモードです。ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源管理を、本機のOSであるWindows 98で行うためのしくみです。

### APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って、電源管理を行うモードです。

APMとは、パソコンや周辺機器の電源管理を、BIOSで行うためのしくみです。

次のような場合には、APMモードを使用します。

- ・「Timer-NX」を使って、電源が切れている状態から、時間を指定して電源を入れる場合

### モードの確認

本機がどちらのモードで動作しているかは、「Microsoft システム情報」または「デバイスマネージャ」で確認できます。

- Microsoft システム情報で確認する  
次の手順で確認します。

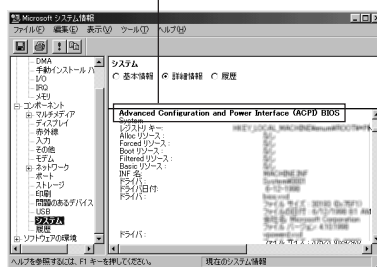
「Microsoft システム情報」を起動する。  
(「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「システム情報」)

「コンポーネント」をダブルクリックして、「システム」をクリック。  
システムデバイスが表示されます。

表示されたデバイスリストをスクロールして、次のデバイスがあることを確認します。

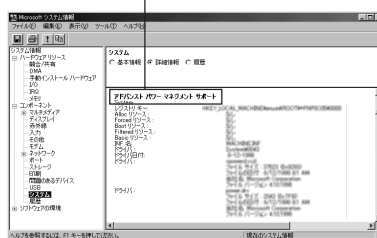
- ・ACPIモードのとき

「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」と表示される



- ・APMモードのとき

「アドバンスド パワー マネジメント サポート」と表示される



- デバイスマネージャで確認する

## ✓チェック!!

「デバイスマネージャ」は、「CyberTrio-NX」のモードが「アドバンスドモード」のときに使用できます。「アドバンスドモード」に変更してから、確認の手順を行ってください。



モードの変更 PART13「Windows 98の利用環境の変更 CyberTrio-NX 」

次の手順でモードを確認します。

「コントロールパネル」を起動する。  
 (「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)  
 「コントロールパネル」が起動します。

「システム」をダブルクリック。  
 「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「デバイスマネージャ」タブをクリック。  
 「デバイスマネージャ」タブのウィンドウが表示されま  
 ず。

「システムデバイス」をダブルクリック。  
 「システムデバイス」フォルダの内容が表示されます。  
 このフォルダに次のデバイスがあることを確認しま  
 す。

- ・ACPIモードのとき  
 「ACPI x x x」など
- ・APMモードのとき  
 「アドバンスド パワーマネジメント サポート」

## モードの切り替え



TVモデルのモードの切り替え方については、『TVモデルガイド』をご覧ください。

### モードの切り替え時の注意

- ・ACPIモードでは、電源管理用に割り込み要求(IRQ)を1つ使用します。
- ・モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップ直後のみできます。
- ・ACPIモード(購入時)からAPMモードに切り替えた後、APMモードからACPIモードに戻すには再セットアップが必要です。



再セットアップ 『困ったときのQ&A』の「PART3再セットアップするには」

- ・モードの切り替え時にドライバを要求された場合は、画面の指示にしたがって、C: ¥Windows¥Options ¥Cabsよりドライバを組み込んでください。

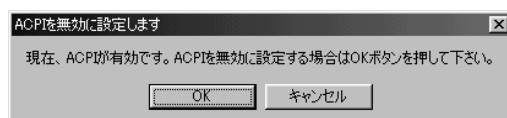
### ACPIモードから APMモードに切り替える

「APMモードに必要なデバイスを組み込む」、「ソフトウェアパワーオフ機能を有効にする」、「ディスプレイの表示の設定を元に戻す」の順に設定をしてください。

#### ■ APMモードに必要なデバイスを組み込む

「C:¥Modechg」フォルダを開く。  
 (「マイコンピュータ」 「Windows 98(C:)」  
 「Modechg」)

「acpi\_apm」をダブルクリック。  
 次の画面が表示されます。



「OK」をクリック。  
 次の画面が表示されます。



「OK」をクリック。

「ハードウェアの追加」を起動する。  
 (「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「ハードウェアの追加」)  
 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。

「デバイスは一覧にない」を選んで、「次へ」をクリック。

「はい」が選ばれていることを確認して、「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。  
 ハードウェアの検出が始まります。しばらくお待ちください。

「完了」をクリック。

「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら「はい」をクリック。

本機が再起動します。

640 × 480 ドット、16 色画面となり、「ソフトウェアパワーオフ機能は無効です。」と表示されたら「OK」をクリック。

デバイスの組み込みが終了した後、「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら「はい」をクリック。

本機が再起動します。

「ソフトウェアパワーオフ機能は無効です。」と表示されたら「OK」をクリック。

### 🔍 チェック!

「OK」をクリックできない場合は、キーボードの【Enter】を押してください。

#### ■ ソフトウェアパワーオフ機能を有効にする

「ハードウェアの追加」を起動する。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「ハードウェアの追加」)

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。

「デバイスは一覧にない」を選んで、「次へ」をクリック。

「はい」が選ばれていることを確認して、「次へ」をクリック。

「次へ」をクリック。

ハードウェアの検出が始まります。しばらくお待ちください。

「完了」をクリック。

本機を再起動する。

(「スタート」ボタン 「Windows の終了」 「再起動する」 「OK」)

「C:\¥Modechg」フォルダを開く。

(「マイコンピュータ」 「Windows 98(C:)」 「Modechg」)

「Acpioff2」をダブルクリック。

「C:\¥MODECHG¥ACPIOFF2.REG」の情報をレジストリに追加しますか?」と表示されたら「はい」をクリック。

「C:\¥MODECHG¥ACPIOFF2.REG」の情報が、レジストリに正しく入力されました。」と表示されたら「OK」をクリック。

本機を再起動する。

(「スタート」ボタン 「Windows の終了」 「再起動する」 「OK」)

#### ■ ディスプレイの表示の設定を元に戻す

「画面のプロパティ」を起動する。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「画面」)

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「設定」タブをクリック。

「設定」タブのウィンドウが表示されます。

色から「High Color(16ビット)」を選んで、「OK」をクリック。

「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」と表示されたら「はい」をクリック。

本機が再起動します。

再起動後、「画面のプロパティ」を起動する。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「画面」)

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「設定」タブをクリック。

「設定」タブのウィンドウが表示されます。

画面の領域から、「1024 × 768」を選んで「OK」をクリック。

「Windowsはデスクトップのサイズを変更します。これには数秒かかり、画面がちらつく場合もあります。Windows が正しく再表示されない場合は、約 15 秒待つと元の設定に戻ります。」と表示されます。

「OK」をクリック。

「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか?」と表示されたら「はい」をクリック。ディスプレイの表示の設定が元の色数、解像度に戻ります。

これで、本機が APM モードになりました。



## 切り替えた後の注意

- ・APMモードからACPIモードに切り替えるには、再セットアップが必要です。

### 参照

再セットアップ 『困ったときのQ&A』「PART3 再セットアップするには」

- ・「今後、待機状態にならないようにしますか？」のメッセージが表示された場合は「いいえ」を選んでください。
- ・ACPIモードからAPMモードに切り替えると「Sound Blaster Pro or Compatible/ゲームポートジョイスティック」が追加されることがあります。「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントロール」を開いて削除してください。
- ・別売の98配列USBキーボードをご利用の場合、ACPI/APMのモードの切り替えを実行すると、キーボードの設定が「106日本語(A01)」に変わってしまいます。切り替え完了後、98配列USBキーボードドライバを再設定してください。設定方法は、「スタート」ボタン「プログラム」「追加情報」の「Q: 別売の98配列USBキーボード(PK-KB011)を使いたい」をご覧ください。

## APMモードでタイマー機能を利用する場合の注意

APMモードを使用すると、タイマー機能(「Timer-NX」)を使って、電源が切れている状態から時刻を指定して電源を入れることができます。

### Timer-NX を利用するときの注意

- ・電源を切る時刻を指定しない場合は、自動的に電源が入っても、自動的に電源を切ることができません。
- ・ネットワークの設定をしたり、「コントロールパネル」の「パスワード」や「ユーザー」の設定をしてWindows 98を起動するときに、パスワードやユーザー名を入力する画面が表示されるように設定していると、「Timer-NX」を使用して本機の電源を入れても、ユーザ名、パスワードの入力待ちの状態のままになってしまいます。

- ・BIOSセットアップメニューで、「ユーザパスワード」「スーパーバイザパスワード」を設定していると、「Timer-NX」を使用して本機の電源を入れても、パスワード入力待ち状態のままになってしまいます。「Timer-NX」で自動的に本機の電源を入れる場合は、BIOSセットアップメニューで、「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定してください。
- ・「Timer-NX」で自動的に本機の電源を入れる場合は、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットしないようにしてください。
- ・タイマプログラムで指定した時刻とほぼ同じ時刻に手動で電源を入れた場合は、タイマーで起動したものと判断される場合があります(2~3分の誤差があります)。
- ・タイマプログラムを複数の曜日に設定している場合は、Windowsの終了時に次回起動予定の曜日が保存されます。このため、手動で電源を入れ、「Timer-NX」を起動すると、次回起動予定の曜日が初期値として表示されます。
- ・設定後に電源を切った状態で、本機の電源ケーブルを抜いたり、停電になったりした場合は、設定が無効になります。この場合、もう一度電源を入れ、Windowsが起動すると再設定されます。

### インターネットアクセスマネージャで、Timer-NXと連携してオートパイロットするときの注意

- ・APMモードを使用すると「Timer-NX」と連携して、オートパイロットの開始時間に電源を入れ、オートパイロット終了後に電源を切ることができます。
- ・「Timer-NX」と連携してオートパイロットを行う場合は「オートパイロット終了と同時に」で設定されている内容とは関係なくオートパイロット終了後に回線を切断し、電源を切ります。

## その他の注意

### 電源スイッチで、電源を切るときの動作

電源スイッチを押して、電源を切るときの動作は、APMモードの場合とACPIモードの場合で異なります。

APM モードの場合(*1)	終了確認のメッセージが表示されます。
ACPI モードの場合(*2)	終了確認のメッセージは表示されず、シャットダウン処理を行い、そのまま電源が切れます。 アプリケーションを使用中の場合は、アプリケーションの終了確認のメッセージ(「保存しますか?」など)が表示されることがあります。

(\*1): BIOS セットアップメニューの「省電力」-「システムスイッチ」で「パワーボタン」に設定されている場合。

(\*2): 「コントロールパネル」の「電源の管理」-「詳細」タブ-「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「シャットダウン」に設定されている場合。



# 付 録

Windows 98 で MS-DOS モードを利用する

Windows NT 4.0 の利用

本体の各部の名称

機能仕様

FAX モデムボード機能仕様

AT コマンド

# Windows 98 でMS-DOS モードを利用する

Windows 98のMS-DOSモードを利用するときの注意事項を説明しています。

## MS-DOS モードを利用する

本機は、MS-DOSプロンプトで動作しないMS-DOSアプリケーションを利用するために、MS-DOSモードで起動することができます。

### ✓チェック!

プログラムによっては、MS-DOSモードおよびMS-DOSプロンプトでは利用できないものがあります。特にPC-9800シリーズ対応のアプリケーションの多くは動作しません。ご使用のアプリケーションが利用できるかについてはアプリケーションの製造元にお問い合わせください。

### 本機をMS-DOSモードで再起動する

MS-DOSモードを利用するには、次のように操作します。

「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック。

「MS-DOSモードで再起動する」をクリックして、「OK」をクリック。

本機がMS-DOSモードで再起動します。

### MS-DOSモードを終了する

コマンドプロンプトの画面から、次のように入力。

EXIT【Enter】

Windows 98が再起動します。

### ■ MS-DOSモードとMS-DOSプロンプトの違い

MS-DOSを利用するには、「MS-DOSモード」と「MS-DOSプロンプト」とがあります。

「MS-DOSモード」は、MS-DOSで起動したときと同じような環境になるため、他のアプリケーションと一緒に使うことはできません。

「MS-DOSプロンプト」は、MS-DOSをWindows 98上でマルチタスクのアプリケーションとして使用できるようにしたものです。

「MS-DOSプロンプト」を利用するには、次のように操作します。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOSプロンプト」をクリック。

「MS-DOSプロンプト」ウィンドウが表示されます。

なお、コマンドやアプリケーションによっては、「MS-DOSモード」からは使用できないものや「MS-DOSプロンプト」からは使用できないものがあります。

## CD-ROM ドライブ (本機内蔵CD-ROM ドライブ)

本機は、購入時の状態では、MS-DOSモードでCD-ROMドライブを使用することはできません。MS-DOSモードで本機内蔵のCD-ROMドライブを使用する場合は、次の手順が必要です。

### 現在のMS-DOS設定を使う場合

MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の手順を行ってください。

「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック。

「MS-DOSモードで再起動する」を選んで、「OK」をクリック。

本機がMS-DOSモードで再起動します。

コマンドプロンプトの画面から次のように入力する。

SETCD /A【Enter】

CD-ROMドライブがCONFIG.SYSとDOSSTART.BATに追加されます。

SETCDコマンドを実行する前のCONFIG.SYSとDOSSTART.BATは、それぞれCONFIG.SCD、DOSSTART.SCDとして保存されます。

コマンドプロンプトの画面から次のように入力します。

EXIT【Enter】

Windows 98 が再起動します。

「スタート」ボタン 「Windows の終了」をクリック。

「再起動する」を選んで、「OK」をクリック。  
本機を再起動します。

「スタート」ボタン 「Windows の終了」をクリック。

「MS-DOS モードで再起動する」を選んで、「OK」をクリック。

MS-DOS モードが起動します。

CD-ROM ドライブが Q ドライブに設定されます。

### 新しい MS-DOS 設定を指定する場合

新しい MS-DOS 設定を指定する場合、MS-DOS モード上で CD-ROM ドライブを使用するには、次の手順で行ってください。

「エクスプローラ」を起動する。  
(「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」)

「エクスプローラ」ウィンドウが表示されます。

新しい MS-DOS 設定を指定したい MS-DOS プログラム(「COMMAND.COM」)をクリック。  
プログラム名が反転表示されます。

「エクスプローラ」の「ファイル」メニューから「プロパティ」をクリック。

「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

「プログラム」タブをクリックして、「詳細設定」ボタンをクリック。

「プログラムの詳細設定」ウィンドウが表示されます。

「MS-DOS モード」をクリックして、「新しい MS-DOS 設定を指定する」チェックボックスにチェックをつける。  
CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT の内容が編集できるようになります。

「OK」をクリック。  
「プログラムの詳細設定」ウィンドウが閉じます。

「OK」をクリック。  
「プロパティ」ウィンドウが閉じます。

「エクスプローラ」で新しい MS-DOS 設定を指定したプログラムをダブルクリック。  
MS-DOS モードが起動します。

### ✔チェック!!

「このプログラムは MS-DOS モードで実行するように設定されており、ほかのプログラムの動作中には実行できません。続行するとほかのプログラムを全て終了します。続行しますか?」と表示されます。

コマンドプロンプトの画面から次のように入力する。

SETCD /A【Enter】

CD-ROM ドライブが CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT に追加されます。

SETCD コマンドを実行する前の CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT は、それぞれ CONFIG.SCD、AUTOEXEC.SCD として保存されます。

コマンドプロンプトの画面から次のように入力する。

EXIT【Enter】

Windows 98 が再起動します。

「エクスプローラ」を起動する。  
(「スタート」 「プログラム」 「エクスプローラ」)  
「エクスプローラ」ウィンドウが表示されます。

新しい MS-DOS 設定を指定したプログラムをダブルクリック。

MS-DOS モードが起動して、CD-ROM ドライブが Q ドライブに設定されます。



5. ドライバのコピー
6. ドライバのアップデート
7. Windows NT 4.0 アップデートサービス Service Pack 4 のセットアップ
8. 液晶ディスプレイ調整ツールのセットアップ (14インチ液晶ディスプレイセットモデルのみ)
9. 内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ
10. 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ
11. 内蔵FAXモデムボード対応ドライバのセットアップ
12. Intel® Streaming SIMD Extension Driver のセットアップ

## Windows NT 4.0 の セットアップとアップグレード

次の手順で、本機にWindows NT 4.0をセットアップし、アップグレードを行います。

### 1. アップデートディスクの作成

内蔵ハードディスクからWindows 98を起動する。

MS-DOS プロンプトを起動する。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOS プロンプト」

「アプリケーション CD-ROM Vol.1」をCD-ROMドライブに、「アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする。

次のように入力する

E: 【Enter】

CD ¥NT40 【Enter】

CDNTUP A 【Enter】

#### ✓チェック!!

CDNTUP の後のフロッピーディスクドライブ名には、コロン「:」を付けないでください。

後は画面の指示にしたがって「アップデートディスク」の作成を行ってください。

### 2. システム設定の変更

BIOS セットアップメニューで、次のようにシステム設定を変更してください。

#### ✓チェック!!

この操作は、Windows NT 4.0 を利用する場合のみ行ってください。

本機の電源を入れる。

「NEC」のロゴ画面で、「< F2 > キーを押すと、BIOS セットアップメニューを起動します。」と表示されたら、【F2】BIOS を押す。

「セットアップを起動しています。…」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

詳細メニューで、次のように設定する。

・プラグ&プレイ OS :いいえ

・省電力管理

入力装置によるレジューム :オフ

「変更を保存して終了する」でBIOS セットアップメニューを終了させて、本機の電源を切る。

### 3. Windows NT 4.0 のセットアップ

Windows NT 4.0 添付のマニュアルをご覧ください。次の手順でセットアップを行ってください。ただし、次のことに注意してください。

・Windows NT 4.0 のセットアップが正常に終了したら、USB接続キーボードをお使いのかたは「USB接続キーボードドライバのセットアップ」に、それ以外のかたは、「ドライバのコピー」の手順に進むこと。

・Windows NT 4.0 のセットアップ中に「ディスプレイの設定」ウィンドウが表示され、「Vga 互換ディスプレイアダプタ」が検出されました。」と表示されたら、そのまま「OK」をクリックして、処理を続けること。

「Windows NT 4.0 Setup Disk 1」を、フロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れる。

画面の指示にしたがってセットアップを行う。

セットアップの途中で、「キーボードの種類の選択」ウィンドウが表示されます。

106 日本語キーボードを選択する(【半角 / 全角】を押す)。

#### ✓チェック!!

ここでは接続しているキーボードの種類にかかわらず、「106 日本語キーボード」を選択してください。

「コンピュータには次のハードウェアとソフトウェアがあります。」と表示されます。



「上記の一覧は使用中のコンピュータと一致します。」を選択し、【Enter】を押す。キーボードドライバの変更はグラフィックセットアップの完了後に行います。

ファイルのコピー終了後、画面の指示にしたがいドライブよりフロッピーディスク、CD-ROMを取り出して、本機を再起動する。

これでWindows NT 4.0のテキストセットアップは終了しました。

再起動すると、CD-ROMの挿入要求のメッセージが表示されます。

「Windows NT Workstation CD-ROM Disc1」をCD-ROMドライブにセットして「OK」をクリック。後は画面の指示にしたがってセットアップを行ってください。

#### 4. USB 接続のキーボードドライバのセットアップ

本機に添付のキーボードおよび別売のUSB109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボードをお使いになるための各USBキーボードドライバが「アップデートディスク」に格納されています。ここでは、USB接続のキーボードドライバのセットアップの手順について説明します。

コントロールパネルを起動する。  
（「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」）

「キーボード」をダブルクリック。

「全般」タブをクリック。

「変更」をクリック。

「ディスク使用」をクリック。  
ドライブの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。

「アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする。

「A:¥」と指定して「OK」をクリック。  
「デバイスの選択」ウィンドウが表示されます。

「USB109日本語キーボード( JIS配列 )」を選択して「OK」をクリック。

#### ✓チェック!!

USB98配列キーボードの場合は「USB PC-9800配列キーボード」を選択してください。

「閉じる」をクリック。  
「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」と表示されます。

フロッピーディスクドライブから「アップデートディスク」を取り出して「はい」をクリック。

#### 5. ドライバのコピー

コマンドプロンプトを起動する。  
（「スタート」ボタン 「プログラム」 「コマンドプロンプト」）

「アプリケーションCD-ROM Vol.1」をCD-ROMドライブにセットする。

次のように入力する。

```
E:【Enter】  
CD ¥NT40【Enter】  
DRVCOPY.BAT【Enter】
```

画面の指示に従って、コピーする。

コピーが終了したら、CD-ROMドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出す。

#### 6. ドライバのアップデート

本機の機能を有効に使うために、次の手順でWindows NT 4.0のドライバをアップデートします。

コマンドプロンプトを起動する。  
（「スタート」ボタン 「プログラム」 「コマンドプロンプト」）

アップデートを実行する。  
コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
C:【Enter】  
CD ¥NT40【Enter】  
UPDATE【Enter】
```

次のウィンドウの内容をよく読んで「OK」をクリック。  
ファイルのコピーが開始されます。



次のウィンドウが表示されたら、「Windows NTに戻る」をクリック。



Windows NT 4.0 を再起動する。

設定は、本機の再起動後に有効になります。

## 7. Windows NT 4.0 アップデートサービス Service Pack 4 のセットアップ

本機で Microsoft Windows NT 4.0 アップデートサービス「Service Pack 4」(以下 Service Pack 4) を利用する場合は、必ず次の手順を行ってください。

Service Pack 4 の「README.TXT」を読む。

Service Pack 4 のセットアップを行う。

### ✓チェック!!

ファイルのコピーの途中で、「コピー先には、コピー元より新しいファイルが存在します。上書きしますか？」のメッセージが表示された場合は、「すべて上書きしない」を選んでください。

Windows NT 4.0 を再起動する。

設定は、本機の再起動後に有効になります。

次に、14 インチ液晶ディスプレイセットモデルをお使いの場合は、「8. 液晶ディスプレイ調整ツールのセットアップ」に進んでください。それ以外の場合は、「9. 内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ」に進んでください。

## 8. 液晶ディスプレイ調整ツールのセットアップ(14 インチ液晶ディスプレイセットモデルのみ)

14 インチ液晶ディスプレイセットモデルをお使いの場合は、液晶ディスプレイ調整ツールを使用するため、次の手順でセットアップしてください。

「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」をクリック。

「ファイル名を指定して実行」ウィンドウで次のように入力して、「OK」をクリック。

C:\¥NT40¥LCDSETUP¥SETUP

「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

「ファイルコピーの開始」ウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック。

インストールが始まります。

### ✓チェック!!

液晶ディスプレイ調整ツールを起動するには、「スタート」ボタン 「プログラム」 「液晶ディスプレイ調整ツール」をクリックします。

### 📖参照

液晶ディスプレイの画面調整 液晶ディスプレイ添付のマニュアル

## 9. 内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ

本機内蔵アクセラレータを利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

コントロールパネルを起動する。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」)

「画面」をダブルクリック。

「ディスプレイの設定」タブをクリック。

「ディスプレイの種類」をクリック。

「変更」をクリック。

「ディスク使用」をクリック。

ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示されます。

「フロッピーディスクからインストール」ウィンドウで次のように入力して、「OK」をクリック。

・VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、  
VE500J/7、VE450J/7、VT450J/7、  
VC550J/8、VC500J/8、VC450J/8、  
VE500J/8、VE450J/8、VT450J/8  
の場合

C:¥NT40¥SAVAGE

・VC40H/7、VE40H/7、VC40H/8、VE40H/8  
の場合

C:¥NT40¥RAGEXL

「ディスプレイ」のリストから次のものを選び、「OK」をクリック。

・VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、  
VE500J/7、VE450J/7、VT450J/7  
の場合

「S3 Inc. Savage4 Display Driver Version  
\*.\*.\*」

・VC550J/8、VC500J/8、VC450J/8、  
VE500J/8、VE450J/8、VT450J/8  
の場合

「NEC Savage4 Display Driver Version \*.\*.\*」

### チェック!

\*.\*.\*はバージョン番号です。\*.\*.\*のところに表示される番号は機種によって異なる場合があります。

・VC40H/7、VE40H/7、VC40H/8、VE40H/8  
の場合

「ATI RAGE XL AGP 2X(日本語)」

ドライバ組み込み確認のメッセージが表示されるので「はい」をクリック。

ドライバ組み込み結果が表示されるので「OK」をクリック。

「閉じる」をクリック。

「閉じる」をクリック。

再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」をクリック。

自動的に Windows NT 4.0 が再起動されます。

## 10. 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ

本体内蔵サウンド機能を利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

コントロールパネルを起動する。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック)

「マルチメディア」をダブルクリック。

「デバイス」タブをクリック。

「追加」をクリック。

ドライバの一覧から「一覧にない、または更新されたドライバ」をクリックして、「OK」をクリック。

「ドライバのインストール」ウィンドウが表示されたら、ドライブ名と次のディレクトリを指定して「OK」をクリック。

C:¥NT40¥YMF740

ドライバの一覧で次のドライバを選択し、「OK」をクリック。

YAMAHA DS-XG AudioDriver( Japanese )

「パラメータの設定」ウィンドウが表示されるので、「OK」をクリック。

再起動を促すメッセージが表示されたら、「再起動する」をクリック。

自動的に Windows NT 4.0 が再起動されます。

## 11. 内蔵FAXモデムボード対応ドライバのセットアップ

本体内蔵FAXモデムボードを利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

コントロールパネルを起動して、「シリアルポート」をダブルクリック。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「シリアルポート」)

「追加」をクリック。

「新しいポートの詳細設定」ウィンドウで各設定を選ぶ。

「COMポートの番号」は必ず「5」を選択してください。「I/Oポートアドレス」、「割り込み番号(IRQ)」は他のデバイスと競合しない値を選んでください。

「OK」をクリック。

「システム設定の変更」ウィンドウで「再起動しない」をクリック。

「閉じる」をクリック。

コントロールパネルを起動して、「モデム」をダブルクリック。

(「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「モデム」)

「新しいモデムのインストール」ウィンドウが表示されたら、「モデムの一覧から選択するので検出しない」をチェックして、「次へ」をクリック。

「ディスク使用」をクリック。

「配布ファイルのコピー元」に次のように入力して「OK」をクリック。

C:¥NT40¥MODEM

次のモデムを選択し、「次へ」をクリック。  
「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(BUQD)」

「選択したポート」をクリックし、「COM5」を選択して「次へ」をクリック。

所在地情報を入力して「次へ」をクリック。

### ✓チェック!!

「所在地情報」のウィンドウは、1回目のモデムセットアップ時のみ表示されます。すでに他のモデムをセットアップしているときなどは、「所在地情報」ウィンドウが表示されないことがあります。

「モデムは正常にセットアップされました」と表示されたら、「完了」をクリック。

「モデムのプロパティ」ウィンドウが表示されるので「閉じる」をクリック。

Windows NT 4.0 を再起動する。  
(「スタート」ボタン 「シャットダウン」 「再起動する」 「OK」)

以上で内蔵FAXモデムボードのセットアップは完了しました。

## 12.Intel® Streaming SIMD Extension Driver のセットアップ(VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、VE500J/7、VE450J/7、VT450J/7、VC550J/8、VC500J/8、VC450J/8、VE500J/8、VE450J/8、VT450J/8のみ)

Intel® Streaming SIMD Extensions Driverは、Intel® Pentium®III Processorで拡張された70の新しい命令セットをアプリケーションから利用できるようにするドライバです。

このドライバを使用することで、新しい命令セットに対応したアプリケーションをより快適に動作させることができます。新しい命令セットに対応したアプリケーションを使用される際には、本ドライバをインストールすることをお奨めします。

### ✓チェック!!

本ドライバをインストールするには、「Service Pack 4」をインストールしてください。

本書の手順通りセットアップを行っている場合、またすでにインストールされている場合は、不要です。

「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」をクリック。

「C:¥NT40¥SIMD¥WEBSETUP.EXE」と入力して、「OK」をクリック。

「ようこそ」ウィンドウで「続行」をクリック。

「ようこそ」ウィンドウで「次へ」をクリック。

「製品ライセンス契約」ウィンドウで、「はい」をクリック。

「インストールの選択」ウィンドウで「次へ」をクリック。

「セットアップの完了」ウィンドウで、「はい、直ちにコンピュータを再起動します」が選択されていることを確認して「完了」をクリック。  
自動的にWindows NT4.0が再起動されます。

以上でIntel® Streaming SIMD Extensions Driverのセットアップを終了しました。

## 本機でWindows NT 4.0を利用するときの注意

- ・本機に添付されているWindows NT 4.0のドライバは、本機専用です。他機種では使用しないでください。
- ・リモートアクセスサービスを設定する場合は、「内蔵FAXモデムボードのセットアップ」の手順でFAXモデムボードをセットアップした後、「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動して行ってください。リモートアクセスサービスの設定については、Windows NT 4.0のマニュアルやオンラインヘルプをご覧ください。
- ・Windows NT 4.0は、NEC製のキーボード、マウス、USBハブ内蔵液晶ディスプレイ以外のUSB機器をサポートしていません。
- ・Windows NT 4.0を利用する場合は、添付のキーボードにあるCD/DVD制御ボタン、ワンタッチスタートボタン、【スリープ】ボタンの機能は使えません。

- ・スタンバイ状態のときに USB 109 キーボード、USB 小型キーボード、USB 98 配列キーボードを抜き差ししないでください、キーボード入力ができなくなる場合があります。

キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB 接続キーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを押して、シャットダウンできるかどうかを試してください。この方法でシャットダウンできない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windows NT 4.0 を再起動してください。

- ・省電力機能(スタンバイ)で問題が発生する場合は、省電力機能(スタンバイ)を無効にしてください。「コントロールパネル」の「電源の管理」で次のように設定します。

システムスタンバイ : なし

モニタの電源を切る : なし

ハードディスクの電源を切る : なし

また、BIOS セットアップメニューでは、「省電力管理」を次のように設定します。

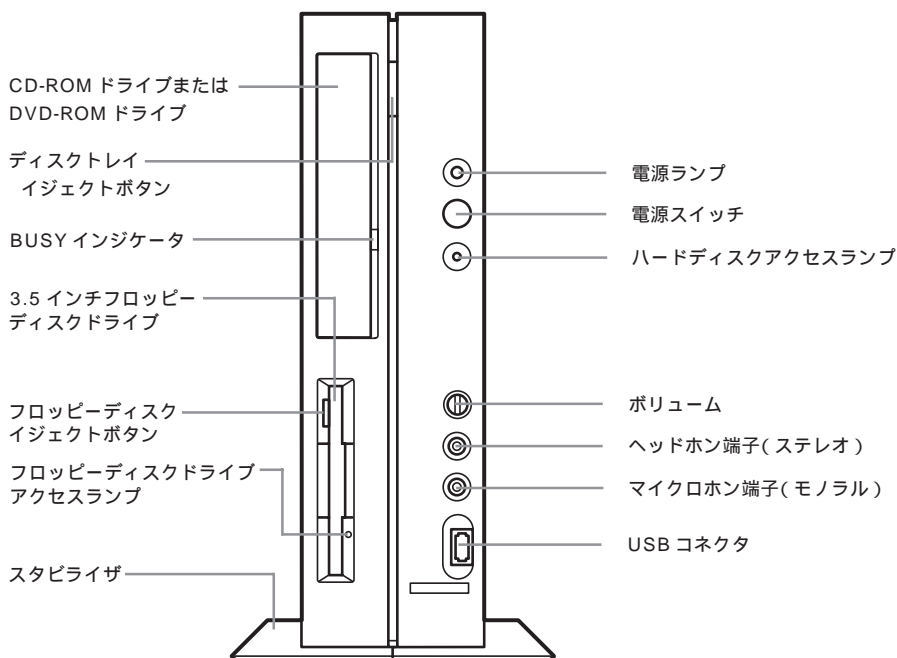
システムスイッチ : パワーボタン

- ・TV モデルで、Windows NT 4.0 を利用する場合、地上波TV&データ放送ボードおよび「ビットキャストブラウザ」「ADAMS ナビ」「モジモジ-NX」は使用できません。
- ・Windows NT 4.0 では、音声または動画を再生中にスタンバイ状態にしないでください。
- ・15 インチ液晶ディスプレイは、リフレッシュレート 60 Hz 以外の周波数をサポートしていません。

# 本体の各部の名称

本体の各部の名称とその役割について説明しています。  
TV モデルについては、『TV モデルガイド』をご覧ください。

## 本体前面



### 電源スイッチ (🔌)

電源を入れるスイッチ。電源を切るときは、Windows 98 の「スタート」メニューで「Windows の終了」をクリックして「電源を切れる状態にする」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る / 入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも 5 秒以上の間隔をあけてください。

### 🔍 チェック!!

ソフトウェアが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを約 4 秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいます。

停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

### 電源ランプ

電源の入/切状態を表示するランプ。電源を入れると緑色に、スタンバイ状態ではオレンジ色に点灯します。

### ハードディスクアクセスランプ (💡)

ハードディスクの動作中に点灯するランプ。


### 🔍 チェック!!


点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。


### ボリューム

ヘッドホンの音量を調節するつまみ。

右にまわすと音量が大きく、左にまわすと小さくなります。

ヘッドホン端子(ステレオ) (  )  
市販のオーディオ用ヘッドホンなどを接続するためのミニジャック端子。ヘッドホンプラグの形状によっては、使用できないものがありますので、注意してください。

マイクロホン端子(モノラル) (  )  
市販のマイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

USB コネクタ (  )  
USB 対応機器を接続するためのコネクタ。  
Windows 98でのみ使用可能。USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

### **チェック!!**

添付のキーボードとマウスは、Windows NT 4.0 でも使用できます。

CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ  
・CD-ROM モデル  
CD-ROM や音楽 CD を入れるところ。  
・DVD-ROM モデル  
DVD-ROM や CD-ROM、音楽 CD を入れるところ。

ディスクトレイジェクトボタン  
ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

BUSY インジケータ  
CD-ROM ドライブからデータを読み出しているときに点灯します。

### **チェック!!**

点灯中は電源を切ったり、CD-ROM を取り出したりしないでください。CD-ROM ドライブの故障の原因となります。

3.5 インチフロッピーディスクドライブ  
3.5 インチサイズのフロッピーディスクを入れるところ。

フロッピーディスクジェクトボタン  
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すときに使うボタン。

フロッピーディスクドライブアクセスランプ  
フロッピーディスクドライブの動作中に点灯するランプ。

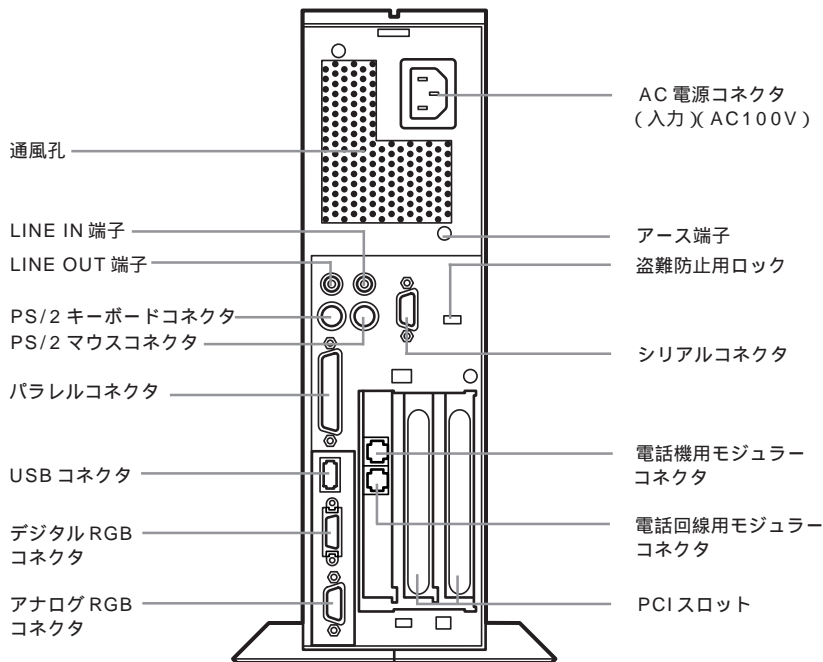
スタビライザ  
本体を安定して設置するための脚。

### **チェック!!**

スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。また、本体を横置きにする場合は、ネジとスタビライザをなくさないよう大切に保管してください。

## 本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



**AC 電源コネクタ(入力) (AC100V)**  
ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。本体添付の電源ケーブルは、ACコンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

**アース端子 (⊕)**  
アース線を接続するための端子。

**盗難防止用ロック (K)**  
市販の盗難防止用ケーブル(Kensington社製)などを接続できます。盗難防止用ロックを使用することで、ルーファカバーがロックされるため、本体内部のハードディスクやRAMサブボードなどの盗難を予防できます。

### ✓チェック!!

盗難防止用ロックは、Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応しています。日本国内総販売代理店の連絡先は、次の通りです。(1999年7月現在)

日本ポラロイド株式会社  
電子映像事業部

〒105-8456 東京都港区虎ノ門3丁目2番2号  
第30森ビル

Tel : 03-3438-8879

Fax : 03-5473-8614

**シリアルコネクタ (□□□)**


周辺機器を接続するためのコネクタ。通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。

### ✓チェック!!

- ・PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。
- ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

**電話機用モジュラーコネクタ (☎)**  
電話機を接続するためのコネクタ。



電話回線用モジュラーコネクタ(  )  
電話回線を接続するためのコネクタ。

#### PCI スロット

本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、挿入するためのスロット。高速なデータ転送ができる PCI バスに対応。

PCI スロットは、左から順に PCI スロット #1、#2 と呼びます。

#### 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔です。壁などでふさがないように注意してください。

#### LINE IN 端子(ステレオ)( )

市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)を本体に入力するためのミニジャック端子。

#### LINE OUT 端子(ステレオ)( )

添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力するためのミニジャック端子。

#### PS/2 キーボードコネクタ( )

PS/2 コネクタに対応したキーボードを接続するためのコネクタ。

#### ✓チェック!!

- ・添付のキーボードはこのコネクタには接続できません。
- ・PS/2 キーボードと USB キーボードを同時に使用することはできません。
- ・PS/2 キーボード使用時は、BIOS セットアップメニューの「USB レガシー機能」を「使用しない」に設定してください。
- ・PS/2 キーボード使用時は、電話などのリングでスタンバイ状態から復帰させようとする、画面が真っ黒いまま復帰しないことがあります(ACPI モードのみ)。この場合は、キーボードから何かキーを入力したり、マウスを動かせば、正常に画面が復帰します。
- ・PS/2 キーボードを抜き差しするときは、本体の電源を切った状態で行ってください。

#### PS/2 マウスコネクタ( )

PS/2 コネクタに対応したマウスを接続するためのコネクタ。

#### ✓チェック!!

- ・添付のマウスはこのコネクタには接続できません。
- ・PS/2 マウスを抜き差しするときは本体の電源を切った状態で行ってください。
- ・PS/2 マウスと USB マウスを同時に使用することはできません。

#### パラレルコネクタ( )

プリンタなどを接続するためのコネクタ。

#### ✓チェック!!

PC-9800 シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。

#### USB コネクタ( )

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。

Windows 98 でのみ使用可能。USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

#### ✓チェック!!

添付のキーボードとマウスは、Windows NT 4.0 でも使用できます。

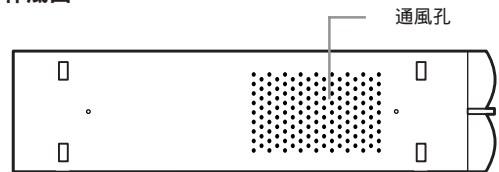
#### デジタル RGB コネクタ( )

デジタル RGB 対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

#### アナログ RGB コネクタ( )

アナログ RGB 対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

#### 本体底面



#### 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。

底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがらない状態になります。

#### ✓チェック!!

パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

# 機能仕様

TV モデルは、『TV モデルガイド』をご覧ください。

VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、VE500J/7、VE450J/7、  
VC550J/8、VC500J/8、VC450J/8、VE500J/8、VE450J/8

モデル	VC550J/7 VC550J/8	VC500J/7 VC500J/8	VE500J/7 VE500J/8	VC450J/7 VC450J/8	VE450J/7 VE450J/8	
CPU	Pentium®IIIプロセッサ (550MHz)		Pentium®IIIプロセッサ (500MHz)		Pentium®IIIプロセッサ (450MHz)	
	キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ512Kバイト (CPUに内蔵)					
メモ リ	BIOS ROM	512Kバイト、プラグ&プレイ対応				
	メインRAM	64Mバイト (最大256Mバイトまで増設可能) *ユーザーズメモリ63.6Mバイト (最大255.6Mバイト)				
	RAM 1	DIMMスロット×2 (うち1スロットに64Mバイトメモリを取り付け済)				
	ビデオRAM	8Mバイト				
表 示 機 能	グラフィックアクセラレータ	S3社製Savage4™PRO (AGP×2モード対応)				
	グラフィック表示	640×480ドット	16色/256色/65,536色/1,677万色		3	
		800×600ドット	256色/65,536色/1,677万色		3	
		1,024×768ドット	256色/65,536色/1,677万色		3	
		1,280×1,024ドット	2	256色/65,536色/1,677万色		3
入 力 装 置	キーボード	USBコネクタに接続、セパレートタイプ、JIS標準配列 (英数、かな)、109キーレイアウト、CD/DVD制御ボタン、スリープボタン、ワンタッチスタートボタン、テンキー・12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー付、USBバスパワーハブ (2ポート) 付き				
	マウス	スクロール機能付きマウス標準装備 (添付のキーボードに接続)				
補 助 記 憶 装 置	フロッピーディスク ドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ1台内蔵 720Kバイト、1.2Mバイト、1.44Mバイトフロッピーディスク使用可能				
	ハードディスク	約13Gバイト				
		Microsoft Windows 98をインストール済				
	CD-ROM/ DVD-ROM	最大32倍速 CD-ROMドライブ標準搭載		DVD-ROMドライブ 標準搭載	最大32倍速 CD-ROMドライブ標準搭載	
				DVD-ROM読み込み : 最大6倍速 CD-ROM読み込み : 最大32倍速相当		
	5インチベイ	1スロット (CD-ROMまたはDVD-ROMで1スロット占有済) [空きスロット0]				-
	内蔵3.5インチベイ	1スロット (ハードディスクで1スロット占有済) [空きスロット0]				
PCIスロット	2スロット					
サ ウ ン ド 機 能	サウンドチップ	YAMAHA製 YMF740				
	音源	FM音源32音				
		PCM録音/再生機能 PCM 8/16ビット 5~48KHz				
		ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載 (XG、GM演奏モード対応)				
4	サラウンド	エンハンスドステレオ対応				
	スピーカ	ステレオスピーカ添付				
通 信 機 能	モデム	データ転送速度 最大送信33.6Kbps / 最大受信56Kbps、V.90、K56flex、V.34、V.32bis、V.32、V.22bis、V.22、V.21 エラー訂正V.42/MNP4、データ圧縮V.42bis/MNP5				
	FAX	データ転送速度 最大14.4Kbps (V.17)、FAX制御 CLASS 1				

VC550J/7、VC500J/7、VC450J/7、VE500J/7、VE450J/7、  
VC550J/8、VC500J/8、VC450J/8、VE500J/8、VE450J/8

モデル		VC550J/7 VC550J/8	VC500J/7 VC500J/8	VE500J/7 VE500J/8	VC450J/7 VC450J/8	VE450J/7 VE450J/8
インターフェイス	ディスプレイ	アナログRGBセパレート信号出力 <sup>1</sup> 75 アナログインターフェイス、カラー、ミニD-Sub 15ピン)、デジタルRGB(TMDs、カラー、DFP20ピン)				
	オーディオ	入力	マイク入力(モノラル) 入力インピーダンス 10K 入力レベル最大100mVrms ゲイン20dB ライン入力(ステレオ) 入力インピーダンス 10K 入力レベル最大2Vrms ゲイン - 6dB			
		出力	ヘッドホン出力(ステレオ) 出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33Ω) ライン出力(ステレオ) 出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47kΩ)			
	プリンタ	パラレルインターフェイス(D-Sub25ピン)				
	シリアル	最大115,200bps( D-Sub 9 ピン)				
	PS/2ポート	キーボード、マウス各1ポート(ミニDIN6ピン)				
	USB 5	本体	2ポート内蔵			
キーボード		2ポート内蔵				
カレンダー時計	電池によるバックアップ					
電源	AC 100V ± 10%、50/60Hz					
温湿度条件	10 ~ 35℃、20 ~ 80% RH(ただし結露しないこと)					
外形寸法	本体	86(W) × 320(D) × 305(H)mm (ゴム足、突起部除く) 155(W) × 320(D) × 315.3(H)mm (スタビライザ取り付け時)				
	キーボード	454(W) × 186(D) × 41(H)mm				
重量	本体	約6.8kg				
	キーボード	約1.2kg				
消費電力	標準構成時 約33W 内蔵オプション最大接続時 62W スタンバイモード時 約18W					

- 1 利用 OS により、使用可能なメモリ容量は異なります。
- 2 本機にセットの液晶ディスプレイでは表示できません。
- 3 15 インチ液晶ディスプレイではディザリングにより 1,600 万色以上の表示をしています。
- 4 サウンド機能を利用したアプリケーションソフトのうちハードウェアを直接制御しているものは、一部使用できないものがあります。アプリケーションソフト購入に際しては、発売元に確認してください。
- 5 Windows 98 でのみサポート。接続する周辺機器の使用可否については、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。
- 6 18 ~ 28℃、45 ~ 75% RHでの使用を推奨します。

## VC40H/7、VE40H/7、VC40H/8、VE40H/8

モデル		VC40H/7 VC40H/8	VE40H/7 VE40H/8	
CPU		Intel® Celeron™ プロセッサ (400MHz) キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ128Kバイト (CPUに内蔵)		
メモ リ	BIOS ROM	512Kバイト、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	64Mバイト (最大256Mバイトまで増設可能) *ユーザーズメモリ63.6Mバイト (最大255.6Mバイト)		
	RAM 1	DIMMスロット×2 (うち1スロットに64Mバイトメモリを取り付け済)		
	ビデオRAM	4Mバイト		
表 示 機 能	グラフィックアクセラレータ	ATI社製RAGE™XL (AGP×2モード対応)		
	グラフィック表示	640×480ドット	16色/256色/65,536色/1,677万色	3
		800×600ドット	256色/65,536色/1,677万色	3
		1,024×768ドット	256色/65,536色/1,677万色	3
1,280×1,024ドット		256色/65,536色	2	
入 力 装 置	キーボード	USBコネクタに接続、セパレートタイプ、JIS標準配列 (英数、かな)、109キーレイアウト、CD/DVD制御ボタン、スリープボタン、ワンタッチスタートボタン、テンキー・12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー付、USBバスパワーハブ (2ポート) 付き		
	マウス	スクロール機能付きマウス標準装備 (添付のキーボードに接続)		
補 助 記 憶 装 置	フロッピーディスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ1台内蔵 720Kバイト、1.2Mバイト、1.44Mバイトフロッピーディスク使用可能		
	ハードディスク	約8.4Gバイト Microsoft Windows 98をインストール済		
	CD-ROM	最大32倍速、CD-ROMドライブ標準搭載		
	5インチベイ	1スロット (CD-ROMで1スロット占有済) [ 空きスロット0 ]		
	内蔵3.5インチベイ	1スロット (ハードディスクで1スロット占有済) [ 空きスロット0 ]		
PCIスロット		2スロット		
サ ウ ン ド 機 能	サウンドチップ	YAMAHA製 YMF740		
	音源	FM音源32音 PCM録音/再生機能 PCM 8/16ビット 5 - 48KHz ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載 (XG、GM演奏モード対応)		
		サラウンド	エンハンスドステレオ対応	
	スピーカ	ステレオスピーカ添付		
通 信 機 能	モデム	データ転送速度 最大送信33.6Kbps / 最大受信56Kbps、V.90、K56flex、V.34、V.32bis、V.32、V.22bis、V.22、V.21 エラー訂正V.42/MNP4、データ圧縮V.42bis/MNP5		
	FAX	データ転送速度 最大14.4Kbps (V.17)、FAX制御 CLASS 1		

## VC40H/7、VE40H/7、VC40H/8、VE40H/8

モデル		VC40H/7 VC40H/8	VE40H/7 VE40H/8	
インターフェイス	ディスプレイ	アナログRGBセパレート信号出力 <sup>1</sup> アナログインターフェイス、カラー、ミニD-Sub 15ピン)、デジタルRGB(TMSD、カラー、DFP20ピン)		
	オーディオ	入力	マイク入力(モノラル) 入力インピーダンス 10K 入力レベル最大100mVrms ゲイン20dB ライン入力(ステレオ) 入力インピーダンス 10K 入力レベル最大2Vrms ゲイン - 6dB	
		出力	ヘッドホン出力(ステレオ) 出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33Ω) ライン出力(ステレオ) 出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47kΩ)	
	プリンタ	パラレルインターフェイス(D-Sub25ピン)		
	シリアル	最大115,200bps( D-Sub 9ピン)		
	PS/2ポート	キーボード、マウス各1ポート(ミニDIN6ピン)		
	USB 5	本体	2ポート内蔵	
		キーボード	2ポート内蔵	
カレンダー時計	電池によるバックアップ			
電源	AC 100V±10%、50/60Hz 6			
温湿度条件	10～35℃、20～80%RH(ただし結露しないこと)			
外形寸法	本体	86(W)×320(D)×305(H)mm (ゴム足、突起部除く) 155(W)×320(D)×315.3(H)mm (スタビライザ取り付け時)		
	キーボード	454(W)×186(D)×41(H)mm		
重量	本体	約6.7kg(VC40H/7XC1、VC40H/8XD1、VC40H/8FD1) 約6.6kg(VC40H/7FC2、VC40H/8FD2、VC40H/7XC2、VC40H/8XD2)	約6.6kg	
	キーボード	約1.2kg		
消費電力	標準構成時 約28W			
	内蔵オプション最大接続時 57W			
	スタンバイモード時 約20W			

- 1 利用OSにより、使用可能なメモリ容量は異なります。
- 2 本機にセットの15インチCRTディスプレイ(DV15A2)および液晶ディスプレイでは表示できません。
- 3 15インチ液晶ディスプレイではディザリングにより1,600万色以上の表示をしています。
- 4 サウンド機能を利用したアプリケーションソフトのうちハードウェアを直接制御しているものは、一部使用できないものがあります。アプリケーションソフト購入に際しては、発売元に確認してください。
- 5 Windows 98でのみサポート。接続する周辺機器の使用可否については、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。
- 6 18～28℃、45～75%RHでの使用を推奨します。

## セットのスピーカの機能仕様

	フラットパネルスピーカ
最大定格出力	1.2W + 1.2W
外形寸法	約108(W)×71(D)×178.5(H)mm(片側)
重量	約660g(ケーブル、ACアダプタ含む)

# FAX モデムボード機能仕様

## 機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス(Ver 2.1) 16550A相当(I/Oアクセス、割り込み)
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回線接続切り替え機能</li> <li>・ダイヤルパルス送出機能</li> <li>・リング検出機能</li> </ul>
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット</li> <li>  V.90</li> <li>  K56flex</li> <li>  V.34</li> <li>  V32bis</li> <li>  V.32、V.22bis、V.22、V.21</li> <li>  V.42LAPMおよびNMP4エラー訂正</li> <li>  V.42bisおよびMNP5データ圧縮</li> <li>・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度</li> <li>  V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2</li> <li>・HayesATコマンドセット</li> <li>  AT</li> <li>  Sレジスタ</li> <li>・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン</li> <li>・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択</li> <li>・フロー制御およびスピード・バッファリング</li> <li>・パラレル非同期データ</li> <li>・自動ダイヤルおよび自動アンサー</li> <li>・トーンおよびパルスダイヤリング(DTMフトーン、ダイヤルパルス制御)</li> </ul>

## FAX 機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM : 14,400/12,000/9,600/7,200bps DPSK : 4,800/2,400bps FSK : 300bps
送信レベル	-9 ~ -15dBm( 出荷時 -15dBm )
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド( CLASS 1 )

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

## データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 受信のみ: 56,000/54,666/54,000/53,333/52,000/50,666/50,000/49,333/48,000/46,666/46,000 45,333/44,000/42,666/42,000/41,333/40,000/38,666/38,000/37,333/36,000/34,666 34,000/33,333/32,000/30,666/29,333/28,000bps
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	TCM : 56,000/54,666/54,000/53,333/52,000/50,666/50,000/49,333/48,000/46,666/46,000 45,333/44,000/42,666/42,000/41,333/40,000/38,666/38,000/37,333/36,000/34,666 34,000/33,600/33,333/32,000/31,200/30,666/29,333/28,800/28,000/26,400/24,000 21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM : 9,600/7,200bps DPSK : 4,800/2,400/1,200bps FSK : 1,200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42( LAPM ) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm ( 出荷時 -15dBm )
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

## NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル( 10/20PPS ) トーンダイヤル( DTMF )
NCU形式	AA( 自動発信 / 自動着信型 ) MA( 手動発信 / 自動着信型 ) MM( 手動発信 / 手動着信型 ) AM( 自動発信 / 手動着信型 )
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT( CLASS 1 )

# AT コマンド

ATコマンドとは、電話回線に対してDTE( パソコンなどの端末機器 )からのコマンドにより自動発着信を行うために米国 Hayes 社が開発したコマンド体系で“ AT ”で始まることからこのように呼ばれています。

## コマンドの構成

ATコマンドセット( A/ コマンドを除く )では、DTE が送る各コマンドラインはキャラクターシーケンス AT で始まり、キャリッジリターン(本文中では、と表記)で終了しなければなりません。ATシーケンスは、いくつものコマンドをその次に続けることができます。ただし、Z、D、A のようなコマンドは除きます。コマンドラインの最大キャラクタ数は60です。もしコマンドラインのどこかで構文エラーが見つかった場合には、ラインの残りは無視されます。

A	T	コマンド列	CR
---	---	-------	----

## コマンド一覧

### 基本 AT コマンド

種 類	ATコマンド	機 能
アンサーモードで回線接続	A	アンサーモードで回線に接続し、通信状態になる。自動応答にしていけない状態で、応答する場合に使用する。
コマンドの再実行	A/	直前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドの前には「 AT 」はつけない。また、最後の <input type="checkbox"/> もつけない。
ダイヤルの実行	D	指定された電話番号にダイヤルし、接続する。 P …… パルスダイヤル(ダイヤル回線)。 T …… トーンダイヤル(プッシュ回線)。 W …… 第2ダイヤルトーンを検出する (DDX等のダイヤルトーンを検出する)。 @ …… 5秒間の無音状態を検出する。検出できない場合は「 NO ANSWER 」を返す。 , …… Sレジスタで指定された時間、ダイヤルを待つ。 構内交換機、ゼロ発信等でダイヤルを待つ場合に使用する。 0-9、*、#… 相手の電話番号をダイヤルする。 ダイヤル番号を見やすくするために、スペース 「-」、「()」、「[]」等が使用できる。なお、「*」、「#」はトーンダイヤルのみ使用できる。 ; …… ダイヤル後コマンドモードに戻る。 ! …… 0.5秒間、回線をオンフック(回線断)する。 S=n…… &Znで登録した電話番号にダイヤルする。 L …… 最後にかけた番号にリダイヤルする。 ^ …… V.25コーリングトーンをディセーブルにする。
コマンドエコー有無の設定	E	DTE(パソコン側)から送られたコマンドのエコー(文字をそのまま送り返す)の有無を指定する。 E0 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。 E1 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す(初期値)。
回線の接続 / 切断	H	H0 回線を切断(オフフック)する。 H1 回線を接続(オフフック)する。
識別コード表示	I	モデムの識別コードを表示する。 I0 デフォルトスピード、コントローラF/Wバージョンの表示 I1 ROMのチェックサムコードを表示する。 I2 ROMのチェックを実行する。 I3 I0と同じ。

AT&Wでバックアップ可能




種 類	ATコマンド	機 能
モニタースピーカ最大音量設定	L	FAXモデムボードの内蔵スピーカの音量を設定する。 L0 音量小。 L1 音量小。 L2 音量中。(初期値) L3 音量大。
モニタースピーカの動作設定	M	内部モニタースピーカのON/OFFのタイミングを指定する。 M0 スピーカを常にOFFにする。 M1 キャリアを検出するまでONにする(初期値)。 M2 スピーカを常にONにする。 M3 ダイアル終了からキャリア検出までONにする。
自動モードの設定	N	相手モデムとの通信速度決定の方法を指定する。 N0 相手モデムとの通信速度決定を自動で行わない。 N1 相手モデムとの通信速度決定を自動で行う。(初期値)
オンラインモードに戻る	O	オンラインモード中にエスケープコマンド(++)によってコマンドモードになったときに、再びオンラインモードに戻るのに使用する。 O0 オンラインモードに戻る。 O1 トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。 O3 ネゴシエーション後にオンラインモードに戻る。
パルス回線(ダイヤル回線)モードの設定	P	ダイヤルをパルスで行うモードに設定する。
リザルトコードの設定	Q	リザルトコードをDTE(パソコン側)に返すか、返さないかのモードを指定する。 Q0 リザルトコードをパソコンに返す(初期値)。 Q1 リザルトコードをパソコンに返さない。
Sレジスタの読み出し	Sr?	Sレジスタの内容を読み出す。ATS0?<F1>でレジスタの内容を読み出す。
Sレジスタの設定	Sr=n	Sレジスタを設定する。 ATSr=n<F1>でrに設定したいレジスタの番号nにレジスタの値を10進数で設定する。 ATS2=43<F1>でS2レジスタに43(10進数)を設定する。
トーン回線(プッシュ回線)モードの設定	T	ダイヤルをトーンで行うモードに設定する。
リザルトコードタイプの設定	V	ATコマンドのリザルトコードの形式を指定する。 V0 リザルトコードを数字表示に設定する。 V1 リザルトコードを文字表示に設定する(初期値)。
接続リザルトコード拡張(エラー訂正)の設定	W	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 W0 接続時にDTEスピードのみを返す。(例CONNECT19200) W1 接続時にエラー訂正プロトコル、DTEスピードの順に返す。 W2 接続時にエラー訂正プロトコル、DCEスピードの順に返す(初期値)。
接続時のリザルトコードの設定	X	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 X0 拡張リザルトコード表示なし。ダイヤルトーン・話中音検出なし。 X1 拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン・話中音検出なし。 X2 拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン検出あり。話中音検出なし。 X3 拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン検出なし。話中音検出あり。 X4 拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン・話中音検出あり(初期値)。
ブレイク信号の動作指定	Y	ブレイク信号に関する動作を指定する。 Y0 ブレイク信号を受信しても、回線を切断しない(初期値)。

AT&Wでバックアップ可能

種 類	ATコマンド	機 能
モデムの初期化	Z	<p>モデムを不揮発性メモリの保存内容で初期化する。</p> <p>Z0 不揮発性メモリのプロファイル0の保存内容で初期化する。</p> <p>Z1 不揮発性メモリのプロファイル1の保存内容で初期化する。</p> <p>プロファイル0と1は同じプロファイルです。</p>
キャリア検出信号( CD )の動作	&C	<p>CD信号( DCD )の動作を指定する。</p> <p>&amp;C0 CD信号を常にONにする。</p> <p>&amp;C1 CD信号はキャリアが検出されるとONになる( 初期値 )。</p>
データ端末レディ	&D	<p>DTR信号がONからOFFに変化した場合の動作を指定する。</p> <p>&amp;D0 DTR信号は無視し、常にONとして扱う。</p> <p>&amp;D1 DTR信号がOFFになると、コマンドモードになる。</p> <p>&amp;D2 DTR信号がOFFになると、回線を切断しコマンドモードになる( 初期値 )。</p> <p>&amp;D3 DTR信号がOFFになると、回線を切断し初期化される。</p> <p>( ATZコマンド実行状態になる )。</p>
パラメータの初期化	&F	各種パラメータを工場出荷時の設定に戻す。
ガードトーンの設定	&G	<p>モデムのガードトーンの有無を指定する。</p> <p>&amp;G0 ガードトーンなし( 初期値 )。</p> <p>&amp;G1 550Hzガードトーンあり。</p> <p>&amp;G2 1800Hzのガードトーンあり。</p>
DTEのフロー制御	&K	<p>DTE( パソコン側 )のフロー制御( RTS/CTS XON/XOFF )を指定する。</p> <p>&amp;K0 フロー制御しない。</p> <p>&amp;K3 RTS/CTSフロー制御をする( 初期値 )。</p> <p>&amp;K4 XON/XOFFフロー制御をする。</p>
通信モードの設定	&M	<p>通信モードを指定する( &amp;Qの一部コマンドと同様 )。</p> <p>&amp;M0 ダイレクト非同期モードで接続する。</p>
ダイヤルパルススピードの設定	&P	<p>ダイヤルパルスのスピードを指定する。</p> <p>&amp;P1 ダイヤルパルスを10PPSにする( 初期値 )。</p> <p>&amp;P2 ダイヤルパルスを20PPSにする。</p>
通信モードの設定	&Q	<p>通信モードを指定する。</p> <p>&amp;Q0 ダイレクト非同期モードで接続する。</p> <p>&amp;Q5 エラー訂正プロトコルで接続する( 初期値 )。</p> <p>&amp;Q6 ダイレクト非同期モードで接続する。</p> <p>&amp;Q8 MNPエラー訂正プロトコルで接続する。</p> <p>&amp;Q9 V.42またはMNPエラー訂正プロトコルで接続する。</p>
データセットレディ( DSR )の制御	&S	<p>DSR信号の動作を指定する。</p> <p>&amp;S0 DSR信号は常にON( 初期値 )。</p> <p>&amp;S1 DSR信号が回線接続中にONになる。</p>
モデムの設定状況の表示	&V	コマンドおよびSレジスタの設定状況を表示する。
パラメータの書き込み	&W	<p>現在の設定されている状態を、不揮発性メモリに書き込む。</p> <p>&amp;W0 不揮発性メモリのプロファイル0に書き込む。</p> <p>この値は、電源をオンしたとき、またはATZnコマンドで初期化したときに使われる。各々のコマンドを参照。</p>
プロファイルの設定	&Y	<p>電源立ち上げ時のプロファイル読み込みを設定する。</p> <p>&amp;Y0 プロファイル0を指定する。</p>
電話番号の保存	&Z	<p>ATDS=( n )コマンドでダイヤルする場合の電話番号を指定する。</p> <p>&amp;Zn=XXXXXXXX</p> <p>n=0-3 XXXXは電話番号( 40桁以下 )</p> <p>(例)AT&amp;Z2=03-1234-5678</p> <p>ダイヤル番号/バッファ2に指定の番号を保存する。</p> <p>電話番号として使用できるのは、ATDコマンドの電話番号のうち「;」「S=n」以外のコマンド。</p>


種 類	ATコマンド	機 能
データ圧縮の指定	%C	データ圧縮の方法を指定する。 %C0 データ圧縮をしない。 %C1 V.42bis / MNP5のデータ圧縮を行う(初期値)。
リトレーニング等の自動再実行	%E	回線の状態を監視して、状態が変化した場合や悪い場合に、トレーニングシーケンスの再実行(リトレーニング)、回線速度を変更するかどうかの指定をする。 %E0 リトレーニングを自動で再実行しない。 %E1 %E0と同じ。 %E2 リトレーニングを自動で再実行する。 データエラーが多い場合のリトライ動作を指定するものではない。
最大ブロックサイズの設定	¥A	MNPで接続するときのブロックサイズを設定する。 ¥A0 最大ブロックサイズ64。 ¥A1 最大ブロックサイズ128。 ¥A2 最大ブロックサイズ192。 ¥A3 最大ブロックサイズ256(初期値)。
ブレイク信号を送信	¥B	n×100msのブレイク信号を送信する。n=1-9
ブレイク信号の動作	¥K	ブレイク信号を受けたときの動作を指定する。 ・オンラインモード(V.42/ノーマルモード)時にパソコンからブレイク信号を受けた。 ¥K0 コマンドモードになる。相手モデムにはブレイクを送らない。 ¥K1 データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。 ¥K2 ¥K0と同じ。 ¥K3 バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る。 ¥K4 ¥K0と同じ。 ¥K5 バッファのデータを送った後で、相手モデムにブレイクを送る。 ・オンラインコマンドモード時にパソコンから¥Bコマンドによるブレイクを受けた。 ¥K0 データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。 ¥K1 データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。 ¥K2 バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る。 ¥K3 バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る。 ¥K4 バッファのデータを送った後で、相手モデムにブレイクを送る。 ¥K5 バッファのデータを送った後で、相手モデムにブレイクを送る。 ・オンラインモード(V.42/ノーマルモード)時に相手モデムからブレイクを受けた。 ¥K0 データバッファを空にして、パソコンにブレイクを送る。 ¥K1 データバッファを空にして、パソコンにブレイクを送る。 ¥K2 バッファのデータより優先してパソコンにブレイクを送る。 ¥K3 バッファのデータより優先してパソコンにブレイクを送る。 ¥K4 バッファのデータを送った後で、パソコンにブレイクを送る。 ¥K5 バッファのデータを送った後で、パソコンにブレイクを送る。
通信モードの設定	¥N	エラー訂正プロトコルの動作を設定する。 ¥N0 ノーマルモードで通信する。V.42、MNPは使用しない。 ¥N1 ダイレクトモードで通信する。 ¥N2 MNPモードで接続する。 相手モデムがMNPモードでない場合は接続しない。 ¥N3 V.42、MNPモードで接続する(初期値)。相手モデムがV.42、MNPでない場合は、ノーマルモードで接続する。 ¥N4 V.42モードで接続できる。 相手モデムがV.42でない場合は、接続しない。 ¥N5 ¥N3と同じ。 ¥N7 ¥N3と同じ。 V.42、MNPの場合は、V.42 MNPの順に相手モデムとの接続を試す。 &M &Qコマンドも参照。

種 類	ATコマンド	機 能
DTEのフロー制御	¥Q	DTE( パソコン側 )のフロー制御( RTS/CTS XON/XOFF )を指定する。 ¥Q0 フロー制御をしない。 ¥Q1 XON/XOFFフロー制御をする。 ¥Q3 RTS/CTSフロー制御を行う( 初期値 )。 &Kコマンドを参照。
拡張リザルトコードの指定	¥V	拡張リザルトコードを指定する。 ¥V0 拡張リザルトコードを使用しない。 ¥V1 拡張コードにエラー訂正の表示をする。 ¥V2 ¥V1と同じ。
V90のイネーブル/ディセーブルと下り通信速度の設定	-V90=	-V90=0 V90のディセーブル -V90=1 相手モデムとの通信速度決定を自動で行う。( 初期値 ) -V90=2 通信速度を28,000bpsに設定する。 -V90=3 通信速度を29,333bpsに設定する。 -V90=4 通信速度を30,666bpsに設定する。 -V90=5 通信速度を32,000bpsに設定する。 -V90=6 通信速度を33,333bpsに設定する。 -V90=7 通信速度を34,666bpsに設定する。 -V90=8 通信速度を36,000bpsに設定する。 -V90=9 通信速度を37,333bpsに設定する。 -V90=10 通信速度を38,666bpsに設定する。 -V90=11 通信速度を40,000bpsに設定する。 -V90=12 通信速度を41,333bpsに設定する。 -V90=13 通信速度を42,666bpsに設定する。 -V90=14 通信速度を44,000bpsに設定する。 -V90=15 通信速度を45,333bpsに設定する。 -V90=16 通信速度を46,666bpsに設定する。 -V90=17 通信速度を48,000bpsに設定する。 -V90=18 通信速度を49,333bpsに設定する。 -V90=19 通信速度を50,666bpsに設定する。 -V90=20 通信速度を52,000bpsに設定する。 -V90=21 通信速度を53,333bpsに設定する。 -V90=22 通信速度を54,666bpsに設定する。 -V90=23 通信速度を56,000bpsに設定する。 -V90? 現在の設定値を表示する。 -V90=? 設定値の範囲( 0 ~ 23 )を表示する。
エスケープ	+++	オンラインモードのとき、パソコンから前後1秒間( S12レジスタで設定可能 )の時間をあけて、「+++」のコマンドが入力されると、回線を切断することなく、コマンドモードに移る。 「+++」の前後に他の文字が入力されるとエスケープコマンドと判断されないで <input type="checkbox"/> 等は入力しないこと。

 **チェック!!**

相手FAXが音声応答FAXの場合、接続できないことがあります。その場合は以下のコマンドによりBUSYトーン検出をOFFにしてください。

コマンド構文: ATXO

 **チェック!!**

外付け電話機使用中に以下に示す AT コマンドを実行すると回線が切り替わります。

コマンド構文: ATD、ATH1、ATA

## リザルトコード

数 字	文 字	内 容
0	OK	コマンドラインの実行確認
1	CONNECT	接続
2	RING	リングング検出
3	NO CARRIER	キャリア 及び リングバック検出せず
4	ERROR	コマンド構文ちがい 及び 存在しないコマンド
5	CONNECT 1200 EC	1,200bpsのポートまたはモデム速度で接続
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン検出せず
7	BUSY	BUSYトーン検出
8	NO ANSWER	S7タイマーが切れるまで連続的にリングバックを検出
10	CONNECT 2400 EC	2,400bpsで接続
11	CONNECT 4800 EC	4,800bpsで接続
12	CONNECT 9600 EC	9,600bpsで接続
13	CONNECT 14400 EC	14,400bpsで接続
14	CONNECT 19200 EC	19,200bpsで接続
24	CONNECT 7200 EC	7,200bpsで接続
25	CONNECT 12000 EC	12,000bpsで接続
86	CONNECT 16800 EC	16,800bpsで接続
40	CONNECT 300 EC	300bpsで接続
55	CONNECT 21600 EC	21,600bpsで接続
56	CONNECT 24000 EC	24,000bpsで接続
57	CONNECT 26400 EC	26,400bpsで接続
58	CONNECT 28800 EC	28,800bpsで接続
59	CONNECT 31200 EC	31,200bpsで接続
60	CONNECT 33600 EC	33,600bpsで接続
28	CONNECT 38400 EC	38,400bpsで接続
18	CONNECT 57600 EC	57,600bpsで接続
70	CONNECT 32000 EC	32,000bps( K56flexまたはV.90 )で接続
71	CONNECT 34000 EC	34,000bps( K56flex )で接続
72	CONNECT 36000 EC	36,000bps( K56flexまたはV.90 )で接続
73	CONNECT 38000 EC	38,000bps( K56flex )で接続
74	CONNECT 40000 EC	40,000bps( K56flexまたはV.90 )で接続
75	CONNECT 42000 EC	42,000bps( K56flex )で接続
76	CONNECT 44000 EC	44,000bps( K56flexまたはV.90 )で接続
77	CONNECT 46000 EC	46,000bps( K56flex )で接続
78	CONNECT 48000 EC	48,000bps( K56flexまたはV.90 )で接続
79	CONNECT 50000 EC	50,000bps( K56flex )で接続
80	CONNECT 52000 EC	52,000bps( K56flexまたはV.90 )で接続
81	CONNECT 54000 EC	54,000bps( K56flex )で接続
82	CONNECT 56000 EC	56,000bps( K56flex )で接続
87	CONNECT 115200 EC	115,200bpsで接続
88	DELAYED	接続は延期された。
89	BLACKLISTED	再ダイヤル規制によりダイヤルを実行できない。

数 字	文 字	内 容
100	CONNECT 28000 EC	28,000bps( V.90 )で接続
101	CONNECT 29333 EC	29,333bps( V.90 )で接続
102	CONNECT 30666 EC	30,666bps( V.90 )で接続
103	CONNECT 33333 EC	33,333bps( V.90 )で接続
104	CONNECT 34666 EC	34,666bps( V.90 )で接続
105	CONNECT 37333 EC	37,333bps( V.90 )で接続
106	CONNECT 38666 EC	38,666bps( V.90 )で接続
107	CONNECT 41333 EC	41,333bps( V.90 )で接続
108	CONNECT 42666 EC	42,666bps( V.90 )で接続
109	CONNECT 45333 EC	45,333bps( V.90 )で接続
110	CONNECT 46666 EC	46,666bps( V.90 )で接続
111	CONNECT 49333 EC	49,333bps( V.90 )で接続
112	CONNECT 50666 EC	50,666bps( V.90 )で接続
113	CONNECT 53333 EC	53,333bps( V.90 )で接続
114	CONNECT 54666 EC	54,666bps( V.90 )で接続

### チェック!!


ECは拡張リザルトコードオプションが有効の時に出現します。また、ECは使用されるエラー制御方法によって、以下のシンボルのいずれかに置き換わります。

- V.42bis : V.42 エラー訂正と V.42bis データ圧縮
- V42 : V.42 エラー訂正のみ
- MNP5 : MNP4 エラー訂正と MNP5 データ圧縮
- MNP4 : MNP4 エラー訂正のみ
- NoEC : エラー訂正なし


## S レジスタ

Sレジスタ	範囲	単位	初期値	機能
S0	0-15	回	0	自動着信のリングの回数
S1	0-255	回	0	受信しているリングの回数
S2	0-255	ASCII	43	エスケープ・シーケンスのコード
S3	0-127	ASCII	13	キャリッジリターン・コード
S4	0-127	ASCII	10	ラインフィード・コード
S5	0-32,127	ASCII	8	バックスペース・コード
S6	4-255	秒	4	ダイヤルトーン検出時間
S7	35-59	秒	50	相手モデムと接続するまでの許容時間
S8	2-65	秒	2	ダイヤル時の" "によるポーズ時間
S10	1-255	1/10秒	20	キャリア・ロス検出時間
S11	70-150	1ミリ秒	95	PBTーン・スピード
S12	0-255	0.02秒	50	エスケープシーケンスのガードタイム
S28	0-255	-	1	V.34のイネーブル/ディセーブル S28=0 :V.34のディセーブル S28=1-255 :V.34のイネーブル
S35	0-1	-	0	データ・コーリング・トーン データ・モデム接続のコーリング・トーン(1300Hz0.5秒オン2秒オフ)の イネーブル/ディセーブル S35=0 :ディセーブル S35=1 :イネーブル
S37	(ビットマップ)	-	0	V.34接続スピード S37=0 :最大モデムスピード S37=1 :予約済み S37=2 :1,200/75bit/s S37=3 :300bit/s S37=4 :予約済み S37=5 :1,200bit/s S37=6 :2,400bit/s S37=7 :4,800bit/s S37=8 :7,200bit/s S37=9 :9,600bit/s S37=10 :12,000bit/s S37=11 :14,400bit/s S37=12 :16,800bit/s S37=13 :19,200bit/s S37=14 :21,600bit/s S37=15 :24,000bit/s S37=16 :26,400bit/s S37=17 :28,800bit/s S37=18 :31,200bit/s S37=19 :33,600bit/s

Sレジスタ	範 囲	単 位	初期値	機 能
S38	0-14	-	0	K56flexのイネーブル/ディセーブルと下り通信速度 S38=0 :K56flexディセーブル S38=1 :最大モデムスピード S38=2 :32,000bit/s S38=3 :34,000bit/s S38=4 :36,000bit/s S38=5 :38,000bit/s S38=6 :40,000bit/s S38=7 :42,000bit/s S38=8 :44,000bit/s S38=9 :46,000bit/s S38=10 :48,000bit/s S38=11 :50,000bit/s S38=12 :52,000bit/s S38=13 :54,000bit/s S38=14 :56,000bit/s
S89	0, 5-255	秒	10	スリープモードタイマー スタンバイ・モードに入るまでの非活動時間( DTEからデータが来ないこと、かつ、リング信号が検出されない事 )を規定します。 S89=0 :スタンバイモードには、入りません。 S89=5 - 255:5 - 255秒間の非活動が検出された後で、スタンバイモードに入ります。

 **チェック!!**

S0 レジスタを 0 以外の値でバックアップすると、通信用アプリケーションの起動状態によらずに設定された呼び出し回数で着信します。

 **チェック!!**

Microsoft Windows 98 のハイパーターミナルなど、データ通信ソフトウェアによっては、K56flex で通信できない場合があります。

その場合は、以下のコマンドを追加することにより K56flex での通信が可能となります。

コマンド構文: AT S38=1





# 索 引

## 数字

- 3.5インチフロッピーディスクドライブ ..... 133、244
- 3Dアクセラレータボード ..... 72

## A ~ N

- ACPIモード ..... 227
- AC電源コネクタ (AC100V) ..... 245
- Adobe Acrobat Reader 3.0J... 191、211
- AI囲碁 ..... 185、191
- AI将棋 ..... 185、192
- Angel Line for Windows ..... 192、211
- AOL ..... 192、212
- APMモード ..... 227
- ATコマンド ..... 253
- BIOSセットアップメニュー ..... 218
- BIGLOBE インターネット接続ツール ..... 193、209
- BIGLOBE インターネット無料体験 ..... 193、209
- BIGLOBE 電話で入会ナビ ..... 193、209
- BUSYインジケータ ..... 243、244
- CD/DVD制御ボタン ..... 123、124、128
- CD-ROMドライブ ..... 234
- CD-ROMドライブ ..... 158、243、244
- CD-Rドライブ ..... 79
- CDランチ ..... 194、209
- CyberCoach-NX ..... 194、209
- CyberTrio-NX ..... 162、194、209
- CyberWarner-NX ..... 167、194、209
- DIMM ..... 63
- DIONかんたん設定ツール ..... 195、209
- DMAチャンネル ..... 110、115
- DSU ..... 45
- DVD-ROMドライブ ..... 158、244
- DVDタイトル ..... 184
- FAX-NX ..... 195、209
- FAXモデムボード ..... 156
- FAXモデムボード機能仕様 ..... 251
- Hatch inside ..... 195、209
- IME 2000 音声入力アプレット ... 208、212
- IRQ ..... 110、114
- ISDN ..... 45、47
- ISDNターミナルアダプタ ..... 35、44

- ISDNボード ..... 46
- LAN (ネットワーク) ボード ..... 72
- LINE IN端子 ..... 3、39、40、245、246
- LINE OUT端子 ..... 3、39、40、245、246
- MAGIC FLIGHT ..... 195、209
- MapPlayer-NX ..... 196、209
- Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic ..... 186
- MIDI ..... 150
- MOディスクドライブ ..... 79、102
- MS-DOSモード ..... 234
- NEC 音声合成エンジン 3.0 ..... 196、210
- NEC 音声認識エンジン4.0 (または3.0) ..... 196、210
- NIFTY MANAGER ..... 187、197

## O ~ Z

- ODN (Open Data Network) 197、209
- Office 2000 Personal ..... 205
- PC9800シリーズのキーボード ..... 127
- PCポータル ..... 197、209
- PCIスロット ..... 3、4、72、245、246
- PCIボード ..... 72
- PCM ..... 150
- PictureStudio Light ..... 198、209
- PS/2キーボードコネクタ ..... 3、245、246
- PS/2マウスコネクタ ..... 3、245、246
- RAMサブボード ..... 62
- SCSI ..... 77、80
- SCSI ID ..... 80
- SCSI-2 ..... 80
- SCSIインターフェイス ..... 79
- SCSIインターフェイスボード ..... 72、81、86、87
- SCSI機器接続ケーブル ..... 81
- SIMM ..... 63
- SmartVoice ..... 198、209
- ThumbsStudio ..... 198、209
- Timer-NX ..... 199、213
- TWAIN (トウエイン) ..... 100
- Ultra SCSI ..... 80
- Ultra Wide SCSI ..... 80
- USB ..... 26
- USBコネクタ ..... 2、3、27、29、31、243、244、245、246

USBハブ .....	27、36
USBリンクケーブル .....	35
VirusScan .....	173、199、209
Voice一太郎9・花子9パック .....	188、207、215
Windows NT 4.0の利用 .....	236
Windows起動ディスク .....	134

## ア行

アース端子 .....	245
アドバンスモード .....	162
アナログRGBコネクタ .....	3、245、246
アプリケーションCD-ROM .....	209、210
アルバム工房 Light .....	199、209
イメージスキャナ .....	35、100
インクジェットプリンタ .....	9
インストーラ-NX .....	191
インターネットアクセスマネージャ .....	200、213
インターネットカラオケキング ...	200、209
【インターネット】ボタン .....	128
インターフェイス .....	26
ウイルスの検査と駆除 .....	171
宇宙戦艦ヤマト (DVD-ROMモデルのみ) .....	186、206
駅すばあと .....	200、209
オンスクリーン設定 .....	130
音声キット (VoiceATOK) .....	208、216

## カ行

ガイドラベルの印刷 .....	130
解像度 .....	101、139
外部オーディオ機器 .....	39
簡易解像度切り替え機能 .....	140
キーの名称 .....	123
キーの役割 .....	123
キーボード .....	123
キーボード プロパティ .....	125
キッズモード .....	162、164
ゲーム .....	184
コベルニックライト .....	201、209

## サ行

再生/一時停止 .....	128
---------------	-----

サウンドレコーダー .....	40、41
サウンド機能 .....	150
システムファイルチェッカー .....	180
システムファイルの拡張子 .....	180
終端BOX .....	79、81
省電力機能 (スタンバイ) .....	144
招福麻雀 七福神 .....	185、201
シリアルコネクタ .....	3、49、245
スーパーバイザパスワード .....	221、224
スキップセクタ .....	177
スキャナ .....	35、100
スキャンディスク .....	98、176
スクロールボタン .....	120
スタビライザ .....	243、244
スタンバイ状態 .....	144
スピーカ .....	150
【スリープ】ボタン .....	124、128、145
赤外線通信インタフェースユニット .....	35
セキュリティの設定 .....	221
走査周波数 .....	137
増設RAMサブボード .....	4、63
【ソフト終了】ボタン .....	128
外付け用のハードディスク .....	87
ソリティア デラックス .....	186、201

## タ行

ターミナルアダプタ .....	44
ターミネータ .....	79、81
タイマー機能 .....	145
ダブルクリックの速度 .....	121
通常使うプリンタ .....	16、23
通信速度 .....	155
通風孔 .....	245、246
次のトラック/早送り .....	128
ディスククリーンアップ .....	179
ディスクトレイジェクトボタン .....	243、244
ディスプレイ .....	137
デイジーチェーン .....	79
停止 .....	128
テキストリーダー .....	202、210
てきばき家計簿マム2 Plus .....	202、214
デジタルRGBコネクタ .....	3、245、246
デジタルカメラ .....	102

デジタルビデオカメラ .....	35
デバイスドライバ .....	54
デバイスマネージャ .....	108、111
デフラグ .....	178
電源管理モード .....	227
電源スイッチ .....	243
電源の管理 プロパティ .....	147
電源ランプ .....	243
電話回線用モジュラーコネクタ ...	245、246
電話機用モジュラーコネクタ .....	245
盗難防止用ロック .....	245
ドットインパクトプリンタ .....	10
ドライバ .....	17、54
ドライビングホイール .....	2、34
ドライブコンバータ (FAT32) .....	131
ドライブ名 .....	91

## ナ行

ニフティサーブでインターネット ...	202、210
---------------------	---------

## ハ行

ハードディスク .....	86、131
ハードディスクアクセスランプ .....	243
ハーフサイズのPCIボード .....	72
ハイパワーデバイス .....	36
ハウリング .....	41、152
パスワード .....	224
パスワードの解除 .....	226
パソコン大学一年生 .....	206、214
パソコン大学一年生 for Windows98 .....	207、214
パソコン大学一年生 for 一太郎9 .....	206、214
パソコン大学一年生 for 三四郎9 .....	206、214
パソコン大学一年生 for Word2000 .....	206、214
パソコン大学一年生 for Excel2000 .....	206、214
パソコン探検箱 .....	203、210
【パソコン探検箱】ボタン .....	128
バックアップ .....	133
バックアップ-NX .....	174
バックアップファイル .....	168

パラレルコネクタ .....	3、14、245、246
ハローキティのハッピーメール ...	203、210
左きき用 (マウス) .....	121
【ビットキャストブラウザ】ボタン .....	128
表示色 .....	139
フォーマット .....	90、97
筆王 .....	203、210
プラグ&プレイ .....	54
不良セクタ .....	177
プリンタ .....	8、35
プリンタインタフェース変換アダプタ .....	11
プリンタケーブル .....	11
プリンタドライバ .....	17
プリンタポート .....	21
プレースティック .....	34、35
プレイパッド .....	34、35
プレーヤ-NX .....	203、210
フロッピーディスク .....	133
フロッピーディスクイジェクトボタン .....	243、244
フロッピーディスクの種類 .....	133
フロッピーディスクドライブアクセスランプ .....	243、244
文豪DP/LANシリーズコンバータ .....	187、204
ベーシックモード .....	162、163
ページプリンタ .....	9
ヘッドホン .....	38
ヘッドホン端子 .....	2、38、243、244
ホームページスクラップブック .....	204、210
ボリューム .....	243
ボリュームアップ .....	128
ボリュームコントロール .....	151
ボリュームダウン .....	128
本体各部の名称 .....	243
翻訳アダプタII CROSSROAD ...	204、210

## マ行

マイクロホン .....	41
マイクロホン端子 .....	2、243、244
マウス .....	120
マウス プロパティ .....	121
前のトラック/巻き戻し .....	128

右きき用 (マウス) .....	121
メール着信ランプ .....	129
メールの自動受信 .....	129
【メール】ボタン .....	128
メモリ .....	62、68
メモ리카ードリーダー/ライター .....	35
メンテナンスウィザード .....	181
モード .....	162

## ヤ・ラ・ワ行

ヤマハDS-XG設定 .....	153
ユーザパスワード .....	221、224
用語集 .....	205、210
ランチ-NX .....	205、210
【ランチ-NX】ボタン .....	128
リソース .....	110
リソースの競合 .....	110
領域 .....	90、92
ルーフカバー .....	56
レーザープリンタ .....	9
割り込みレベル (IRQ) .....	110、114
ワンタッチスタートボタン .....	123、124、128
ワンタッチスタートボタンの設定 .....	129

# ワンタッチ



## ワンタッチスタートボタン早わかり表

ボタン1つでアプリケーションを起動できるワンタッチスタートボタンを紹介します。購入時は、次のように設定されています。詳しくは、『拡張!活用! パリユースター』の「ワンタッチスタートボタン」をご覧ください。

### 電子メールをする!

#### 【メール】ボタン

☞ 参照『たのしもう! インターネット』のPART4

### インターネットをする!

#### 【インターネット】ボタン

☞ 参照『たのしもう! インターネット』のPART1

### ランチ-NX の表示 / 非表示

#### 【ランチ-NX】ボタン

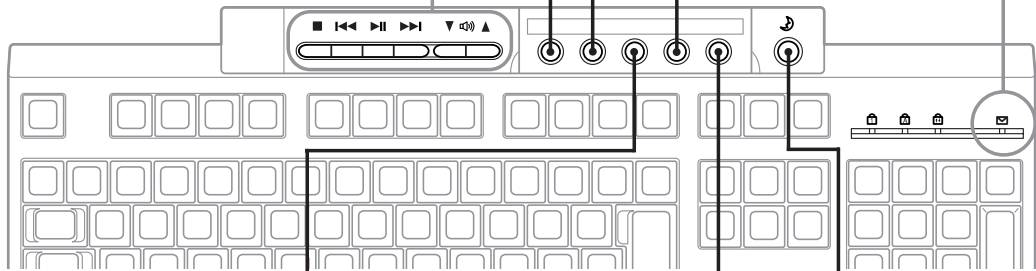
☞ 参照『練習! パソコンの基本』のPART2

CD/DVD 制御ボタン  
音楽CDやDVD VIDEOディスクの再生のコントロールや音量調節ができます。

☞ 参照『まずこれ!接続と準備』のPART4  
『パソコン探検箱』の「添付ソフトの使い方」

メール着信ランプ  
指定した時刻にメールの着信チェックをして、届いていればランプが点灯します。

☞ 参照『たのしもう! インターネット』のPART4



### 操作法を画面で見る!

#### 【パソコン探検箱】ボタン

画面の中でアプリケーションの紹介や使い方、またトラブル解決のQ&Aなどを説明しています。「添付ソフトの使い方」ではアプリケーションを使いながら、その横で使い方を見ることができます。

☞ 参照『練習! パソコンの基本』のPART7

### ソフトを終了する!

#### 【ソフト終了】ボタン

TVモデルの場合は、【ビットキャストブラウザ】ボタンに設定されています。

☞ 参照『TVモデルガイド』

### スタンバイ状態にする!

#### 【スリープ】ボタン

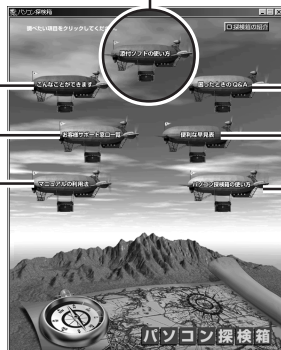
☞ 参照『まずこれ! 接続と準備』のPART4

### パソコン探検箱とは...

どんなときにどのアプリケーションを使えばいいのが目的別に紹介

このパソコンやアプリケーションの問い合わせ先の一覧

マニュアルの一覧

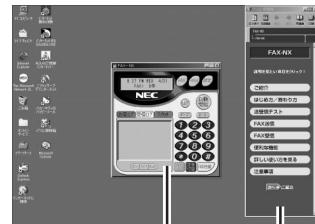


トラブル解決のためのQ&A集

タスクトレイの説明やショートカットキーの紹介など耳より情報

パソコン探検箱の使い方の説明

### このパソコンに入っているアプリケーションの操作説明



アプリケーションの画面

画面右側にアプリケーションの使い方

わかる、できる、役に立つ!! ⑤

拡張!活用!バリュースター



PC98-**NX** SERIES

**VALUE STAR NX**

VC550J/7 VC500J/7 VC450J/7 VC40H/7  
VE500J/7 VE450J/7 VE40H/7 VT450J/7  
VC550J/8 VC500J/8 VC450J/8 VC40H/8  
VE500J/8 VE450J/8 VE40H/8 VT450J/8

2版 1999年7月  
NEC  
P

808-884338-008-A

このマニュアルはエコマーク認定の再生紙  
(古紙率:表紙 50%、本文 100%)を使用しています。

